NX350 / NX250

取扱説明書

車を運転する前の準備	車を運転する前に知っておいていただきたいこと	1
車を運転するときに知ってほしいこと	車を運転するときの基本的な操作	2
時間帯や天候に合わせた運転と装備	周囲が暗くなったときや雨天、寒冷時の運転	3
快適装備と便利な室内装備の使いかた	エアコンや便利な室内装備の使いかた	4
メーター／ディスプレイの機能と表示される情報	走行に関する情報を表示する計器類の見方	5
安全運転を支援する機能	安全運転支援機能や SRS エアバッグの設定	6
通信で安心、快適、便利を支援するしくみ	通信による安心、快適／便利なサービス	7
車のお手入れ	車のお手入れ／メンテナンスの方法	8
困ったときの対処方法	故障したときや、緊急時などの対処	9
車の仕様、諸元、装備	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報	10
さくいん	アルファベット順で検索 五十音順で検索	

はじめに

はじめに 7
イラスト目次 10

1 車を運転する前の準備

1-1. 専用のフロアマットを正しく使う
専用のフロアマットを正しく使う 22
1-2. 日常点検整備
日常点検整備の目的 24
1-3. 子どもを乗せて安全にドライブするための準備
子どもを車に乗せる 25
子どもにあったチャイルドシートを選ぶ 28
チャイルドシートを取り付ける 34
助手席にチャイルドシートを取り付ける 39
1-4. 車に乗る／降りる／荷物を積む
キーの種類 41
スマートエントリー＆スタートシステム 45
デジタルキー 50
ドアの開閉 53
ドアのロック／ロック解除 56
盗難防止装置 61
車両への荷物の積み込み 66
窓の開閉 85
1-5. 正しい運転姿勢をとる
シートの調整 89
リヤシートの位置を調整する 93
シートベルトの着用 94
ハンドルとミラーの位置調整 97

2 車を運転するときに知ってほしいこと

2-1. エンジンの始動と停止
エンジンの始動 110
エンジンを停止 113
アイドリングストップ 114
2-2. 運転のしかた
安全に走行するには 121
シフトポジションの使用目的 124
シフトポジションを切りかえる 126
車を発進する 131
右左折や車線変更するときの操作 132
シフトレンジの切りかえ 133
ギヤ段の切りかえ 134
2-3. 車の停めかた
車を停めるときに確認すること 135
停車する 137
駐車する 138
2-4. 給油のしかた
給油 142

3 時間帯や天候に合わせた運転と装備

3-1. 周囲が暗いときの運転
ヘッドランプの使用 148
自動的にロービームとハイビームを切りかえる 152
3-2. 日差しやランプがまぶしいときの運転
サンバイザーを使う 159
インナーミラーのまぶしさを軽減させる（自動防眩タイプ装着車） 160
デジタルインナーミラーのまぶしさを軽減させる（鏡面ミラーモード） 161
3-3. 雨の日の運転
雨の日の運転の注意 162
雨の日の視界の確保 163
3-4. ウィンドウやミラーが曇ったときの運転

フロントウインドウガラスの曇りを取る 168
リヤウィンドウの曇りを取る . 170
ドアミラーの水滴や霜を取る . 171

3-5. 寒冷時の運転

寒くなる前の準備..... 172
寒冷時の運転で知っておくこと 174

3-6. 霧や山道で見通しが悪いときの運転

フォグランプの点灯..... 176
ホーン（警音器）を鳴らす 178

3-7. 走行特性を切りかえる

走行モードの機能..... 179
走行モードを切りかえる..... 181
Trail Mode （AWD 車）..... 183
DAC（ダウンヒルアシストコントロールシステム）..... 185

3-8. 一時的にブレーキが保持される

ブレーキホールド..... 187

4 快適装備と便利な室内装備の使いかた

4-1. お好み設定

マイセッティング..... 190

4-2. ドライビングポジションを登録する

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム） 191
ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除..... 192

4-3. 車内の温度／環境を調整する

室内環境を自動で調整する（レクサスクライメイトコンシェルジュ） 195
エアコンの使い方..... 196
ステアリングヒーターのはたらき 204
シートヒーターのはたらき 205
シートベンチレーターのはたらき 207
ムーンルーフの使い方..... 208
パノラマムーンルーフの使い方 211
電動サンシェードの開閉..... 214

4-4. 室内を明るくする

室内灯の使い方 216

4-5. 室内の装備を使う

収納装備の位置 220
室内の快適性をさらに向上させるための装備 226

4-6. ラゲージルームの使いかた

デッキフックを使う..... 238
ネットフックを使う..... 239
買い物フックを使う..... 240
デッキボード 241
トノカバーを収納する..... 243

5 メーター／ディスプレイの機能と表示される情報

5-1. メーターの機能と表示

警告灯／表示灯 246
計器類の見方（F SPORT 以外）253
計器類の見方（F SPORT） ... 258

5-2. ディスプレイの機能と表示

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ非装着車） 262
マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ装着車） .. 264
ヘッドアップディスプレイの表示 266
ディスプレイの表示内容..... 268

5-3. ディスプレイの表示設定を変更する

インストルメントパネル照明の明るさを調整する..... 279
ヘッドアップディスプレイの設定を変更する 280

6 安全運転を支援する機能

6-1. 安全運転サポート機能の特徴

Lexus Safety System +のソフトウェアアップデート.....284
Lexus Safety System + ...287
運転を補助する装置の一覧....295

6-2. 安全運転サポート機能を使う

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける 302
車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する.....312
車線変更するときのハンドル操作を支援する 317
車線からのはみ出しを警告で防ぐ 321
作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する 327
低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる 332
後方にいる車両を検知して車線変更を支援する.....335
後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する 340
低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる..346
低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる..353
低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる 360
低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける 365
自車の発進が遅れていることを知らせる 376
標識の見逃し防止をサポートする 378
最適な車間距離を保って追従走行する 382
一定の車速で走行する.....392
運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる.....397
プラスサポートを使用する（販売店装着オプション）.....400
急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション）.....402
交差点で右折時に対向車を検知して音と画面で知らせる（販売店装着オプション）...405
アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する.....406
急発進および後退速度を抑制する 407

6-3. 事故による乗員の被害を少なくする

事故の衝撃から乗員を守る....408

7 通信で安心、快適、便利を支援するしくみ

7-1. ITS Connect

ITS Connect の概要 418
ITS Connect アイコンの見方 421
ITS Connect 割り込み表示による通知／案内／注意喚起 ..422

8 車のお手入れ

8-1. 外装のお手入れ

洗車 428

8-2. 内装のお手入れ

室内を清掃する 434
サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れをする.....436
本革部分のお手入れをする....437
合成皮革部分のお手入れをする 438

8-3. 消耗品の点検

ボンネットを開ける.....439
ウォッシャー液を補充する....441

エアコンフィルターのお手入れ 442

8-4. タイヤのメンテナンス

タイヤのメンテナンス.....444

タイヤの点検項目.....445

ランフラットタイヤの特徴....447

タイヤ空気圧警報システムのはたらき 448

タイヤ空気圧の点検.....458

ガレージジャッキを使ったジャッキアップ 460

タイヤをローテーションする .461

タイヤの交換 462

9 困ったときの対処方法

9-1. 走行中のトラブルに対応する

走行中にトラブルが発生したときの対応 473

9-2. メーターに警告灯が点灯／点滅または警告メッセージが表示された

警告灯が点灯／点滅した.....479

ディスプレイに警告メッセージが表示された 489

9-3. エンジンがかからない

スターターはまわるのにエンジンがかからない.....502

スターターがゆっくりまわりエンジンがかからない.....503

スターターがまわらずエンジンがかからない 504

室内灯やヘッドランプが暗くエンジンがかからない.....506

室内灯やヘッドランプが点灯せずエンジンがかからない..512

ホーンの音が小さくエンジンがかからない 513

ホーンの音が鳴らずエンジンがかからない 514

9-4. タイヤがパンクした

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法（タイヤパンク応急修理キット装着車） 515

ランフラットタイヤがパンクしたときの注意事項（ランフラットタイヤ装着車） 526

9-5. ドアが開かない、ロックできない

キーをなくした 527

電子キーを使ってドア／窓／ムーンルーフを操作できない 528

ドア開スイッチでドアを開けることができない.....536

リヤドアが内側から開けられない 539

バックドアが開かない.....540

9-6. ルーフやサンシェードが正常に動かない

ムーンルーフが正常に動かない 541

パノラマムーンルーフ／電動サンシェードが正常に動かない 542

9-7. リヤシートが正常に動かない

リヤシートを初期化する（パワーシート装着車） 543

9-8. 給油できない

給油扉が開けられない.....544

9-9. 室内装備の表示灯が点灯または点滅した

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の充電トレイ上の作動表示灯が点滅した 545

9-10. 車を移動できないとき

エンジンはかかるが車が動かない 546

トランスミッションから異常な音がする 547

レッカー車を使用したけん引 .548

車両運搬車を使用する.....551

他車を使用したけん引.....552

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す 556

9-11. 販売店に連絡する前にチェックしてほしいこと

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった .. 557

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない 558

エンジンスイッチが自動的にOFF になった..... 559

オーバーヒートした..... 560

電装品が使えない、スイッチを押しても動かない..... 564

点灯しないライトがある..... 565

10 車の仕様、諸元、装備

10-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 572

10-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能概要 578

設定変更方法 579

車両カスタマイズ設定一覧 580

10-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 596

補足 597

さくいん 602

はじめに

本書に掲載している情報

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

■ 本文の記号の意味

各記号とその意味は次のとおりです。

- 警告

  お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

- 注意

  お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

- 1 2 3… 手順番号

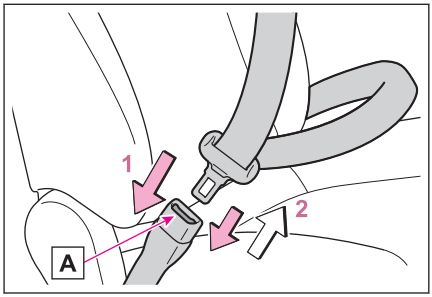
  操作／作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

- 知識

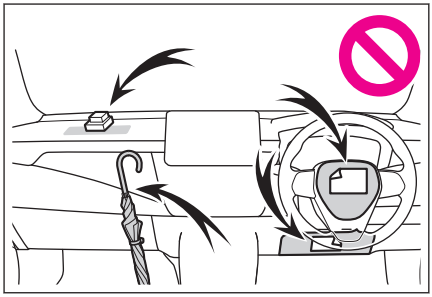
  機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

■ イラスト上の記号の意味

各記号とその意味は次のとおりです。



- 押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。
- フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



- 説明の対象となるもの／場所を示しています。
- してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

安全なドライブのための注意

⚠ 警告

- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節といった運転から注意がそれることをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

⚠ 警告

- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者といった周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

G-Link によるデータの取り扱い

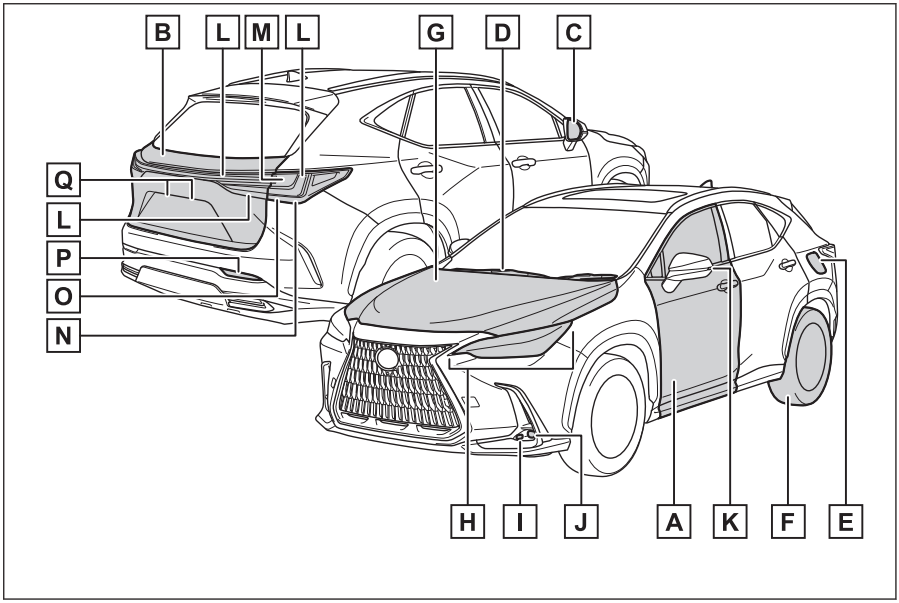
お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イラスト目次

外観

知識

走行に関わる外装のランプバルブ（交換方法：→P.567）



A **ドア** **P.53**

ロック／ロック解除 P.56

ドアの開閉 P.53

ドアガラスの開閉 P.85,86

メカニカルキーでのロック／ロック解除 P.530

警告メッセージ P.489

B **バックドア** **P.67**

車内から開ける P.67

車外から開ける P.67

警告メッセージ P.489

C **ドアミラー** **P.105**

鏡面の角度調整 P.105

ミラーの格納 P.107
調整位置の登録★ P.192
曇りを取る（ミラーヒーター） P.171

D **ワイパー P.163,166**
冬季の注意 P.172
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ P.175
洗車時の注意 P.432

E **給油口 P.142**
給油方法 P.142
燃料の種類／燃料タンク容量 P.572

F **タイヤ P.444**
サイズ／空気圧 P.459,577
冬用タイヤ／タイヤチェーン P.172
点検／ローテーション／タイヤ空気圧警報システム P.444,445,448,461
パンク時の対処 P.515

G **ボンネット P.439**
開け方 P.439
エンジンオイル P.572,574
オーバーヒート時の対処 P.560
警告メッセージ P.489

H **ヘッドランプ／車幅灯／LED デイタイムランニングランプ／方向指示灯 P.148**

I **コーナリングランプ★ P.151**

J **フロントフォグランプ P.176**

K **方向指示灯 P.132**

L **尾灯／制動灯 P.148**

M **方向指示灯 P.132**

N **後退灯**
シフトポジションを R にする P.126

O **制動灯**

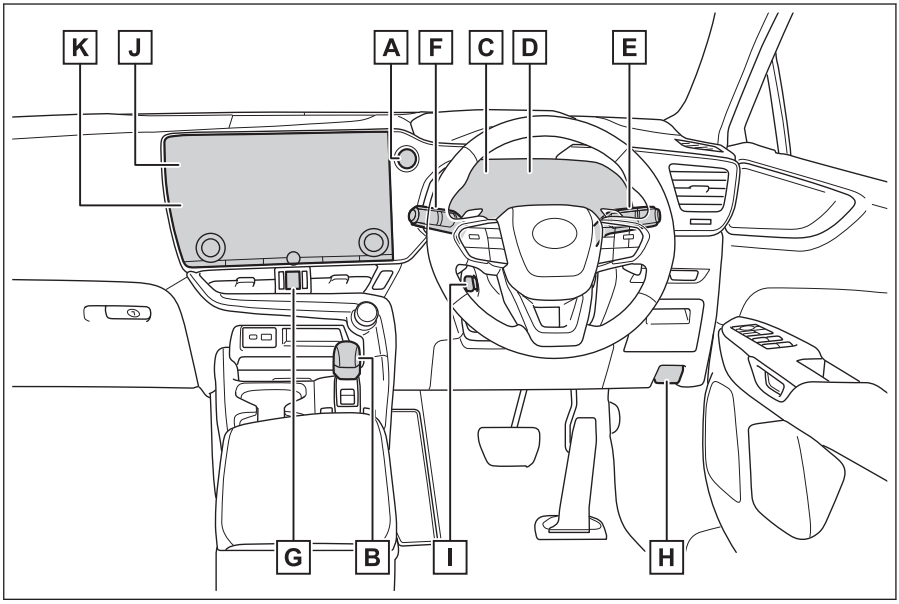
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

緊急ブレーキシグナル P.295

P リヤフォグランプ★ P.176

Q 番号灯 P.148

インストルメントパネル



A **エンジンスイッチ P.110**

エンジンの始動／モード切りかえ P.110,111

エンジンの緊急停止 P.474

エンジンが始動できないときの対処 P.502

警告メッセージ P.489

B **シフトレバー P.124**

シフトポジションの切りかえ P.126

けん引時の注意 P.548,551,552

C **メーター P.253,258**

見方／明るさの調整 P.253,258,279

警告灯／表示灯 P.246

警告灯点灯時の対処 P.479

D **マルチインフォメーションディスプレイ P.262,264**

表示内容 P.262,264

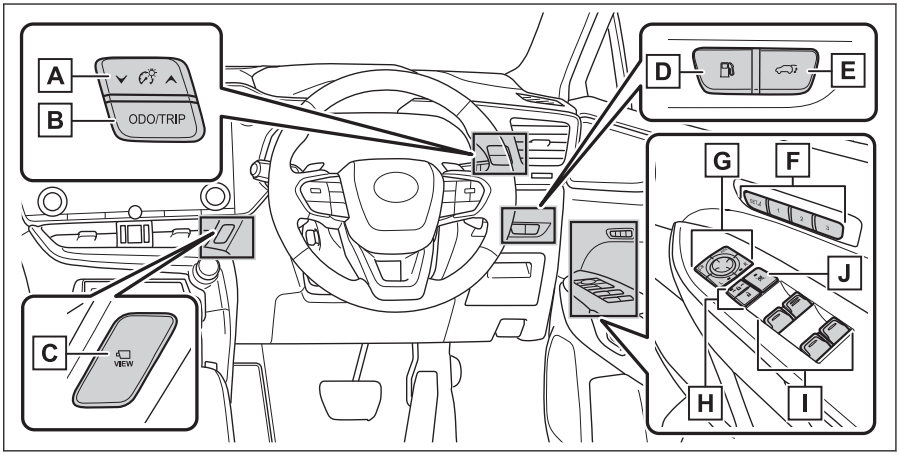
警告メッセージ表示時の対処 P.489

E **方向指示レバー／ランプスイッチ P.132,148**

ヘッドランプ／車幅灯／尾灯／番号灯／LED デイタイムランニングランプ.... ..... P.148
フロントフォグランプ／リヤフォグランプ★..... P.176
F **ワイパー＆ウォッシャースイッチ..... P.163,166**
使い方..... P.163,166
ウォッシャー液の補充 P.441
警告メッセージ..... P.489
G **非常点滅灯スイッチ P.473**
H **ボンネット解除レバー P.439**
I **ハンドル位置調整スイッチ..... P.97**
調整方法..... P.97
調整位置の登録★..... P.192
J **オートエアコン P.196**
操作方法..... P.196
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.170
K **オーディオ**[*1]

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
[*1]：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

スイッチ類



A インストルメントパネル照度調整スイッチ P.279

B ODO／TRIP スイッチ P.256

C カメラスイッチ*2

D 給油扉オープナースイッチ..... P.142

E パワーバックドアスイッチ..... P.73

F ポジションメモリースイッチ★ P.192

G ドアミラースイッチ P.105

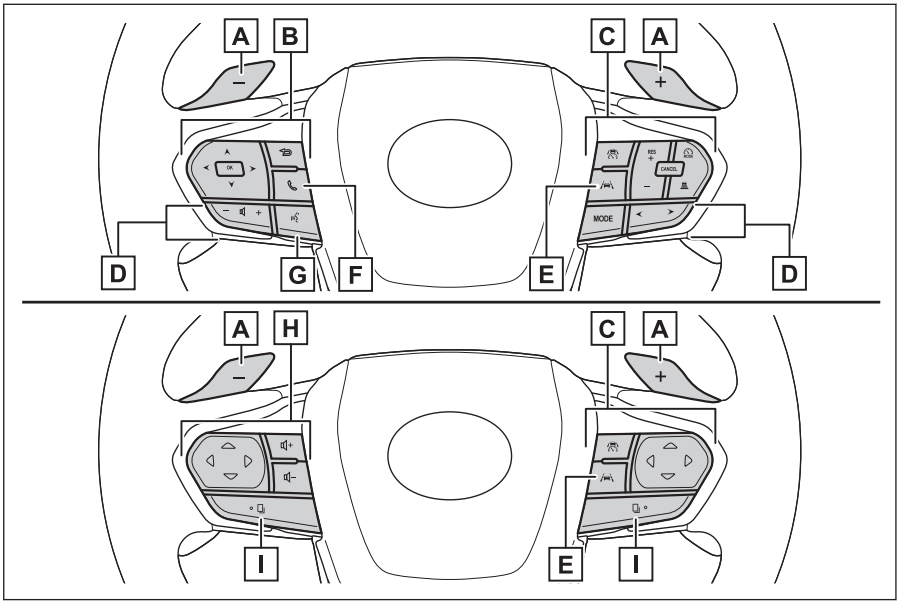
H ドアロックスイッチ P.58

I パワーウインドウスイッチ..... P.85,86

J ウインドウロックスイッチ..... P.88

*2：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A パドルシフトスイッチ P.133,134

B メーター操作スイッチ P.268

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール..... P.382,392

D オーディオ操作スイッチ*3

E LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ..... P.312,317

F 電話スイッチ*4

G トークスイッチ*5

H オーディオ操作スイッチ／電話スイッチ／トークスイッチ*6 ..... P.268

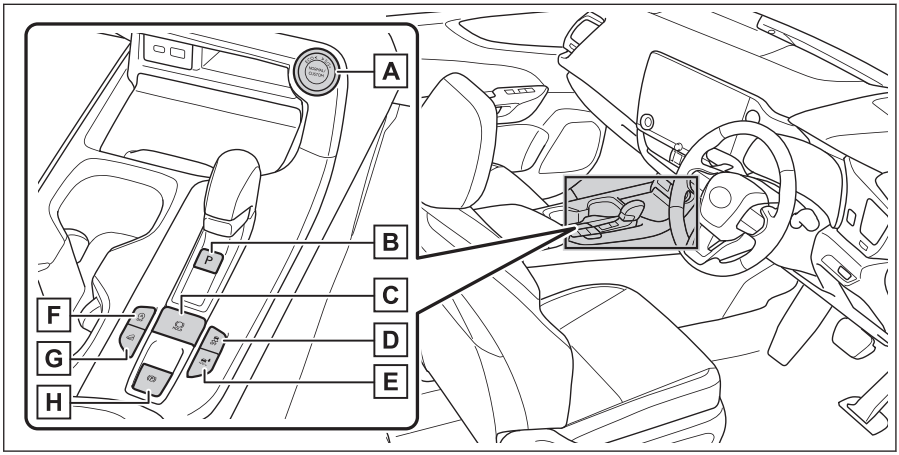
I 機能切りかえスイッチ P.268

*3：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

*4：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

*5：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

*6：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A ドライブモードセレクトスイッチ.....P.181

B P ポジションスイッチ P.126

C ブレーキホールドスイッチ.....P.187

D VSC OFF スイッチ.....P.295

E Trail Mode スイッチ★ P.183

F Stop&Start キャンセルスイッチ.....P.118

G DAC スイッチ★ P.185

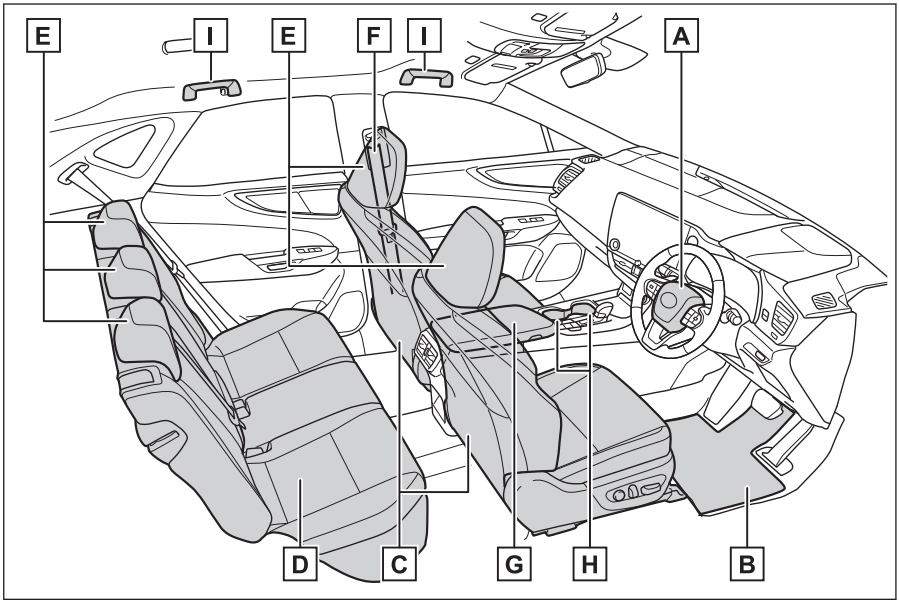
H パーキングブレーキスイッチ.....P.126,138,187

かける／解除する P.126,138,187

冬季の注意.....P.174

警告ブザー／警告メッセージ.....P.489

室内



A SRS エアバッグ P.408

B フロアマット P.22

C フロントシート P.89

D リヤシート P.93

E ヘッドレスト P.90

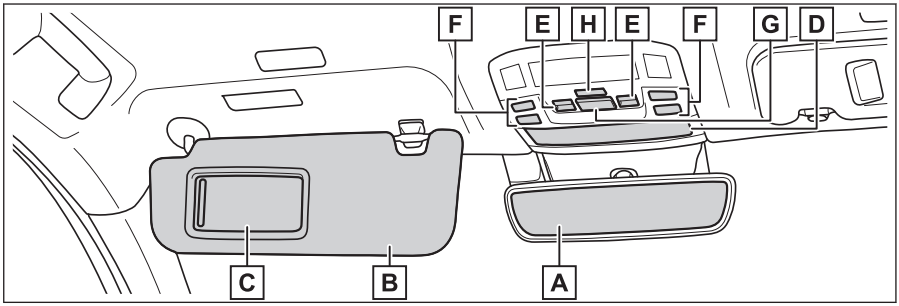
F シートベルト P.94

G コンソールボックス P.224

H カップホルダー P.222

I アシストグリップ P.236

天井



A インナーミラー P.97,98,160,161

B サンバイザー*7 ..... P.159

C バニティミラー P.237

D 小物入れ P.221

E ムーンルーフスイッチ★／パノラマムーンルーフスイッチ★ P.208,211

F インテリアランプ／パーソナルランプ P.217,218

G ヘルプネットスイッチパネル*8

H インテリアランプドア連動スイッチ P.218

*7：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*8：別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

1 車を運転する前の準備

1-1. 専用のフロアマットを正しく使う

専用のフロアマットを正しく使う 22

1-2. 日常点検整備

日常点検整備の目的..... 24

1-3. 子どもを乗せて安全にドライブするための準備

子どもを車に乗せる..... 25

子どもにあったチャイルドシートを選ぶ 28

チャイルドシートを取り付ける 34

助手席にチャイルドシートを取り付ける 39

1-4. 車に乗る／降りる／荷物を積む

キーの種類 41

スマートエントリー＆スタートシステム 45

デジタルキー 50

ドアの開閉 53

ドアのロック／ロック解除..... 56

盗難防止装置 61

車両への荷物の積み込み..... 66

窓の開閉 85

1-5. 正しい運転姿勢をとる

シートの調整 89

リヤシートの位置を調整する ... 93

シートベルトの着用..... 94

ハンドルとミラーの位置調整 ... 97

専用のフロアマットを正しく使う

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

⚠ 警告

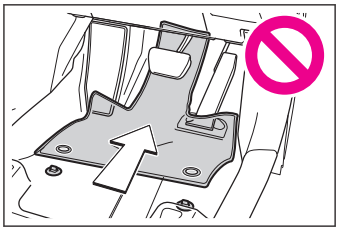
- 運転席にフロアマットを敷くときは、レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

フロアマットを固定する

⚠ 警告

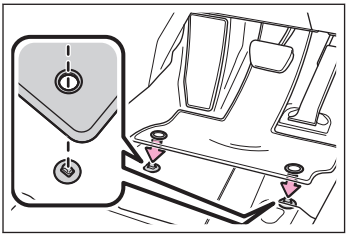
運転する前に次のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

1 **固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込みます。**



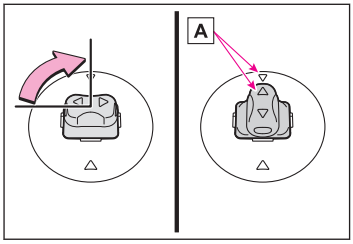
⚠ 警告

固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。

2 **固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定します。**

△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。



日常点検整備の目的

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

子どもを車に乗せる

大人用のシートベルトを正しく着用できない子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートは、子どもを安全に守るように設計されています。

子どもを乗せるときは、次の点を確認して安全を確保してください。

- 子どもにも必ずシートベルトを着用させる

  子どもがシートベルトを着用しないで乗車すると、事故の際にウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。また、子どもを抱いて乗車しても、事故の際にウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

- 子どもはリヤシートに乗せる

  運転装置に触れないよう、子どもはリヤシートに乗せてください。

- 子どもにはドアやウインドウなどの装備を操作させない

  子どもには、パワーウインドウ／ドア／およびシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

  子どもがドアやパワーウインドウの開閉などでけがをしないように、チャイルドプロテクターやウインドウロックスイッチを使用してください。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートをうしろ向きに取り付けていると、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

⚠ 警告

- 車を離れるときは、子どもを連れて出る

  子どものいたずらにより、車の誤発進や車両火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 車内に人や動物を残したままにしない

  日中の車内は非常に高温になるため、熱中症や、熱中症を原因とした死亡事故につながるおそれがあります。

- 子どもを抱いたまま乗車しない

⚠ 警告

子どもを抱いて乗車すると、事故の際にウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。子どもにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシートを使用してください。

- 小さな子どもにはチャイルドシートを使用する

  シートベルトを正しく着用できない子どもを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。

- チャイルドシートを正しく使用する

  チャイルドシートは、事故や急停止の際に子どもを保護します。チャイルドシートはしっかり取り付けて、正しく使用してください。

- 衝撃を受けたチャイルドシートは交換する

  事故などで衝撃を受けたチャイルドシートは、外観に問題がなくても、衝撃吸収性能が落ちている可能性があります。

- 使用しないチャイルドシートは運転の妨げにならないように固定する

  チャイルドシートを使用しないときも、運転の妨げにならないように、しっかりと固定してください。チャイルドシートを取り外したときは、車外で保管するか、ラゲージルーム内で固定して保管してください。

子どもを乗せる位置

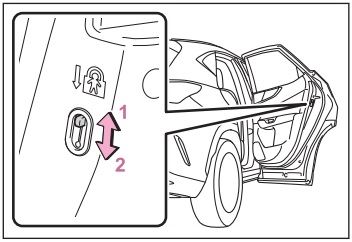
運転装置に触れないよう、子どもはリヤシートに乗せてください。助手席に子どもを乗せると、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。やむを得ない場合を除き、助手席には子どもを乗せないでください。

⚠ 警告

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばん後ろに下げて、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートを正しく取り付けないと、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- ドア／ピラー／ルーフサイドレールに子どもがもたれかからないようにしてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- 運転席を調整したときに、子どもやチャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。
- 助手席と子どもやチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。
- 身長 100cm 以上の子どもを車に乗せるときは、ジュニアシートを使用してください。ジュニアシートを使用しているときは、シートベルトが正しく装着されていることを確認してください。

車内からリアドアを開けられないようにする（チャイルドプロテクター）

ロック側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 ロック解除します。
2 ロックします。

子どもが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアをロック側にしてください。

知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアをロック解除して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

子どもにあったチャイルドシートを選ぶ

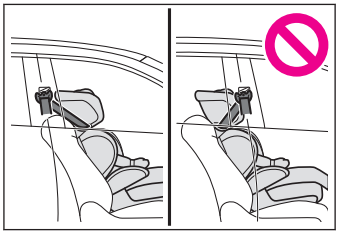
チャイルドシートを選ぶときの注意

チャイルドシートを使用するときは、次の点を確認し、安全に使用してください。

- チャイルドシートに関する注意事項を守ってください。
- 子どもの年齢、体格に合ったチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートとシート位置の適合性を確認してください。チャイルドシートによっては、取り付けができないものがあります。
- チャイルドシートの詳しい使い方は、チャイルドシートの取扱説明書を確認してください。

⚠ 警告

- チャイルドシートの隣の座席で、シートベルトが正しく装着できることを確認してください。チャイルドシートの種類によっては、シートベルトが正しく装着できないことがあります。その場合は、他の座席を使用してください。
- 運転席を調整したときに、子どもやチャイルドシートと運転席が干渉する場合は、助手席側のリヤシートにチャイルドシートを取り付けてください。
- 助手席と子どもやチャイルドシートが干渉しないように、助手席を調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときにシートの背もたれと干渉する場合は、背もたれを調整してください。
- チャイルドシートのベルトガイドが、シートベルトのショルダーアンカーより前になるようにシート位置を調整してください。



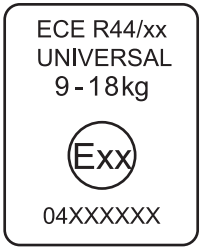
- ジュニアシートを取り付けるときに、子どもがかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。

チャイルドシートの選びかた

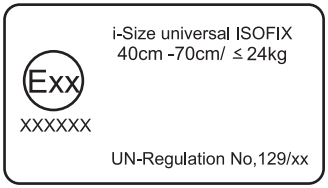
チャイルドシートは、UN(ECE)R44 または UN(ECE)R129 に適合したものを使用してください。UN(ECE)R44 および UN(ECE)R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ 例

「UN（ECE） R44」



「UN（ECE） R129」



⚠ 注意

- 表示されているマークは、商品により異なります。
- チャイルドシートのカテゴリーが不明な場合はチャイルドシートの取扱説明書、またはメーカーに確認してください。

■ 推奨するチャイルドシート

質量グループ 子どもの体重	推奨チャイルドシート	固定方法	
		シートベルトによる固定	シートロアアンカでの固定
グループ 0、0 ＋ 13kg まで	レクサス純正 NEO G-Child baby	O	×
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	O
グループ I 9～18kg	レクサス純正 NEO G-Child baby	O	×
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	O

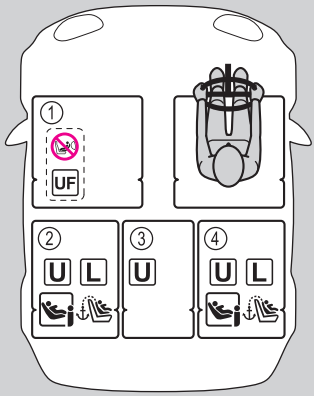
質量グループ 子どもの体重	推奨チャイルドシート	固定方法	
		シートベルトによる固定	シートロアアンカでの固定
グループⅡ、Ⅲ 15～36kg	レクサス純正 ジュニアシート	O	×

知識

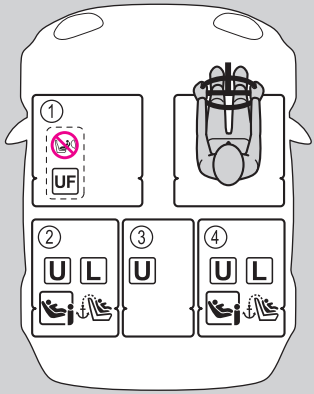
レクサスでは、厳しい品質基準をクリアしたレクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。詳しくは、レクサス Web サイトまたは、お近くのレクサス販売店へお問い合わせください。

チャイルドシートとシート位置の適合性



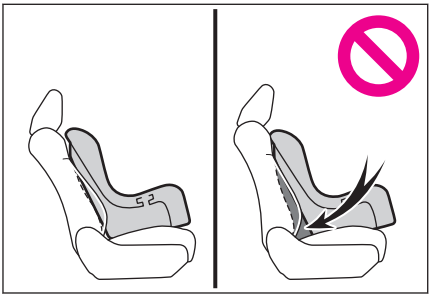
着座位置				
シート位置の番号	① (1)(2)(3)	② (2)(3)	③ (2)(3)	④ (2)(3)
ユニバーサル（汎用）ベルト式の搭載可否（有／無）(4)	有 前向きのみ	有	有	有
i-Size チャイルドシートの搭載性（有／無）	無	有	無	有



着座位置				
シート位置の番号	① (1)(2)(3)	② (2)(3)	③ (2)(3)	④ (2)(3)
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3）	×	R1、R2X、R2、R3	×	R1、R2X、R2、R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3）	×	F2X、F2、F3	×	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3）	×	B2、B3	×	B2、B3

(1) シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

(2) 背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように、可能な限り背もたれを起こしてください。



(3) ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

(4) すべてのユニバーサルカテゴリー（グループ 0、0+、I、II、III）。

● レクサスでは、② および④ のシート位置を推奨しています。

	やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
U	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。
UF	車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。
L	装着可能な推奨チャイルドシートに記載されたチャイルドシートに適しています。(→ P.28)
	i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。
	トップテザーアンカレッジが装備されています。

次の場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を確認するか、レクサス販売店またはチャイルドシートを購入した販売店にお問い合わせください。

● チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーではない場合

● チャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーかどうかわからない場合

取付治具の一覧

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。チャイルドシートを取り付けたいシート位置に応じて、必要な治具を選択します。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

- チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。
- お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、チャイルドシートを購入した販売店へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

質量グループ	子どもの体重	サイズ等級	治具	使用の向き／形状／大きさ
0	10kg まで	E	R1	うしろ向きチャイルドシート
		F	L1	左向き寝台式チャイルドシート
		G	L2	右向き寝台式チャイルドシート
0 ＋	13kg まで	C	R3	大型うしろ向きチャイルドシート
		D	R2	小型うしろ向きチャイルドシート
		—	R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
		E	R1	うしろ向きチャイルドシート
I	9～18kg	A	F3	全高前向きチャイルドシート
		B	F2	低型前向きチャイルドシート
		B1	F2X	低型前向きチャイルドシート
		C	R3	大型うしろ向きチャイルドシート
		D	R2	小型うしろ向きチャイルドシート
II	15～25kg	—	B2、B3	ジュニアシート
III	22～36kg			

チャイルドシートを取り付ける

レクサスでは、チャイルドシートはリヤシート（後部座席）に取り付けることを推奨します。安全のため、チャイルドシートは、リヤシート（後部座席）に取り付けてください。

やむを得ず、チャイルドシートを助手席に取り付ける場合は、助手席にチャイルドシートを取り付ける(→ P.39)を参照してください。

子どもの体格に合ったチャイルドシートを、正しく使用してください。サイズが合っていない場合は、絶対に使用しないでください。

⚠ 注意

チャイルドシートの取り付け前には、必ずチャイルドシートに付属する取扱説明書をよくお読みください。

ISOFIX／i-Size 対応のチャイルドシートを取り付ける

この車には、ISOFIX ロアアンカレッジが用意されています。このため、ISOFIX 対応のチャイルドシートを簡単に取り付けられます。

ISOFIX ロアアンカレッジを使った取り付け

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

次の場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を確認するか、販売店にお問い合わせください。

- チャイルドシートが「ユニバーサル」ではない場合
- チャイルドシートが「ユニバーサル」かどうかわからない場合

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジの周辺に障害物がないこと、シートベルトが挟まっていないことを確認してください。
- チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉する場合

チャイルドシートを取り付けるときに、ヘッドレストが干渉する場合は、ヘッドレストを取り外すか、位置を調整します。

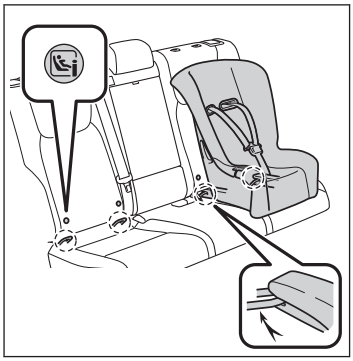
- **ヘッドレストを取りはずします。**

  ヘッドレストが取りはずせない場合は、ヘッドレストをいちばん高い位置にします。

ISOFIX ロアアンカレッジにチャイルドシートを固定する

ISOFIX 対応チャイルドシートのコネクタを、車両の ISOFIX ロアアンカレッジに取り付けます。

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。



1 **ロアアンカレッジの位置を確認します。**

2 **チャイルドシートをシートに取り付けます。**

3 **チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。**

4 **チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。**

5 **取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすります。**

しっかりと固定されていることを確認してください。

トップテザーアンカレッジを使用する

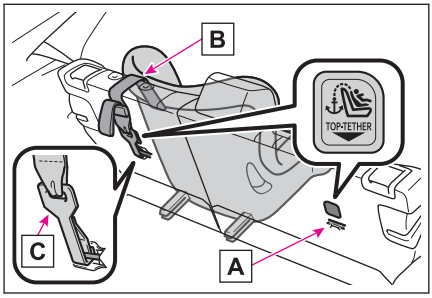
⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

- テザーベルトがねじれていないことを確認してください。
- テザーベルトは、確実にトップテザーアンカレッジに掛けてください。
- テザーベルトがしっかり固定されていることを確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、ヘッドレストの高さを調整しないでください。
- チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートのテザーベルトを、車両のトップテザーアンカレッジに固定します。

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。



A トップテザーアンカレッジ
B テザーベルト
C フック

1 **ヘッドレストを取りはずします。**

ヘッドレストが取りはずせない場合は、ヘッドレストをいちばん高い位置にします。

テザーベルトはヘッドレストの下を通してください。

2 **トップテザーアンカレッジにフックを固定します。**

3 **テザーベルトを締めてフックを固定します。**

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

シートベルトでチャイルドシートを固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

次の場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を確認するか、販売店にお問い合わせください。

- チャイルドシートが「ユニバーサル」ではない場合
- チャイルドシートが「ユニバーサル」かどうかわからない場合

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉する場合

チャイルドシートを取り付けるときに、ヘッドレストが干渉する場合は、ヘッドレストを取り外すか、位置を調整します。

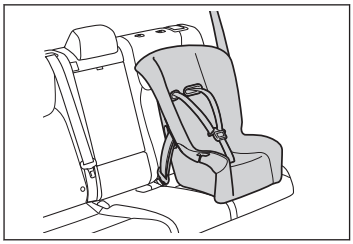
- **ヘッドレストを取りはずします。**

ヘッドレストが取りはずせない場合は、ヘッドレストをいちばん高い位置にします。

シートベルトでチャイルドシートを固定する

ISOFIX／i-Size 以外のチャイルドシートを取り付ける場合は、シートベルトを使って固定します。

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。



⚠ 警告

シートベルトでチャイルドシートを取り付けるときは、次のことを必ずお守りください。

- 子どもがシートベルトで遊ばないように注意してください。ベルトが首に巻き付くと、窒息や死亡につながるおそれがあります。シートベルトが首に巻き付き、バックルもはずせないときは、シートベルトを切断してください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが子どもの肩を保持していることを確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されていることを確認してください。
- シートベルトがねじれていないことを確認してください。
- チャイルドシートの取扱説明書に従って確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

1 **チャイルドシートにシートベルトを取り付けます。**

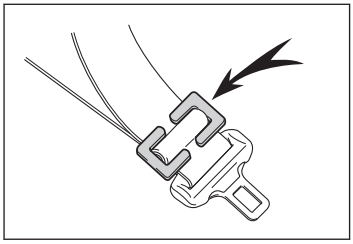
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

2 **プレートをバックルに「カチッ」 と音がするまで挿し込みます。**

ベルトがねじれていないことを確認してください。

3 **シートベルトを固定します。**

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用します。ロッキングクリップの購入は、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



4 **取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすります。**

しっかりと固定されていることを確認してください。

シートベルトで固定したチャイルドシートを取りはずす

シートベルトを使って固定したチャイルドシートは、シートベルトを解除して取りはずします。

1 **バックルの解除ボタンを押します。**

バックルを解除する時に、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながら、バックルを解除してください。

2 **シートベルトをチャイルドシートから取りはずします。**

シートベルトは自動的に巻き取られます。

助手席にチャイルドシートを取り付ける

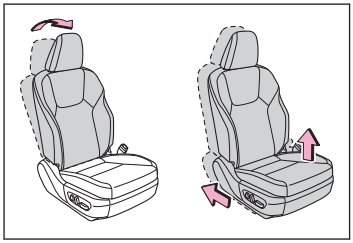
やむを得ない場合を除き、助手席にはチャイルドシートは取り付けないでください。SRS エアバッグの作動によって、チャイルドシートに乗せた子どもに傷害が及ぶことがあります。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席を次のように調整してください。

- 助手席をいちばんうしろに下げる
- 助手席をいちばん高い位置まで上げる
- 助手席の背もたれを可能な限り起こす

  助手席の背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。
- ヘッドレストを取りはずす

  ヘッドレストが取りはずせない場合は、ヘッドレストをいちばん高い位置にします。



⚠ 警告

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付けてください。チャイルドシートをうしろ向きに取り付けていると、SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、助手席をいちばんうしろに下げてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。

⚠ 警告

- ドア／シート／ピラー／ルーフサイドレールと子どもの体が接触しないようにしてください。SRS エアバッグが作動したときの衝撃で重大な傷害を受け、死亡に至るおそれがあります。
- ジュニアシートを使用しているときは、シートベルトが正しく装着されていることを確認してください。
- 子どもの年齢、体格に合ったチャイルドシートを選んでください。

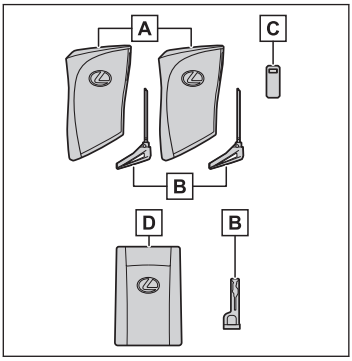
助手席にチャイルドシートを固定する

- **助手席シートを正しく調整して、助手席にチャイルドシートを取り付けてください。**

  チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動
- ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐ

以下のことに注意してください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしないでください
- 温度の高いところに長時間放置しないでください
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしないでください
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしないでください
- 分解しないでください
- 電子キー表面にシールなどを貼らないでください
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かないでください

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ カードキーの取り扱い

- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って

注意

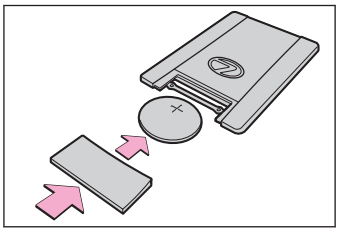
引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。
- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
  - 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
  - シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
  - シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

知識

■ **カードキーの取り扱い**

- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



- カードキーは非防水です。

■ **航空機に乗るとき**

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ **電池の消耗**

- 電池の標準的な寿命は 1～2 年です（カードキーの電池は 1 年程度で消耗します）。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

- スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- 作動範囲が狭くなった
- 電子キーの LED が点灯しない

● 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。

- TV
- パソコン
- 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- 電気スタンド
- 電磁調理器

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

● 次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによるロック解除に時間がかかる場合があります。

- 車の外約 3.5m 以内に電子キーを 2 分以上放置した
- 5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

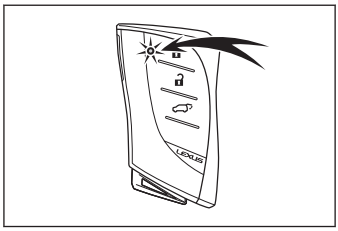
● 14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外でのロック解除ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーでロック解除してください。

■ 電子キーの節電モード

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ると節電モードになります。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。電子キーのいずれかのスイッチを押すと、節電モードが解除できます。



■ キー登録本数の確認

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■ **駐車場などでキーを預けるとき**

必要に応じてグローブボックスをロックします。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ **電子キーの取り扱い**

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

スマートエントリー＆スタートシステム

警告

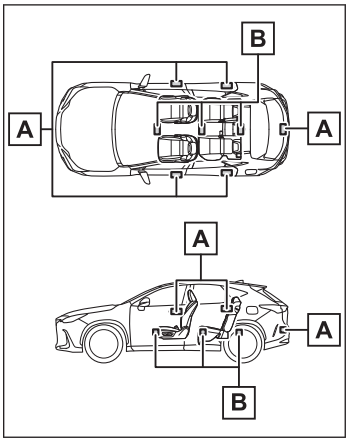
■ **電波がおよぼす影響（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナからの影響）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナから 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

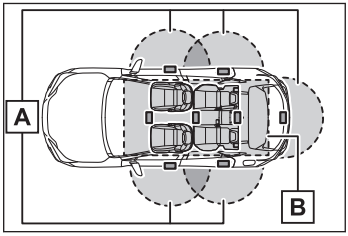
知識

■ **アンテナの位置**



A 車外アンテナ
B 車室内アンテナ

■ **作動範囲（電子キーの検知エリア）**



A ドアのロック／ロック解除時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ **警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき**

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合は次のような状況と対処方法です。

● 車外から「ピー」と 5 秒間鳴る

状況：いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムでロックしようとした

対処方法：全ドア閉めたあと、再度ロックしてください。

● 車内から「ポーン、ポーン」と鳴り続ける

状況：運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）

対処方法：エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■ **機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

● 電子キーの電池が消耗しているとき

● 近くにテレビ塔や発電所／ガソリンスタンド／放送局／大型ディスプレイ／空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

● 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

- アルミ箔などの金属の貼られたカード
- アルミ箔を使用したタバコの箱
- 金属製の財布やかばん
- 小銭
- カイロ
- CD や DVD などのメディア

● 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
  - 無線機／携帯電話／コードレス式電話などの無線通信機器
  - 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
  - パソコンや携帯情報端末（PDA など）
  - デジタルオーディオプレーヤー
  - ポータブルゲーム機器
- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ドアのロック／ロック解除時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
- バックドアを開けるとき、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
- エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上／リヤ席後方のトノカバー上／ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

■ **ご留意いただきたいこと**

- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ないでください。電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外からロックでき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でもロック／ロック解除できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外はロック解除しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアがロック／ロック解除することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、ロック解除されても約 30 秒後に自動でロックします）
- ワイヤレスリモコンなどでのロック時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでのロック解除ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用するとロック解除できます）
- 手袋を着用しているとロック／ロック解除しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときにロック／ロック解除をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
  - キーを車両から約 2 m以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）

- キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する

● 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアをロックすると警報は止まります。

● ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

● すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、ロック解除しないことがあります。センサーにふれロック解除したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

● 作動範囲内に他の電子キーがあると、ロック解除に時間がかかることがあります。

■ **降車オートロック機能についてご留意いただきたいこと**

● 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。ロックしたくないときは、降車オートロック機能を非作動にしてください。

● 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

● すべてのドアを閉めた後に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだ時
- エンジンスイッチを押したとき
- 降車オートロック機能以外でロック／ロック解除したとき

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉してください。

● 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

● 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

● すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。

● 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

● 降車オートロック機能を非作動にするとき、ブザーが 2 回なる前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。

- いずれかのドアを開けたとき
- ブレーキペダルを踏んだ時
- エンジンスイッチを押したとき

降車オートロック機能を非作動にするには、いずれかのドアを開閉した後、操作をやり直してください。

● 降車オートロック機能を非作動にするときは、ロックされていないドアのドアハンドルを握ってください。

- 降車オートロック機能を非作動にするときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

■ **長期間運転しないとき**

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。

■ **システムを正しく作動させるために**

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

デジタルキー★

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/

QR コード:

知識

■ **QR コード**

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

■ **フリー／オープンソースソフトウェア情報について**

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

■ **デジタルキーの取り扱い**

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、G-Link に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。デジタルキー契約はレクサス販売店でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

  デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります(詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください)。そのため、電子キーを常に携行することを推奨いたします。

  - スマートフォンが故障した場合
  - スマートフォンとサーバーが通信できない場合
  - スマートフォンのバッテリー残量が無くなった場合
  - システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

- スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。
- デジタルキーは、スマートエントリー＆スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。
- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。
- 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動的に接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアのロック／ロック解除やエンジンの始動などが可能になるため、スマートフォンの置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにレクサスオーナーズデスク、レクサス販売店にご相談くださいにご相談ください。

- 点検や修理などでレクサス販売店にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯はしません。

ドアの開閉

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

- すべてのドアを確実に閉め、ロックしてください。
- 走行中はドア内側のドア開スイッチを押さないでください。

  特に、運転席はドアがロックになっていてもドアが開く可能性があるため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、車内からドアが開くことを防ぐために、チャイルドプロテクターを使用してください。

■ ドアを開閉するときの留意事項

ドアを閉めるときは、少し勢いをつけて閉めてください。手で押すようにドアを閉めると、完全に閉まらないおそれがあります。

ドアを開閉するときは、周囲の状況を確認し、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。特に次のような場所では、予期せぬ動きにも対処できるように注意してください。

- 傾斜した場所
- ドアと壁などのあいだが狭い場所
- 強風が吹いている場所

知識

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアをロックしようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度ロックしてください。

■ 半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからエンジンスイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアをロックしたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

エンジンスイッチを OFF にしてからリヤドアを開けた場合は、ドアをロックしてもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にエンジンを始動した
- エンジンが始動している状態でリヤドアを開閉した。

ただし、リヤドアを開けてから 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

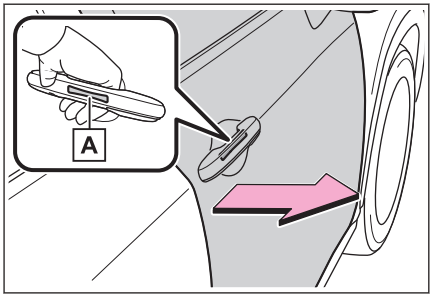
- リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。

関連リンク

キーの種類 (P.41)
ドアのロック／ロック解除 (P.56)
メカニカルキーを使って操作する (P.530)
ドア開スイッチでドアを開けることができない (P.536)
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ドアを開く

▶ 車外



ドアがロックされているとき：

電子キーを携帯して、ドアハンドルのドア開スイッチ A を押してドアを開きます。

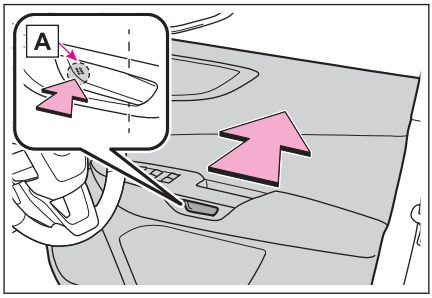
電子キーが検知エリア内にある状態で、ドアハンドル裏面のドア開スイッチ A を確実に押してください。

ドアがロック解除されているとき：

ドアハンドルのドア開スイッチ A を押してドアを開きます。

ドアハンドル裏面のドア開スイッチ A を確実に押してください。

▶ 車内



運転席ドア：

ドアがロックになっていても、ドア開スイッチ A の前側を押すとドアが開きます。

ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

運転席以外のドア

ドアロックスイッチを押してロック解除し、ドア開スイッチ A の前側を押すとドアが開きます。

ドアがロック解除されると、ドアロックインジケーターが消灯します。

知識

■ 車内のドア開スイッチが作動する条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- 車速が 4km/h 未満で、パーキングブレーキがかかっている
- 車速が 4km/h 未満で、ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトポジションが P の位置にある

■ 車内からドアを開けるときは

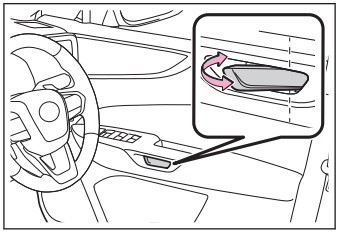
ドア開スイッチを押してドアを開けてください。

半ドア状態になった場合は、ドア開スイッチを 2 回押してドアを開けてください。

■ 車内の手動リリースハンドルについて

車内のドア開スイッチは、手動でドアを開けることもできます。

ドア開スイッチを押すと電動操作でドアが開き、ドア開スイッチを 2 回引くと手動リリースハンドルとしてドアを開けることができます。



ドアのロック／ロック解除

知識

■ **衝撃感知ドアロック解除システム**

車両が前後から強い衝撃を受けると、全てのドアの手動リリースハンドルの作動が有効になります。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■ **作動の合図**

ロック解除を、ブザーと非常点滅灯の 2 回点滅で知らせます。

ロックを、ブザーと非常点滅灯の 1 回点滅で知らせます。

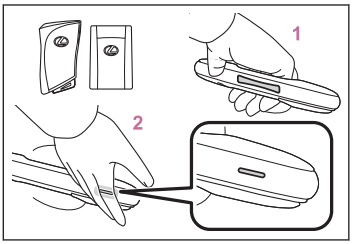
■ **ロック解除操作のセキュリティ機能**

ロック解除操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的にロックされます。

スマートエントリー＆スタートシステムを使った操作

スマートエントリー＆スタートシステムでドアをロック／ロック解除する

必ず運転者が電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯してください。



1 ハンドルを握ってロック解除します。

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

ロック操作後 3 秒間はロック解除できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれロックしてください。

必ずロックされたことを確認してください。

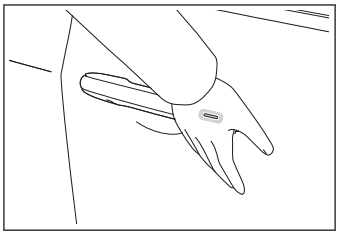
ロックするとオートアラームが設定されます。

知識

■ **ドアハンドル表面のロックセンサーを指でふれてもロックできないとき**

手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



降車オートロック機能*1*2 を作動させる

次の手順で車から離れることで、自動でロックすることができます。

1 **電子キーを携帯して降車し、全てのドアを閉めます**

車内に電子キーがあるとロックできません。車内にある全ての電子キーを携帯してください。

2 **電子キーの作動範囲内でブザーが“ピピッ”と 2 回鳴るまで待機します**

降車オートロック待機状態になります。

3 **ブザーが“ピピッ”と 2 回鳴ったら、電子キーの作動範囲から離れる**

ブザーと非常点滅灯の点滅でロックをお知らせします。

約 5 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。

この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態に戻ります。

降車オートロック機能*3*4 を非作動にする

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と 2 回鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を非作動にした場合、次の操作で作動可能状態に戻ります。

- ドアをロック／ロック解除する
- エンジンを始動する

ロック解除するドアを切りかえる

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムでロック解除できるドアの設定を切りかえることができます。

1 **エンジンスイッチを OFF にします。**

*1：レクサス販売店での設定変更が必要です。

*2：デジタルキーのみでは降車オートロック機能は使用できません。

*3：レクサス販売店での設定変更が必要です。

*4：デジタルキーのみでは降車オートロック機能は使用できません。

2 オートアラームの侵入・傾斜センサーを停止します。（操作中のオートアラーム誤作動防止）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または のいずれかを約 5 秒間押し続けます。

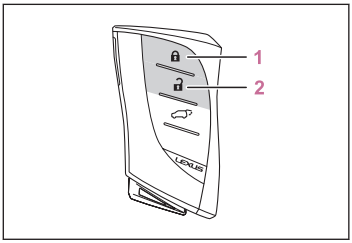
操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	ロック解除できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみロック解除
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席ロック解除
 車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席ロック解除

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンでロック解除し、ドアを開閉してください。（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再びロックされオートアラームが設定されます）オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。

ワイヤレスリモコンを使った操作

ワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除する



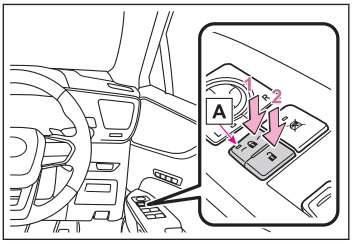
1 全ドアをロックします。

必ずロックされたことを確認してください。

2 全ドアをロック解除します。

ドアロックスイッチを使った操作

ドアロックスイッチでドアをロックする／ロック解除する



1 🔒 スイッチを押します。

全てのドアがロックされます。

ドアロックインジケーター A が点灯します。

2 🔓 スイッチを押します。

全てのドアがロック解除されます。

ドアロックインジケーター A が消灯します。

クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能*5 の働き

パワーバックドアを閉じると同時に全てのドアをロックします。

知識

■ クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 自車のもう一つの電子キーを室内に置いていないとき
- パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- エンジンスイッチが OFF のとき

■ ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能★の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ハンズフリークローズ＆ロック機能の作動の設定が ON のとき
- ハンズフリーパワーバックドアの作動条件を満たしているとき
- 自車のもう一つの電子キーを室内に置いていないとき
- パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- エンジンスイッチが OFF のとき

■ クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

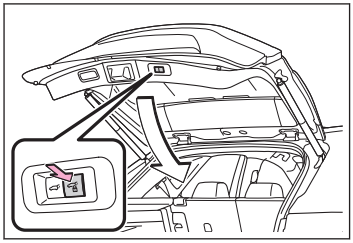
- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチを押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたまま、パワーバックドア下部の スイッチを押したとき

*5：初期設定の場合、クローズ&ロック機能はデジタルキーのみでは使用できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 電子キーが車両近くにない状態で、パワーバックドア下部の スイッチを押したとき

パワーバックドアを閉めて全てのドアをロックする



1 **パワーバックドア以外の全てのドアを閉じます。**

スイッチでの操作:

2 **電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部の スイッチを短く押してください。**

パワーバックドアから離れると、自動で閉作動します。

電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア付近に近づくと閉作動を停止します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴ります。パワーバックドアが閉じると同時に、全てのドアがロックしたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

ハンズフリーパワーバックドア装着車:*6

3 **電子キーを携帯した状態で、ハンズフリーパワーバックドアでパワーバックドアを閉じると同時に全ドアをロックします。**

パワーバックドアから離れると、自動で閉作動します。

電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア付近に近づくと閉作動を停止します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴ります。パワーバックドアが閉じると同時に、全てのドアがロックしたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

⚠ 警告

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じロックされると、すべてのドアがロックされたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアがロックされたことを確認してください。

*6：レクサス販売店での設定変更が必要です。

盗難防止装置

この車両には、車両の盗難を防ぐ装置として、エンジンイモビライザーシステムとオートアラームシステムが装備されています。エンジンイモビライザーとは、この車両専用のキー以外での車内への侵入やエンジンの始動を防ぐ機能です。キーに内蔵された電子チップによって、車両専用のキーと不正に複製されたキーを識別します。オートアラームとは、車内への侵入者を検知した場合に音と光で警報する機能です。

知識

■ ご留意いただきたいこと

エンジンイモビライザーシステムやオートアラームシステムは、車両盗難の防止を支援する機能です。したがって、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ エンジンイモビライザーとオートアラームのメンテナンスの有無

エンジンイモビライザーシステムとオートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ オートアラームが作動する状況

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。*1

- メカニカルキーを使ってドアをロック解除したとき
- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、車両をロック解除したとき
- 車両をロックした後に、バッテリーをはずしたとき
- ロックされたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使わずにロック解除されたり、開けられたとき
- 車外からボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- 傾斜センサーが車両の傾きを検知したとき

■ オートアラームの作動によるドアロック機能が働く状況

次のような場合、自動的にドアがロックされることがあります。

- 車内に残った人がドアをロック解除し、オートアラームが作動したとき
- オートアラームの作動中に、車内に残った人がドアをロック解除したとき
- バッテリーを充電／交換したとき

*1：G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メール／電話／スマートフォンアプリでお知らせすることができます。

エンジンイモビライザーシステムを作動させる

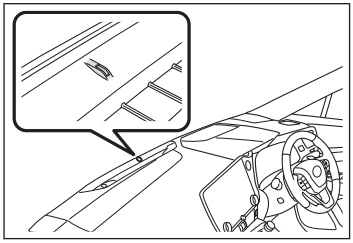
⚠ 注意

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

エンジンスイッチを OFF にします。

エンジンイモビライザーシステムが作動し、作動を知らせるためのセキュリティ表示灯が点滅します。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。



知識

■ エンジンイモビライザーを解除する

車両に登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを ACC または ON にします。そうすると、エンジンイモビライザーシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

オートアラームを設定する

オートアラームを設定する前に、次のことを確認します。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品や車外へ持ち出そうとしているものを放置していないか

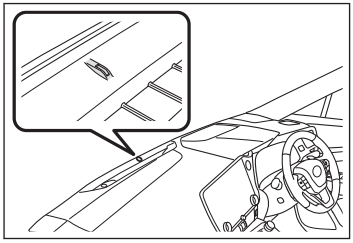
⚠ 注意

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

ドアおよびボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使って車両をロックします。車両をロックしてから 30 秒以上経過すると、自動的にオートアラームが設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームはセットできます。



オートアラームを解除／停止する

オートアラームを解除／停止するには、次のいずれかを行います。

- **スマートエントリー＆スタートシステム／ワイヤレスリモコンを使って、ドアをロック解除する**
- **エンジンスイッチを ACC または ON にするか、エンジンを始動する**

数秒後にオートアラームが解除／停止します。

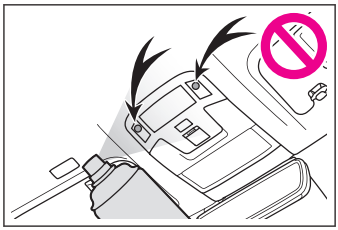
侵入／傾斜センサーのはたらき

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。傾斜センサーは、車両の傾きの変化を検知するセンサーです。けん引などで車が盗難される場合などを検知します。このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

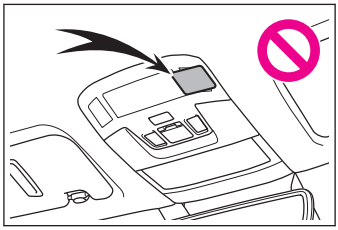
⚠ 注意

侵入センサーを正しく作動させるために、次のことを必ず守ってください。

- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したり、ものを放置したりしないでくださいさい。検知性能が低下することがあります。
- 電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

知識

■ 侵入センサーが作動する可能性がある状況

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットを残して車両から離れる場合
- ドアガラスやムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
  - 室内に入った落ち葉／虫／風のような動き
  - 他車の侵入センサーなどが発する超音波
  - 室外の歩行者の動き
- 蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場合
- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときのように、動きやすいものが車内にある場合
- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車した場合
- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落としたため、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合
- 高圧洗車機や自動洗車機などの洗浄機を使う場合
- ひょうや落雷のような連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

■ 傾斜センサーが作動する可能性がある状況

次のような場合、傾斜センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、傾斜センサーを停止してからアラームを設定してください。

- フェリー／トレーラー／列車などで運搬するとき
- 立体駐車場に駐車したとき
- 車両移動をともなう洗車機を使用するとき
- タイヤ空気圧が少ないとき
- ジャッキアップするとき
- 地震や路面陥没が起きたとき
- ルーフキャリアにスキー板やスノーボード等を積んだり、荷降ろしするとき

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

侵入／傾斜センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

侵入／傾斜センサーを停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入／傾斜センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

侵入／傾斜センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

1 **ショートカット画面表示スイッチをタッチします。**

2 **をタッチします。**

操作したシンボルが白色に変わり、侵入／傾斜センサーが停止します。

もう一度タッチすると、侵入／傾斜センサーは再びセットされます。

侵入／傾斜センサーを OFF／ON にするたびに、センターディスプレイのシンボルが変化します。

知識

■ **侵入／傾斜センサーの復帰**

- 侵入／傾斜センサーを停止したあとに、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンによるロック解除操作を行うと、侵入／傾斜センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入／傾斜センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

車両への荷物の積み込み

ラゲージルームに荷物を積むときの注意

⚠ 警告

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル／アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 次のようなものを積まないでください。引火するおそれがあります。
  - 燃料が入った容器
  - スプレー缶
- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シートの背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席シートの背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席シートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。

  乗員用には設計されていません。

  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
  - 運転席の足元
  - 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
  - トノカバー
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物は、すべてしっかりと安定させてください。
- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。

  荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量／荷重のかけ方の注意

- 荷物を積みすぎないでください。
- できるだけ荷重を均等にかけてください。

  荷重を不均等にかけると、各タイヤに異なる荷重がかかります。さらに、ハンドルの操作性やブレーキ制御の低下により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ ルーフレールを使用するときは（ルーフレール装着車）

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。

  高速走行や急加速、急旋回、急ブレーキといった急な操作は避けてください。車両を適切に操作できなくなることで横転するおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 80kg 以上の荷物を積まないでください。

注意

ムーンルーフやパノラマルーフに荷物を触れさせないでください。ムーンルーフやパノラマルーフに傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

バックドアの機能と働き

バックドアは次の方法でロック／ロック解除および開閉することができます。

警告

■ 走行する前に

次のことを必ずお守りください。

- 走行前にパワーバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
- パワーバックドアが完全に閉まっていないと、走行中にパワーバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはパワーバックドアの開閉操作をさせないでください。

  不意にパワーバックドアが動いたり、閉めるときに手／腕／頭／首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

次のことを必ずお守りください。

- 走行中はパワーバックドアを閉めてください。

⚠ 警告

開けたまま走行すると、パワーバックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にパワーバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

  急ブレーキ／急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーバックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

- パワーバックドアを開ける前に、パワーバックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでパワーバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- パワーバックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

  パワーバックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、パワーバックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずパワーバックドアが静止していることを確認して使用してください。
- パワーバックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- パワーバックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままパワーバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニットを持ってパワーバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ バックドアイージークローザーについて

- パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
- 次のような場合は、十分注意してください。システムが異常と判断して自動作動が停止して手動操作に切りかわり、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあります。
  - 自動作動中、バックドアが障害物に干渉したとき
  - エンジン停止中でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチを ON にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手／腕／頭／首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。

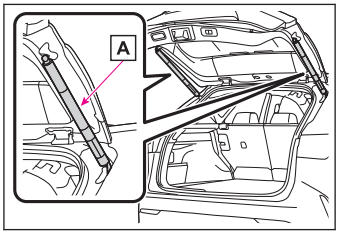
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ スピンドルユニットに関する注意

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニット A が取り付けられています。

スピンドルユニット A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片／ステッカー／粘着材といった異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ パワーバックドアやバックドアイージークローザーの故障の防止

次のことをお守りください。お守りいただかないと、パワーバックドアやバックドアイージークローザの故障につながるおそれがあります。

- バックドアイージークローザーの作動中は、バックドアに無理な力をかけないでください。
- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。
- パワーバックドア左右端部のセンサーを刃物のような鋭利なもので傷付けないように注意してください。

  センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

知識

■ ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- エンジンスイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動で消灯します。

■ パワーバックドアが作動可能な条件

パワーバックドアの作動を ON にしていると、次のときに自動で開閉できます。

- バックドアがロック解除されているとき

  ただし次のときは、バックドアがロックされていてもパワーバックドアは作動します。

  - 電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押したとき
  - カスタマイズ機能により、ワイヤレスリモコン使用時では、ロック時からでも作動できるように設定したとき

- エンジンスイッチが ON の場合、上記に加え、次のいずれかの条件に当てはまることでパワーバックドアが作動します。
  - パーキングブレーキがかかっている
  - ブレーキペダルを踏んでいる
  - シフトポジションが P の位置にある

■ **バックドアイージークローザー**

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■ **パワーバックドアの作動について**

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。
- パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。
- パワーバックドアを自動で開いているときに、人や異物といった異常を感知すると、作動が停止します。

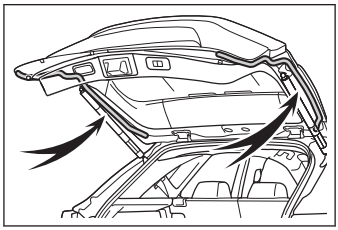
■ **バッテリーを再接続したときは**

パワーバックドアを適切に作動させるために、バックドアを手動で一度完全に閉めてロック解除操作をしてください。

■ **挟み込み防止機能**

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。

ドアを自動で閉めているときに、挟み込みによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動します。機能が作動すると、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



関連リンク

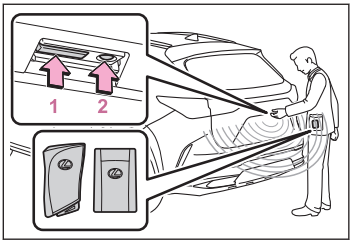
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

スマートエントリー＆スタートシステムを使ったバックドアの操作

電子キーまたはカードキーを携帯していると、バックドアのロック／ロック解除ができます。必ず運転者が電子キーまたはカードキーを携帯してください。

スマートエントリー＆スタートシステムでバックドアをロック／ロック解除する

電子キーを携帯して、次の操作をします。



1 1を押します。

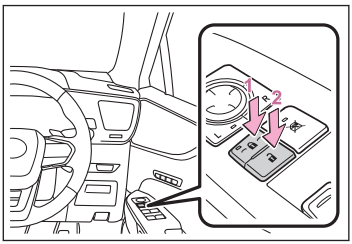
全ドアがロック解除されます。ロック操作をしてから3秒間はロック解除できません。

2 2を押します。

全ドアがロックされます。必ずドアがロックされたことを確認してください。

ドアロックスイッチを使ったバックドアの操作

ドアロックスイッチでバックドアをロック／ロック解除する



1 🔒スイッチを押します。

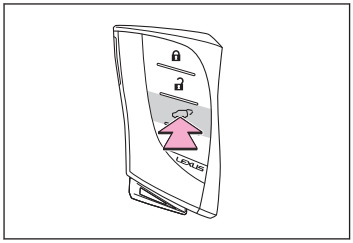
バックドアを含む全てのドアがロックされます。

2 🔓スイッチを押します。

バックドアを含む全てのドアがロック解除されます。

ワイヤレスキーを使ったバックドアの操作

ワイヤレス機能でバックドアを開ける／閉める



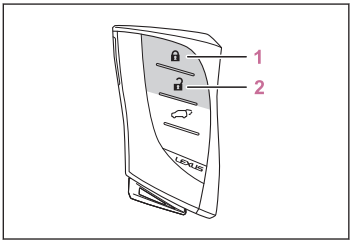
● を約1秒押し続けます。

バックドアロック解除時[*1]に作動させることができます。

バックドアが開きます。

*1：カスタマイズ機能により、バックドアがロックされた状態からでも作動できるように設定できます。

ワイヤレス機能でバックドアをロック／ロック解除する



1 を押します。

バックドアを含む全てのドアがロックされます

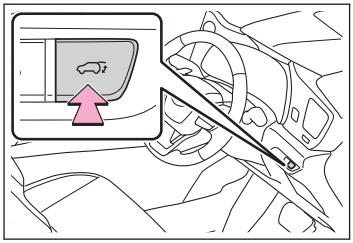
必ずバックドアがロックされたことを確認してください。

2 を押します。

バックドアを含む全てのドアがロック解除されます。

車内のスイッチを使ったバックドアの操作

車内のスイッチでバックドアを開ける／閉める



を約 1 秒押し続けます。

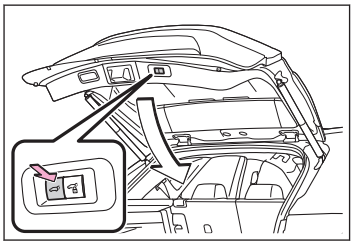
ブザーが鳴り、バックドアが自動で開閉します。

開閉の作動中に を押すと、開閉の作動を停止します。

開閉の作動を停止した状態から再度、 を押すと、バックドアは反転作動します。

バックドアスイッチを使ったバックドアの操作

バックドアスイッチでバックドアを開ける／閉める



を押します。

ブザーが鳴り、バックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中で を押すと、作動を停止します。

再度 を押すと、バックドアは自動で開きます。

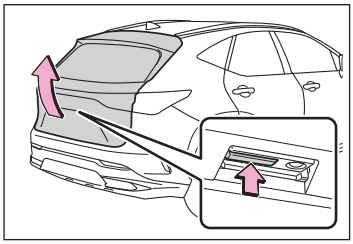
バックドアオープンスイッチを使ったバックドアの操作

バックドアオープンスイッチでバックドアを自動で開ける

バックドアがロック解除されているときに、バックドアオープンスイッチを押します。

ブザーが鳴り、バックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



知識

■ **バックドアがロックされた状態でバックドアオープンスイッチを使ってバックドアを開ける**

電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押します。

ブザーが鳴り、バックドアが自動で開きます。

バックドアグリップを使ったバックドアの操作

バックドアグリップでバックドアを自動で閉じる

警告

バックドアを閉めるときは、次のことをお守りください。

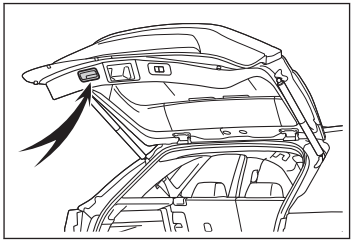
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。

  バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニットを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。

  手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げます。

ブザーが鳴り、バックドアが自動で閉まります。



キックセンサーを使ったバックドアの操作（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

注意

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。

ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく

  リヤバンパーに汚れや着雪がある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。

  その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてからキックセンサー作動するか確認を行ってください。

  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングといった液体を塗らない
- リヤバンパーに草木といった動くものを近づけない

  リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長期間続くと、キックセンサーが作動しなくなることがあります。

  その場合、現在の位置から車両を動かしてからキックセンサーが作動するか確認を行ってください。

  それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける

  リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

  次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
  - キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアや重みのあるものを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

知識

キックセンサーの作動可能条件

- キックセンサーの作動の設定が ON のとき
- 電子キーが作動範囲内にあるとき

■ **キックセンサーが正常に作動しない状況**

キックセンサーは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき

  リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度キック操作してください。
- 人がリヤバンパーに近すぎる位置でキック操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき
- コインパーキング／ガソリンスタンド／ロードヒーター／蛍光灯といったキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔／発電所／ラジオ放送局／大型ディスプレイ／空港があるというような、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨でリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥／雪／氷が付着したとき
- リヤバンパーに草木といった動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき

  アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動の設定を OFF にしてください。

■ **キックセンサーが誤って作動するおそれのある状況**

キックセンサーは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、次の状況にご注意ください。

- 洗車や大雨でリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールのような小さい物体がリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき
- コインパーキング／ガソリンスタンド／ロードヒーター／蛍光灯といったキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔／発電所／ラジオ放送局／大型ディスプレイ／空港があるというような、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木のような物体がある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物の積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

キックセンサーが誤って作動するのを防ぐときは、キックセンサーの作動の設定を OFF にしてください。

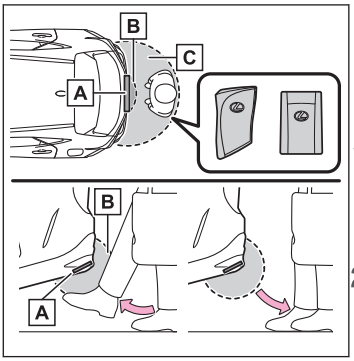
キックセンサーでバックドアを開ける／閉める（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

⚠ 警告

キックセンサーを使用してパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする場合は、十分に排気管が冷却されるまでふれないでください。

  排気管が熱くなっていると、やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、キック操作をしないでください。



A キックセンサー

B キックセンサー検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア

1 **電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内、かつリヤバンパーから約 50～70cm 離れた位置に立ちます。**

2 **足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで、近づけます。**

リヤバンパーに足先を触れることなく操作してください。

3 **ブザーが鳴ったあと足を引きます。ブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開／全閉します。**

- 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- 足先をリヤバンパーの下に入れたままではパワーバックドアは作動しません。
- 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、パワーバックドアの作動までの時間が少し長くなることがあります。
- 2 回ブザーが鳴った場合は再度キック操作をしてください。

バックドアが作動している途中で再度キック操作をすると、パワーバックドアの作動が停止します。

知識

全てのドアがロックされているときは、キックセンサーが動きを感知すると、全てのドアがロック解除されます。

バックドア予約ロック機能の働き

バックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアのロックを予約することができる機能です。

全ドアのロックを予約する

バックドア以外のすべてのドアがロックされ、バックドアが閉まると同時にバックドアもロックされます。

1 **バックドア以外のすべてのドアを閉じます。**

2 **バックドアが自動閉作動している最中に、ワイヤレスのロックボタンを押します。**

バックドア自動開停止位置調整

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 **バックドアをお好みの位置で停止します**

2 **バックドア下部の スイッチを約 2 秒間押し続けます**

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどす

● **バックドア下部の スイッチを約 7 秒間押し続けてください。**

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。

リヤシートの背もたれ

レバー操作、もしくはスイッチ操作により背もたれを倒すことができます。

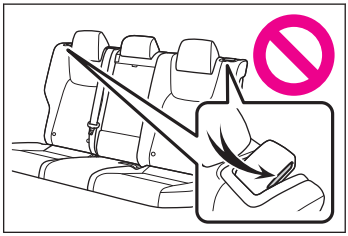
⚠ 警告

■ 背もたれを操作するとき

次のことをお守りください。

- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

⚠ 警告



■ **背もたれを前倒しするときや、前倒しした後は**

次のことをお守りください。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入ることのないよう注意する

■ **背もたれをもとの位置に戻したあとは**

背もたれをもとにもどした後は、次のことを行ってください。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実にシートを固定する

  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーが赤色に見えます。赤色が見えないことを確認してください。

- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

■ **挟み込み防止機能（パワーシート装着車）**

次のことをお守りください。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、シートが完全に戻る直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

背もたれを前に倒すときは、倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。

リヤシートの背もたれをラゲージルーム内スイッチを押して自動で倒す(パワーシート装着車)

知識

■ 背もたれを前に倒すときの作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作で背もたれを倒すことが可能になります。

- バックドアが開いているとき
- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

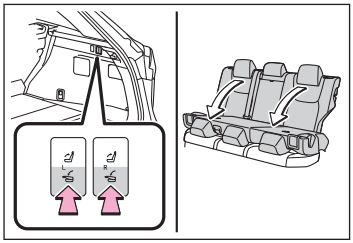
エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトポジションが P の位置にある

1 **リヤ中央席のシートベルトとバックル、リヤアームレストを格納します。**

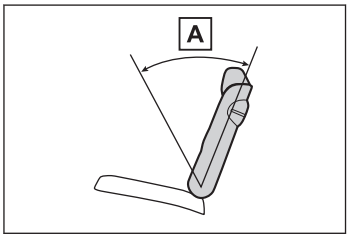
2 **ヘッドレストをいちばん下まで下げます。**

3 **ラゲージルーム内スイッチを押して、背もたれを倒します。**



ブザーが鳴り、背もたれを倒す作動を開始します。

途中で背もたれを倒す作動を止めるには、ラゲージルーム内スイッチまたはリヤ席スイッチのどちらかをもう一度押押してください。作動が止まると、ブザーが鳴ります。



背もたれの位置が図の A の範囲を超えると、作動を停止することができなくなります。

リヤシートの背もたれをセンターディスプレイのスイッチを押して自動で倒す（パワーシート装着車）

知識

■ **背もたれを前に倒すときの作動条件**

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作で背もたれを倒すことが可能になります。

操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトポジションが P の位置にある

1 リヤ中央席のシートベルトとバックル、リヤアームレストを格納します。

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

3 メインメニューの をタッチします。

4 [シート]をタッチします。

5 すべてのシートの背もたれを倒す：[全てのシートを倒す]をタッチします。
背もたれを倒したいシートを選択する：調整したいシートをタッチして、[倒す]をタッチします。

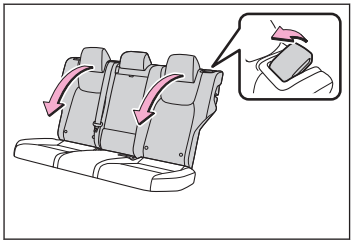
ブザーが鳴り、背もたれを倒す作動を開始します。

リヤシートの背もたれを手動で倒す

1 リヤ中央席のシートベルトとバックル、リヤアームレストを格納します。

2 ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

3 レバーを引いて背もたれを倒します。



リヤシートの背もたれをリヤ席スイッチ／ラゲージルーム内スイッチを押して自動でもとにもどす(パワーシート装着車)

知識

■ 背もたれをもとにもどすときの作動条件

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

- リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき
- ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき
- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

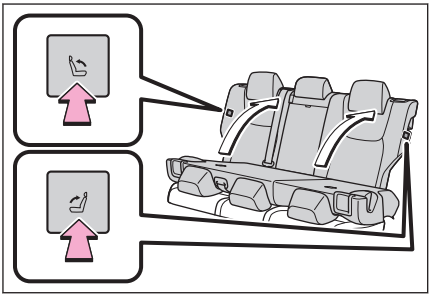
- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトポジションが P の位置にある

■ 背もたれの挟み込み防止機能

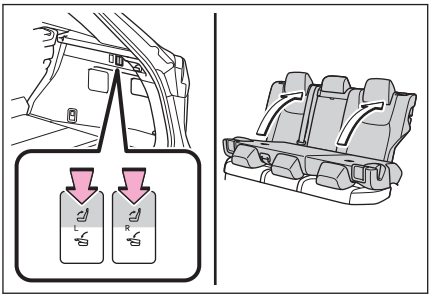
背もたれをもとにもどすときに、背もたれとシートクッションの間に異物を感知すると、背もたれが反転作動し、作動が停止します。反転作動中は断続的にブザーが鳴り、反転作動が停止すると再度、作動させることができます。

1 **リヤ席スイッチ／ラゲージルーム内スイッチ：いずれかのスイッチを押して、背もたれをもとにもどします。**

▶ **リヤ席スイッチ**



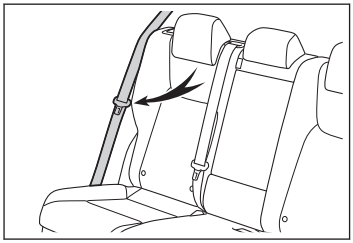
▶ ラゲージルーム内スイッチ



ブザーが鳴り、背もたれをもとにもどす作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で背もたれもどす作動を止めるには、リヤ席スイッチまたはラゲージルーム内スイッチのどれかをもう一度押してください。作動が止まると、ブザーが鳴ります。

2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認します。



リヤシートの背もたれをセンターディスプレイのスイッチを押して自動でもとにもどす（パワーシート装着車）

知識

■ **背もたれをもとにもどすときの作動条件**

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

エンジンスイッチが ON のときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトポジションが P の位置にある

■ **背もたれの挟み込み防止機能**

背もたれをもとにもどすときに、背もたれとシートクッションの間に異物を感知すると、背もたれが反転作動し、作動が停止します。反転作動中は断続的にブザーが鳴り、反転作動が停止すると再度、作動させることができます。

1 メインメニューの をタッチします。

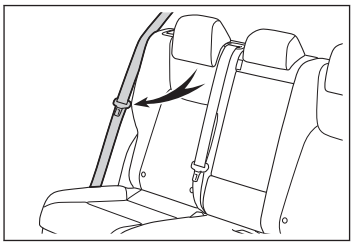
2 [シート]をタッチします。

3 背もたれを戻したいシートを選択する：調整したいシートをタッチして、[戻す]をタッチします。すべてのシートの背もたれを戻す：[全てのシートを戻す]をタッチします。

ブザーが鳴り、背もたれをもとにもどす作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

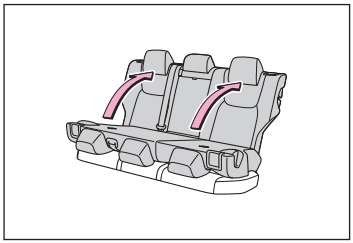
途中で背もたれもどす作動を止めるには、センターディスプレイに表示される[**停止**]をタッチしてください。

4 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認します。

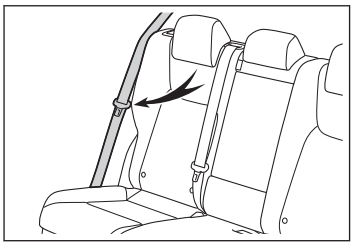


リヤシートの背もたれを手動でもとにもどす

1 背もたれを起こし、固定します。



2 シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認します。



窓の開閉

⚠ 警告

次のことを必ず守ってください。運転者は、乗員の操作を含むすべての窓の開閉操作について責任があります。

- 子どもには窓の操作をさせないでください。子どもの誤った操作によって、子どもや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、子どもが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。
- 窓を開閉するときは、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだり巻き込んだりしないか確認してください。

  特に子どもへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯して子どもも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ パワーウィンドウの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は窓を開閉できます。

ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- すべての席の窓の開閉
- 各席の窓の開閉

（ウインドウロックスイッチが OFF のときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

安全な窓の開閉を補助するための機能

次のような機能により、安全な窓の開閉を補助します。

- 挟み込み防止機能

  窓を閉めているときに、窓枠と窓ガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。
- 巻き込み防止機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

窓を開けているときに、異物が窓ガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

● 窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF で窓が開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、窓が完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

指などを挟まないか注意してください。

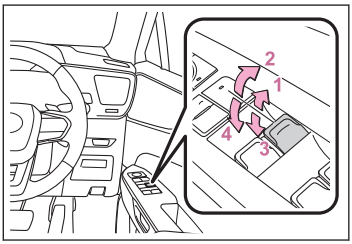
■ 巻き込み防止機能

● 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／服などを巻き込ませたりしないでください。

● 乗員の手／腕／服などを巻き込まないか注意してください。巻き込み防止機能は、窓が完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。

パワーウィンドウスイッチを使った操作

パワーウィンドウスイッチで窓を開ける／閉める



1 パワーウインドウスイッチを途中まで上げます。

スイッチを上げているあいだ、窓ガラスが閉まります。

2 パワーウインドウスイッチを完全に上げます。

自動で窓ガラスが閉まります。

途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

3 パワーウインドウスイッチを途中まで押します。

スイッチを押しているあいだ、窓ガラスが開きます。

4 パワーウインドウスイッチを完全に押します。

自動で窓ガラスが開きます。

途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ワイヤレスリモコンを使った操作

ワイヤレスリモコンを使って窓を開閉できます。*1

知識

オートアラームがセットされているときに、ワイヤレスリモコンで窓を閉めると、オートアラームが作動することがあります。

警告

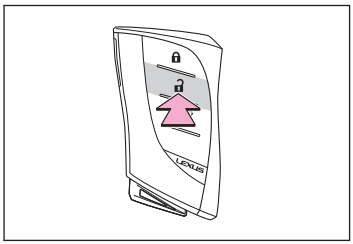
ワイヤレスリモコンを使って窓を操作するときは、窓に人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人が窓に挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ワイヤレスリモコンで窓を開ける

ワイヤレスリモコンでロック解除と同時に窓を開けることができます。*2



● **ワイヤレスリモコンのロック解除スイッチを押し、そのまま保持します。**

全ドアがロック解除し、窓とムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が開きます。

窓とムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★の開閉をブザーで知らせます。

ワイヤレスリモコンで窓を閉める

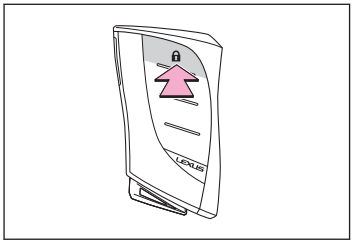
ワイヤレスリモコンでロックと同時に窓を閉めることができます。*3

*1：レクサス販売店での設定が必要です。

*2：レクサス販売店での設定が必要です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*3：レクサス販売店での設定が必要です。



● ワイヤレスリモコンのロックスイッチを押し、そのまま保持します。

全ドアがロックし、窓とムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が閉まります。

窓とムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★の開閉をブザーで知らせます。

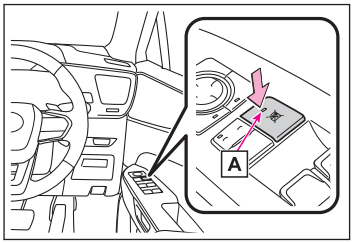
ドアがロックされ、窓がすべて閉まっていることを確認します。

誤って窓を開けられないようにする

ウインドウロックスイッチは子供が誤って窓を開閉することを防止するための機能です。

ウインドウロックスイッチを押します。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外の窓が非作動になります。



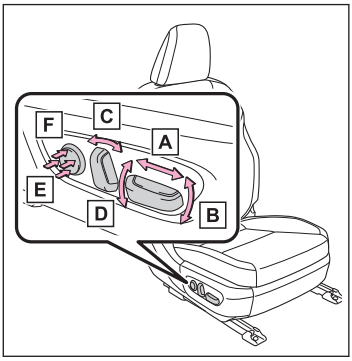
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートの調整

フロントシートを調整する

正しい姿勢がとれるように、シートの前後／上下位置などの調整をしてください。

- まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
- ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする



A 前後位置調整
B クッション前端の上下調整
C リクライニング調整
D シート全体の上下調整
E 腰部硬さ調整（運転席のみ）
F 腰部高さ調整（運転席のみ）★

知識

■ シートを調整するとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどに当たらないように注意してください。また、周囲の人やものがシートに挟まれないように注意してください。

⚠ 警告

シートを調整するときは次のことをお守りください。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟むおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。

  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

ヘッドレストの調整

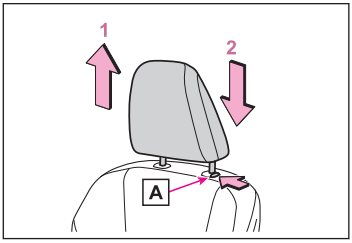
ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

次のことをお守りください。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

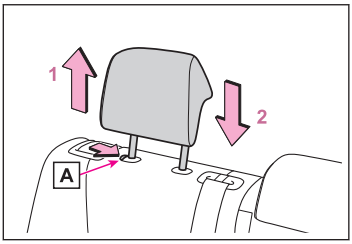
■ フロント席ヘッドレストを上下調整する



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ リヤ席ヘッドレストを上下調整する



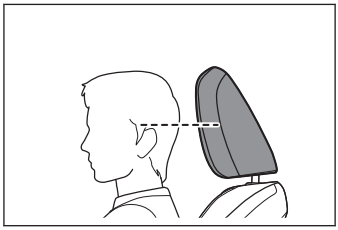
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ **ヘッドレストの高さを調整する（フロント席）**

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



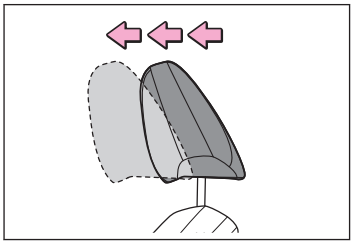
■ **リヤ席ヘッドレストを調整する**

リヤ席を使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■ フロント席ヘッドレストの前後位置を調整する（F SPORT）

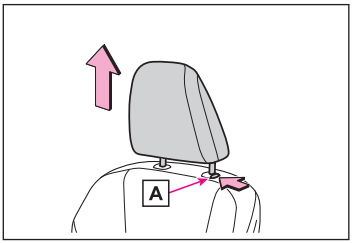
4 段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



ヘッドレストを取りはずす

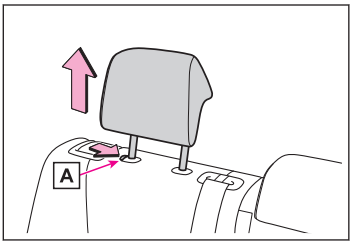
▶ フロントシート



解除ボタン A を押しながら取りはずします。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

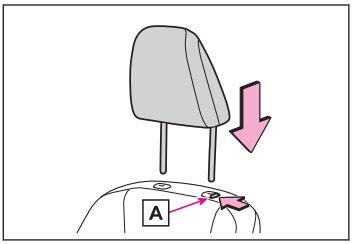
▶ リヤシート



解除ボタン A を押しながら取りはずします。

ヘッドレストを取り付ける

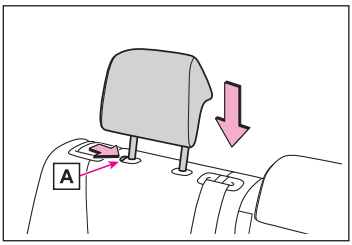
▶ フロントシート



ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。

▶ リヤシート

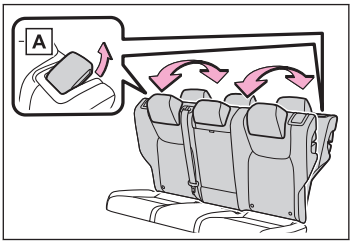


ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。

リヤシートの位置を調整する

レバーを使って、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。



A リクライニング調整

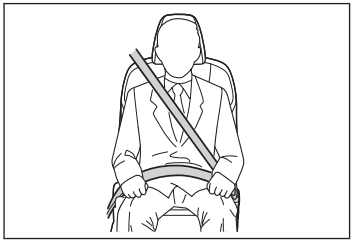
⚠ 警告

背もたれを調整するときは次のことを必ずお守りください。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- パワーシート装着車：お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まれるおそれがあります。
- パワーシート装着車：前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。

  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるおそれがあります。

シートベルトの着用

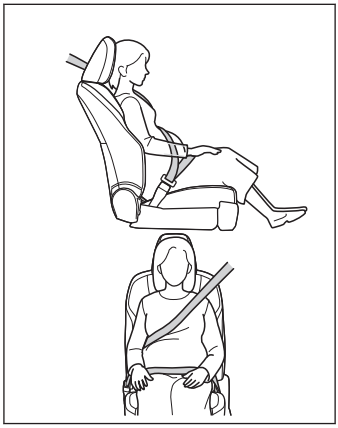


- 肩部ベルトを肩に十分かける
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- シートベルトにねじれがないようにする

⚠ 警告

シートベルト使用に関する、次のことをお守りください。

- 全員がシートベルトを着用してください。
- シートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトは一組につき一人で使用してください。
  子どもでも一組のベルトを複数の人で使用しないでください。
- 子どもはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させてください。
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座ってください。
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しないでください。
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用してください。
- 妊娠中の女性の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。
  通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
  ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

- 疾患のある方の場合、医師に注意事項を確認の上、必ずシートベルトを正しく着用してください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート／シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし／分解／廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- お子さまを乗せるときは、お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

  万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

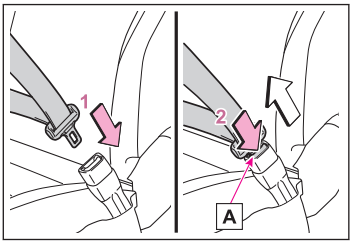
知識

■ 子どものシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さな子どもの場合は、子どもの体に合ったチャイルドシートを使用してください。
- シートベルトが正しい位置で着用できる子どもの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

シートベルトを着ける、はずす



1 ベルトを固定するには、「カチッ」と音がするまでプレートをバックルに挿し込みます。

2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押します。

知識

■ シートベルトロックを解除する方法

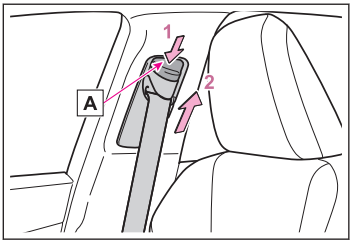
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

⚠ 警告

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。

  うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。

フロント席のシートベルトの高さを調節する



1 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを下げます。

2 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを上げます。

「カチッ」と音がして固定されるところまで動かしてください。

ハンドルとミラーの位置調整

ハンドルの上下／前後位置を調整する

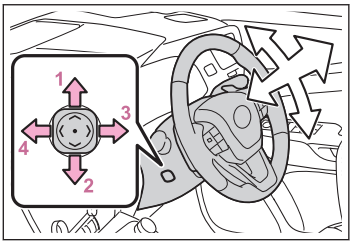
知識

■ ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチが ACC、または ON のとき*1

警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。



スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。

■ パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ／運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。

インナーミラーの位置を調整する

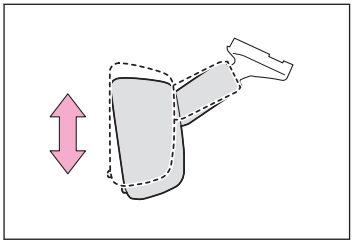
警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

正しい運転姿勢で運転するために、インナーミラーの位置を調整します。

*1：運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

インナーミラー本体を持って、上下に調整します。



デジタルインナーミラーの効果と注意★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、光学ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。 また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

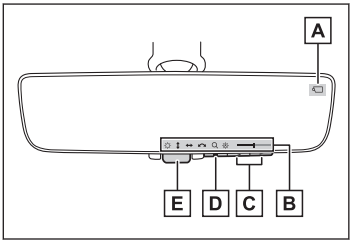
⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。
  - 光学ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
  - デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

デジタルインナーミラーの各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン・調整ゲージが表示されます。

C 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

D メニュースイッチ

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E 切りかえレバー

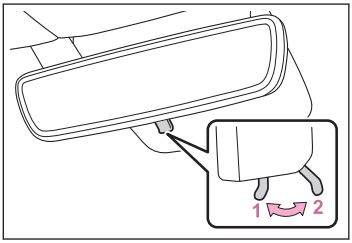
デジタルミラーモードと光学ミラーモードの切りかえを行います。

関連リンク

デジタルインナーミラーを調整する (P.100)

デジタルインナーミラーのモードを切りかえる

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと光学ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに[ ]が表示されます。

2 光学ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

デジタルミラーモードの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

エンジンスイッチを ON から OFF、または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

デジタルミラーモードについて留意事項

ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

雨天時リアガラスに水滴が付いて映像が見にくい場合は、リアワイパを作動させてください。

- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェードを閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 映像の色と実際の色が異なって見える
  - 後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える

- 周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

  映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、光学ミラーモードに切りかえてください。

● デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

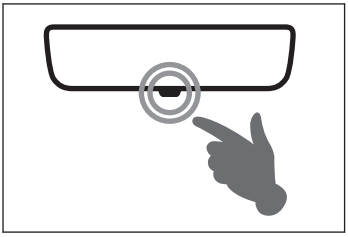
● 体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、光学ミラーモードに切りかえてください。

● 主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■ システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。

ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

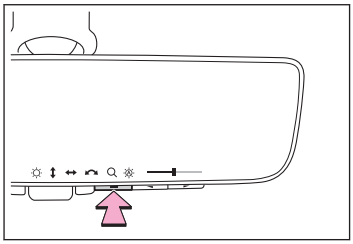


デジタルインナーミラーを調整する

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

1 **メニュースイッチを押す**

調整アイコンが表示されます。



2 **メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する**

3 **[ ]または[ ]を押して、設定を変更する**

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
☼	ディスプレイの明るさを調整することができます。
↕	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。

調整アイコン	設定内容
↔	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
↻	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
🔍	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
☼Ⓐ	自動防眩機能の ON／OFF を切りかえることができます。*2 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

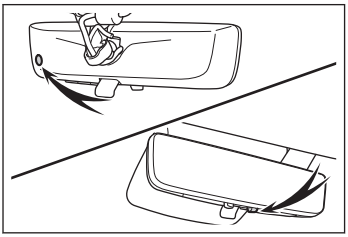
デジタルインナーミラー調整時の留意事項

■ ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。目が疲れた場合には、光学ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



*2：鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

  デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

  デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

デジタルインナーミラーのお手入れ

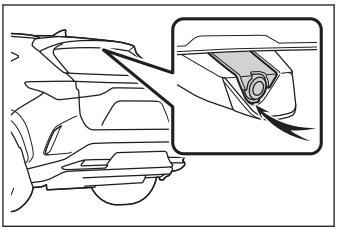
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

知識

■ カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠ 注意

■ カメラの故障や誤作動を防ぐために

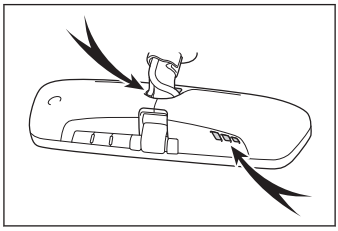
- デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。
  - カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
  - 有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

⚠ 注意

- リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

● カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

● ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながる恐れがあり危険です。



デジタルインナーミラーが故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★からの光があたっているときは、サンシェード・電動サンシェードを閉めてください

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	● 夜間など暗いところで使用した ● テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ● カメラ付近の温度が高い、または低い ● 外気温が低い ● 雨天時など湿度が高い ● 太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ● 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ● 排気ガスが映り込んでいる	光学ミラーモードに切りかえてください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	レクサス販売店で点検を受けてください。
	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	● 光学ミラーモードに切りかえてください。 ● 荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	リヤウインドウデフォッガーを使用し、曇りを取ってください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。

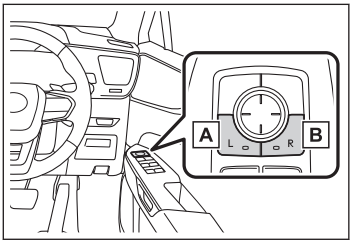
症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に[ ]が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の[ ]が消灯した		
ディスプレイ上に[ ]が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い（徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。（ミラーの温度が下がると[ ]が消えます） ミラーの温度が下がっても[ ]が消えない場合は、光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	光学ミラーモードに切りかえて、レクサス販売店で点検を受けてください。 メニュー／決定スイッチを約 10 秒間押し続けることで、光学ミラーモードに切りかえることができます

ドアミラーの角度を調整する

警告

走行中はミラーの調整をしないでください。

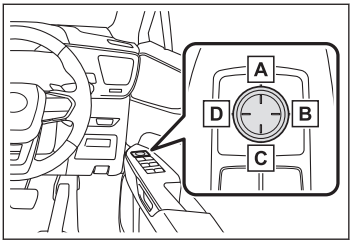
1　**調整するミラーを選びます。**



A 左側ミラー選択

B 右側ミラー選択

2　**ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押します。**



A 鏡面を上に調整
B 鏡面を右に調整
C 鏡面を下に調整
D 鏡面を左に調整

知識

■ **鏡面調整の作動条件**

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ **ミラー角度の自動調整（運転席ポジションメモリー装着車）**

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。

■ **リバース連動機能**

ミラー選択スイッチの L または R どちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

後退時に下向きになる角度を調整するときはシフトポジションを R にした状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

■ **寒冷時にリバース連動機能を使用するとき**

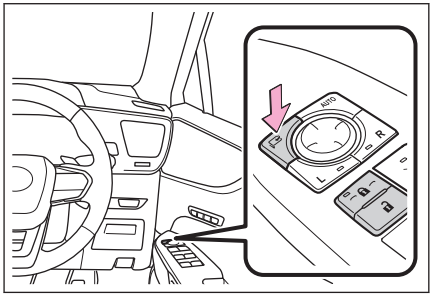
寒冷時にリバース連動を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ドアミラーを格納する／もどす

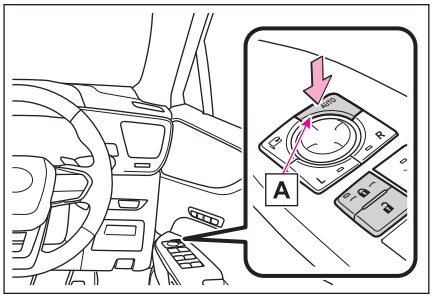
▶ マニュアル作動での格納／復帰



ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

▶ オート作動での格納／復帰



スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアのロック／ロック解除に連動して、ドアミラーを自動的に格納／復帰させることができます。

ボタンを押す

ボタンを押すと、インジケーター A が点灯します。

もう一度ボタンを押すとマニュアル作動にもどります。

知識

■ 寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納／復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。

- ドアミラーを格納したまま走行しないでください。

⚠ 警告

- ミラーが動いているときは、手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。
- ミラーヒーターが作動しているときは、鏡面が熱くなるのでふれないでください。
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整してください。

2 車を運転するときに知ってほしいこと

2-1. エンジンの始動と停止

エンジンの始動 110
エンジンを停止 113
アイドリングストップ..... 114

2-2. 運転のしかた

安全に走行するには..... 121
シフトポジションの使用目的 . 124
シフトポジションを切りかえる 126
車を発進する 131
右左折や車線変更するときの操作 132
シフトレンジの切りかえ..... 133
ギヤ段の切りかえ..... 134

2-3. 車の停めかた

車を停めるときに確認すること 135
停車する 137
駐車する 138

2-4. 給油のしかた

給油 142

エンジンの始動

エンジンを始動する

⚠ 警告

エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

⚠ 注意

■ **エンジンを始動するとき**

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **エンジンスイッチの操作**

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

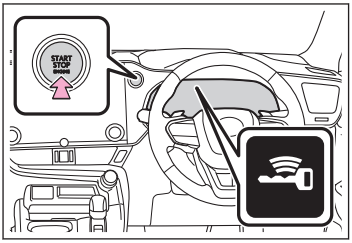
1 **パーキングブレーキがかかっていることを確認します。**

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 **ブレーキペダルをしっかり踏みます。**

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。表示されないと、エンジンは始動しません。

3 **エンジンスイッチを短く確実に押します。**



短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

知識

■ **エンジンスイッチ照明**

状況に応じて、次のようにエンジンスイッチ照明が切りかわります。

- いずれかのドアが開いているとき、もしくはエンジンスイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、エンジンスイッチ照明が暗く点灯します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、エンジンスイッチ照明が明るく点灯します。

- エンジンスイッチが ACC、または ON のときは、エンジンスイッチ照明が点灯します。

■ **エンジンが始動しないときは**

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。レクサス販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ **ステアリングロック機能**

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ **エンジンスイッチの操作**

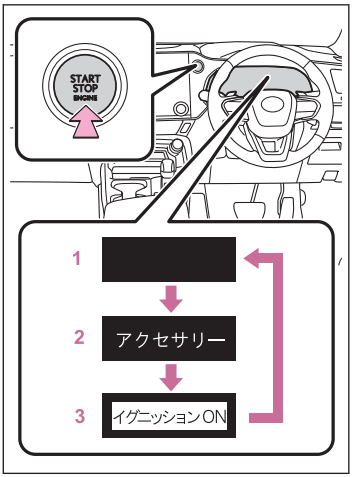
- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

関連リンク

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード） (P.140)
シフトポジションの切りかえ方法と表示 (P.126)

エンジンスイッチのモードを切りかえる

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF*1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC(ACC モードのカスタマイズ設定がありのとき)*2

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに「**アクセサリー**」が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「**イグニッション ON**」が表示されます。

*1：シフトポジションが P 以外のときは ON のままとなります。

知識

■ **自動電源 OFF 機能**

- シフトポジションが P にあるとき、約 20 分以上エンジンスイッチを ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
- シフトポジションが P およびエンジンスイッチが ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のときにバッテリーの残量が少なくなると、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが作動していないときは、エンジンスイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

■ **シフト制御システムについて**

シフト制御システムが故障すると、エンジンスイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にできなくなることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからエンジンスイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

注意

バッテリーあがりを防止するために ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの**「アクセサリー」**または**「イグニッション ON」**の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

*2：カスタマイズメニューから有無を切りかえることができます。

エンジンを停止

エンジンを停める

⚠ 警告

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

1 **車両を完全に停止させます。**

2 **P ポジションスイッチを押す**

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 **エンジンスイッチを押します。**

エンジンが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

4 **ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認します。**

関連リンク

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）（P.140）
シフトポジションの切りかえ方法と表示（P.126）

エンジン停止前にアイドリングが必要なケース（NX350）

ターボ装置などの損傷を防ぐため、山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行などの高負荷走行直後は、アイドル運転を約 1 分間行ってからエンジンを停止してください。

市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）時は、アイドル運転は不要です。

アイドリングストップ

アイドリングストップの効果と注意

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

■ 使用にあたり知っておいていただきたいこと

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押した場合、エンジンは自動で再始動しないため、通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセントなどが使用できないことがありますが異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。

  レクサス販売店に相談してください
- 長時間停車する場合などには、エンジンスイッチを OFF にしエンジンを停止してください。
- Stop & Start システムの作動によるエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にハンドルが重く感じることがあります。

■ 坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

⚠ 警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。 エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、必要に応じてブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、メーターディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON のときにインテリアランプが点灯しないとき

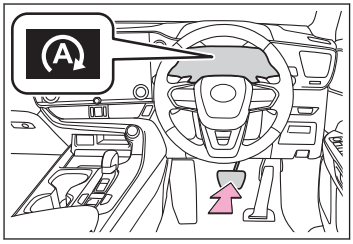
関連リンク

エンジンを始動する (P.110)

停車時にアイドリングストップする

■ エンジンが停止する

シフトポジションを D で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。Stop & Start システムによるエンジン停止中は表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。エンジンが再始動すると表示灯は消灯します。

■ ブレーキホールドシステムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルから足を離しても、エンジン停止状態を継続します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。但し、ブレーキホールドシステムの作動条件が満たされなくなった場合を除きます。

■ レーダークルーズコントロールシステムが作動しているとき

- レーダークルーズコントロールによる停車時、ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します。
- 先行車が発進すると、エンジンが再始動します。
- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもレーダークルーズコントロールによる停車は継続します。

知識

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
  - 一度、走行したあと
  - ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき （レーダークルーズコントロールシステムによる停車中を除く）
  - シフトポジションが D のとき
  - 運転席シートベルトを着用しているとき
  - 運転席ドアが閉まっているとき
  - Fr デフロスターが OFF のとき
  - アクセルペダルを踏んでいないとき
  - エンジンが十分暖まっているとき
  - 外気温が-5 ℃以上のとき
  - ボンネットが閉まっているとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが異常ではありません。
  - エアコンを使用しているとき
  - 定期的な充電中のとき
  - バッテリーが十分に充電されていないとき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）
  - ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
  - エンジン再始動後の経過時間が短いとき
  - 渋滞などで、断続的に停車するとき
  - エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
  - 勾配が急な坂道で停車したとき
  - ハンドル操作をしているとき
  - 標高が高いとき
  - バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき

- バッテリーを脱着した後、しばらくの期間

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

- エアコンを ON にしたとき
- Fr デフロスターを ON にしたとき
- シフトポジションを D または P 以外にしたとき
- シフトポジションを P 以外にしたとき（P レンジで Stop & Start システムによるエンジン停止中）
- 運転席シートベルトをはずしたとき
- 運転席ドアを開けたとき
- Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
- ハンドルを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 坂道などで車両が動き出したとき
- 先行車が発進したとき（先行車発進告知機能有効時のみ）

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

- ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
- エアコンを使用しているとき
- エアコンに関わる操作をしたとき（デフロスタースイッチなど）
- バッテリーの充電量が低下しているとき

■ **ボンネットを開けたとき**

● Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けたときは、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。その場合は通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。

● ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

関連リンク

ブレーキホールド (P.187)
ボンネットを開ける (P.439)
エンジンを始動する (P.110)
フロントウインドウガラスの曇りを取る (P.168)
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

Stop & Start システムを非作動にする

オート設定でエアコンを使用しているときに、Stop & Start システムによりエンジンが停止した場合は、冷房時の温度上昇や暖房時の温度低下を抑えるため、ファンの風量を弱めたり、停止したりすることがあります。

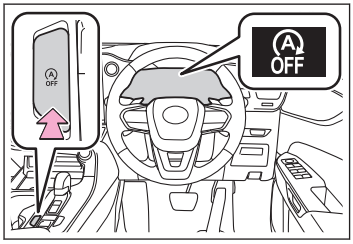
次のようなときは、Stop & Start システムを非作動にして下さい。

- 空調の効きを優先したいとき
- フロントウインドウガラスが曇ったとき
- エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき

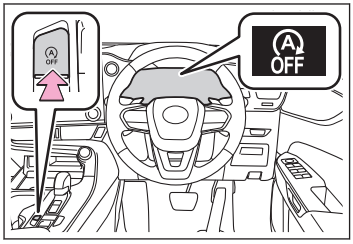
Stop & Start システムを非作動にするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押して下さい。

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。

▶ **ダウンヒルアシストコントロール非装着車**



▶ **ダウンヒルアシストコントロール装着車**



知識

■ **Stop & Start システムの自動再開**

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからエンジンを始動することによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

Stop & Start システムのメッセージ

次のとき、メーターディスプレイに と、メッセージが表示されることがあります。

▶ Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
「アイドリングストップ 故障 販売店で点検してください」	Stop & Start システムに異常があるおそれがあります。 **レクサス販売店で点検を受けてください。**
「ブレーキをもう少し 踏んでください」	ブレーキペダルを踏む力が足りない ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
「専用バッテリー 非装着」	Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある Stop & Start システムが作動しません。 レクサス販売店で点検を受けてください。
「バッテリー充電中」	● バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリー充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ● リフレッシュ充電中の可能性がある 最大 1 時間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ● 長期間(1 時間以上)にわたって継続的に表示される バッテリ劣化の可能性がありますのでレクサス販売店に相談してください
「アイドリングストップ できません」	● 一時的にアイドリングストップを禁止している エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ● ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にして、30 秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。
「作動準備中」	● 標高が高い ● ブレーキ倍力装置の負圧が低下している ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
「エアコン優先」	● 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。 ● Fr デフロスターを ON にしている

▶ Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
「作動準備中」	ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
「エアコン優先」	● エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ● Fr デフロスターを ON にした
「バッテリー充電」	バッテリーの充電量が低下している可能性がある エンジンをしばらく作動させることでバッテリーが充電されると作動可能状態になります。

オーディオが突然 OFF になった

大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。

オーディオを再度使用するには、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってから ACC または ON にしてください。

バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。

いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。

● エンジンスイッチを ON にし、再度エンジンスイッチを OFF にする

安全に走行するには

⚠ 警告

■ **運転するとき**

- エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。

  ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ブレーキペダルは右足で操作してください。

  左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、車両を緊急停止させてください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
- 走行中はハンドル／シート／ドアミラー／インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：本格的なオフロード走行を目的とした車ではありません。
  - やむを得ず砂地やぬかるみを走行する際は慎重に運転していただき、連続走行をしないでください。
  - 岩石路やモーグル路の走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急ブレーキ／急加速／急ハンドルはしないでください。タイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。エンジンブレーキやエンジン回転数の変化により、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

⚠ 警告

- AWD 車：

  万一脱輪し、駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

  駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 部品の損傷を防ぐために

- ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。パワーステアリングモーターに損傷をあたえるおそれがあります。
- 段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。ディスクホイールなどに損傷をあたえるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。タイヤのパンクや損傷が考えられます。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では走行しないでください。次のような重大な損傷を与えるおそれがあります。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン／オートマチックトランスミッション／トランスファー（AWD 車）／ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（AWD 車）／各ベアリング／各ジョイント部などの潤滑不良

⚠ 注意

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションがＰに切りかえられない、またはＰから他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。

その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

■ **ターボ装置の故障を防ぐために(NX350)**

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。

  必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。
- 排気管／エアクリーナ／スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

シフトポジションの使用目的

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行(1)
M	M モード走行(2)

(1) 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。パドルスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

(2) M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

知識

■ エンジンブレーキが効かないとき

レーダークルーズコントロールを使って走行しているときは、次の操作を行ってもエンジンブレーキは効きません。

- D ポジションで走行中に 7／6／5 または 4 にシフトダウンしたとき
- D ポジションで走行中にドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしたとき

■ シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■ リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ AI-SHIFT

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。AI-SHIFT は、シフトポジションを D にしているとき自動的に作動します（シフトポジションを M にすると機能が解除されます）。

⚠ 警告

すべりやすい路面を運転するときは、急激なアクセル操作、シフト操作はしないでください。エンジンブレーキやエンジン回転数の変化により、車が横すべりするなどのおそれがあります。

⚠ **注意**

■ **シフト制御システムの異常が考えられるとき**

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。

安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションを切りかえる

⚠ 警告

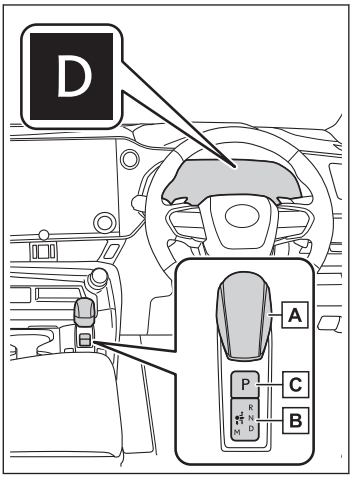
- 前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。

  エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったりハンドル操作が重たくなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトポジションを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作をしないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

関連リンク

ディスプレイに警告メッセージが表示された (P.489)

シフトポジションの切りかえ方法と表示



A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置(●)にもどります。

M への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・M・R から P へ、または D・M から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■ **エンジンスイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ**

- エンジンスイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。
- エンジンスイッチが ON のときは、Nのみに切りかえが可能です。
- エンジンがかかっているときは、P から、D・N・R を選択できます。

■ **P から他のシフトポジションに切りかえる**

- ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)
- 操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。
- P から直接、シフトポジションを M に切りかえることはできません。

■ **シフトポジションを切りかえられなかった場合**

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき
- アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

- P または N から、M を選択した
- 走行中に、P ポジションスイッチを押した

  極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■ **シフトポジションが自動的に N に切りかわった場合**

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

- 車両が前進しているときに R を選択した

  低速走行時は R に切りかわることがあります。

- 車両が後退しているときに D を選択した

  低速走行時は D に切りかわることがあります。

- R から M を選択した

■ **走行中に N を選択した場合**

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■ **自動 P ポジション切りかえ機能について**

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

- エンジンスイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させエンジンスイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、エンジンスイッチが OFF になります）*1
- シフトポジションが P 以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
  - エンジンスイッチが ON
  - 運転席シートベルトを着用していない
  - ブレーキペダルを踏んでいない

  シフトポジションが P に切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

- 走行中にエンジンを緊急停止したあと、停車したとき
- シフトポジションが P 以外の状態で、バッテリーの電圧が低下したとき

■ **シフトポジションが P から切りかわらない場合は**

バッテリーあがりの可能性があります。バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.506 を参照してください。

*1：停車直前など、極低速走行時にエンジンスイッチを押すと、自動的にシフトポジションが P に切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でエンジンスイッチを押してください。

⚠ 警告

■ **シフトレバーについて**

- シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■ **P ポジションスイッチについて**

- 車が動いているときは、P ポジションスイッチにふれないでください。

  停車直前など、極低速走行中に P ポジションスイッチを押すと、シフトポジションが P に切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外は P ポジションスイッチにふれないでください。

⚠ 注意

■ **車を降りるとき(運転席のみ)**

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチを ACC にする

次の操作を行うと、シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチを ACC にすることができます。

1 **エンジンが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる**

2 **シフトレバーを定位置（●） にもどす**

3 **シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する**

4 **ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にエンジンスイッチを押す**

シフトポジションが N で ACC になります。*2

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「**N 保持中 解除するには P スイッチを押してください**」が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P に切りかえます
- エンジンが停止しているときに、N ポジションを保持したまま ACC にする操作を行うと、シフトポジションが N で ACC になる場合がありますが、必ずエンジンが始動している状態で行ってください。

*2：この状態を維持したい場合は、エンジンスイッチを操作しないでください。エンジンスイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、エンジンスイッチが OFF になります。

注意

■ **N ポジションを保持したまま ACC にするときは**

シフトポジションを N に保持したままエンジンスイッチを ACC にするときは、必ずエンジンが始動状態であることを確認してください。エンジン始動状態以外で操作を行うと、P ポジションに切り替わるおそれがあります。

車を発進する

1 **ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする**

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

⚠ 警告

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

2 **パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する**

3 **ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する**

関連リンク

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）（P.140）

上り坂で車を発進する

1 **ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする**

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

⚠ 警告

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

2 **パーキングブレーキをかける**

3 **ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する**

4 **車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する**

関連リンク

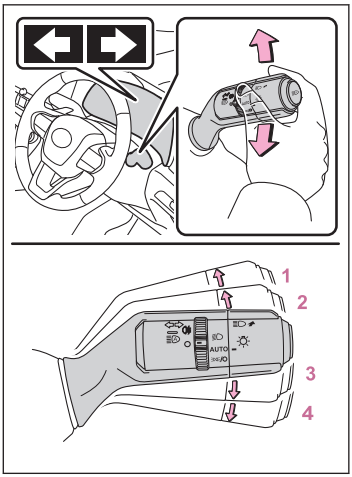
パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）（P.140）

右左折や車線変更するときの操作

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

知識

- エンジンスイッチが ON のときに作動します。
- 表示灯の点滅が異常に速くなったときは、方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。



1 1 の位置までレバーを傾けます。

左側方向指示灯が点滅します。

2 2 の位置までレバーを傾け、離します。

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 3 の位置までレバーを傾け、離します。

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 4 の位置までレバーを傾けます。

右側方向指示灯が点滅します。

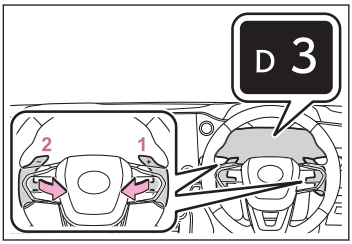
シフトレンジの切りかえ

パドルシフトスイッチの操作で、シフトレンジを切りかえることができます。シフトレンジを切りかえることで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

D ポジションでレンジ選択する

シフトポジションを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの[-]側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。

パドルシフトスイッチの[-]側または[+]側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップします。
2 シフトダウンします。

マルチインフォメーションディスプレイに、D1 から D8 レンジのあいだで選択されているレンジが表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの[+]側を一定時間以上保持します。

- マルチインフォメーションディスプレイに D2～D8 が表示されているときは、スピードや走行条件に応じて、1 レンジから選択したシフトレンジまで自動的にかわります。
- マルチインフォメーションディスプレイに D1 が表示されているときは、シフトレンジが 1 レンジに固定されます。

  シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

知識

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき

■ シフトダウン制限警告ブザー

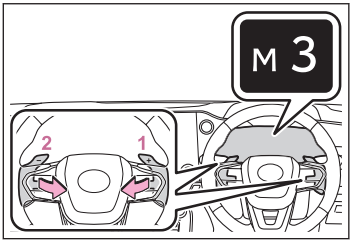
安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

ギヤ段の切りかえ

シフトポジションを M にすると、M モードに切りかわります。パドルシフトスイッチの操作で、思いどおりのギヤ段を選択することができます。

M モードでギヤ段選択する

パドルシフトスイッチの[-]側または[+]の操作でギヤ段を選択することができます。



1 シフトアップします。
2 シフトダウンします。

パドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、マルチインフォメーションディスプレイにギヤ段が表示されます。

M ポジションでは、パドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

ただし、M ポジションであっても、次の場合は自動で変速します。

- 車速が低下した（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジンクーラントの温度が低い
- オートマチックトランスミッションフルードの温度が高い（アップシフト時のみ）
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達する前

次の場合は、パドルシフトスイッチを操作しても変速しません。

- 車速が低い（アップシフトのみ）

知識

■ **シフトダウン制限警告ブザー**

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■ **シフトポジションを M ポジションにしても、「M」インジケーターが点灯しない、または「D」インジケーターが表示される**

オートマチックトランスミッションシステムの故障の可能性があります。すぐにレクサス販売店で点検を受けてください。（この場合、オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のときと同じように動作します）。

車を停めるときに確認すること

駐停車するときの注意

⚠ 警告

■ **駐車するとき**

● 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

● 炎天下では、メガネ／ライター／スプレー缶／炭酸飲料の缶といった高温になると危険なものを車内に放置しないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
- プラスチックレンズ／プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になったりする

● ライターを、車内の収納装備に入れておいたり、車内に落としたままにしておいたりしないでください。

荷物を入れたりシートを動かしたりしたときに、ライターが誤作動し火災につながるおそれがあります。

● 車両のガラス部分には吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤のような容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

● シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドア／フロント／リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。

直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

● エンジンの回転中またはエンジンの停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ **車室内で仮眠するとき**

必ずエンジンを停止してください。エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色／無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はバックドアを閉じてください。

  バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 車庫内のような換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。
- 排気管は定期的に点検する必要があります。点検し、次の一つでもあてはまった場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
  - 排気管に腐食による穴や亀裂がある
  - 排気管のつなぎ目の部品に損傷がある
  - 異常な排気音がする

停車する

1 ブレーキペダルを踏む

⚠ 警告

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなります。また、ブレーキがかかりにくく、ブレーキのかかり具合に左右のタイヤで違いが出るおそれがあります。さらに、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキの油圧システムが故障した場合は、ただちにブレーキの修理を受けてください。ブレーキシステムは 2 つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方のシステムは作動します。ただし、この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。

⚠ 注意

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。

⚠ 警告

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。

  シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

関連リンク

シフトポジションの切りかえ方法と表示 (P.126)

駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける

3 シフトポジションを P にする

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

⚠ 警告

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏みこんだときに急発進するおそれがあります。

4 エンジンスイッチを押して、エンジンを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め[*1] を使用してください。

関連リンク

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード） (P.140)
シフトポジションを切りかえる (P.126)

パーキングブレーキの操作

自動（オートモード）または手動（マニュアルモード）でパーキングブレーキをかける／解除することができます。オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける／解除することができます。

⚠ 警告

■ 駐車するとき

子どもだけを車の中に残したままにしないでください。 子どもが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。 ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

*1：輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

注意

■ 駐車するとき

● 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■ バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ パーキングブレーキ自動解除機能

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

● 運転席ドアが閉まっているとき

● 運転席シートベルトを着用している

● シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

● エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモード：シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除します。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、「ウィーン」というモーターの音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

● パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。

ON 以外：約 15 秒間点灯します。

● パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ **パーキングブレーキスイッチが故障したとき**

自動的にオートモードが ON になります。

■ **パーキングブレーキ未解除警告ブザー**

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「**EPB がロックされています**」が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

パーキングブレーキを自動でかける／解除する（オートモード）

停車中に、「EPB シフト連動機能 ON」が表示されるまでパーキングブレーキスイッチを引き続けます。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションを P から P 以外にしたとき：パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションを P 以外から P にしたとき：パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。

停車中にスイッチを押し続けると、ブザーが鳴り、「EPB シフト連動機能 OFF」が表示され、オートモードが OFF になります。手動でパーキングブレーキをかけたり解除することができます。

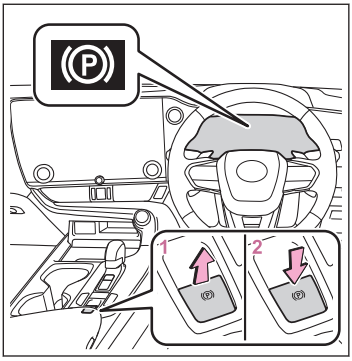
知識

■ **パーキングブレーキの作動**

- エンジンスイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによるパーキングブレーキの解除はできません。
- エンジンスイッチが ON 以外では、オートモード（かける／解除する）は作動しません。

パーキングブレーキを手動でかける／解除する（マニュアルモード）

手動でパーキングブレーキをかける／解除することができます。



1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかけます。

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるとき、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除します。

- ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

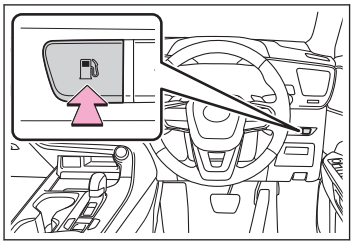
パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。

給油

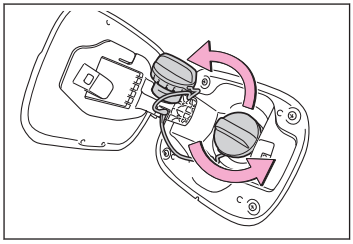
給油口を開ける

1 **給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開けます。**

給油口が開きます。



2 **キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込みます。**



⚠ 警告

キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、「シュー」という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

給油するときの注意

あらかじめ燃料の種類を確認して、安全に給油してください。

知識

■ 燃料の種類

NX350：

- 無鉛プレミアムガソリン
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

NX250：

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリン

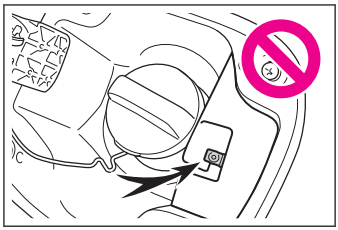
エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

⚠ 注意

■ 給油するとき（NX350）

- 燃料をこぼさないでください。塗装が損傷する可能性があります。
- 無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）が入手できないときは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、次のような状態になるおそれがあります。
  - ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
  - ガソリンエンジンの出力が低下する
- その他の燃料（粗悪ガソリン／軽油／灯油／高濃度バイオ混合ガソリン*1）を使用しないでください。その他の燃料を使用すると、次のような状態になるおそれがあります。
  - ガソリンエンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
  - ガソリンエンジンの出力が低下する
  - エンジンの始動性が悪くなる
  - 排気制御システムが正常に機能しない
  - 燃料系部品が損傷する
- ノズルで、給油扉ロックなどを押さないでください。ロックが押されると内部のふたが閉じ、燃料がこぼれるおそれがあります。

  給油扉ロックが押された場合は、給油扉オープナスイッチを再度押してください。



■ 給油するとき（NX250）

- 指定のガソリンを使用してください。

  その他の燃料（粗悪ガソリン／軽油／灯油／高濃度バイオ混合ガソリン*1）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

  次のような状態になるおそれがあります。
  - エンジンの始動性が悪くなる
  - エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

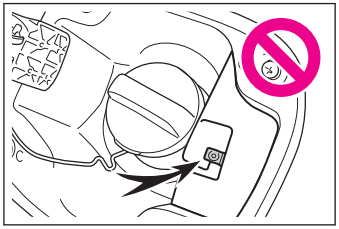
*1：エタノール混合率 10%をこえるもの、または ETBE の混合率 22%をこえるもの

注意

- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

● ノズルで、給油扉ロックなどを押さないでください。ロックが押されると内部のふたが閉じ、燃料がこぼれるおそれがあります。

給油扉ロックが押された場合は、給油扉オープナスイッチを再度押してください。



警告

給油するときは、次のことを必ずお守りください。

● 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。

また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しないでください。

● 除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。静電気が溜まり、発火につながるおそれがあります。

● 給油口にノズルを確実に挿入してください。

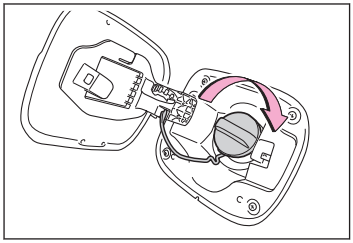
● 継ぎ足し給油をしないでください。

● 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口を閉める

キャップを「カチッ」と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

キャップが正常に閉まらないときは、必ずレクサス販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災につながるおそれがあります。

3 時間帯や天候に合わせた運転と装備

3-1. 周囲が暗いときの運転

ヘッドランプの使用..... 148

自動的にロービームとハイビームを切りかえる..... 152

3-2. 日差しやランプがまぶしいときの運転

サンバイザーを使う..... 159

インナーミラーのまぶしさを軽減させる（自動防眩タイプ装着車）..... 160

デジタルインナーミラーのまぶしさを軽減させる（鏡面ミラーモード） 161

3-3. 雨の日の運転

雨の日の運転の注意..... 162

雨の日の視界の確保..... 163

3-4. ウィンドウやミラーが曇ったときの運転

フロントウインドウガラスの曇りを取る 168

リヤウィンドウの曇りを取る . 170

ドアミラーの水滴や霜を取る . 171

3-5. 寒冷時の運転

寒くなる前の準備..... 172

寒冷時の運転で知っておくこと 174

3-6. 霧や山道で見通しが悪いときの運転

フォグランプの点灯..... 176

ホーン（警音器）を鳴らす 178

3-7. 走行特性を切りかえる

走行モードの機能..... 179

走行モードを切りかえる..... 181

Trail Mode （AWD 車） 183

DAC（ダウンヒルアシストコントロールシステム） 185

3-8. 一時的にブレーキが保持される

ブレーキホールド..... 187

ヘッドランプの使用

自動または手動でヘッドランプなどを点灯／消灯できます。

関連リンク

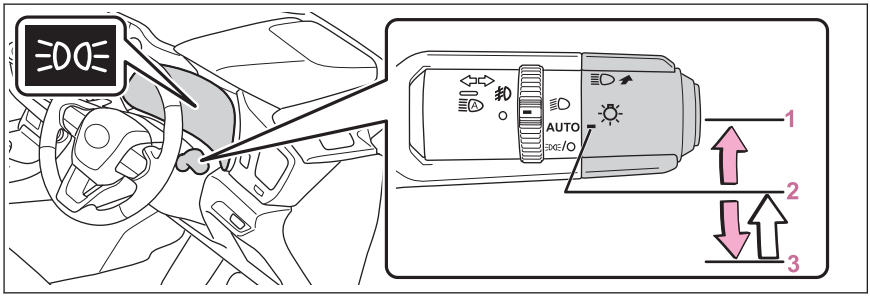
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ヘッドランプをつける

⚠ 注意

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

スイッチを操作して、ランプをつけます。



1 ヘッドランプ／スモールランプ*1 が点灯します。

2 AUTO *2

周囲が明るいとき：LED デイタイムランニングランプが点灯します。

周囲が暗いとき：ヘッドランプ／スモールランプ*1 が点灯します。

3 *2

周囲が明るいとき：スモールランプ*1 が点灯します。

周囲が暗いとき：スモールランプ*1*3 が点灯します。

スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTO の位置へ戻ります。

*1：スモールランプは、車幅灯／尾灯／インストルメントパネルランプを意味します。

*2：

操作するたびに、2AUTO による点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

知識

■ **AUTO モードの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **LED デイタイムランニングランプ機能**

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイタイムランニングランプが自動で点灯します。　（車幅灯より明るく点灯します）

LED デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

■ **自動で点灯／消灯する明るさ**

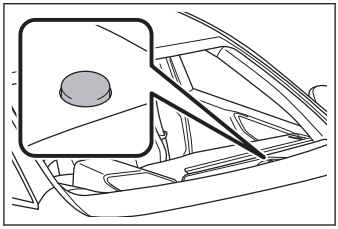
周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。

日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ **ライトセンサーの取り扱い**

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。

周囲からの光がさえぎられると、自動点灯／消灯機能が正常に働かなくなります。

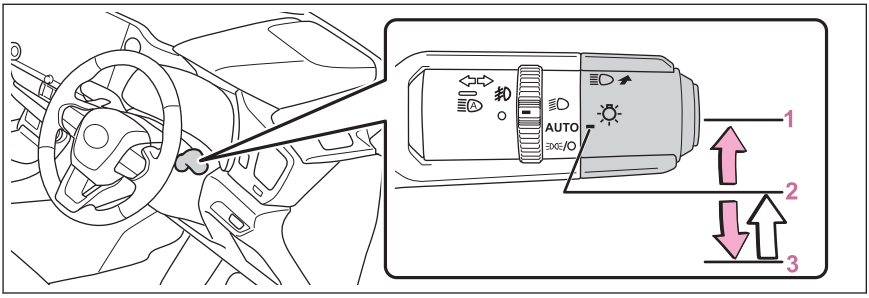


ヘッドランプを消す

スイッチを→ P.148[3] の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に→ P.148[1] か→ P.148[3] の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。

*3：
停車中のみ点灯可能です。車両を発進させると 2 AUTO による点灯状態に切りかわります。



周囲が明るいとき：ヘッドランプ／スモールランプ／LED デイタイムランニングランプが消灯します。

周囲が暗いとき：ヘッドランプ／スモールランプが消灯します。停車中のみ消灯可能です。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

スイッチを→ P.1483 の位置へ操作し手を離すと、自動的に→ P.1482 AUTO の位置へ戻ります。

知識

■ **ランプ消し忘れ防止機能**

エンジンスイッチを OFF にするとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから または の位置にします。

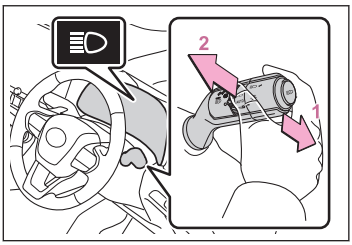
■ **節電機能**

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。エンジンスイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

ハイビームに切りかえる



1 ランプが点灯した状態で、レバー前方に倒します。

ハイビームに切りかわります。

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを手前に引きます。

レバーを引いているあいだ、ハイビームが点灯します。

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。

レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプの機能とはたらき

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次の条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトポジションが R のとき

知識

■ コーナリングランプ制御

- 車速が 35km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

オートレベリングシステムの機能とはたらき

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

自動的にロービームとハイビームを切りかえる

AHS（アダプティブハイビームシステム）

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

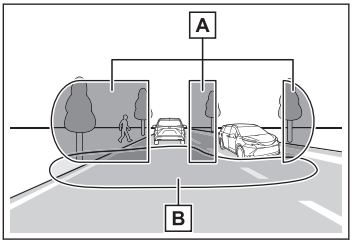
アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ **アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために**

システムを OFF にする必要があるとき：→ P.287

アダプティブハイビームシステムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）
  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

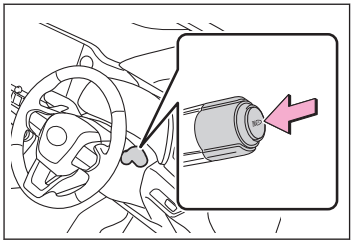


A ハイビームで照らす範囲
B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

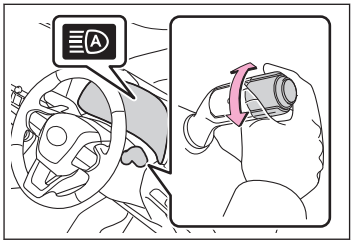
アダプティブハイビームシステムを使うには

1 **アダプティブハイビームシステムスイッチを押す**



2 ランプスイッチを[AUTO]または[ ]にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■ **システムの作動条件**

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
- 車速が約 15km/h 以上*1
- 車両前方が暗い

● 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
- 車速が約 15km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいる
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

● 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
- 車速が約 12km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両の台数が多い
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■ **前方カメラの検知について**

● 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が遠方を走行しているとき
- 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき

*1：車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291

● 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

● 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- 前方車両のランプの明るさ
- 前方車両の動きや向き
- 前方車両との車間距離
- 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- 前方車両が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

● ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.287
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291

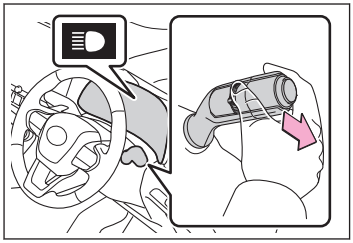
■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。→P.587

手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

● **レバーを前方へ押す**

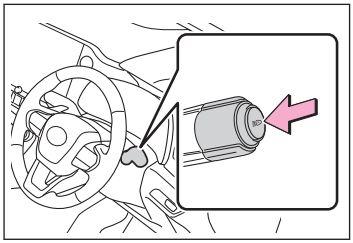


アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

■ ロービームへの切りかえ

● **アダプティブハイビームシステムスイッチを押す**



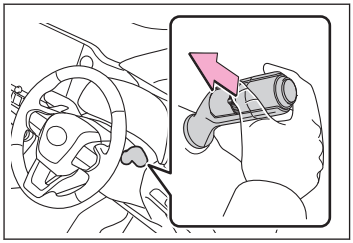
アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

● **レバーを手前に引き、もとの位置にもどす**



レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

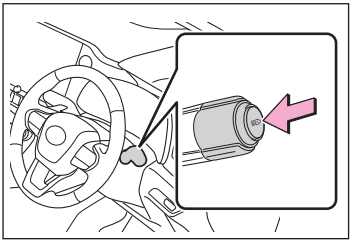
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ **オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

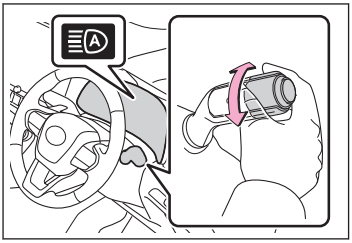
システムを OFF にする必要があるとき：→ P.287

オートマチックハイビームを使うには

1 **オートマチックハイビームスイッチを押す**



2 **ランプスイッチを[AUTO]または[ ]にする**



レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。

知識

■ **ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

● 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■ **前方カメラの検知について**

● 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 車両が割り込んできたとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が遠方を走行しているとき
- 前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291

● 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- 前方車両のランプの明るさ
- 前方車両の動きや向き
- 前方車両との車間距離
- 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- 前方車両が二輪車のとき
- 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- 乗車人数や荷物の量

● ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

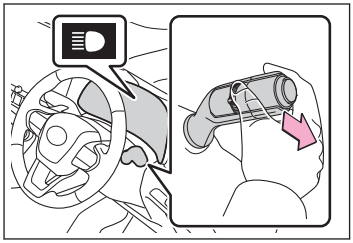
● 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

● 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
- 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.287
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291

手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

● **レバーを前方へ押す**

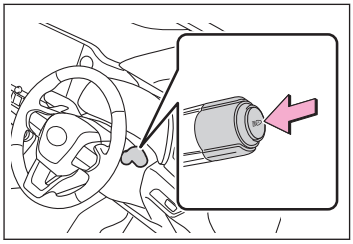


オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

■ ロービームへの切りかえ

● **オートマチックハイビームスイッチを押す**



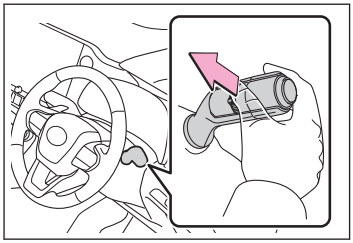
オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

一時的なロービームへの切りかえ

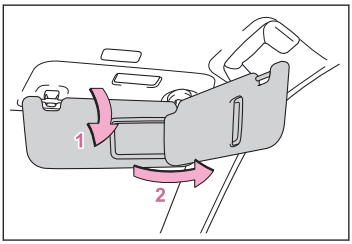
ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

● **レバーを手前に引き、もとの位置にもどす**



レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。

サンバイザーを使う



1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろします。
2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわします。

インナーミラーのまぶしさを軽減させる（自動防眩タイプ装着車）

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

エンジンスイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

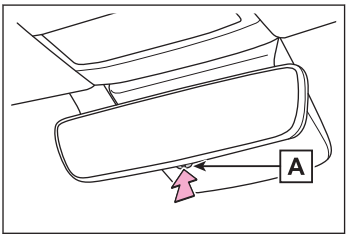
知識

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。

スイッチを押して、自動防眩機能の ON/OFF を切りかえます。

ON のときはインジケーター A が点灯します。

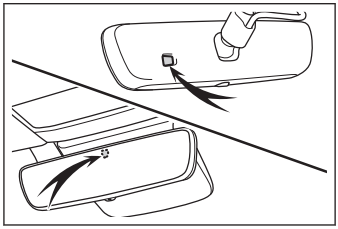
ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。



知識

■ **センサーの誤作動防止**

センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。センサーの誤作動につながるおそれがあります。



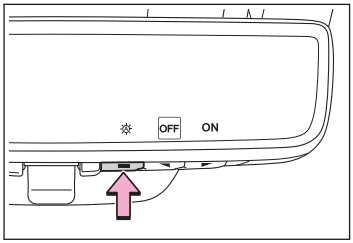
デジタルインナーミラーのまぶしさを軽減させる（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON／OFF を変更できます。

エンジンスイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

1　メニュースイッチを押します。

設定画面が表示されます。



2　[ ]または[ ]を押して、自動防眩機能の ON／OFF を切りかえます。

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

雨の日の運転の注意

雨の日に運転するときは、次のことに注意してください。

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

雨の日の視界の確保

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

フロントワイパーを使う

警告

ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

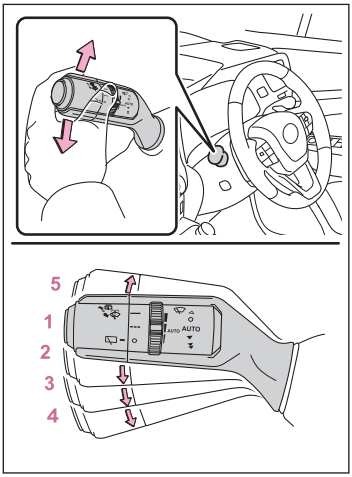
AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。

注意

フロントワイパーを使うときは、次のことをお守りください。

- エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスが乾いているときはワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

次のように レバーを操作すると、ワイパーが作動します。



1 ○ 停止

2 AUTO AUTO モード

雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

3 ▼ 低速作動

4 ▼▼ 高速作動

5 △ 一時作動

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

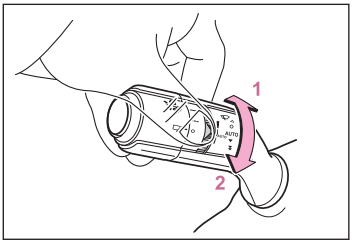
■ **音声対話サービスでの操作★**

音声対話サービスを使用して、フロントワイパーを 1 回のみ作動することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ワイパーの速度の切りかえ

AUTOが選択されているときは、ツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



1　雨滴センサーの感度調整（高）
2　雨滴センサーの感度調整（低）

知識

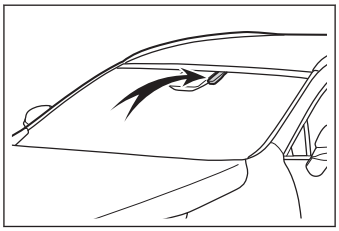
■ **車速による作動への影響**

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ **雨滴感知センサー**

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



● 雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。

その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウォッシャーを使う

⚠ 警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。

ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

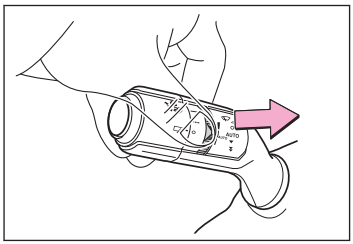
ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

レバーを手前に引きます。

ワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：ヘッドランプが点灯しているときに 5 回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。



⚠ 注意

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **液だれ防止作動**

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。

ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ **音声対話サービスでの操作★**

音声対話サービスを使用して、ウォッシャー液を出すことができます。（停車中のみ操作可能）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

リヤワイパーを使う

⚠ 注意

リヤワイパーを使うときは、次のことをお守りください。

- エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。
- リヤウインドウガラスが乾いているときは 、ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

知識

■ 作動条件

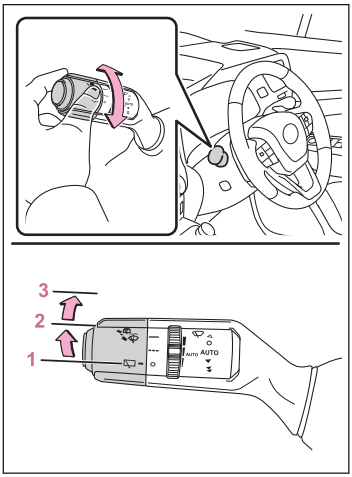
エンジンスイッチが ON のとき

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、リヤワイパーを 1 回のみ作動することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○ 停止
2 ---間欠作動
3 ━通常作動

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤウォッシャーを使う

⚠ 注意

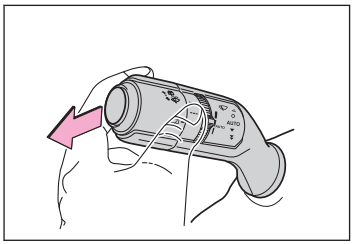
ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

レバーを前方へ押します。

ワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ウォッシャーに連動し、バックガイドモニターのカメラ洗浄が作動します。



⚠ 注意

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを操作し続けないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ **音声対話サービスでの操作★**

音声対話サービスを使用して、ウォッシャー液を出すことができます。（停車中のみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

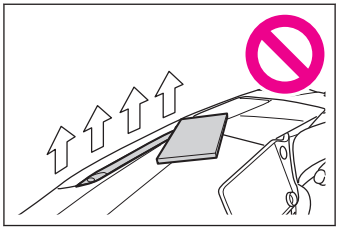
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

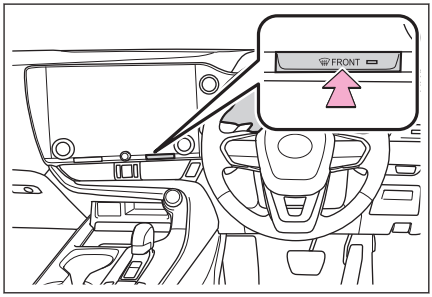
フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスターは、フロントウインドウの曇りを取るために使用します。

警告

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。
  外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- 吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。
  送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。





フロントデフロスタースイッチを押します。

除湿機能が作動し、風量が増えます。

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

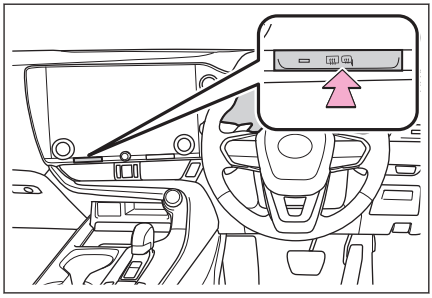
知識

■ **ガラスの曇り**

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。
  その場合は、A/C スイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スイッチを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

リヤウィンドウの曇りを取る



リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押します。

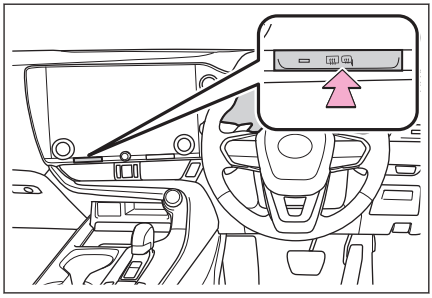
リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

ドアミラーの水滴や霜を取る



リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押します。

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠ 警告

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターが作動しているときは、ドアミラーの表面にふれないでください。ドアミラーの表面が非常に熱くなるため、やけどをするおそれがあります。

寒くなる前の準備

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

点検が必要な項目

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - エンジンオイル
  - 冷却水
  - ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。

冬用タイヤの装着

冬用タイヤ（4 輪）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを使用してください。

警告

冬用タイヤを装着するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

注意

冬用タイヤの修理／交換するときは、レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け／取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。

タイヤチェーンを使うとき

前 2 輪にタイヤチェーンを使用してください。*1

タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

知識

タイヤチェーンの取り付け／取りはずし／取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う

*1：235/50R20 タイヤには、タイヤとボデーの隙間が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。

- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

タイヤチェーンを装着するときは次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができなくなるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速／急ハンドル／急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA(レーンディパーチャーアラート)を使用しない

注意

■ タイヤチェーンの使用

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

寒冷時の運転で知っておくこと

寒冷時に運転する前の確認

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ／車両の屋根／タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。
- 車外のドア開スイッチが固くなり押しづらい場合があります。強めにドア開スイッチを押してドアを開けてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードの取り扱い

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

ガラスに付いた氷を除去するときは氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

寒冷時に運転するときの注意

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

寒冷時に駐車するときの注意

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

  また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

  - ブレーキホールドシステム

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め[*1]をしてください。

  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションをPにしたあとにパーキングブレーキを解除してください。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションをPにした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

知識

■ リバース連動機能

寒冷時に「リバース連動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

フロントウィンドウを暖めて凍結したワイパーを動かす★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにウインドシールドデアイサーを使用ください。

オプション操作画面で、[**デアイサー**]を選択します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的にOFFになります。

⚠ 警告

ウインドシールドデアイサーが作動しているときは、フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなりやけどをするおそれがあるので、ふれないでください。

*1：輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フォグランプの点灯

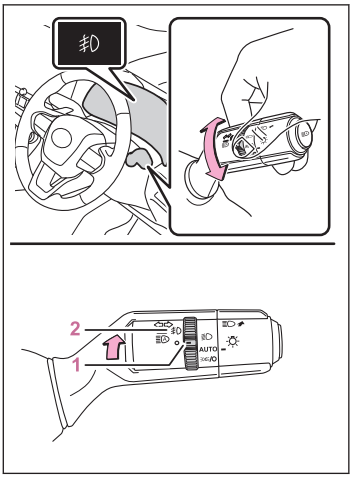
雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。リヤフォグランプを視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

フォグランプを使う

⚠ 注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

▶ フロントフォグランプ装着車



1 ○ フロントフォグランプを消灯します

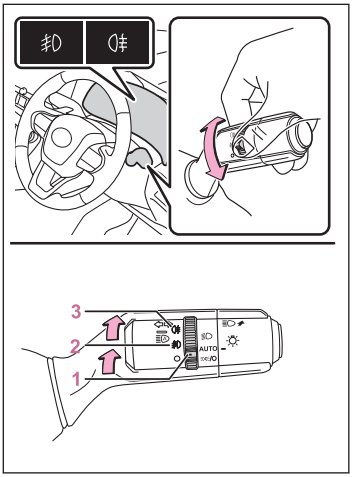
2 フロントフォグランプを点灯します

知識

■ **点灯条件**

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車



1 ○ フロント＆リヤフォグランプを消灯します

2 フロントフォグランプを点灯します

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯します

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■ **点灯条件**

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

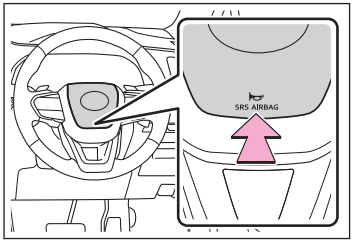
リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■ **リヤフォグランプ**

リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

ホーン（警音器）を鳴らす

ハンドルの 周辺部を押します。



走行モードの機能

走行／使用状況に合わせて次の走行モードを使用することができます。

それぞれの走行モードの特徴

NAVI・AI-AVS 非装着車：

■ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

■ エコモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

■ スポーツモード

ステアリングのフィーリング、およびエンジンとトランスミッションの制御によるアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生が大きくなりスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

NAVI・AI-AVS 装着車：

■ ノーマル／カスタムモード

- ノーマルモード

  燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

- カスタムモード

  パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン作動の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、センターディスプレイで設定します。

■ エコモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

■ スポーツモード

- スポーツ S モード

  エンジンとトランスミッションの制御により、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生が大きくなり、力強い加速をしたいときに適しています。

- スポーツ S+モード

エンジンとトランスミッションの制御は、アクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がさらに大きくなり、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより優れた安定感の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

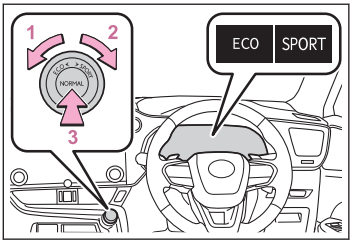
知識

■ エコモード時のエアコン作動について

- エコモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
  - エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
  - オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
  - 風量を調整する
  - エコモードを解除する
- エコモード時は自動でエコ空調モードに切りかわります。エコ空調モードを解除したいときは、[Eco heat/cool]を押します。

走行モードを切りかえる

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



1 エコモード

エコモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示灯が点灯します。

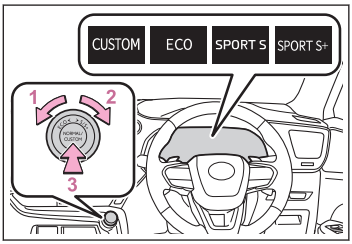
2 スポーツモード

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスポーツモード表示灯が点灯します。

3 ノーマルモード

エコモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



1 エコモード

エコモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示灯が点灯します。

2 スポーツモード

- スポーツ S モード

  スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスポーツ S モード表示灯が点灯します。

- スポーツ S+モード

  スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S+モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスポーツ S+モード表示灯が点灯します。

3 ノーマル／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押す

ごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。

カスタムモードのとき、マルチインフォメーションディスプレイにカスタムモード表示灯が点灯します。

エコモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

知識

■ **スポーツ／カスタムモードの解除**

- スポーツ／カスタムモードは、エンジンスイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（エンジンスイッチを OFF にしても自動では解除されません）

■ **走行モードを選択しているときのマルチインフォメーションディスプレイ表示**

選択した走行モードによって、マルチインフォメーションディスプレイの表示が切りかわる場合があります。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

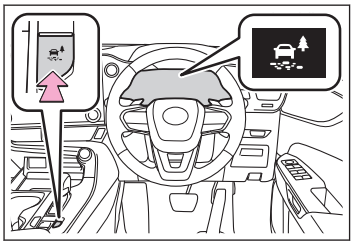
Trail Mode （AWD 車）

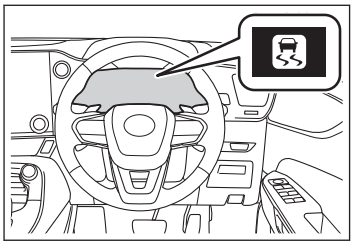
Trail Mode は、4WD・ブレーキ・駆動力などを統合制御し、タイヤの空転を抑えます。すべりやすい路面や凹凸のある路面を走行するときに、使用してください。

● Trail Mode スイッチを押す

Trail Mode スイッチを押すと Trail Mode が ON になり、マルチインフォメーションディスプレイに Trail Mode 表示灯が点灯します。もう一度、Trail Mode スイッチを押すとシステムが OFF になります。

タイヤが空転しているときにスリップ表示灯が点滅している場合、タイヤの空転を抑制しています。





知識

■ **Trail Mode について**

- Trail Mode は悪路の走行で駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、Trail Mode が OFF の状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。
- Trail Mode を長時間使用すると、走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されますが、通常走行は可能です。しばらくして、マルチインフォメーションディスプレイの「TRC OFF しました」が消えたらシステムが正しく作動します。

■ **Trail Mode が解除されるとき**

次の場合は、Trail Mode を選択していても自動で解除されます。

- 走行モードを切りかえたとき。
- エンジンを再始動したとき

■ **Trail Mode の作動音と振動**

Trail Mode が作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- エンジンルームからの音が聞こえる

Trail Mode 表示灯が点灯しないときは

Trail Mode スイッチを押しても Trail Mode 表示灯が点灯しないときは、システムの故障のおそれがあります。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告

Trail Mode をお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Trail Mode は悪路を走行する場合のみに使用してください。
- Trail Mode 表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。
- Trail Mode は、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

注意

Trail Mode を正常に作動させるために

Trail Mode を長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

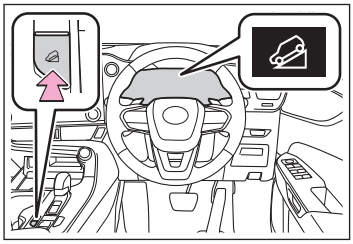
関連リンク

走行モードを切りかえる (P.181)

DAC（ダウンヒルアシストコントロールシステム）★

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。 システムはブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

DAC スイッチを押す。



ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば作動可能状態です。システムが作動しているときはスリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

DAC スイッチをもう一度押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。 表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

■ ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトポジションが P 以外のときに作動します

■ ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

● 次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません。
- シフトポジションが P にあるとき
- 車速が約 30km/h をこえたとき
- ブレーキシステムが異常過熱したとき

● 次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します。
- シフトポジションが N にあるとき
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動しているときに DAC スイッチを押したとき

  ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

■ 長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。この場

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、マルチインフォメーション内に「TRC OFF しました」が表示されます。（通常走行は可能です）しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、「TRC OFF しました」の表示が消えればシステムが使用可能となります。

■ **作動音や振動について**

- エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ **システムに異常があるときは**

次の場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチを ON にしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない
- スリップ表示灯が点灯する

⚠ 警告

■ **ダウンヒルアシストコントロールを使うときは**

ダウンヒルアシストコントロールを過信しないでください 。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転に心がけてください。

■ **正しく作動しないおそれのある状況**

次の路面を走行する場合、車両の一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 泥、砂利の道路などのすべりやすい路面
- 凍結路
- 未舗装路

ブレーキホールド

警告

■ **急坂路では**

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ **すべりやすい路面では**

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■ **駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

関連リンク

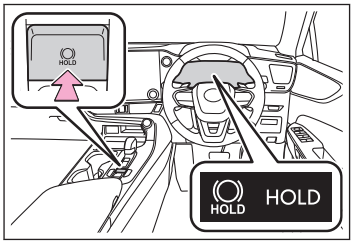
パーキングブレーキの操作 (P.138)
ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー） (P.488)

ブレーキホールドシステムを ON にする

シフトポジションが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■ **システムの作動条件**

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

● パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ **ブレーキ保持について**

● ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

● ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

● パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからエンジンスイッチを OFF にしてください。

■ **ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき**

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

● 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

● ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

■ **レクサス販売店で点検が必要なとき**

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ **警告メッセージ・警告ブザーについて**

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

4 快適装備と便利な室内装備の使いかた

4-1. お好み設定

マイセッティング..... 190

4-2. ドライビングポジションを登録する

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム） 191

ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除..... 192

4-3. 車内の温度／環境を調整する

室内環境を自動で調整する（レクサスクライメイトコンシェルジュ） 195

エアコンの使い方..... 196

ステアリングヒーターのはたらき 204

シートヒーターのはたらき 205

シートベンチレーターのはたらき 207

ムーンルーフの使い方..... 208

パノラマムーンルーフの使い方 211

電動サンシェードの開閉..... 214

4-4. 室内を明るくする

室内灯の使い方 216

4-5. 室内の装備を使う

収納装備の位置 220

室内の快適性をさらに向上させるための装備 226

4-6. ラゲージルームの使いかた

デッキフックを使う..... 238

ネットフックを使う..... 239

買い物フックを使う..... 240

デッキボード 241

トノカバーを収納する..... 243

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を認識し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。マイセッティングには、運転者３名分の設定を記憶することができます。電子キーの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を認識します。

● 電子キー

またはデジタルキー★

スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーまたはデジタルキー★を検出することで個人を認識します。

● Bluetooth デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を認識します。

■ 再生される機能

認証デバイスから個人が認識されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）★

個人が認識されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションを P にしたとき）のドライビングポジションを再生します。

電子キーで個人を認識：スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでロック解除してドアを開ける

● メーター表示 ／ヘッドアップディスプレイ★表示／マルチメディア設定*1

個人が認識されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● センターディスプレイで設定可能な車両設定*1

個人が認識されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● 安全運転支援機能*1

個人が認識されると、前回エンジンスイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

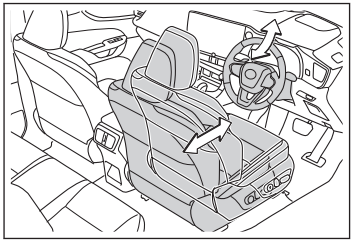
*1：一部の設定項目を除く

運転席への乗り降りをしやすくする（パワーイージーアクセスシステム）

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。



- シフトポジションを P にする
- エンジンスイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- エンジンスイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■ 挟み込み防止機能

パワーイージーアクセスシステムの作動中に、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ドライビングポジションの登録／呼び出し／解除★

自動で運転席／ハンドル／ドアミラー／ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者とゲストにそれぞれ 3 パターンまで登録できます。マイセッティングに電子キー（カードキーを含む）の割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

知識

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、次の操作をすることができます。

- ドライビングポジションの登録
- ドライビングポジションの呼び出し（シフトポジションが P のときのみ操作可能）

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ドライビングポジションを登録する（ポジションメモリー機能）

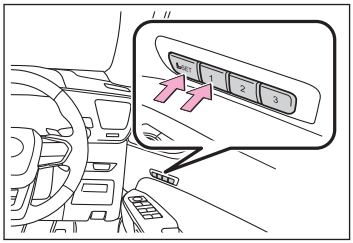
1 **シフトポジションが P の位置にあることを確認します。**

2 **エンジンスイッチを ON にします。**

3 **運転席／ハンドル／ドアミラー角度／ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整します。**

4 **SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1～3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押します。**

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



知識

■ 登録できるシート位置

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出す（ポジションメモリー機能）

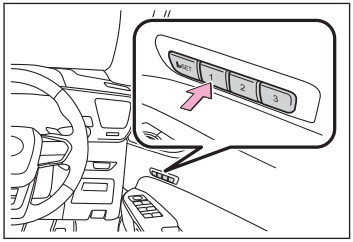
⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

1 **シフトポジションが P の位置にあることを確認します。**

2 **エンジンスイッチを ON にします。**

3 **1～3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押します。**



知識

■ **ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき**

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ **エンジンスイッチ OFF 後の作動**

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ **登録したシート位置が呼び出せないとき**

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **挟み込み防止機能**

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時は

シートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください

■ シートポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどに当たらないように注意してください。また、周囲の人やものがシートに挟まれないように注意してください。

マイセッティングにドライビングポジションを登録する（メモリーコール機能）

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

マイセッティングに登録したドライビングポジションを呼び出す（メモリーコール機能）

マイセッティングに電子キーの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

⚠ 警告

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

1 **マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでロック解除してドアを開けます。**

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 **エンジンスイッチを ACC または ON にします。**

シート／ハンドル（エンジンスイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

知識

■ 挟み込み防止機能

ドライビングポジション呼び出し中、シートの後ろおよび前に異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し、反対方向に少し移動します。挟み込み防止機能作動時はシートポジションが設定した位置とは異なる位置で停止します。シートポジションを確認してください

■ シートポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどに当たらないように注意してください。また、周囲の人やものがシートに挟まれないように注意してください。

室内環境を自動で調整する（レクサスクライメイトコンシェルジュ）

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、前席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーター★がそれぞれ自動制御されます。

クライメイトコンシェルジュを使う

クライメイトコンシェルジュはエアコン[AUTO]に連動して作動します。

1 **エアコンオプション画面表示スイッチをタッチします。**→P.196

2 **[クライメイトコンシェルジュ]スイッチをタッチします。**

3 **[AUTO]スイッチを ON にします。**

自動制御される機能

● エアコン→P.196

運転席／助手席の設定温度に応じて、エアコンを自動制御します。

● シートヒーター→P.205

運転席／助手席の設定温度に応じて、シートヒーターを自動制御します。

エアコンの設定温度／外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

● シートベンチレーター→P.207

運転席／助手席の設定温度に応じて、シートベンチレーターを自動制御します。

エアコンの設定温度／外気温などに応じて、シートヒーターとシートベンチレーターが自動的に切りかわります。

● ステアリングヒーター→P.204

エアコンの設定温度／外気温などに応じて、ステアリングヒーターを自動制御します。

知識

■ **乗員検知機能について**

● 助手席のシートヒーターやシートベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。

● シートヒーター／シートベンチレーターのスイッチを操作して AUTO 設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

■ **リヤシートヒーターの作動について（リヤシートヒーター装着車）**

クライメイトコンシェルジュによるリヤシートヒーターの自動制御はおこないません。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコンの使い方

[AUTO]スイッチを ON にすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

注意

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

知識

■ **換気とエアコンの臭いについて**

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために：
  - 駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
  - オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■ **音声操作システムについて**

音声操作システムを使用して、エアコンを操作することができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ **カスタマイズ機能**

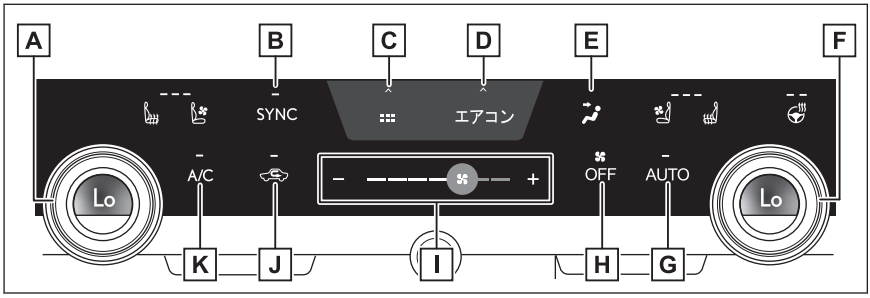
センターディスプレイの[**車両カスタマイズ**]で、[AUTO]スイッチが ON のときに連動する機能を設定できます。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

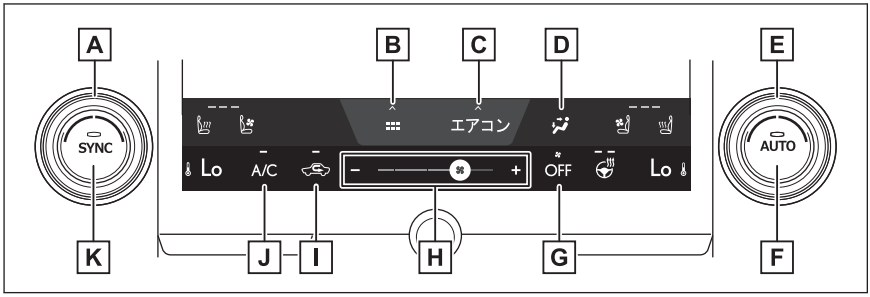
エアコン操作スイッチ

▶ **14 インチセンターディスプレイ**



A 助手席側温度調整スイッチ
B [SYNC]スイッチ
C ショートカット画面表示スイッチ
いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。
D エアコンオプション画面表示スイッチ
E 吹き出し口切りかえスイッチ
F 運転席側温度調整スイッチ
G [AUTO]スイッチ
H [OFF]スイッチ
I 風量調整スイッチ
J 内外気切りかえスイッチ
K [A/C]スイッチ

▶ 9.8 インチセンターディスプレイ



A 助手席側温度調整スイッチ
B ショートカット画面表示スイッチ
いくつかの機能へのショートカットアイコンが表示されます。
C エアコンオプション画面表示スイッチ
D 吹き出し口切りかえスイッチ
E 運転席側温度調整スイッチ
F [AUTO] スイッチ
G [OFF] スイッチ

H 風量調整スイッチ
I 内外気切りかえスイッチ
J [A/C] スイッチ
K [SYNC]スイッチ

温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわします。

[SYNC]スイッチのインジケーターが点灯しているときは、運転席側の設定温度調整に合わせて助手席側の設定温度が調整されます。

[SYNC]スイッチのインジケーターが消灯しているときに[SYNC]スイッチをタッチすると、[SYNC]スイッチのインジケーターが点灯し、助手席側の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

助手席側温度調整スイッチを操作すると[SYNC]スイッチのインジケーターが消灯し、助手席側の設定温度だけを調整できます。

[A/C]スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチの[+]をタッチするか、風量調整スイッチのアイコンを右へスライドします。風量を減らすときは風量調整スイッチの[-]をタッチするか、風量調整スイッチのアイコンを左へスライドします。

[OFF]スイッチをタッチすると、ファンが止まります。

吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチをタッチします。

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

：上半身に送風

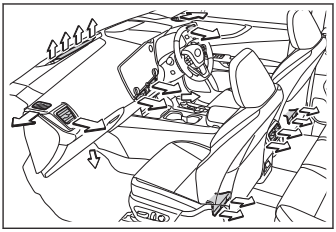
：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風／ガラスの曇りを取る

知識

■ **吹き出し口の位置**



内気循環／外気導入を切りかえる

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

内外気切りかえスイッチをタッチします。

スイッチをタッチするたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）を切りかえる

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中はインジケーターが点灯します。

また、スイッチ操作によりフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

1 **エアコンオプション画面表示スイッチをタッチします。**

2 **[S-Flow]スイッチをタッチします。**

- スイッチが ON：フロント席のみへの送風
- スイッチが OFF：全席への送風

知識

■ **送風の自動制御について**

- 室内を快適に保つために、エンジン始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

- エンジン始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ **送風の手動制御について**

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ **送風を自動制御にもどすには**

1. 表示灯が消灯している状態でエンジンスイッチを OFF にする
2. 60 分以上経過後にエンジンスイッチを ON にする

エコ空調モードを切りかえる

エコ空調モードに切りかえると、燃費を優先するために空調の効きを抑えます。

1 **エアコンオプション表示スイッチをタッチします。**

2 **[Eco Heat/Cool]にタッチします。**

- エコ空調モードでは燃費性能を優先させるため、空調が次のように制御されます。空調の効きをよくしたいときは、エコ空調モードを解除してください。
  - エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
  - オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードに切りかわります。エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが解除される場合があります。
- エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でも[Eco Heat/Cool]にタッチするとエコ空調モードを解除することができます。

車内を急速に温める（Max heat）

[Max heat]を ON にすると、車内を急速に温めるために、空調設定が一括で切り替わります。

1 **ショートカット画面表示スイッチをタッチします。**

2 **[Max heat]スイッチをタッチします。**

- エアコンの運転席側設定温度が[Hi]になり、[AUTO]スイッチが ON になります。
- 運転席側シートヒーターの設定が強になります。（シートヒーター装着車）
- ステアリングヒーターの設定が強になります。（ステアリングヒーター装着車）
- 次の場合、助手席側シートヒーターの設定が[AUTO]になります。（シートヒーター装着車）
  - [クライメイトコンシェルジュ]が ON のとき
  - 助手席に乗員がいるとシステムが判断したとき
- [SYNC]のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度も[Hi]になります。

知識

■ [Max heat]について

- [Max heat]スイッチでは設定を OFF にできません。
- [Max heat]スイッチを操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。
- [クライメイトコンシェルジュ]が ON の時は、[AUTO]スイッチを ON にすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーター★も設定温度に合わせて自動調整されます。
- 各機能をお好みで調整頂くこともできます。

車内を急速に冷やす（Max cool）

[Max cool]を ON にすると、車内を急速に冷やすために、空調設定が一括で切り替わります。

1 **ショートカット画面表示スイッチをタッチします。**

2 **[Max cool]スイッチをタッチします。**

- エアコンの運転席側設定温度が[Lo]になり、[AUTO]スイッチが ON になります。
- 運転席側シートベンチレーターの設定が強になります。（シートベンチレーター装着車）
- 次の場合、ステアリングヒーターの設定が[AUTO]になります。（ステアリングヒーター装着車）
  - [クライメイトコンシェルジュ]が ON のとき
- 次の場合、助手席側シートヒーターの設定が[AUTO]になります。（シートヒーター装着車）
  - [クライメイトコンシェルジュ]が ON のとき
  - 助手席に乗員がいるとシステムが判断したとき
- [SYNC]のインジケーターが点灯しているときは、助手席の設定温度も[Lo]になります。

知識

■ [Max cool]について

- [Max cool]スイッチでは設定を OFF にできません。
- [Max cool]を操作後、エアコンの温度調整スイッチで設定温度を調整することができます。
- [クライメイトコンシェルジュ]が ON の時は、[AUTO]を ON にすることで、シートヒーター、シートベンチレーター、ステアリングヒーター★も設定温度に合わせて自動調整されます。
- 各機能をお好みで調整頂くこともできます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「ナノイー X」の作動を切りかえる*1

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席窓側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします。*2

1 **エアコンオプション画面表示スイッチをタッチします。**

2 **[nanoe™X]スイッチをタッチします。**

- [nanoe™X]スイッチが ON のときは、エアコンの送風が始まると、自動的に「ナノイー X」が作動します。
- 「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
  - 吹出し口が、上半身、上半身と足元または足元のとき
  - 運転席窓側の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解／修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

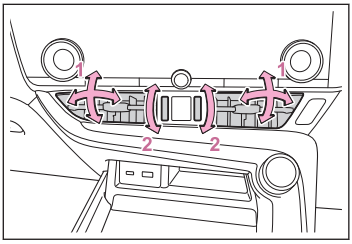
風向きを調整する／吹き出し口を開閉する

次のように操作して、風向きの調整や吹き出し口の開閉をします。

*1：「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

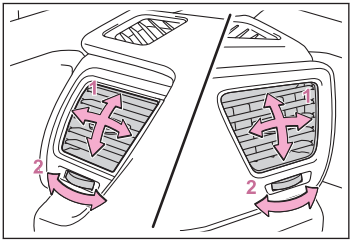
*2：温湿度環境、風量／風向きによっては「ナノイー X」の効果が十分に得られない場合があります。

▶ フロントセンター



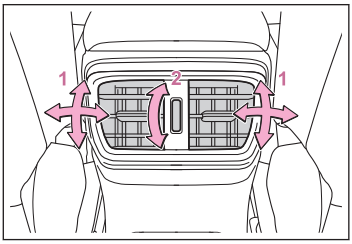
1　風向きの調整
2　吹き出し口の開閉

▶ フロントサイド



1　風向きの調整
2　吹き出し口の開閉

▶ リヤ



1　風向きの調整
2　吹き出し口の開閉

ステアリングヒーターのはたらき★

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

警告

次の方がステアリングヒーターに触れないようにご注意ください。やけどするおそれがあります。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

エンジンが停止した状態で使用しないでください。バッテリーあがりにつながるおそれがあります。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

ステアリングヒーターの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイの をタッチします。

スイッチをタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は[AUTO]が点灯します。

知識

■ **カスタマイズ機能**

センターディスプレイの[**車両カスタマイズ**]で、ステアリングヒーターの温度を設定できます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーターのはたらき★

シートの表面を暖めることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどを防ぐために

次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児／お子さま／お年寄り／病人／体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 毛布／クッションなどを使用しない
- 長時間連続使用しない

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態でシートヒーターを使用しないでください。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

フロントシートヒーターの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイの または をタッチします。

スイッチをタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

シートベンチレーター非装着車：作動中は、スイッチ上のインジケーターとレベルインジケーター（黄）が点灯します。

シートベンチレーター装着車：作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は[AUTO]が点灯します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **カスタマイズ機能**

センターディスプレイの[**車両カスタマイズ**]で、フロントシートヒーターの温度を設定できます。

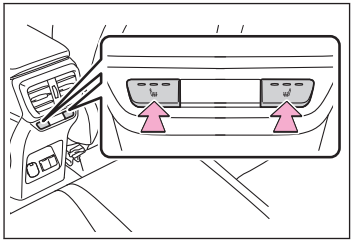
リヤシートヒーターの ON/OFF を切りかえる★

スイッチを押します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーター（黄）が点灯します。



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベンチレーターのはたらき★

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

注意

■ **シートベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態でシートベンチレーターを使用しないでください。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

シートベンチレーター（フロント）の ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイの または をタッチします。

スイッチをタッチするたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（青）が点灯します。AUTO 作動中は[AUTO]が点灯します。

知識

■ **エアコン連動制御モードについて**

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■ **カスタマイズ機能**

センターディスプレイの[**車両カスタマイズ**]で、シートベンチレーターの温度を設定できます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ムーンルーフの使い方★

車内で快適にお過ごしいただくために、天井部（ムーンルーフ）を開けたり、チルトアップしたりできます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

- 走行中はルーフから手や顔を出さないでください。
- 開口部に腰かけないでください。
- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特に子どもの誤った操作による事故を防ぐため、子どもにはムーンルーフの操作をさせないでください。子どもや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手／腕／頭／首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

  また子どもには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。子どもや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車に子どもが乗っているときに、車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯して子どもも一緒に車から離れてください。もし子どもを車の中に残して離れると、いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ ムーンルーフの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はムーンルーフを開閉できます。

ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、ムーンルーフを開閉することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ムーンルーフを安全に開閉するための補助機能

次のような機能により、安全なムーンルーフの開閉を補助します。

● 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

● ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠ 警告

■ **挟み込み防止機能**

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

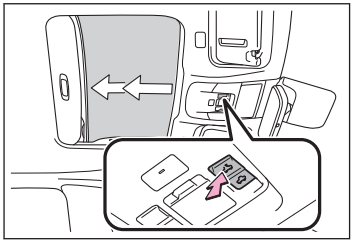
また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。

指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフを開ける

を押します。*1

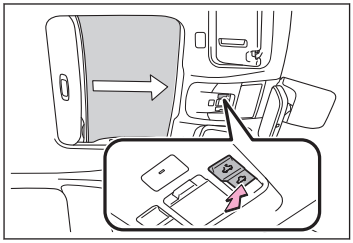
全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）



*1：途中で停止するときは、 を軽く押します。

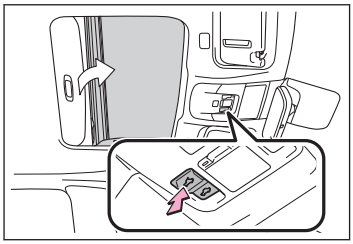
ムーンルーフを閉める

を押します。*2



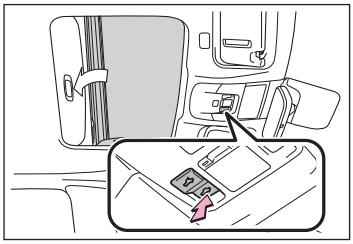
ムーンルーフをチルトアップする

を押します。*3



ムーンルーフをチルトダウンする

を押します。*4



*2：途中で停止するときは、 を軽く押します。

*3：途中で停止するときは、 を軽く押します。

*4：途中で停止するときは、 を軽く押します。

パノラマムーンルーフの使い方★

車内で快適にお過ごしいただくために、天井部（パノラマムーンルーフ）を開けたり、チルトアップしたりできます。

警告

パノラマムーンルーフを開閉するときは、次のことを必ずお守りください。

- 運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特に子どもの誤った操作による事故を防ぐため、子どもにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。子どもや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手／腕／頭／首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

  また子どもには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。子どもや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車に子どもが乗っているときに、車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。もし子どもを車の中に残して離れると、いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

■ パノラマムーンルーフの作動条件

エンジンスイッチが ON のとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフを開閉できます。

ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 音声対話サービスでの操作★

音声対話サービスを使用して、パノラマムーンルーフを開閉することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パノラマムーンルーフを安全に開閉するための補助機能

次のような機能により、安全なパノラマムーンルーフの開閉を補助します。

● 挟み込み防止機能

パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、パノラマムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

● パノラマムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

⚠ 警告

■ **挟み込み防止機能**

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

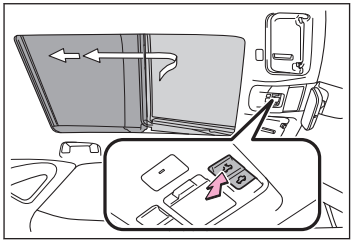
また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。

指などを挟まないように注意してください。

パノラマムーンルーフを開ける

を押します。*1

を押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。チルトアップした状態からでも開くことができます。

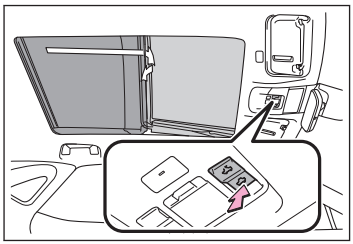


パノラマムーンルーフを閉める

を押します。*2

パノラマムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。

全閉にしたいときは、 をもう一度押してください。

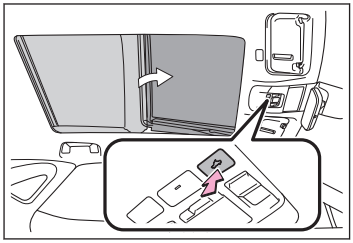


*1：途中で停止するときは、 を軽く押します。

パノラマムーンルーフをチルトアップする

を押します。*3

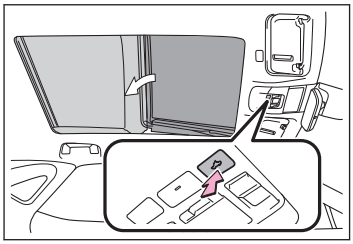
パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。



パノラマムーンルーフをチルトダウンする

を長押します。

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



*2：途中で停止するときは、 を軽く押します。

*3：途中で停止するときは、 を軽く押します。

電動サンシェードの開閉★

車内で快適にお過ごしいただくために、天井部（電動サンシェード）を開けることができます。

⚠ 警告

電動サンシェードを開閉するときは、次のことを必ずお守りください。

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手／腕／頭／首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- 子どもには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ルーフの下側と電動サンシェードの隙間には指を入れないでください。

  手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

知識

■ **電動サンシェードの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **エンジン停止後の作動**

エンジンスイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は電動サンシェードを開閉できます。

ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

電動サンシェードを安全に開閉するための補助機能

次のような機能により、安全な電動サンシェードの開閉を補助します。

挟み込み防止機能

電動サンシェードを閉めるときに、電動サンシェードが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

挟み込み防止機能が作動したときは、再度[▼]を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

⚠ 警告

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手／腕／頭／首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。

  また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

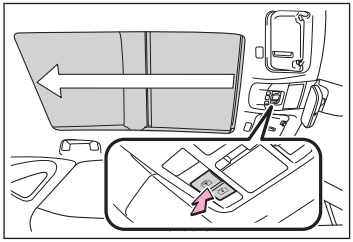
指などを挟まないように注意してください。

電動サンシェードを開ける

を押します。

電動サンシェードが開きます。

を長押しすると、自動で全開します。*1

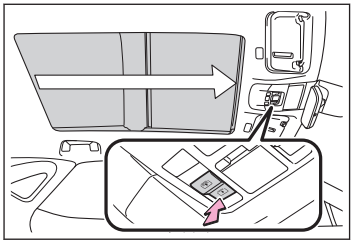


電動サンシェードを閉める

を押します。

電動サンシェードが閉まります。

を長押しすると、自動で全閉します。*2

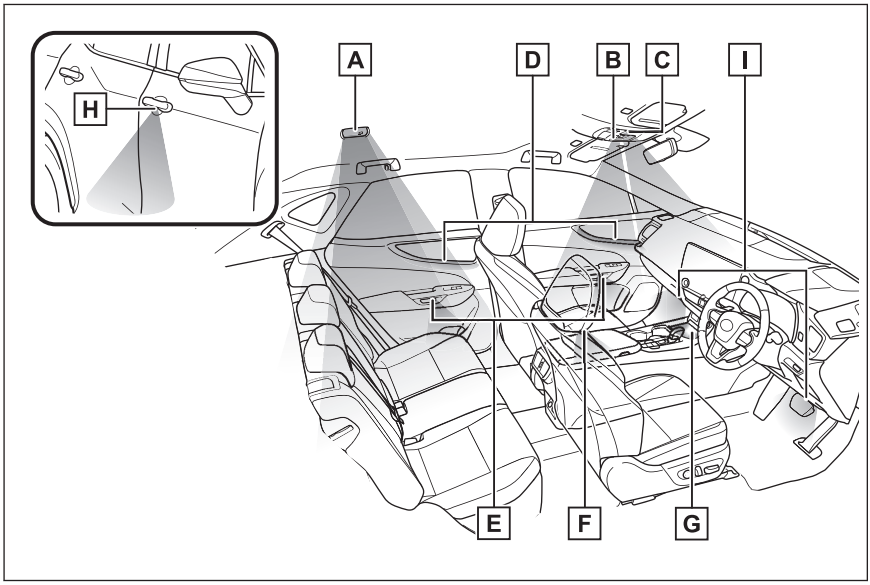


*1：途中で停止するときは、 を軽く押します。

*2：途中で停止するときは、 を軽く押します。

室内灯の使い方

室内灯の位置



A リヤインテリアランプ
B フロントインテリアランプ
C パーソナルランプ
D ドアトリム照明★*1
E インサイドドアハンドル照明*1
F ドアカーテシランプ★
G センターコンソール照明★*1
H アウトサイドドアハンドル照明
I 足元照明*1

エンジンスイッチが ON のとき、ドアトリム照明／インサイドドアハンドル照明／センターコンソール照明／足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
*1：照明色を変更することができます。★

知識

■ **各部照明の自動点灯／消灯について**

- 電子キーの検知／ドアのロックまたはロック解除／ドアの開閉／エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯／消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ **室内灯の自動点灯について**

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■ **アウトサイドドアハンドル照明**

電子キーの検知やドアのロック解除により、アウトサイドドアハンドル照明が自動的に点灯します。

■ **音声対話サービスでの操作★**

音声対話サービスを使用して次の操作をすることができます。

- 各部の照明の ON ／ OFF の切りかえ
- 各部の照明の照明色の変更

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

注意

■ **ランプのレンズの取りはずし**

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

インテリアランプ

知識

■ **インテリアランプが正常に反応しない状況**

次のとき、インテリアランプが正常に反応しない場合があります。

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

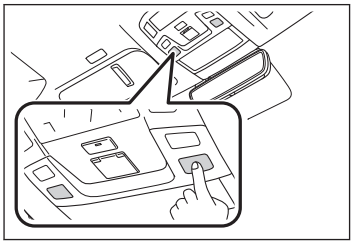
インテリアランプをつける／消す

ランプにタッチします。

タッチするごとにフロントインテリアランプが点灯／消灯します。

リヤインテリアランプが連動して点灯／消灯します。

ただし、リヤインテリアランプスイッチが押されている状態で、フロントインテリアランプを操作しても連動しません。



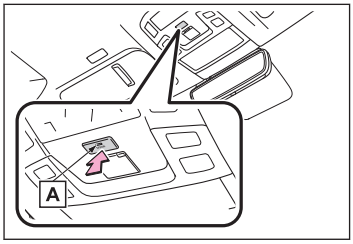
インテリアランプをドア開閉に連動して点灯／消灯を切りかえる

DOOR スイッチを押します。

DOOR スイッチを押すごとに、フロントインテリアランプのドア連動 ON/OFF が切りかわります。

リヤインテリアランプもドアの開閉に連動して点灯／消灯します。

ドア連動が ON になると、インジケーター A が点灯します。



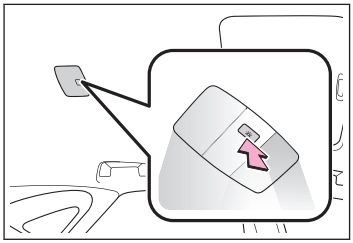
リヤインテリアランプをつける／消す

スイッチを押します。

スイッチを押すごとに、リヤインテリアランプが点灯／消灯します。

フロントインテリアランプに連動してリヤインテリアランプが点灯／消灯します。

フロントインテリアランプに連動してリヤインテリアランプが点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



パーソナルランプ

知識

■ パーソナルランプが正常に反応しない状況

次のとき、パーソナルランプが正常に反応しない場合があります。

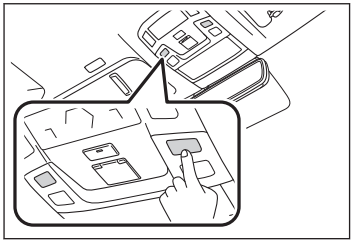
- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

パーソナルランプを使う

ランプにタッチします。

タッチするごとにパーソナルランプが点灯／消灯します。

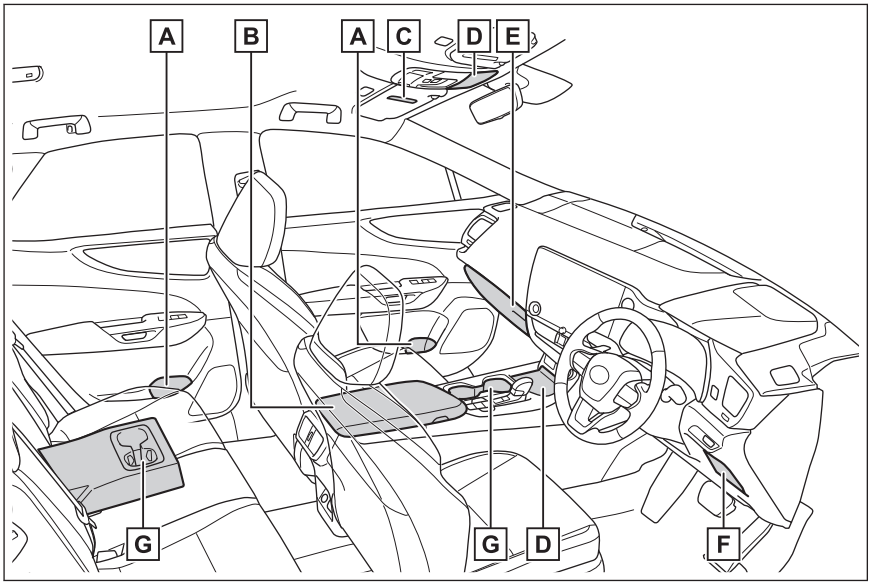


収納装備の位置

⚠ 警告

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる



A ボトル入れ
B コンソールボックス
C カードホルダー
D 小物入れ
E グローブボックス
F コインボックス
G カップホルダー

知識

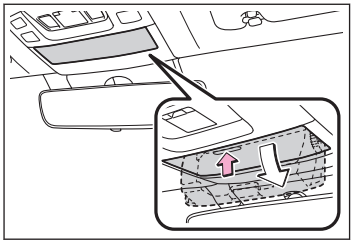
■ **グローブボックスランプ／コンソールボックスランプ**

車幅灯点灯時は、グローブボックス内／コンソールボックス内のランプが点灯します。

小物入れを使う

フタを押します。

▶ タイプ A



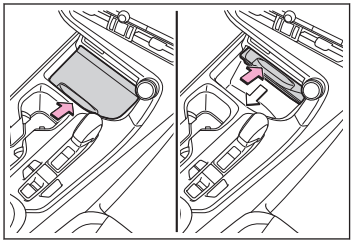
⚠ 警告

- 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中や小物入れを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フタを押して開けます。

再び押すと閉まります。

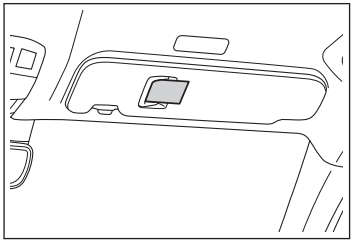
▶ タイプ B



⚠ 警告

走行中や小物入れを使わないときは、フタを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

カードホルダーの位置



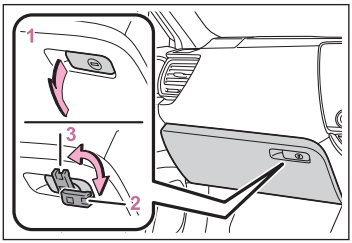
グローブボックスを使う

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、グローブボックスを必ず閉じてください。

グローブボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、助手席の乗員に開いたグローブボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを開くには、レバーを引きます。メカニカルキーを使って、ロックやロック解除ができます。



1 レバーを引いて、グローブボックスを開きます。
2 メカニカルキーでロックします。
3 メカニカルキーでロック解除します。

知識

■ **グローブボックスランプ**

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

カップホルダーを使う

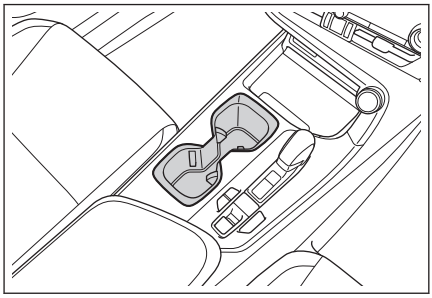
⚠ 警告

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

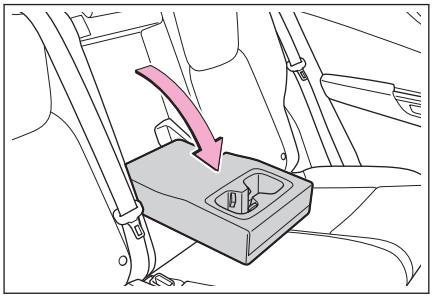
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

▶ フロント



▶ リヤ



リヤアームレストを手前に倒します。

ボトル入れの位置

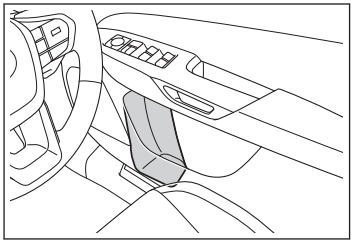
⚠ 注意

ボトル入れを使用する場合は、次のことをお守りください。

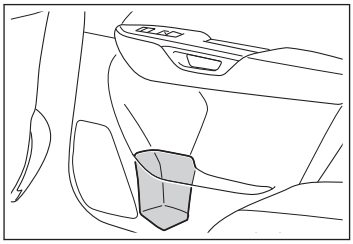
- ボトル入れには、液体が入っている紙コップ／ガラス製のコップなどを収納しないでください。

  中身の液体がこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ ボトル入れ

ペットボトルの大きさ／形によっては収納できないことがあります。

コンソールボックスを使う

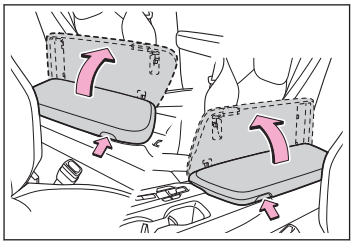
警告

使用しないときや走行中は、コンソールボックスを必ず閉じてください。

コンソールボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、乗員に開いたコンソールボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

コンソールボックスを開くにはボタンを押してフタを持ち上げます。

両側から開けることができます。

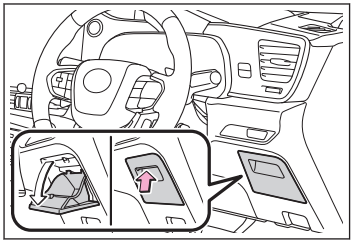


知識

■ コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

コインボックスを使う



ノブを上に押すと、フタが開きます。

⚠ 警告

使用しないときや走行中は、コインボックスを必ず閉じてください。

コインボックスが開いたままにしておくと、急ブレーキや急旋回時などに、運転者に開いたコインボックスがあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内の快適性をさらに向上させるための装備

充電用 USB 端子の機能と働き

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- リヤコンソール：充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

DC5V/3.0A（消費電力 15W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

知識

■ 充電用 USB 端子を使用できる条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

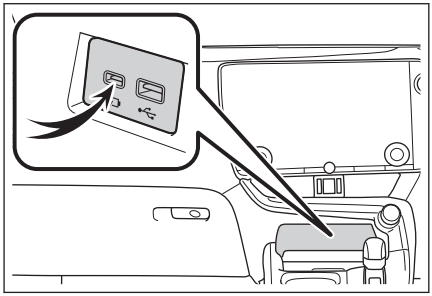
- DC5V/3.0A（消費電力 15W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

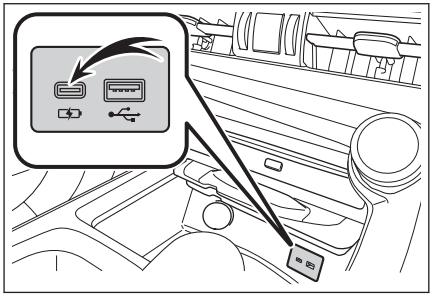
一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

充電用 USB 端子を使う

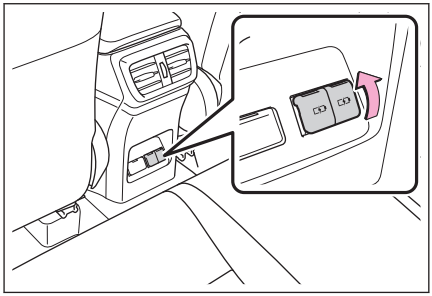
▶ インストルメントパネル（タイプ A）



▶ インストルメントパネル（タイプ B）



▶ リヤコンソール



フタを開けて使用する

アクセサリーソケットの機能と働き

⚠ 注意

■ アクセサリーソケットの損傷を防ぐために

● 端子部に異物を入れないでください。

● 水や液体をかけないでください。

注意

- アクセサリーソケットを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源として使うことができます。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

知識

■ アクセサリーソケットを使用できる条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

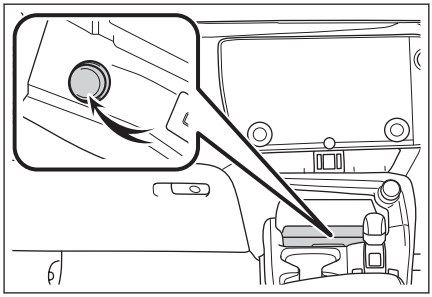
■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

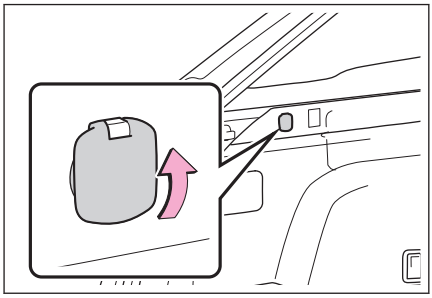
アクセサリーソケットを使う

▶ インストルメントパネル



キャップを開けます。

▶ ラゲージルーム内



フタを開けます。

アクセサリーコンセント（100W タイプ）の機能と働き

⚠ 注意

■ **アクセサリーコンセントの損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- アクセサリーコンセントを使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。

■ **バッテリーあがりの防止**

エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ **ヒューズ切れの防止**

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。

消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ **正常に使用できないおそれのある電気製品**

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源として使うことができます。

知識

■ **アクセサリーコンセントが使用できる条件**

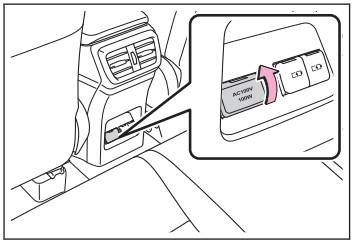
エンジンスイッチが ON のとき

■ Stop&Start システムが作動しているとき

Stop&Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがありますが、異常ではありません。

アクセサリーコンセント（100W タイプ）を使う

ふたを開けて使用します。



おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の機能と働き

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。 ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

⚠ 警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■ 電波がおよぼす影響

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。

ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

警告

- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

注意

■ 故障やデータ破損の防止

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード／ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。

  また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。

  特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■ バッテリーあがりの防止

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

知識

■ おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の使用できる条件

エンジンスイッチが ACC または ON のとき

■ 使用できる携帯機器

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。
- ただし、以下の携帯機器に対しては、5W を超える充電に対応しています。

- 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
- WPC 規格の 1.2.4 EPP （Extended Power profile） に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。

■ **スマートエントリー＆スタートシステムの使用について**

充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

■ **携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは**

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。

「Qi」対応の製品でもカバーやアクセサリーの形状によっては、充電できない可能性があります。 （→ P.234）

■ **充電についての留意事項**

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。

充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■ **ワイヤレス充電器の作動音**

エンジンスイッチを押して ACC または ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は「カチッ」や「 ジー」 と作動音がしますが、異常ではありません。

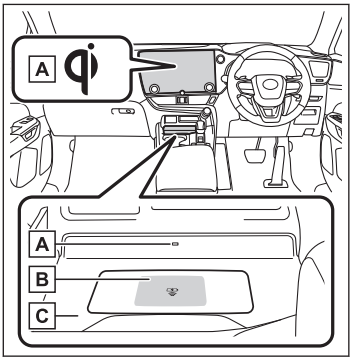
■ **「Qi」マークの概要**

The “Qi” logo is a trademark of the Wireless Power Consortium.

■ **「おくだけ充電」マークの概要**

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

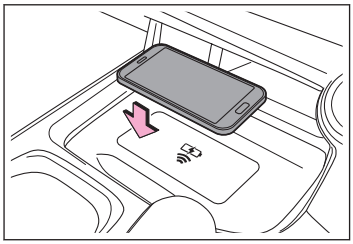
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の各部の名称



A 作動表示灯
B 充電エリア
C 充電トレイ

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）で充電する

● **充電トレイに携帯機器を置きます。**



携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。

携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると充電トレイ上の作動表示灯が緑色に点灯します。

知識

■ **充電中の AM ラジオ放送連携機能**

● 充電中、AM ラジオにノイズが入る場合、充電の周波数を自動で切りかえてノイズを低減します。

● AM ラジオを自動選局中は、充電によって発生するノイズで誤選局しないよう、一時的に充電を停止します。選局が終了すると、充電は自動的に再開します。

■ **再充電機能**

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ **急速充電機能**

以下の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

- WPC の Ver1.2.4 EPP（Extended Power profile）に準拠した、急速充電に対応した携帯機器
- 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

■ **機能が正常に働かないおそれのある状況**

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器の間に異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれているとき
- 携帯機器が充電トレイよりも大きいとき
- 折りたたみ式の携帯機器を充電エリアの外に置いたとき
- 近くにテレビ塔や発電所／ガソリンスタンド／放送局／大型ディスプレイ／空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだが、次のようなものを挟んだり、装着したりして 2mm 以上となるとき
  - 厚みがあるケースやカバー
  - 厚みがあるデコレーション
  - 充電面が平面状ではなく、段差や傾斜があるケースやカバー
  - 指リングやストラップなどのアクセサリー
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - アルミ箔を使用したタバコの箱
  - 金属製の財布やかばん
  - 小銭
  - カイロ
  - CD や DVD などのメディア
  - 金属製のデコレーション
  - 金属製のケースやカバー
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。

レクサス販売店へお問い合わせください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の作動表示灯の点灯状況

ワイヤレス充電器の作動表示灯の点灯状況は次の通りです。

作動表示灯		状況
充電トレイ	センターディスプレイ	
消灯	消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	灰	待機中（充電可能状態）(1)
		充電完了時(2)
橙（点灯）	青	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
		以下の携帯機器が急速充電中 ● WPC の Ver1.2.4 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器 ● 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

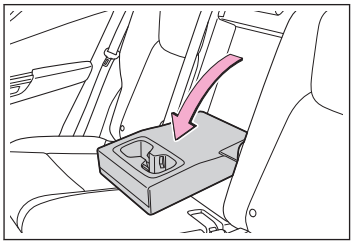
(1) 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、過熱されることはありません。

(2) 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

リヤアームレストを使う

⚠ 注意

アームレストに過度の負荷をかけないでください。破損の原因となります。



● アームレストを手前に倒します。

アシストグリップの機能と働き

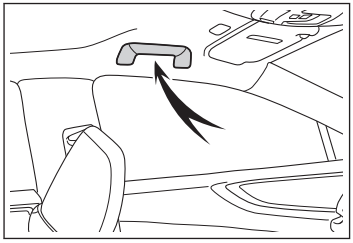
警告

乗降時やシートから立ち上がるときなどに、アシストグリップを使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときに使うことができます。

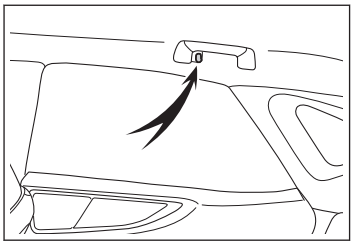


コートフックの位置

警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

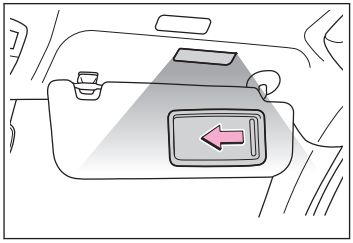
コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



バニティミラーを使う

● **カバーをスライドして開くことで、使用できます。**

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



⚠ 注意

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。バッテリーあがりの原因となります。

知識

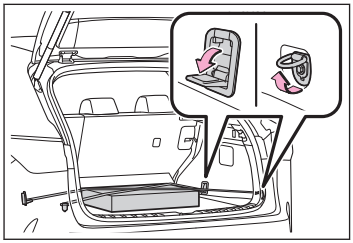
■ **バッテリーあがり防止のための自動消灯**

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

デッキフックを使う

フックを使って荷物を固定することができます。

● **フックを起こして使用します。**



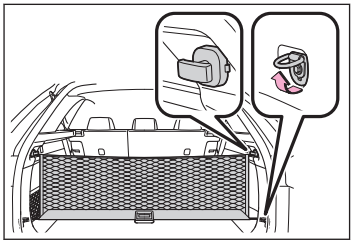
⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフックを使う

フックを使って積荷ネットをかけることができます。

● **フックを起こして使用します。**

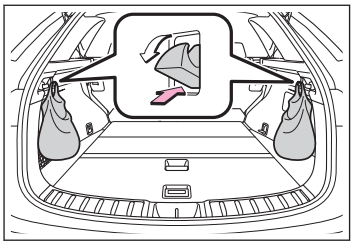


⚠ 警告

ネットフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

買い物フックを使う

● 買い物フックの下側を押して使用します。



⚠ 注意

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。
買い物フックが損傷するおそれがあります。

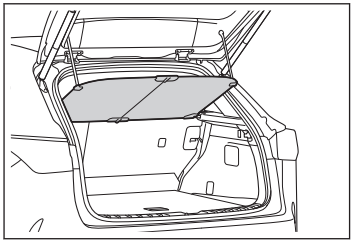
デッキボード

デッキボードを開ける

⚠ 警告

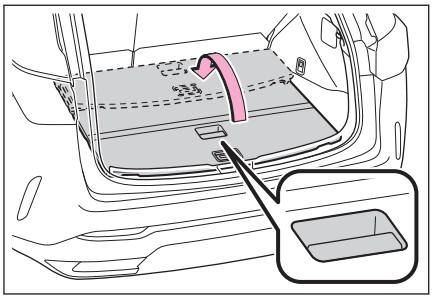
デッキボードを開けたり取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出すおそれがあります。

1 バックドアを開けます。

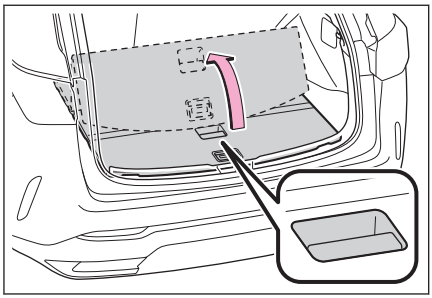


2 デッキボードを開けます。

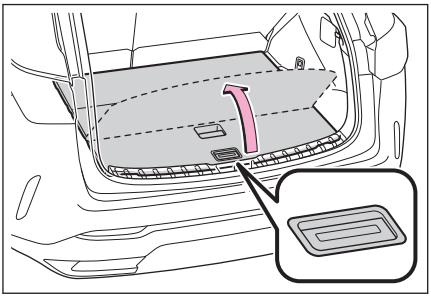
▶ パターン A



▶ パターン B



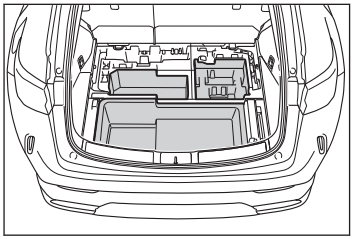
▶ パターンC



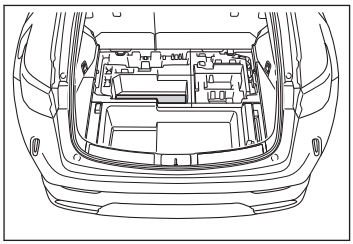
デッキアンダートレイ内の収納

次のものを収納することができます。

● 小物など



● 停止表示板*1



知識

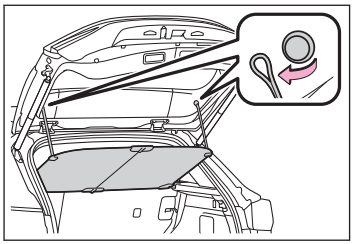
■ 停止表示板

ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

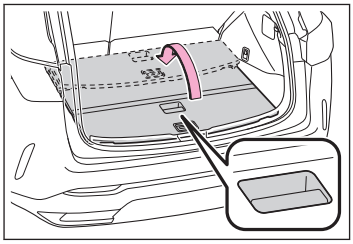
*1：停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

トノカバーを収納する

1 留めひもを左右のフックからはずします。

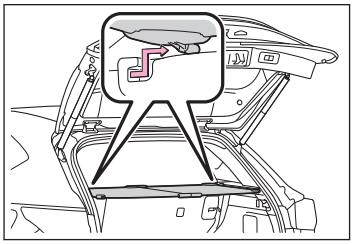


2 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたみます。

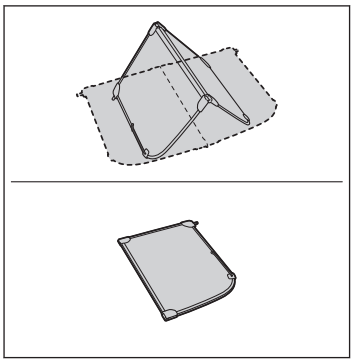


3 トノカバーを取りはずします。

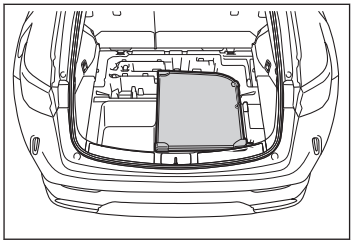
リヤシートの背もたれをうしろに倒しているときは、背もたれを起こしてから取りはずしてください。



4 トノカバーを折りたたみます。



5 デッキボードを持ち上げながら、トノカバーをデッキアンダートレイに収納します。



警告

- トノカバーの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるおそれがあります。
- トノカバーの上には、子どもが乗ったりしないようにしてください。トノカバーが破損するおそれがあります。

5 メーター／ディスプレイの機能と表示される情報

5-1. メーターの機能と表示

警告灯／表示灯 246

計器類の見方（F SPORT 以外）253

計器類の見方（F SPORT）... 258

5-2. ディスプレイの機能と表示

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ非装着車）262

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ装着車）.. 264

ヘッドアップディスプレイの表示 266

ディスプレイの表示内容..... 268

5-3. ディスプレイの表示設定を変更する

インストルメントパネル照明の明るさを調整する..... 279

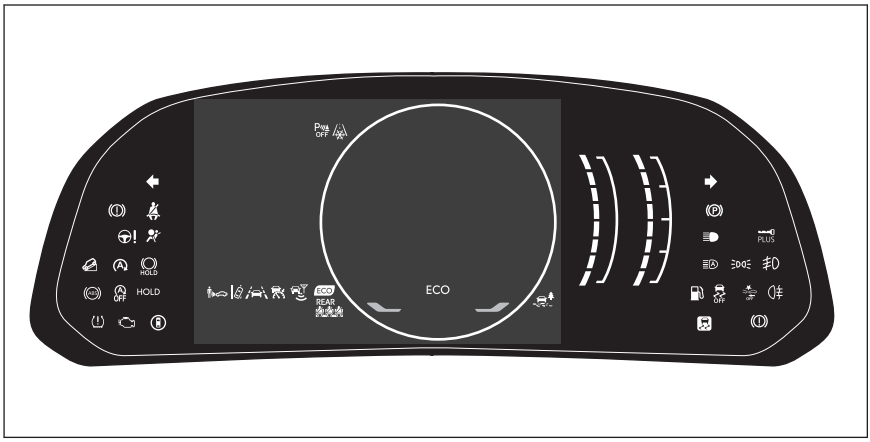
ヘッドアップディスプレイの設定を変更する 280

警告灯／表示灯

メーター／ドアミラーの警告灯や表示灯で車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ **ヘッドアップディスプレイ非装着車**



▶ **ヘッドアップディスプレイ装着車**

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）	ブレーキ警告灯(1)

（黄色）	ブレーキ警告灯(1)
	高水温警告灯(2)
	充電警告灯(2)
	油圧警告灯(2)
	エンジン警告灯(1)
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯(1)
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯(1)
	ペダル誤操作警告灯(2)
（赤色）	パワーステアリング警告灯(1)
（黄色）	パワーステアリング警告灯(1)
	燃料残量警告灯
	運転席／助手席シートベルト非着用警告灯
REAR	リヤ席シートベルト非着用警告灯（ヘッドアップディスプレイ非装着車）
REAR	リヤ席シートベルト非着用警告灯（ヘッドアップディスプレイ装着車）
	タイヤ空気圧警告灯(1)

（橙色）	LDA 表示灯
（橙色）	LTA 表示灯
（橙色）	PDA 表示灯
（点滅）	Stop & Start キャンセル表示灯(1)
（点滅）	Stop & Start 表示灯(1)
	クリアランスソナー OFF 表示灯★(1)
（橙色）	クルーズコントロール表示灯
（橙色）	レーダークルーズコントロール表示灯
	運転支援情報表示灯(1)
	PCS 警告灯(1)
	スリップ表示灯(1)
（点滅）	パーキングブレーキ表示灯

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

HOLD （点滅）	ブレーキホールド作動表示灯(1)

(1) 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

(2) マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠ 警告

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

関連リンク

警告灯が点灯／点滅した (P.479)

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯
	尾灯表示灯
	ハイビーム表示灯
	AHS 表示灯★(1) AHB 表示灯★(1)
	フロントフォグランプ表示灯
	リヤフォグランプ表示灯★
OFF	PCS 警告灯(1)(3)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

（緑色／白色）	クルーズコントロール表示灯
（緑色／白色）	レーダークルーズコントロール表示灯
（緑色／白色）	LDA 表示灯
OFF	LDA OFF 表示灯(3)
（緑色／白色）	LTA 表示灯
	BSM ドアミラーインジケーター(2)
P OFF	クリアランスソナー OFF 表示灯★(1)(3)
	運転支援情報表示灯(1)(3)
A	Stop & Start 表示灯(1)
A OFF	Stop & Start キャンセル表示灯(1)(3)
（点滅）	スリップ表示灯(1)
OFF	VSC OFF 表示灯(1)(3)
P	パーキングブレーキ表示灯
HOLD	ブレーキホールドスタンバイ表示灯(1)

HOLD	ブレーキホールド作動表示灯(1)
ECO	エコドライブインジケーターランプ(1)
	低温表示灯(4)
	ITS Connect アイコン★
	ITS Connect アイコン★
	ITS Connect アイコン★
PLUS	プラスサポート表示灯★
	PDA 表示灯
	ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯★
ECO	エコドライブモード表示灯
SPORT	スポーツモード表示灯(5)
SPORT S	スポーツ S モード表示灯(6)
SPORT S+	スポーツ S+モード表示灯(6)
CUSTOM	カスタムモード表示灯(6)
	Trail Mode 表示灯★
	制動灯表示灯(7)

(1) 作動確認のためにエンジンスイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

(2) ドアミラーに表示されます。

(3) システムが OFF のときに点灯します。

(4) 外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

(5) F SPORT 以外

(6) F SPORT

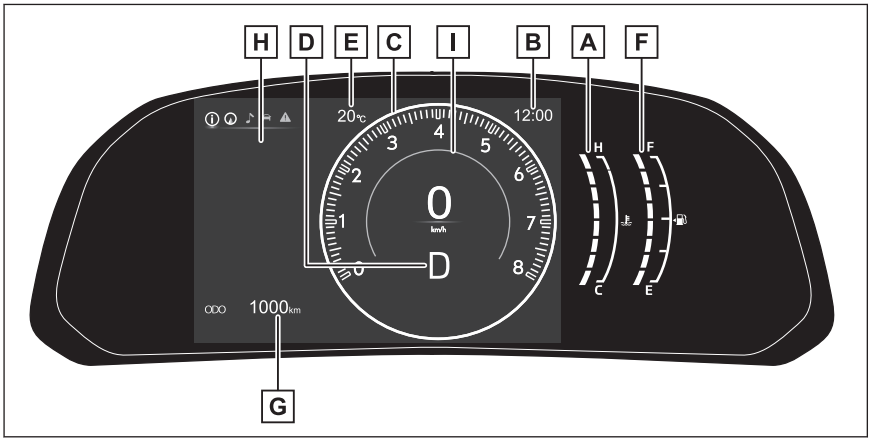
(7) ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

計器類の見方（F SPORT 以外）

▶ヘッドアップディスプレイ非装着車



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

C タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

スピードメーター

設定によって表示が切りかわります。

D シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示

E 外気温

外気温度を-40°C～60°C のあいだで表示します。

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- 少量給油（約 6L 以下）を行ったとき
- 坂道など傾いた場所に停車したとき
- 坂道やカーブを走行したとき

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ

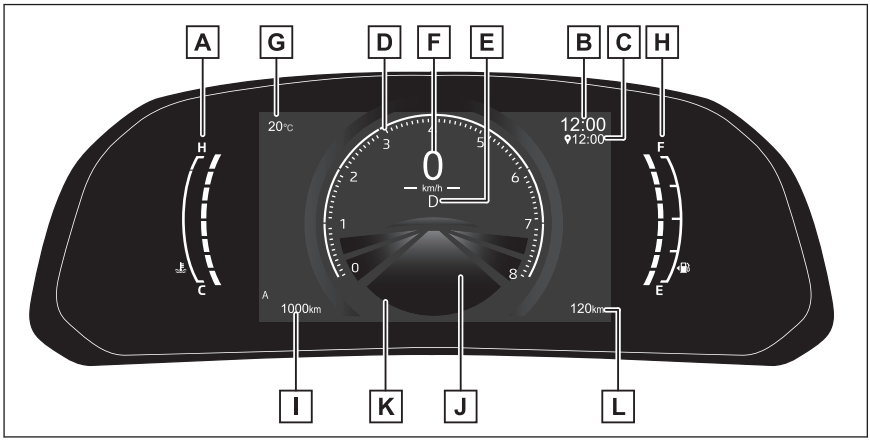
H マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

I ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。

▶ ヘッドアップディスプレイ装着車



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

C ナビゲーションシステム連携到着予定時刻表示★

ナビゲーションシステムと連携して、目的地の到着予定時刻を表示します。

D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

アナログスピードメーター

設定によって表示が切りかわります。

E シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示

F デジタルスピードメーター

G 外気温

外気温度を-40°C～60°C のあいだで表示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- 少量給油（約 6L 以下）を行ったとき
- 坂道など傾いた場所に停車したとき
- 坂道やカーブを走行したとき

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ

J マルチインフォメーションディスプレイ

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行に関する様々な情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

K ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。

L 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

知識

■ **メーター／ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **外気温度表示**

● 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車している時や、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
  - 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

● 「--」または「E」が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **航続可能距離★**

● 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

● 燃料給油量が少量（約 6L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。

■ **液晶ディスプレイ**

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。

これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ **フリー／オープンソースソフトウェア情報について**

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/

警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンや構成部品への損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときや、**「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」**が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

タコメーター／スピードメーターの表示きりかえ

走行モードや設定に応じて、次のように表示が切りかわります。設定はセンターディスプレイで変更できます。

■ ヘッドアップディスプレイ非装着車

- タコメーター

  メーター表示タイプの設定がタイプ1またはタイプ3のときに表示されます。

- スピードメーター

  常に表示されます。

  メーター表示タイプの設定によって表示がデジタルスピードメーターやアナログスピードメーターに切りかわります。

■ ヘッドアップディスプレイ装着車

- タコメーター

  メーター表示タイプの設定がタイプ1のときに表示されます。

  F SPORT：タイプ3のときにも表示されます。

- スピードメーター

  デジタルスピードメーターが常に表示されます。

  メーター表示タイプの設定がタイプ2のときは、アナログスピードメーターも表示されます。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

走行距離の表示を切り替える／走行距離をリセットする

次の表示項目を切りかえることができます。

- オドメーター

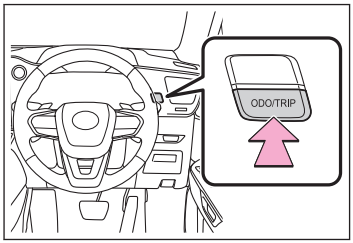
  走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

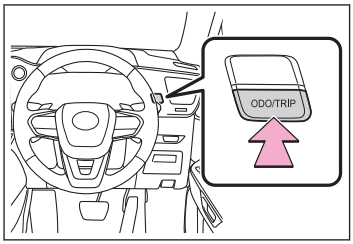
スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



燃料計／航続可能距離を更新する

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。



1 **車両を平坦な場所に停車させます。**

2 **[ODO/TRIP]スイッチを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえます。**

3 **エンジンスイッチを OFF にします。**

4 **[ODO/TRIP]スイッチを押したまま、エンジンスイッチを ON にします。**

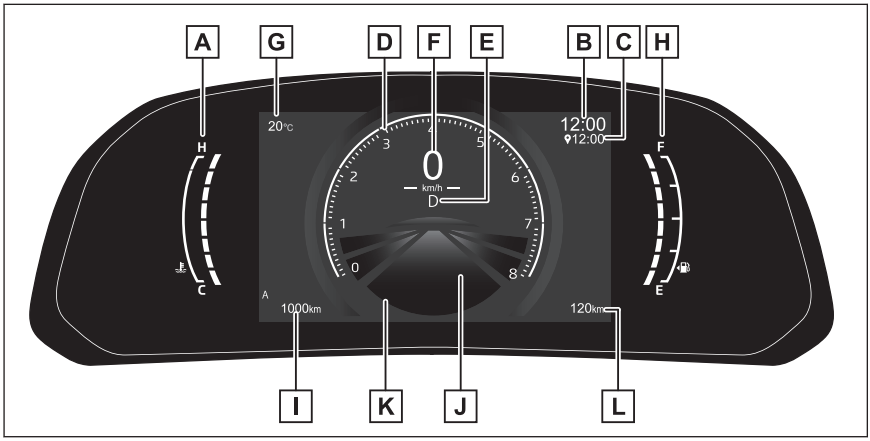
5 **そのまま約 5 秒間[ODO/TRIP]スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなします。**

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

計器類の見方（F SPORT）

シフトポジションや走行モード、設定などに応じて、メーターの表示や一部の計器類の配置が切りかわります。

▶ **リング表示状態**



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

C ナビゲーションシステム連携到着予定時刻表示★

ナビゲーションシステムと連携して、目的地の到着予定時刻を表示します。

D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

- REV インジケーター
- REV ピーク

アナログスピードメーター

走行モードや設定によって表示が切りかわります。

E シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示

F デジタルスピードメーター

G 外気温

外気温度を-40°C～60°C のあいだで表示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- 少量給油（約 6L 以下）を行ったとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 坂道など傾いた場所に停車したとき
- 坂道やカーブを走行したとき

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ

J マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

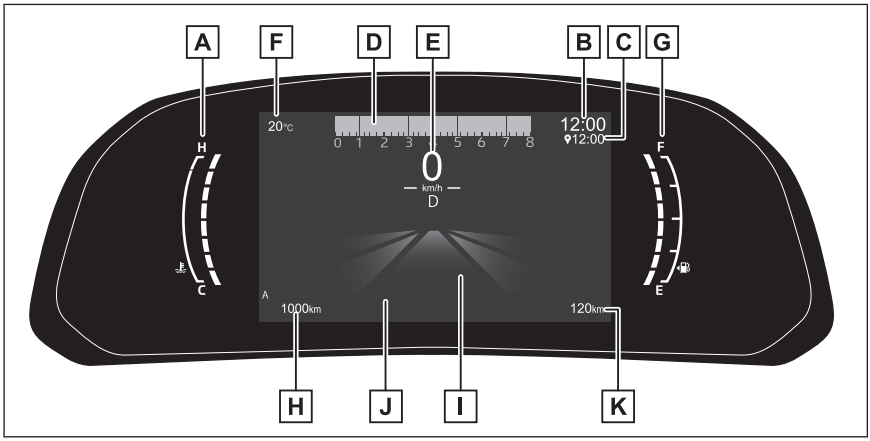
K ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。

L 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ **バー表示状態**



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

C ナビゲーションシステム連携到着予定時刻表示★

ナビゲーションシステムと連携して、目的地の到着予定時刻を表示します。

D タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

- REV インジケーター
- REV ピーク

E シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示／デジタルスピードメーター

F 外気温

外気温度を-40°C～60°C のあいだで表示します。

G 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- 少量給油（約 6L 以下）を行ったとき
- 坂道など傾いた場所に停車したとき
- 坂道やカーブを走行したとき

H オドメーター／トリップメーターディスプレイ

I マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。

J ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色がかわります。

K 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

知識

■ **メーターディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **外気温度表示**

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - 停車している時や、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
  - 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 「--」または「E」が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
  レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **航続可能距離**

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 6L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。

■ **液晶ディスプレイ**

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。

これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ **フリー／オープンソースソフトウェア情報について**

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/

⚠ 警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンや構成部品への損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- タコメーターが表示されているときは、タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がＨのレッドゾーンに入ったときや、**「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」**が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。

関連リンク

タコメーター／スピードメーターの表示きりかえ (P.256)
走行距離の表示を切り替える／走行距離をリセットする (P.256)
燃料計／航続可能距離を更新する (P.257)
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

Rev インジケーター／Rev ピークの表示

■ REV インジケーター

設定したエンジン回転数またはレッドゾーンに到達すると、タコメーターを強調表示します。

設定したエンジン回転数に到達したときは橙色、レッドゾーンに到達したときは赤色で表示されます。

センターディスプレイで、表示を開始するエンジン回転数を設定できます。

■ REV ピーク

5000r/min 以上の回転域で、エンジン回転数の最高値にタコメーターの残像を約 1 秒間表示します。

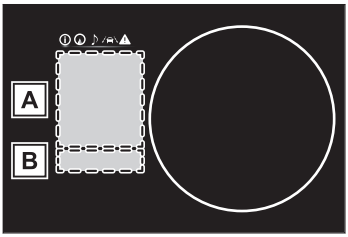
関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ非装着車）

走行に関するさまざまな情報を表示できます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ 表示エリア



A コンテンツ表示エリア

B 運転支援システム情報表示エリア

以外のメニューアイコンを選択しているときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

■ コンテンツ表示エリアの表示項目

メニューアイコンを選択し、次の項目を表示することができます。

-
  走行情報表示
-
  ナビゲーションシステム連携表示★
-
  オーディオシステム連携表示
-
  運転支援システム情報
-
  警告メッセージ

知識

■ 液晶ディスプレイ

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ **運転中の使用**

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ **低温時の画面表示**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

ディスプレイの設定を変更するとき、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

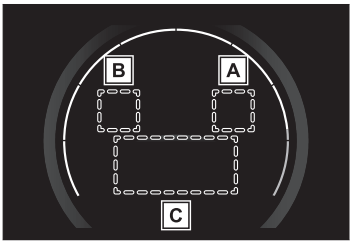
関連リンク

ディスプレイの表示内容 (P.268)
インストルメントパネル照明の明るさを調整する (P.279)

マルチインフォメーションディスプレイの表示（ヘッドアップディスプレイ装着車）

走行に関するさまざまな情報を表示できます。また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

■ 表示エリア



A 運転支援システム情報表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

B ナビゲーションシステム連携表示エリア★

コンテンツ表示エリアでナビゲーションシステム連携表示を表示していないときに目的地案内を表示します。

C コンテンツ表示エリア

■ コンテンツ表示エリアの表示項目

次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション 1
- ドライブインフォメーション 2
- エコドライブインジケーター
- オーディオシステム連携表示
- ナビゲーションシステム連携表示★*1
- ブーストメーター／油温計／油圧計★
- G モニター
- Gear Position
- 運転支援システム情報*1
- ブランク（非表示）

知識

■ 液晶ディスプレイ

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1：ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している場合は、ヘッドアップディスプレイに表示されます。

警告

■ **運転中の使用**

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■ **低温時の画面表示**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

ディスプレイの設定を変更するとき、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

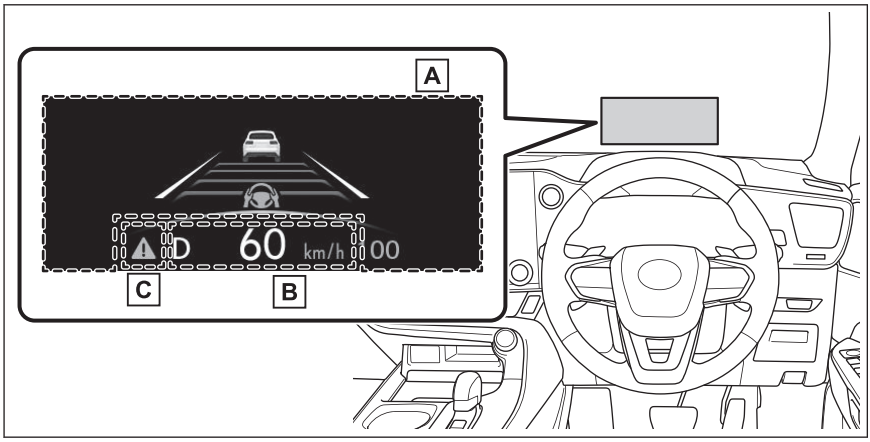
関連リンク

ディスプレイの表示内容 (P.268)
インストルメントパネル照明の明るさを調整する (P.279)

ヘッドアップディスプレイの表示★

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

表示内容は、走行状況やヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。



A メイン表示エリア

次の内容が表示されます。

- 運転支援システム情報
- タコメーター／エコドライブインジケーター
- コンパス★

B 走行状況表示エリア

次の項目が表示されます。

- スピードメーター
- シフトポジション／シフトレンジ／ギヤ段表示

C ⚠ ：マスターウォーニングアイコン

警告メッセージが表示されているときに表示されます。

知識

■ **ヘッドアップディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチが ON のとき

■ **ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タコメーター／エコドライブインジケーターの表示条件

次の条件を満たしたとき、ヘッドアップディスプレイにタコメーターまたはエコドライブインジケーターが表示されます。

- ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している（→P.581）
- LTA（レーントレーシングアシスト）を OFF にしている（→P.314）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を OFF にしている（→P.588）
- 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択した状態で制御を解除している（→P.393,395）

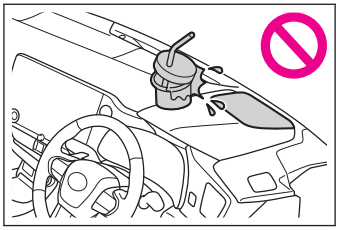
⚠ 警告

ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

⚠ 注意

次のことをお守りください。

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。
  水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
  ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
  装置が故障する原因となります。

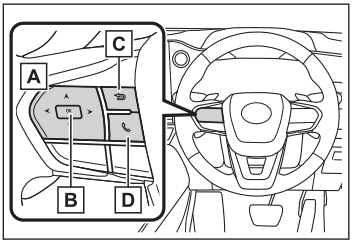
関連リンク

タコメーター／スピードメーターの表示きりかえ (P.256)
ディスプレイの表示内容 (P.268)
ヘッドアップディスプレイの設定を変更する (P.280)
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ディスプレイの表示内容

メーター／ディスプレイの操作

▶ヘッドアップディスプレイ非装着車



A ＜ ／ ＞ ：メニューの切りかえ

∧ ／ ∨ ：表示項目の切りかえ／ページ送り／カーソル移動

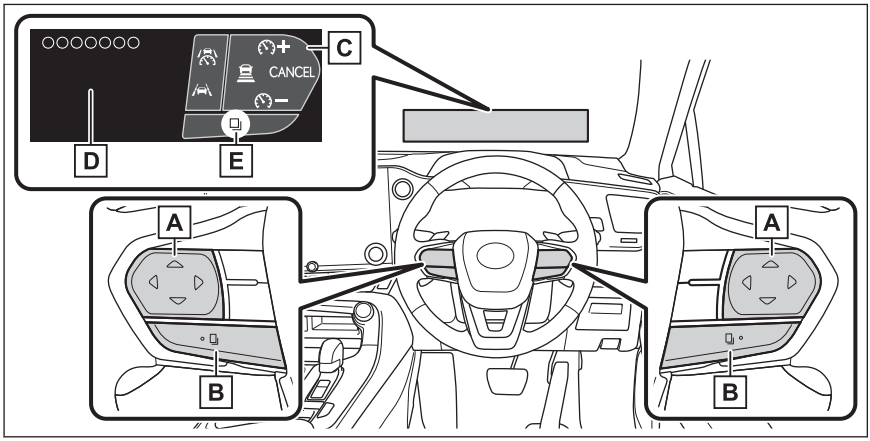
B 決定

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

▶ヘッドアップディスプレイ装着車



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

また、センターディスプレイでお好みの機能をスイッチに設定することができます。

B スイッチを押すごとに、スイッチの機能が切りかわります。

C スイッチアイコン表示

各スイッチのアイコンを表示します。触れているスイッチは強調表示されます。（E）

D スイッチ機能ガイド表示

触れているスイッチの機能ガイドを表示します。

知識

■ ステアリングスイッチに触れても反応しないとき

- スイッチに触れたまま指を動かすと、反応しやすくなります。
- スイッチの表面が汚れている場合は、エンジンスイッチを OFF にしてスイッチを清掃してください。
- 防寒手袋モードを ON にすることで、スイッチセンサーの感度を高くすることができます。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえる（ヘッドアップディスプレイ非装着車）

- メーター操作スイッチの < または > を押します。

走行情報を切りかえる

- メーター操作スイッチの < または > を押して ⓘ を選択し、 ^ または ˇ を押します。

マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえる（ヘッドアップディスプレイ装着車）

知識

■ ステアリングスイッチでの切りかえ

ステアリングスイッチお気に入り機能に 《DISP ／ DISP》 を設定している場合は、 《DISP または DISP》 を押すことで表示を切りかえることができます。

1 センターディスプレイで ⚙ をタッチします。
2 [車両カスタマイズ]をタッチします。
3 [メーター]をタッチします。
4 「メーター表示切り替え」の < または > をタッチします。
選択するたびに表示が切りかわります。

走行情報の表示

走行に関する情報は次のディスプレイに表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイ

- ヘッドアップディスプレイ★
- センターディスプレイ

表示される項目は、ディスプレイによって異なります。

ドライブインフォメーション 1

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

表示される数値は参考として利用してください。

- 瞬間燃費

  現在の瞬間燃費を表示します。

- 通算平均燃費

ドライブインフォメーション 2

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

- 通算平均車速
- 通算走行時間

ドライブインフォメーション 3（ヘッドアップディスプレイ非装着車）

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

- 航続可能距離

  現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

- 始動後平均燃費

  エンジン始動後の平均燃費を表示します。

知識

航続可能距離

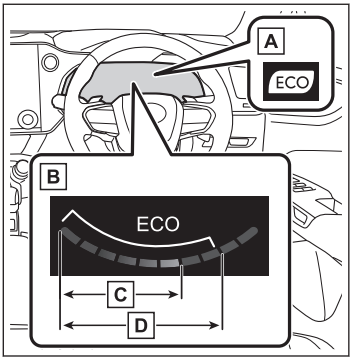
- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 6L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。

エコドライブインジケーター

エコドライブインジケーターはヘッドアップディスプレイ★やマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

イラストは説明のための例であり、仕様によって表示は異なります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

知識

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトポジションが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチを操作しているとき
- 走行モードがスポーツモードのとき
- 走行モードがカスタムモード★で、パワートレーンの制御を POWER にしているとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

ブーストメーター／油温計／油圧計★

マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示できます。

- ブーストメーター

  過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色がかわります。

- 油温計

  エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が 140 ℃以上になると、表示が点滅します。

- 油圧計

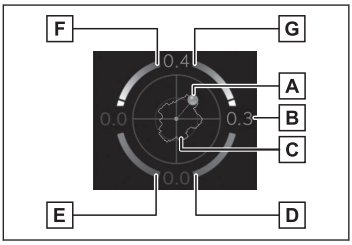
  エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。

G モニター

マルチインフォメーションディスプレイに車両にかかる前後左右の G（加速度）を表示します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

G モニターの周囲にはステアリング操作量／アクセル開度量／ブレーキ液圧が表示されます。



A 車両にかかる G

B 現在の G 値（前後左右に分解した値）

C 最大 G の軌跡

エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

D アクセル開度量

E ブレーキ液圧

F 左側ステアリング操作量

G 右側ステアリング操作量

0.5G 以上の力を発生した場合、G 値表示が橙色に変わり、2 秒間保持されます。（ピークホールド機能）

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。

知識

- 傾斜のある場所など、路面の状況によっては停車中でも G 値が 0 にならない場合があります。
- 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。
- バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

Gear Position

シフトポジションが D または M のとき、現在選択されているシフトレンジ／ギヤ段をマルチインフォメーションディスプレイに表示することができます。

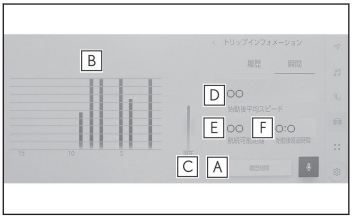
ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

瞬間燃費／燃費履歴画面

燃費に関する情報をセンターディスプレイに表示します。

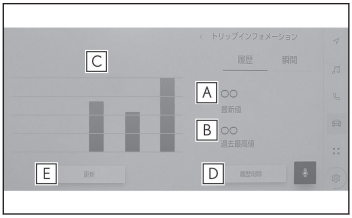
■ 瞬間燃費画面



A 履歴削除
B 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
C 瞬間燃費
D エンジン始動後平均車速
E 航続可能距離
F エンジン始動後経過時間

表示される平均燃費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴画面



A 最新値表示
B 過去最高値表示
C 過去平均燃費表示
D 履歴削除
E 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で[**更新**]を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

[**履歴削除**]を選択すると、燃費データがリセットされます。

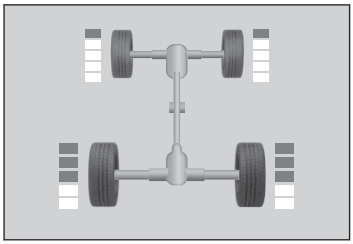
■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

センターディスプレイに瞬間燃費／燃費履歴画面を表示する

1 メインメニューの にタッチします。
2 [トリップインフォメーション]にタッチします。
3 [瞬間]または[履歴]にタッチします。

AWD 作動状態表示（AWD 車）



AWD の作動状態がセンターディスプレイに表示できます。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

駆動力表示：

0～5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

センターディスプレイに AWD 作動状態表示を表示する

1 メインメニューの を選択します。

2 [AWD]を選択します。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。

知識

- エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2,3 分かかります。
  また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2,3 分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは「---」 と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

関連リンク

タイヤ空気圧警報システムのはたらき (P.448)

センターディスプレイにタイヤ空気圧を表示する

1 メインメニューの を選択します。

2 [タイヤ空気圧]を選択します。

運転支援システム情報表示

マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★に次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LCA（レーンチェンジアシスト）★
- RSA （ロードサインアシスト）
- プロアクティブドライビングアシスト
- PCS（プリクラッシュセーフティ）

知識

■ 表示位置（ヘッドアップディスプレイ装着車）

ヘッドアップディスプレイの表示を最大に設定している場合、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアの運転支援システム情報表示は非表示になります。

オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

ナビゲーションシステム連携表示★

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内

  交差点にさしかかったとき、車線／進行方向などのレーン情報が表示されます。
- ストリート名
- コンパス

知識

■ レーン表示

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識／表示や道路状況に従って走行してください。

■ 表示位置（ヘッドアップディスプレイ装着車）

ヘッドアップディスプレイの表示設定によっては、ヘッドアップディスプレイに表示され、マルチインフォメーションディスプレイのコンテンツ表示エリアは非表示になります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

優先的に表示される情報

状況に応じて、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★に割り込み表示されます。

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

運転支援システム

状況に応じて、次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を割り込み表示します。

- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
- LCA（レーンチェンジアシスト）★
- プロアクティブドライビングアシスト
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 安心降車アシスト（ドアオープン制御付）
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★
- 先行車発進告知機能
- ITS Connect★

警告メッセージ

状況に応じて、警告メッセージが割り込み表示されます。

ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにハンドル上のスイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ パワーバックドア機能の ON 切りかえ提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（センターディスプレイでパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

このとき[はい]（ヘッドアップディスプレイ非装着車）または[Yes]（ヘッドアップディスプレイ装着車）を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき[はい]（ヘッドアップディスプレイ非装着車）または[Yes]（ヘッドアップディスプレイ装着車）を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき[はい]（ヘッドアップディスプレイ非装着車）または[Yes]（ヘッドアップディスプレイ装着車）を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ステアリングスイッチ操作表示

■ ヘッドアップディスプレイ非装着車

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに、オーディオ操作の表示がされます。

■ ヘッドアップディスプレイ装着車

ステアリングスイッチに触れると、各スイッチのアイコンとスイッチの機能ガイドが表示されます。

関連リンク

メーター／ディスプレイの操作 (P.268)

ナビゲーションシステム連携情報★

状況に応じて、ナビゲーションシステムと連携した次の項目を表示します。

- ETC に関する通知
- 目的地案内
- レーン（車線）案内

  交差点にさしかかったとき、車線／進行方向などのレーン情報が表示されます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **レーン表示**

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識／表示や道路状況に従って走行してください。

エンジンスイッチを OFF にしたときに表示される項目

エンジンスイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

- 始動後平均燃費*1
- 始動後走行距離*1
- 始動後走行時間*1

*1：エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

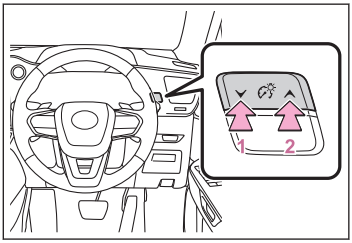
インストルメントパネル照明の明るさを調整する

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

知識

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。



1　暗くする
2　明るくする

ヘッドアップディスプレイ★の設定を変更する

警告

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

  調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは、エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

知識

■ **ステアリングスイッチでの切りかえ**

ステアリングスイッチお気に入り機能に次の項目が設定されているときは、ステアリングスイッチからヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

- ON/OFF ：表示 ON/OFF
- MODE ：表示モード
- ／ ：高さ
- ＋ ／ － ：明るさ

■ **ヘッドアップディスプレイの表示／非表示**

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ **表示の明るさ**

明るさの設定に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ **ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整（ポジションメモリー装着車）**

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。

1 **センターディスプレイで ⚙ を選択します。**

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 [車両カスタマイズ]を選択します。

3 [ヘッドアップディスプレイ]を選択します。

次の項目を設定できます。

- 表示 ON/OFF
- 表示モード
- 高さ
- 明るさ
- 角度

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

6 安全運転を支援する機能

6-1. 安全運転サポート機能の特徴

Lexus Safety System +のソフトウェアアップデート..... 284

Lexus Safety System + ... 287

運転を補助する装置の一覧.... 295

6-2. 安全運転サポート機能を使う

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける 302

車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する..... 312

車線変更するときのハンドル操作を支援する 317

車線からのはみ出しを警告で防ぐ 321

作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する 327

低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる 332

後方にいる車両を検知して車線変更を支援する..... 335

後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する..... 340

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる.. 346

低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる.. 353

低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる360

低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける 365

自車の発進が遅れていることを知らせる 376

標識の見逃し防止をサポートする 378

最適な車間距離を保って追従走行する 382

一定の車速で走行する..... 392

運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる..... 397

プラスサポートを使用する（販売店装着オプション） 400

急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション） 402

交差点で右折時に対向車を検知して音と画面で知らせる（販売店装着オプション） ... 405

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する..... 406

急発進および後退速度を抑制する 407

6-3. 事故による乗員の被害を少なくする

事故の衝撃から乗員を守る.... 408

Lexus Safety System +のソフトウェアアップデート★

G-Link ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート/機能の変更/追加ができます。

警告

■ **安全にお使いいただくために**

Lexus Safety System +は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

レクサス公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Lexus Safety System +の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.1 までの情報を記載しています。Lexus Safety System +各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

納車後にソフトウェア更新がされた場合は、ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

知識

■ **ご使用にあたっての留意事項**

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- G-Link 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

■ **デジタル取扱説明書について**

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

自車の Lexus Safety System +のバージョンにあった取扱方法をお読みいただくには

納車後にソフトウェア更新をされた場合には、システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、レクサス公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

センターディスプレイでバージョンを確認する

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● **運転支援機能の更新に関するお知らせから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。**

自車の Lexus Safety System +のバージョンに合った取扱方法を読む

1 **パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする**

https://manual.lexus.jp/replace.html?param=m78441v.nx.2109.cv.vh

2 **事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する**

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、センターディスプレイに通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、レクサス公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

知識

■ **ソフトウェアアップデートについて留意事項**

● 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

● 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。エンジンスイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON モードにすると前回の続きから再開します。

● ソフトウェアアップデートの実施中でも Lexus Safety System +を使用することができます。

● 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

- システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき*1
- 法規上の問題が発生したとき*1
- 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき*2

*1：すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

*2：通知画面は表示されません。

■ 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリンク
- ソフトウェアの更新

Lexus Safety System +

Lexus Safety System + は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠ 警告

■ Lexus Safety System + について

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に繋がる恐れがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キット・タイヤチェーンなどを装着しているとき

⚠ 警告

- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

■ 運転支援装置

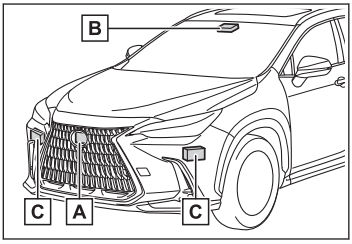
- AHS(アダプティブハイビームシステム)
  →P.152
- AHB(オートマチックハイビーム)
  →P.155
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
  →P.302
- LTA（レーントレーシングアシスト）
  →P.312
- LCA（レーンチェンジアシスト）★
  →P.317
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
  →P.321
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
  →P.327
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★
  →P.332
- 発進遅れ告知機能
  →P.376
- RSA (ロードサインアシスト)
  →P.378
- レーダークルーズコントロール
  →P.382
- ドライバ異常時対応システム
  →P.397

Lexus Safety System + で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

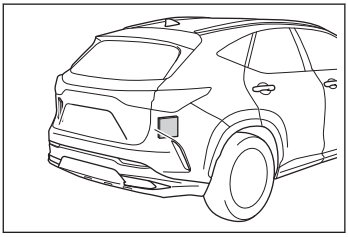
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ フロント



A 前方レーダー
B 前方カメラ
C 前側方レーダー★

■ リヤ



後側方レーダー

⚠ 警告

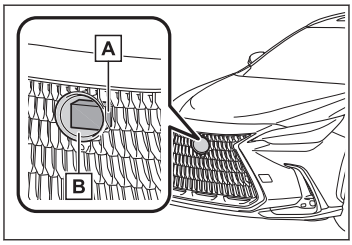
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

  レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

  お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



A レーダー
B レーダー専用カバー

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への衝撃を避ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。

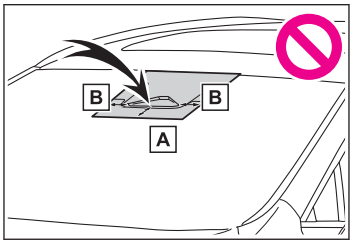
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

  - レーダーを脱着や交換したとき
  - フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。 お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
  - フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm
B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。

  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

警告

- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

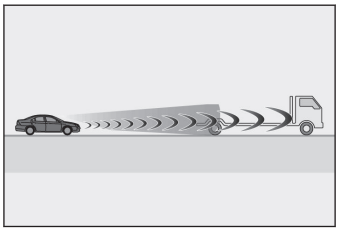
フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

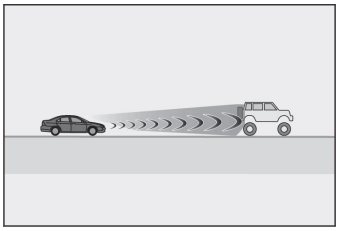
■ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- センサーが極端に高温になっているとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 霧／雪／砂嵐／激しい雨などの悪天候のとき
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
  - トンネル
  - トラス橋
  - 砂利道
  - 轍のある雪道
  - 壁
  - 大型トラック
  - マンホール
  - 鉄板
  - ガードレール
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端･後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれている場合

- 対象車両に雪や泥などが大量に付着している場合
- 次のような道路を走行しているとき
  - 急なカーブや曲がりくねった道
  - 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
  - 左右に傾きのある道
  - 路面に深いわだちがある道
  - 整備されていない荒れた道
  - 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定な場合
- 車線内での自車の位置が一定でない場合
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

■ **車線を検知できないおそれがあるとき**

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■ **システムの一部もしくは全てが作動しないとき**

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC 等の安全システムが作動時
- VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時

■ **ブレーキの作動音や踏み応えの変化について**

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。 どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ **レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

運転を補助する装置の一覧

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト(ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ ダイナミックトルクコントロール AWD★

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時、雪や雨などによりすべりやすい路面など、さまざまな走行状況に応じて前後の駆動力配分を適切に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 後方車両への接近警報

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ NAVI･AI-AVS（AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム）★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。また、ドライブモードセレクトスイッチで走行モードを選択することで、減衰力を切りかえることができます。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

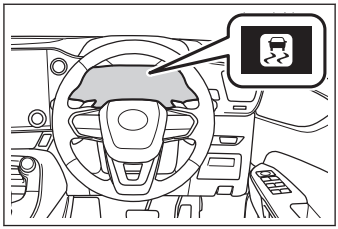
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

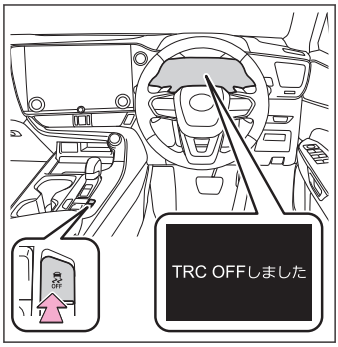


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに[OFF]を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには[OFF] を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。 もう一度[OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ **TRC と VSC を停止するには**

TRC と VSC を停止するには停車時に[OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレに「**TRC OFF しました**」と表示されます。もう一度[OFF]を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ **[OFF]を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき**

TRC が一時的に作動できない状態になっています。

表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ **ヒルスタートアシストコントロールの作動条件**

次のときシステムが作動します。

- シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが ON

■ **ヒルスタートアシストコントロールの自動解除**

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトポジションを P または N にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた

- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- エンジンスイッチが OFF

■ **ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動**

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ **アクティブコーナリングアシストの作動音と振動**

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■ **EPS モーターの作動音**

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ **TRC や VSC の自動復帰について**

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- （TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

  ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ **アクティブコーナリングアシストの作動条件**

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■ **EPS の効果が下がるとき**

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ **後方車両への接近警報の作動条件**

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h～100km/h の間
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■ **後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況**

- 次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥／雪／氷／ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨／雪／霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - 急勾配の上り／下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
  - 後方車両と自車の中心がずれているとき
  - 斜め後方から車両が近付いてくるとき
  - 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
  - 後方車両の周辺に他車が存在するとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
  - 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
  - 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
  - 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
  - 後方車両が近距離まで急接近したとき

■ **緊急ブレーキシグナルの作動条件**

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55 km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ **緊急ブレーキシグナルの自動解除**

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ **セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件**

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

■ **セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件**

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

⚠ 警告

■ **ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ **ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ **TRC や VSC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ **アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき**

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ **ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ **スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC･VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ **TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC･VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ **タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ **タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ **セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

関連リンク

タイヤ／ホイール (P.577)

衝突する前に注意を促してブレーキを掛ける

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象(→ P.302)をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON／OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。(→ P.311)

⚠ 警告

■ **安全にお使いいただくために**

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- 安全にお使いいただくために：→ P.287

■ **プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

● システムを OFF にする必要があるとき：→ P.287

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

● 車両

● 自転車*1

● 歩行者

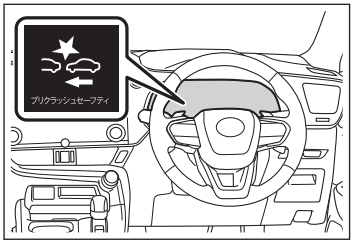
● 自動二輪車*1

*1：人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

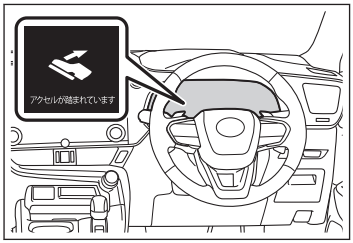
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。



作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。

アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

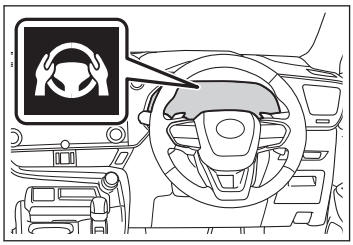
■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルが踏まれるまで停止状態を保持します。

■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

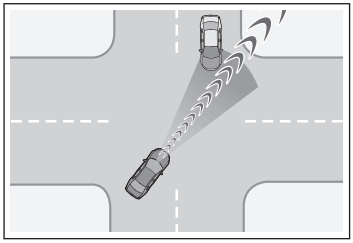
アクティブ操舵機能設定車：運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

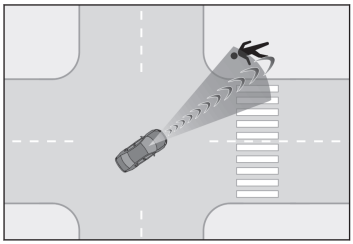
■ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき

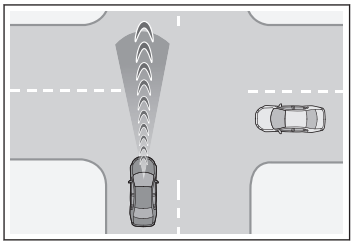


● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者や、自転車を検出したとき



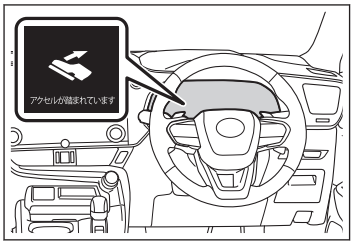
■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS(→ P.296)によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキ作動後のブレーキ保持は、次のような状況では作動しません。状況に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
  - アクセルが踏まれている
  - 交差点支援機能で停止している
  - 急な坂道で停止している
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
  - 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
  - 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。
  - 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトポジションが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

- 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 30 ～ 180 km/h	約 80 ～ 220 km/h
自転車	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 80 km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 30 ～ 180 km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

- プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180 km/h	約 10 ～ 180 km/h
自転車	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h
歩行者	約 30 ～ 80 km/h	約 30 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 10 ～ 80 km/h

- プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 180 km/h
対向車両	約 30 ～ 180 km/h	約 80 ～ 220 km/h
自転車	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
歩行者	約 5 ～ 80 km/h	約 5 ～ 80 km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180 km/h	約 5 ～ 80 km/h

作動対象	自車速度	相対速度
対向自動二輪車	約 30 ～ 180 km/h	約 30 ～ 180 km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80 km/h アクティブ操舵機能： ※ ~80 km/h	約 40 ～ 80 km/h アクティブ操舵機能： ※ ~ 80 km/h
※下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度		

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ブレーキペダルを踏む

● 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h
歩行者	約 5 ～ 30 km/h	-	約 5 ～ 40 km/h
自転車	約 5 ～ 30 km/h	-	約 5 ～ 50 km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40 km/h	約 5 ～ 75 km/h	約 10 ～ 115 km/h

● 交差点支援(出合頭車両)

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両（側面）	約 5～60km/h	● 自車速度以下 ● 約 40km/h 以下	約 5～60km/h
自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60 km/h	● 自車速度以下 ● 約 40km/h 以下	約 5～60km/h

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

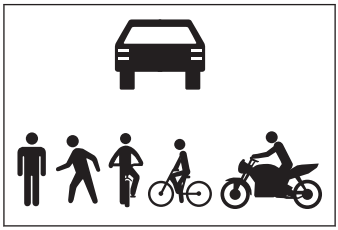
作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h
自転車	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h
歩行者	約 0 ～ 15 km/h	約 0 ～ 15 km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- アクセルペダルを離す
- ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

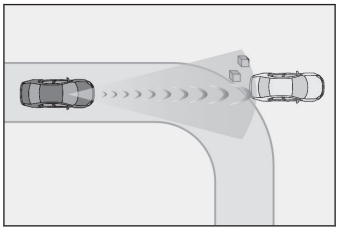
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

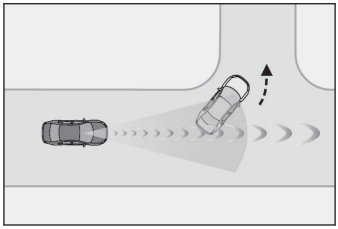
● 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 作動対象などに急接近したとき
- 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

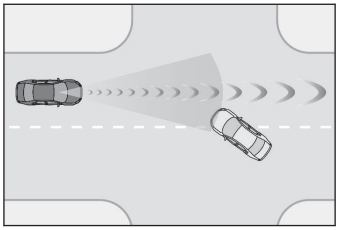


- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

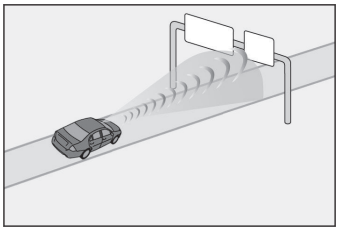
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



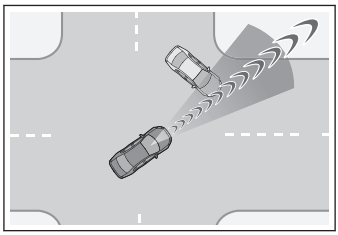
- 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- 右左折中に、対向車/横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車/横断歩行者の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車/横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

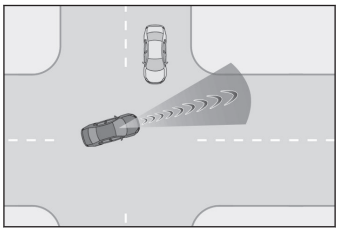


- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

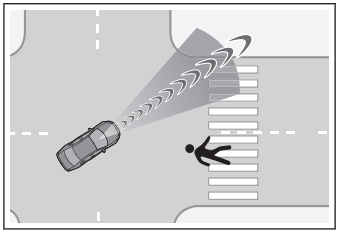
■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

● 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象が急な動きをしたとき(急ハンドル・急加速・急減速など)
- 作動対象に急接近したとき
- 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- 右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき



● 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
- 対象に近づきすぎたとき
- 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- 対向車がいるとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動/非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。→ P.587

エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。→ P.587

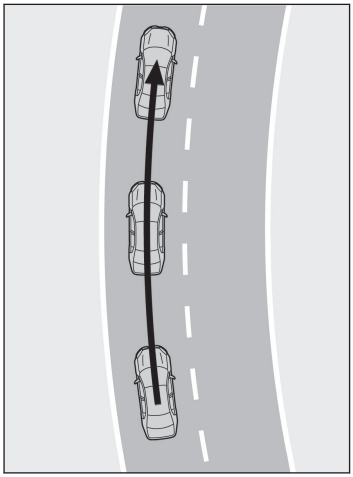
● 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）のタイミングも変更されます。[**遅い**]を選択した場合、緊急時操舵支援（アクティブ操舵機能を除く）はほとんどの場合作動しません。

レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が[**早い**]のタイミングで作動します。

車線内中央の走行維持のハンドル操作を支援する

LTA（レーントレーシングアシスト）

LTA の機能



● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車/周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

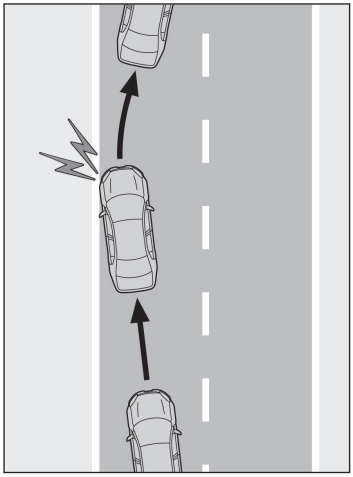
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき、LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車/周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、ディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。

⚠ 警告

■ **LTA をお使いになる前に**

● LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンド

警告

ル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

知識

■ **機能の作動条件**

- 次の条件をすべて満たしたとき作動します。
  - システムが車線を認識しているとき、または先行車/周辺車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
  - レーダークルーズコントロールが作動しているとき
  - 車線の幅が約 3～4m のとき
  - 方向指示レバーを操作していないとき
  - 急カーブを走行していないとき
  - 一定以上の加減速がないとき
  - 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
  - 手放し運転に対する注意喚起(→ P.314)が行われていないとき
  - 車線中央付近を走行しているとき

■ **機能の一時解除**

- 機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。(→ P.313)
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■ **LTA 中の車線逸脱警報について**

- LDA の警報手段を振動に変更していても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■ **手放し運転に対する注意喚起について**

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

● 手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

● 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

LCA 付き車： 次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。

- ハンドルにカバーを取り付けたとき
- 運転者が手袋をしているとき
- ハンドルに異物が付着しているとき
- 部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

LCA 付き車： 次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LTA が継続することがあります。

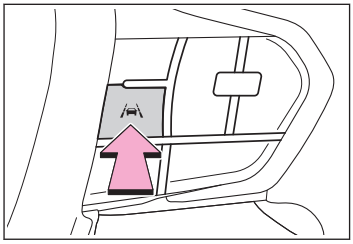
- ハンドルに手以外の物が接触しているとき
- ハンドルに、物や腕等を広い範囲で近づけるとき

システムの ON/OFF を変更する

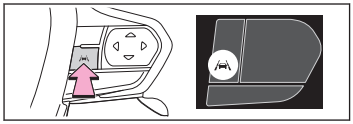
LTA の作動/非作動を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が作動状態のときは LTA 表示灯が点灯します。

▶ **ヘッドアップディスプレイ非装着車**



▶ヘッドアップディスプレイ装着車

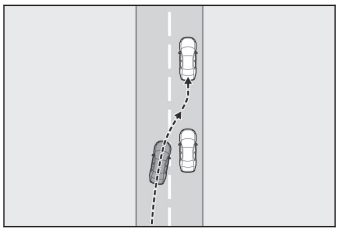


⚠ 警告

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車/周辺車が車線変更したとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



- 先行車/周辺車がふらついたとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車/周辺車が車線から逸脱したとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車/周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車/周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき　（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.293
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.287

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
白色	灰色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	緑色	LTA が作動中
橙色 点滅	橙色 点滅	緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

車線変更するときのハンドル操作を支援する★

LCA（レーンチェンジアシスト）

LCA の機能

LTA と連携し、方向指示レバー→ P.132 を途中で保持することで、車線変更に必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

LCA を利用せず方向指示レバーを途中で保持してレーンチェンジする場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。

警告

■ LCA をお使いになる前に

- LCA を過信しないでください。

  LCA は自動で運転する装置でもレーンチェンジ先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

  また、 レーンチェンジしてはいけない車線（対向車線、 路肩等）に対して LCA を使用しないでください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LTA が作動しているとき
- カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを作動状態に設定したとき
- 自車速度が約 85 ～ 130km/h のとき
- システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき
- システムが車線を変更する側の白線を破線と認識しているとき
- 車線を変更する先に車両が存在しないとき
- ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起→ P.314 が行われていないとき
- エンジン始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **機能の解除**

次のような状況では、LCA が作動途中で解除されることがあります。

- 作動条件が満たされなくなった場合
- システムが車線を認識できなくなったとき
- 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき
- 運転者によるハンドルやブレーキ、アクセルなどの操作をシステムが検知したとき
- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ハンドル振動、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

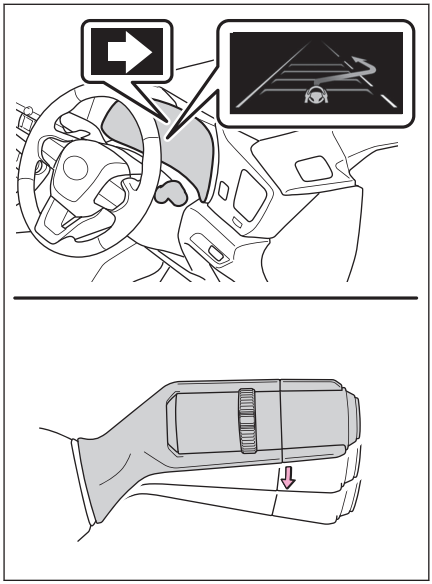
■ **手放し運転に対する注意喚起について**

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

- LCA 作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

LCA の作動方法

方向指示レバーを途中で保持すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。



⚠ 警告

■ **LCA を使用してはいけない状況**

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき
- 自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

システムの ON/OFF を変更する

- LCA の作動/非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。→ P.588

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LCA の作動状態を示しています。

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
灰色矢印 / 緑色線	緑色	LCA がスタンバイ状態
青色矢印 / 白色線		LCA が作動中

LCA 表示	ステアリングアイコン	状態
	 灰色	LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した
なし	 灰色	LCA 作動中に車線を検知できなくなった

車線からのはみ出しを警告で防ぐ

LDA(レーンディパーチャーアラート)

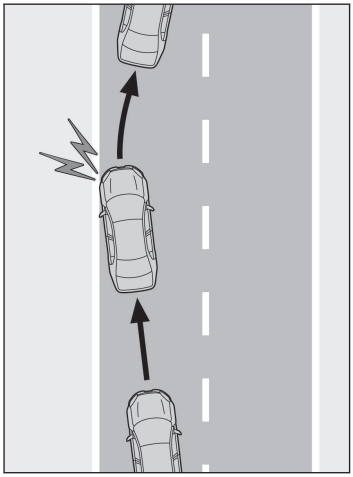
基本機能

車線または走路*1 からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路*1 からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路*1 を前方カメラで認識します。

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路*1 から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。



道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路*1 内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

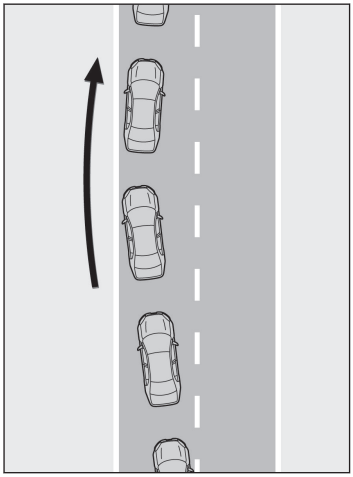
*1 : アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路*1 から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

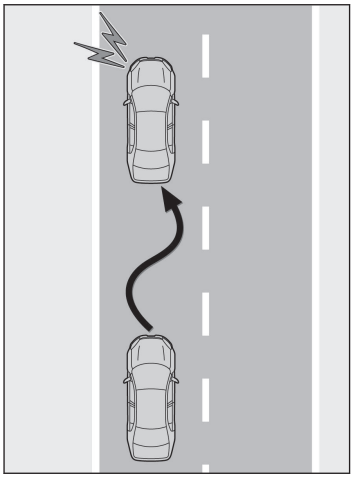
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報/抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき

  車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

  対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低速支援を作動にした時)
- システムが車線または走路*2 を認識しているとき(車線または走路*2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき

  (方向指示灯方向に車両がいる場合は除く)
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

● 休憩提案機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

■ 機能の一時解除

作動条件(→ P.323)が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報/抑制機能の作動について

● 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。

● カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。

● 走路*2 がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。

● 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。

● となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

● 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

*2:アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ **手放し運転に対する注意喚起について**

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

● 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■ **休憩提案機能について**

車両がふらついて走行しているとき、ディスプレイの表示と警報ブザーで休憩をうながします

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
橙色点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	白色	消灯	システムが車線を認識している

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
橙色 点滅	橙色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
緑色	緑色	緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
橙色 点滅	橙色 点滅	緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

LDA の設定を変更する

- LDA の作動/非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。→ P.588
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。→ P.588

⚠ 警告

■ LDA を使用してはいけない状況

次の状況では、システムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- システムを OFF にする必要があるとき: → P.287

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ P.293
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P.291

⚠ 警告

- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.293

作動対象に近づきすぎないようにブレーキやハンドルの操作を支援する

PDA(プロアクティブドライビングアシスト)

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象(→P.327)を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

  必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。(→P.329)
- プロアクティブドライビングアシストは、前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.287

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

状況	作動内容	作動対象
道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	● 歩行者 ● 自転車運転者
道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないよう、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。	● 歩行者 ● 自転車運転者 ● 駐車車両
	ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	

状況	作動内容	作動対象
先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	● 先行車 ● 自動二輪車
自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし

知識

■ **システムの作動車速**

● 道路を横断する作動対象に対する支援
約 30km/h～60km/h

● 道路脇の作動対象に対する支援
約 30km/h～60km/h

● 先行車に対する減速支援
約 20km/h 以上

● カーブに対する減速支援
約 20km/h 以上

■ **システムの作動が停止するとき**

● 次のときシステムは作動を停止します
- レーダークルーズコントロールをセットしたとき
- PCS が OFF のとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき： → P.293
- シフトポジションが P、R または N のとき
- 自車両速度が約 15km/h を下回ったとき
  または、周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

● 次のときシステムは作動を停止する場合があります
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき （例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合

● 次のときシステムの支援を停止する場合があります
- 車線が検出できなくなった場合
- ブレーキ操作を行った場合
- アクセル操作を行った場合
- 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
- 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき

警告

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.293
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき （レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき

⚠ 警告

- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき

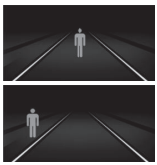
プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動/非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。→ P.589
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。→ P.589

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

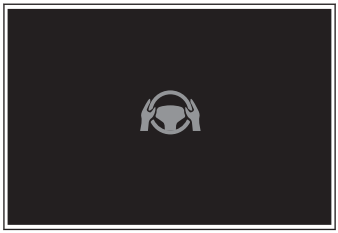
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	● 白色：作動対象監視中 ● 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している

表示	意味
	道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中

知識

■ 手放し運転に対する注意喚起について

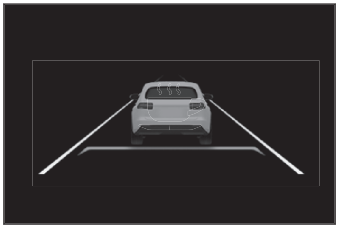


次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

- プロアクティブドライビングアシスト作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

  さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ 先行車への減速支援終了後の注意喚起について



先行車への減速支援が終了後、ドライバによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ドライバの減速操作をうながす注意喚起を行います。ドライバがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。

低速時に交差点などで交差する車を検知して音と画面で知らせる★

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）は、自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

FCTA システムの制御

● 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

▶ ヘッドアップディスプレイ

● 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。 システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ FCTA システムの作動条件

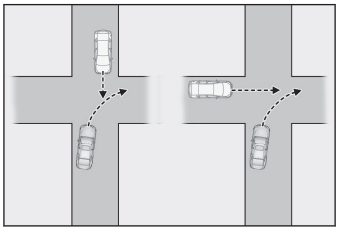
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10～60km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■ 検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

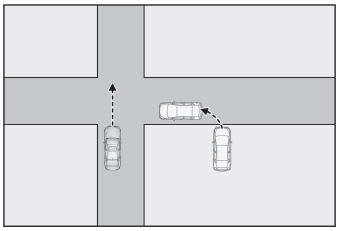
例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- 道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- 路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- 自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- 自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- 自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- 車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- 交差車両が減速し停止するとき
- 交差車両が自車直前で右左折するとき
- 歩行者が自車に接近するとき
- 対向車が右左折するとき
- 交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- 信号待ち時に交差車両が接近するとき
- 右左折など旋回時に交差車両が存在するとき
- 前方から車両が接近し、すれちがうとき
- 後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- 自車が車両や歩行者と並走するとき
- 自車側面に車両や歩行者が接近するとき



■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。



- 交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- 交差車両が自車から遠方を交差するとき
- 自車と交差車両の間に障害物があるとき
- 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.293

FCTA の設定を変更する

- FCTA の作動/非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。→P.588
- FCTA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。→P.588

後方にいる車両を検知して車線変更を支援する

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

ブラインドスポットモニターの役割

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

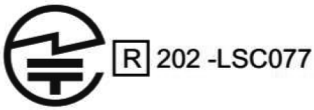
ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱い

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



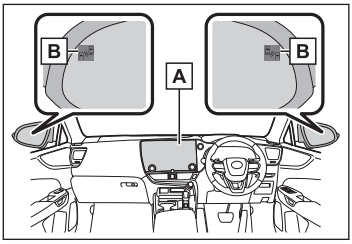
C3-001

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ／自転車／歩行者など*1
- 対向車
- ガードレール／壁／標識／駐車車両などの静止物*1
- 同じ車線を走行する後続車*1
- 2 つ隣の車線を走行する他車*1
- 大きい速度差で自車が追い越す他車*1

ブラインドスポットモニターのシステム構成部品



A センターディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

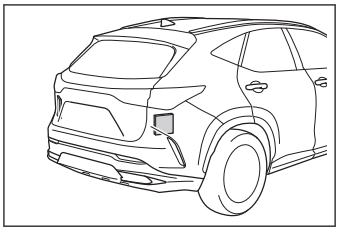
⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

  - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない

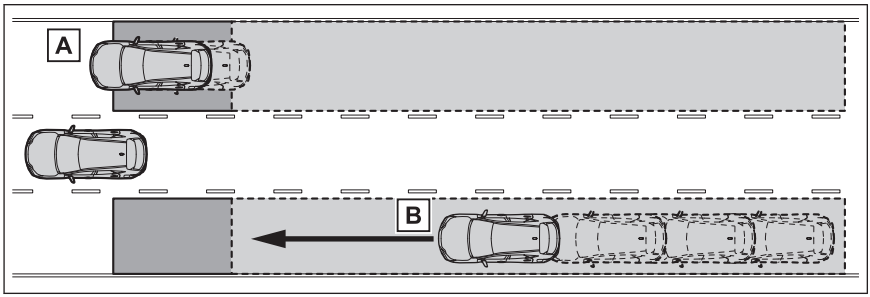
*1：状況によっては検知をすることがあります。

⚠ 警告

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターが検知できる対象

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

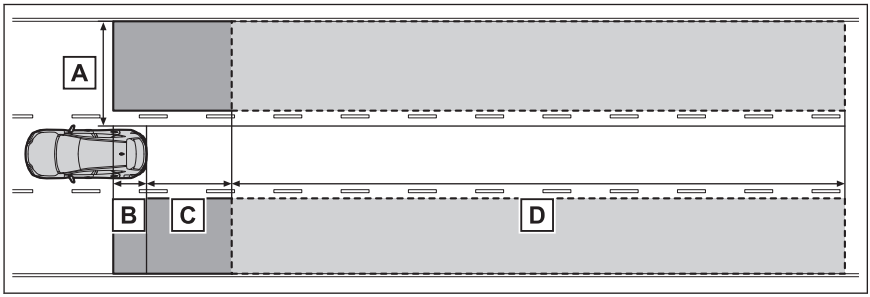


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域*2

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域*3

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイを使って ON/OFF を切りかえます。

1 にタッチします。

2 [運転支援]にタッチします。

3 [ブラインドスポットモニター]にタッチします。

ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯します。

エンジンスイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

知識

■ ブラインドスポットモニターの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき
- シフトポジションが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥／雪／氷／ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨／雪／霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - 自車と後続車の車間距離が短いとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
  - 自車と他車の速度差に変化があるとき

*2：車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

*3：自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯／点滅します。

- 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- 急勾配の上り／下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ブラインドスポットモニターを ON にした直後

● 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- 急勾配の上り／下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- タイヤがスリップ（空転）しているとき
- 自車と後続車の車間距離が短いとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

後方にいる作動対象を検知して音や画面で知らせたりドアの開放をキャンセルしたりして安全な降車を支援する

関連リンク

車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

安心降車アシストの役割

安心降車アシスト（ドアオープン制御付）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員によるドア開き時のドアと車両／自転車の衝突可能性の判断の支援、およびドア開放をキャンセルすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

警告

安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

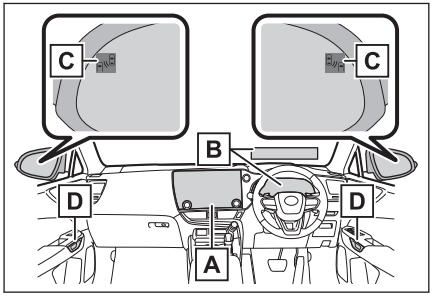
  状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

知識

システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両/自転車や車両/自転車以外のものを検知対象としません。
  - 接近する車両／自転車の速度が遅いとき
  - ドア（バックドアを除く）を開いたときに、衝突する可能性が低いと判断された車両/自転車
  - 真うしろから接近する車両／自転車
  - 前方から接近する車両／自転車
  - ガードレール／壁／標識／駐車車両などの静止物
  - 動物など
- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
  - エンジン OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
  - 自車が完全に停車していないとき

安心降車アシストのシステム構成部品



A センターディスプレイ

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえます。ドア開放をキャンセルした場合に、音声にてシステムが作動したことを通知します。

B メーター／ヘッドアップディスプレイ★／ブザー

衝突の可能性がある状態でドアの開放がキャンセルされた場合に対象のドアをメーター／ヘッドアップディスプレイに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

C ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両／自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知している側のドアを開いた場合やドア開放をキャンセルした場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

D ドア開スイッチ（手動リリースハンドル）

ドアミラーインジケーターが点灯中にドア開スイッチでドアを開けようとした場合に、キャンセルされます。

知識

■ **ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ **ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ **音声の通知について**

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- ドアを開いて乗車後、エンジンスイッチを ON するまで
- エンジンスイッチを OFF 後に 3 分以上経過した場合
- センターディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されている場合

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 外部より全ドアがロックされている場合
- エンジンスイッチを OFF 後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続している場合
- センターディスプレイの ACC モードのカスタマイズが有効となっている状態で、エンジンスイッチが OFF されている場合
- センターディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっている場合

■ **ドア開放キャンセルについて**

車内側ドア開スイッチを押下した時のみ、ドア開放をキャンセルします。車外側ドア開スイッチでのドア開放はキャンセルされません。

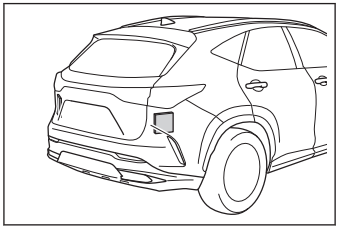
⚠ 警告

■ **システムを正しく作動させるために**

安心降車アシストのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、安心降車アシスト機能が ON の状態でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

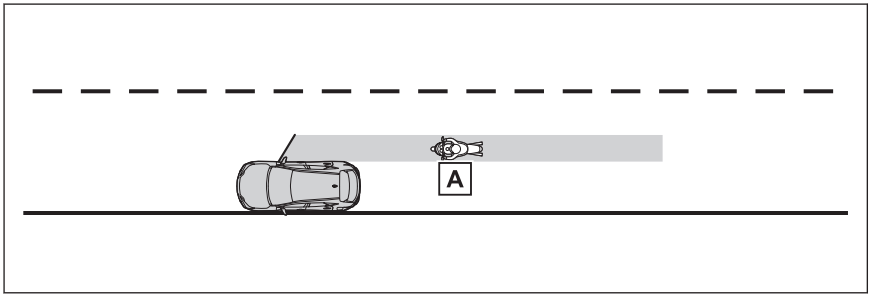
  - センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
  - センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

安心降車アシストが検知できる対象

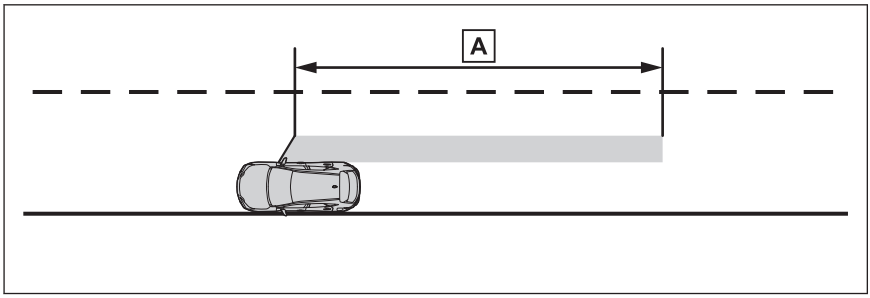
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両／自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、ヘッドアップディスプレイの表示および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両／自転車

安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両／自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域*1

安心降車アシストの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイを使って ON/OFF を切りかえます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

*1：接近する車両／自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両／自転車がより遠くにいる状況で点灯／点滅します。

3 [安心降車アシスト]にタッチします。

安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯します。

エンジンスイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。

知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき、エンジン OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトポジションが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ システムがドア開きをキャンセルしたときの開き方

次の操作で、ドアを開くことができます。

接近してくる車両／自転車が通過、または進路変更した後、周囲を確認してから再度車内のドア開スイッチを押してください。緊急時など、警報中に周囲の安全を確認したうえで、ドアを開きたい場合のみ、下記の操作を実施してください。

- 車内のドア開スイッチを約 3 秒以上押し続ける→ P.341
- 車内のドア開スイッチを 3 回以上連続で素早く押す
- 手動リリースハンドルを引く

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥／雪／氷／ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - 大雨／雪／霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
  - 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
  - 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
  - 発進した直後の車両や自転車
  - バックドアが開いているとき
  - 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
  - 後方に駐車車両や壁／標識などの静止物や人がいるとき

- 道路に対して傾いて停車しているとき
- 接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- 接近する車両や自転車が壁／標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- 車両や自転車が高速で接近するとき
- けん引しているとき
- 急勾配の坂道に停車しているとき
- カーブの途中や終了地点に停車しているとき

● 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- 道路に対して傾いて停車しているとき
- 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- 後方に駐車車両や壁／標識などの静止物や人がいるとき
- 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- 接近する車両や自転車が壁／標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- バックドアが開いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- 車両や自転車が高速で接近するとき
- けん引しているとき
- 急勾配の坂道に停車しているとき
- カーブの途中や終了地点に停車しているとき

低速時に障害物との接近を検知して音と画面で知らせる★

クリアランスソナーの役割

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、センターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート／フォグランプ／フェンダーポール／無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造／分解／塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■ クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

知識

■ クリアランスソナーの作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状／条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金／フェンス／ロープなどの細いもの
- 綿／雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

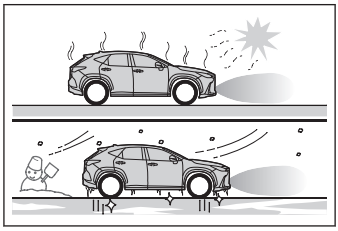
  特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴／氷／雪／泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）

  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



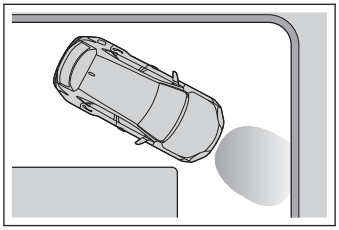
- 凸凹道／坂道／砂利道／草むら走行時など
- 他車のホーン／オートバイのエンジン音／大型車のエアブレーキ音／他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧／雪／砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車／オートバイ／自転車／歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき

- センサー付近にけん引フック／バンパープロテクター／バンパートリム／サイクルキャリア／除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ／ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン／応急用タイヤ／タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

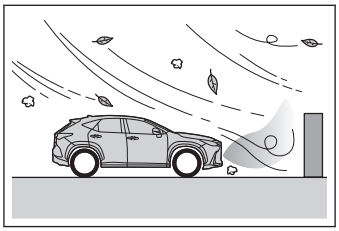
■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

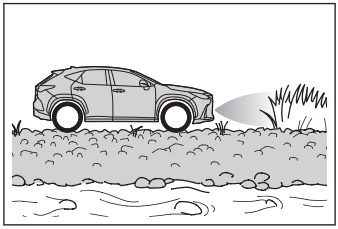


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー／ETC のバー／駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴／氷／雪／泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧／雪／砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン／オートバイのエンジン音／大型車のエアブレーキ音／他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ／ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき

- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道／坂道／砂利道／草むら走行時など

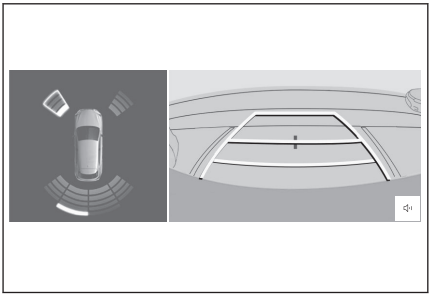


- タイヤチェーン／応急用タイヤ／タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

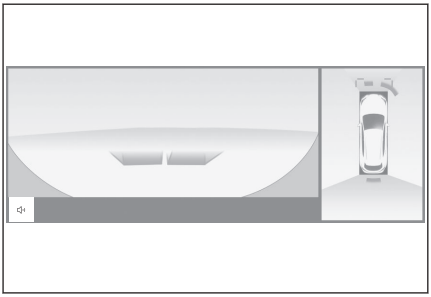
クリアランスソナーの表示

壁などの静止物を検知すると自動的に表示されます。

▶ バックガイドモニター＆サイドモニター★

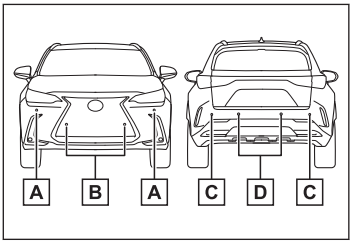


▶ パノラミックビューモニター★



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーのセンサーの位置



A フロントコーナーセンサー
B フロントセンターセンサー
C リヤコーナーセンサー
D リヤセンターセンサー

警告

■ **洗車時の注意**

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。

  強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。

  スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイでクリアランスソナーの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

3 **[クリアランスソナー]にタッチして ON（作動）／OFF（非作動）を変更します。**

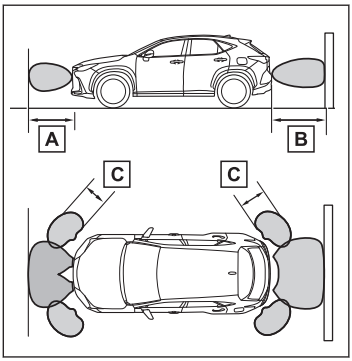
ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー OFF 表示灯が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、センターディスプレイで ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナーの距離表示

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm
B 約 150cm
C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。

ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状／条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

知識

■ センサーの検知範囲

- センサーの検知範囲はフロントバンパー周辺およびリヤバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状／条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ／エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
リヤセンターセンサーのみ: 約 150cm～60cm (1) フロントセンターセンサーのみ: 約 100cm～60cm (1)	断続音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
約 60cm～45cm (1)	早い断続音
約 45cm～30cm (1)	非常に早い断続音
約 30cm 以下、約 15cm 以下 (1)	連続音

(1) 自動ミュート機能あり

クリアランスソナーのブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。
- 静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

クリアランスソナーのブザー音量を設定する

センターディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

1 ⚙にタッチします。
2 [運転支援]にタッチします。
3 [衝突被害軽減支援]にタッチします。
4 [駐車支援音量]から音量を調整します。

クリアランスソナーのブザー音を一時ミュート（消音）する

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に 🔇 スイッチが表示されます。

🔇 を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します。

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

低速時に後方の接近車両を検知して音と画面で知らせる

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の役割

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

知識

■ RCTA 機能の作動条件

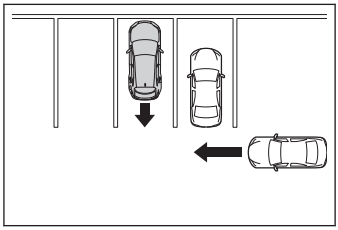
RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- エンジンスイッチが ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～56km/h のあいだのとき

■ システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両

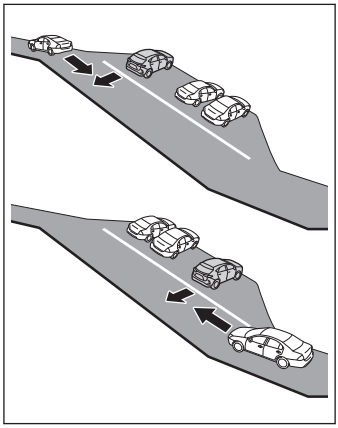


- ガードレール／壁／標識／駐車車両などの静止物
- 小型のオートバイ／自転車／歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

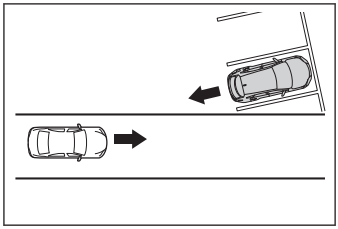
■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥／雪／氷／ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨／雪／霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック／バンパープロテクター／バンパートリム／サイクルキャリア／除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

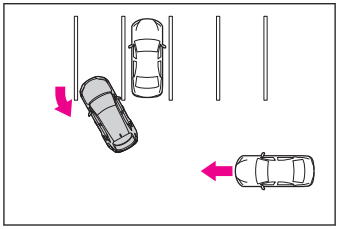


- 斜めの駐車場から出庫するとき

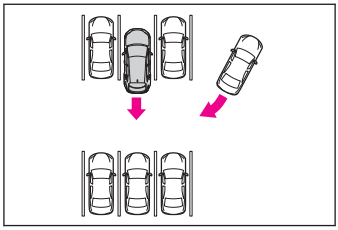


- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

● 自車が旋回しているとき



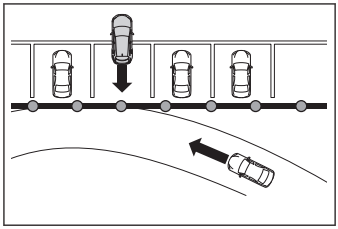
● 旋回しながら車両が近づいてきたとき



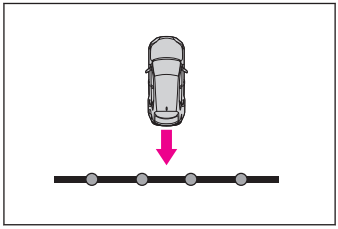
■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

● 駐車場に面した道を車両が走行しているとき

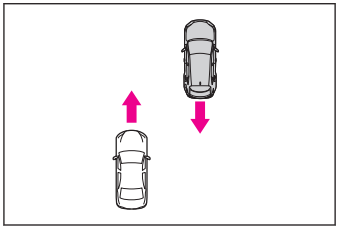


● 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール／壁／標識／駐車車両など）が存在するとき

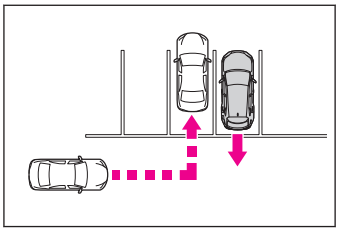


● センサー付近にけん引フック／バンパープロテクター／バンパートリム／サイクルキャリア／除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

● 車両が自車の横を通過するとき

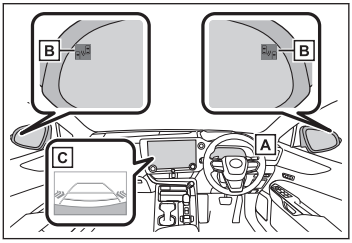


● 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



● 自車近くに室外機などの回転体があるとき
● センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
● 動いているもの（旗／排気ガス／大粒の雨や雪、路面の雨水など）
● ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
● グレーチングや側溝
● 炎天下や寒冷時
● ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
● 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

RCTA のシステム構成部品



A メーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコンが点灯します。また、センターディスプレ

イ上で RCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

知識

■ **ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ **ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

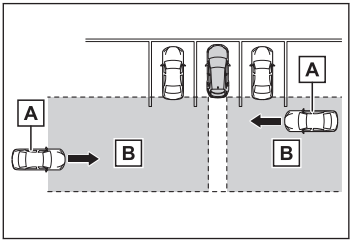
■ **後側方レーダーセンサーについて**

→ P.336

RCTA の機能

RCTA が作動したとき

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



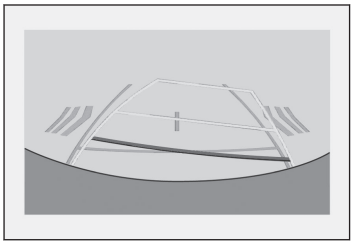
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき（例：バックガイドモニター）

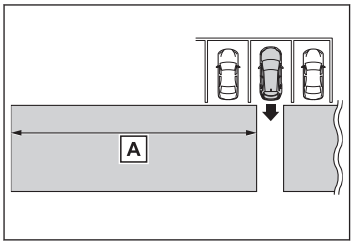


RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

速度が速い車両に対しては、より離れた位置でブザーを鳴らします。

例：



- 接近車両の速度： 56km/h（速い）

  A 警報距離（概算）：20m
- 接近車両の速度： 8km/h（遅い）

  A 警報距離（概算）：5.5m

RCTA の設定を変更する

RCTA の ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイ上で RCTA の ON/OFF を切りかえます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

3 **[リヤクロス トラフィックアラート]にタッチします。**

RCTA 機能が OFF の時は、運転支援情報表示灯が点灯します。

エンジンスイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

RCTA のブザー音量を設定する

センターディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

3 **[衝突被害軽減支援]にタッチします。**

4 **[駐車支援音量]から音量を調整します。**

RCTA のブザー音を一時ミュート（消音）する

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に スイッチが表示されます。 を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

知識

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します。

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

低速時に後方歩行者の接近を検知して音と画面で知らせる★

RCD（リヤカメラディテクション）の役割

車両後退時、リヤカメラやセンサーが後方の歩行者を検知すると、ブザーとセンターディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解／改造／塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー／ステッカーを付けないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

■ RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

知識

■ RCD 機能の作動条件

- エンジンスイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

● 例えば、次のような人はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
- 寝転んでいる人
- 走っている人
- 自車や建物の影から突然現れる歩行者
- 自転車やスケートボード等に乗っている人
- 合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
- カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
- 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

● 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 悪天候（雨、雪、霧等）
- レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
- 強い光がカメラに直接あたっているとき
- 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
- 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
- カメラの位置や向きがずれているとき
- けん引フックを取り付けているとき
- カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- リヤウォッシャーを作動させているとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
- タイヤチェーン／タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- リヤカメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき

■ **システムが作動するおそれがあるとき**

● 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
- 移動物（通行車両、バイク等）
- 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
- 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）

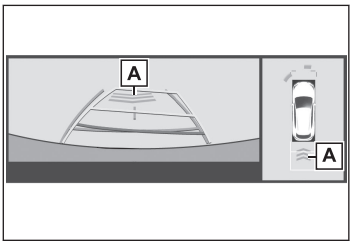
- グレーチングや側溝
- 水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
- 影

● 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- 路肩や段差があるとき
- 勾配変化があるとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
- カメラの位置や向きがずれているとき
- けん引フックを取り付けているとき
- カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
- 点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
- タイヤチェーン／タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

● 検知を妨げる状況
- オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
- 高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

RCD の機能

RCD の表示



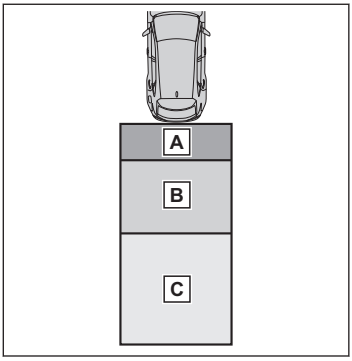
A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

エンジンスイッチが ON になるたび、RCD 機能は ON になります。

RCD の歩行者検知範囲

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをセンサーが検知した場合、下記のようにブザーとセンターディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



A 歩行者がAエリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がB エリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C C エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

RCD の設定を変更する

RCD の ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイで RCD の ON/OFF を変更することができます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

3 **[リヤカメラ ディテクション]にタッチします。**

RCD 機能が OFF の時は、運転支援情報表示灯が点灯します。

RCD のブザー音量を設定する

センターディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

3 **[衝突被害軽減支援]にタッチします。**

4 **[駐車支援音量]から音量を調整します。**

RCD のブザー音を一時ミュート（消音）する

作動対象を検知した場合、センターディスプレイ上に スイッチが表示されます。 を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

知識

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します。

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- エンジンスイッチを OFF にしたとき

低速時に障害物との接近を検知してブレーキをかける ★

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の役割

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。

■ 駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 前後方静止物
- 後方車両
- 後方歩行者

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の機能

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー／シャシーダイナモ／フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶／トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック／バンパープロテクター／バンパートリム／サイクルキャリア／除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン／応急用タイヤ／タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

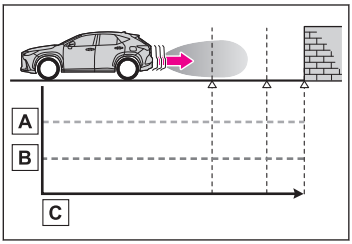
■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

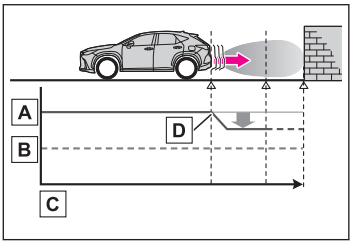
PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）



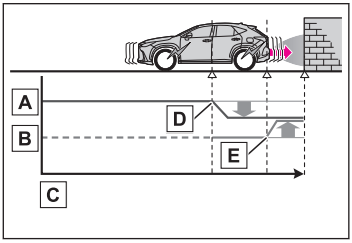
A エンジン出力
B 制動力
C 時間

● 図 2（エンジン出力抑制制御時）



A エンジン出力
B 制動力
C 時間
D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（エンジン出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A エンジン出力
B 制動力
C 時間
D エンジン出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）
E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）システムの復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。

- シフトポジションを P にした
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた
- 車両の進行方向が切りかわった*1

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の ON/OFF を切りかえる

センターディスプレイで PKSB（パーキングサポートブレーキ）システムの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

1 **にタッチします。**

2 **[運転支援]にタッチします。**

3 **[パーキング サポートブレーキ]にタッチして ON（作動）／OFF（非作動）を変更します。**

PKSB システムを OFF した場合、 運転支援情報表示灯が点灯します。

*1：後方歩行者を除く

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、センターディスプレイで ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）のディスプレイ表示とブザー

エンジン出力抑制制御／ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★、センターディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

■ エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

- 一定以上の加速をシステムが制御しているとき
- マルチインフォメーションディスプレイ表示：**「加速抑制中です」**
- ヘッドアップディスプレイ表示★: **「加速抑制中です」**
- センターディスプレイ表示：なし
- 運転支援情報表示灯：消灯のまま
- ブザー：吹鳴なし

■ エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

- 通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき
- マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示★：**「ブレーキ！」**
- センターディスプレイ表示：**「ブレーキ！」**
- 運転支援情報表示灯：消灯のまま
- ブザー：「ピー」（単発音）

■ ブレーキ制御作動中

- 急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき
- マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示★：**「ブレーキ！」**
- センターディスプレイ表示：**「ブレーキ！」**
- 運転支援情報表示灯：消灯
- ブザー：「ピー」（単発音）

■ システム作動により車両停止

- ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- マルチインフォメーションディスプレイ表示：**「アクセルが踏まれています　ブレーキを踏んでください」**アクセルが踏まれていない場合は**「ブレーキを踏んでください」**が表示されます。
- ヘッドアップディスプレイ表示★：**「アクセルが踏まれています　ブレーキを踏んでください」**アクセルが踏まれていない場合は **「ブレーキを踏んでください」**が表示されます。
- センターディスプレイ表示：**「ブレーキを踏んでください」**
- 運転支援情報表示灯：点灯
- ブザー：「ピピピピ」（連続音）

前後方静止物

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジションの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し被害低減に寄与します。

知識

■ 作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- エンジン出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
  - 車速が約 15km/h 以下
  - 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2～4m 先まで）
  - 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
  - エンジン出力抑制制御作動中
  - 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- エンジン出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした
  - 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
  - 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2～4m 先まで）
- ブレーキ制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした
  - ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した

- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
- 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ **検知範囲**

検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲とは異なります。→ P.351

そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動を開始していない場合があります。

■ **ブザーについて**

クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ、ブレーキ制御とエンジン出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

→ P.347

■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

→ P.346

⚠ 警告

■ **万一、踏切などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは**

→ P.365

前後方静止物のセンサーの位置

→ P.350

⚠ 警告

■ **システムを正しく作動させるために**

→ P.346

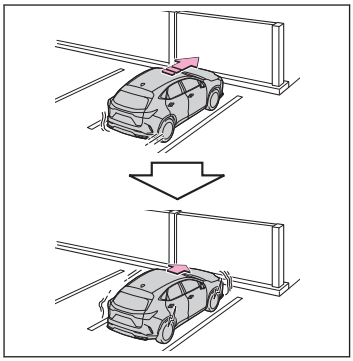
■ **洗車時の注意**

→ P.350

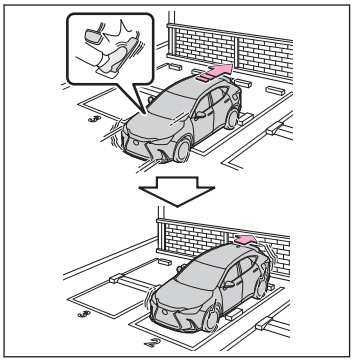
前後方の静止物を検知する

次のようなときに進行方向／側方の静止物を検知してシステムが作動します。

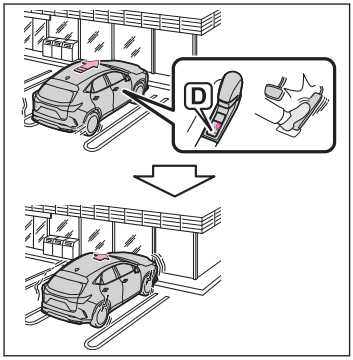
● 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



● アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



● シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



後方車両

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

知識

■ **作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R にあるとき
- 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御
- エンジン出力抑制制御作動中
- 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ **作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

● ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

■ **検知範囲について**

検知範囲は、RCTA の検知範囲とは異なります。→ P.358 そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動を開始していない場合があります。

■ **RCTA のブザーについて**

RCTA 機能の ON/OFF に関係なく、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ、ブレーキ制御が作動すると、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

→ P.353

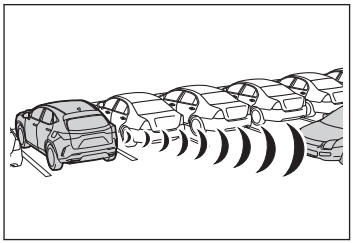
■ **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

→ P.353

後方車両を検知する

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



後方車両のセンサーの種類

→ P.335

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ P.335

後方歩行者

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

知識

■ 作動開始条件

● 運転支援情報表示灯が点灯しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。
- エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- シフトポジションが R にあるとき
- システムが自車後方の歩行者を検知し、衝突する可能性があるとシステムが判断したとき
- 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御
- エンジン出力抑制制御作動中

- 接近歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ **作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● エンジン出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

● ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

● 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

■ **検知範囲について**

検知範囲は、RCD の検知範囲とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動を開始していない場合があります。（→ P.362）

■ **システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

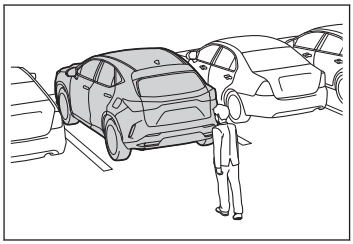
→ P.360

■ **システムが作動するおそれがあるとき**

→ P.360

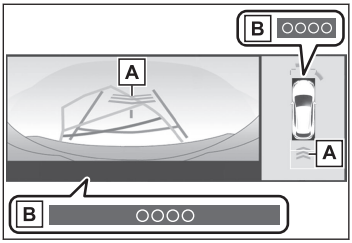
後方歩行者を検知する

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にセンターディスプレイ上に表示され、回避操作を促します。



A 歩行者検知表示
B ブレーキ表示

自車の発進が遅れていることを知らせる

発進遅れ告知機能

発進遅れ告知機能は、先行車の発進または信号が青にかわった後、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

■ 先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

■ 信号切替り告知機能

信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■ 発進遅れ告知機能が作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- その他の状況：→P.291,293

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき
- その他の状況：→P.291,293

■ 信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や、看板などの信号機ではないものを信号機と認識した場合
- 歩行者用/自転車用の信号機の形状が自動車用の信号機と似ている場合
- その他の状況：→P.291

発進遅れ告知機能の設定を変更する

- 発進遅れ告知機能の作動/非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。→P.589
- 発進遅れ告知機能の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。→P.589

標識の見逃し防止をサポートする

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム★（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■ **安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

■ **RSA を使用してはいけない状況**

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.287

■ **機能が正常に作動しないおそれのある状況**

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291

ディスプレイ表示機能

ナビゲーションシステム装着車：前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

ナビゲーションシステム非装着車：前方カメラによって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

- 複数の道路標識を表示できます。

  車の仕様によっては、標識の表示数が制限される場合があります。

知識

■ **標識表示の作動条件**

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **表示機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき

  マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知(例えば、強調表示やブザー吹鳴)します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■ **告知機能の作動条件**

- 速度超過告知に対する作動条件

  次の条件を満たしたとき作動します。

  - 最高速度を表示しているとき
- 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
- 進入禁止標識の間を通過するとき

● 赤信号に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- 車速が約 20～70km/h のとき
- 一定以上の減速がないとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- 先行車がいないとき

■ **告知機能が正常に作動しないおそれのある状況**

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があってもシステムが作動しないおそれがあります。

- 信号機が点滅信号のとき
- 信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- 右左折等により標識が検知できないとき
- 信号機が矢印信号のとき
- 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
- 交差点間の距離が近いとき

● 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。

- 標識や信号機が多数あるとき
- 標識が通常とは異なる大きさのとき
- 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が矢印信号のとき
- 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

● 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止
	一時停止
	赤信号

● 車の仕様によっては、表示される標識が一か所に重複する場合があります。

	重複表示の例

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。→ P.589

最適な車間距離を保って追従走行する

レーダークルーズコントロール

レーダーにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

  - システムが正しく作動しないおそれのある状況： →P.385
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容

  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

  走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容

  レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容

  レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

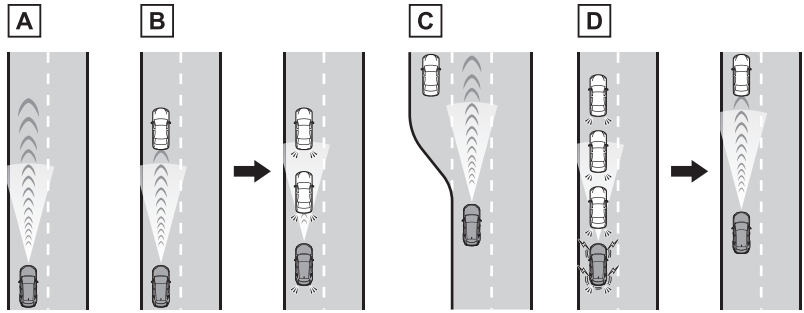
⚠ 警告

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.291
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.287

基本機能



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、[RES] スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

知識

■ **設定条件について**

- シフトポジションが D のとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

  （ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■ **車速設定後の加速について**

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ **追従走行中の停車制御について**

- 制御停車中に[RES]スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約 3 秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ **車間制御モードの自動解除**

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
  - 運転席シートベルトを着用していない
  - 運転席ドアが開いた
  - 車両が停止したあと約 3 分経過した
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P.293

■ **レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー**

安全にお使いいただくために：→ P.287

■ **センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報(→ P.389)も作動しないおそれがあります。

- 割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

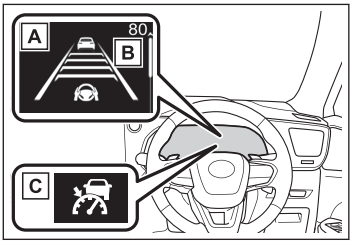
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

システムの構成部品

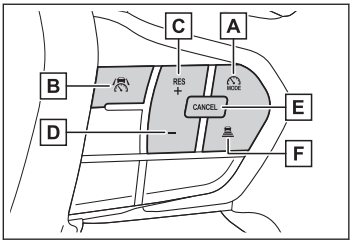
■ メーター表示



A マルチインフォメーションディスプレイ
B 設定速度
C 表示灯

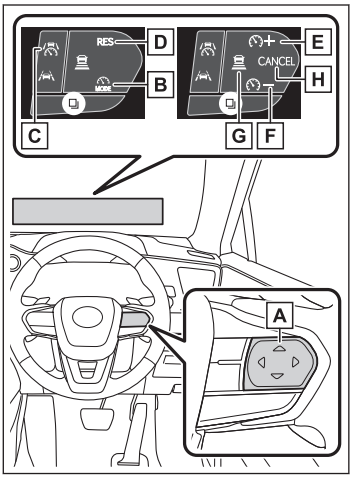
■ 操作スイッチ

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



A 走行支援モード選択スイッチ
B 走行支援スイッチ
C [+]スイッチ、[RES]スイッチ
D [-]スイッチ
E キャンセルスイッチ
F 車間距離切りかえスイッチ

▶ ヘッドアップディスプレイ装着車



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

B 走行支援モード選択スイッチ

C 走行支援スイッチ

D [RES]スイッチ

E [+]スイッチ

F [-]スイッチ

G 車間距離切りかえスイッチ

H キャンセルスイッチ

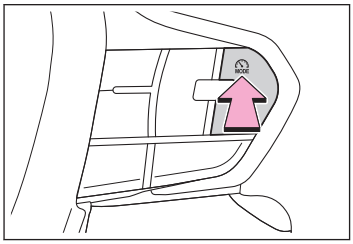
レーダークルーズコントロールを使用する

速度を設定する

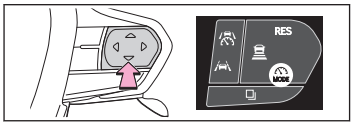
1 **走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズコントロールを選択します。**

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



▶ ヘッドアップディスプレイ装着車

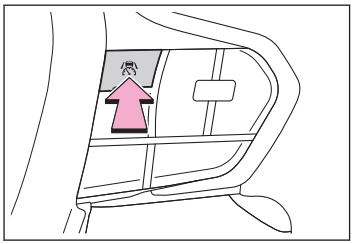


2 **希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する**

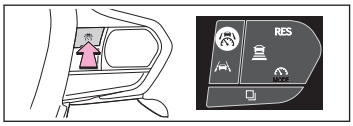
マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



▶ ヘッドアップディスプレイ装着車

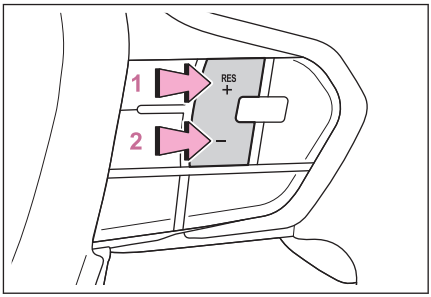


設定速度をかえる

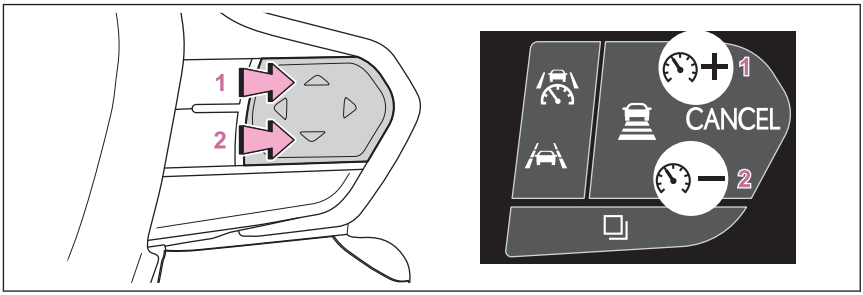
■ スイッチで設定速度をかえる

● **設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで[+]スイッチまたは[-]スイッチを押します。**

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



▶ ヘッドアップディスプレイ装着車



1 速度を上げる

2　速度を下げる

短押し：スイッチを押す

長押し：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます:

短押し：スイッチを操作をするごとに 1km/h

長押し：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

■ **アクセルペダルで設定速度を上げる**

1　**設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速します。**

2　**[+]スイッチを押します。**

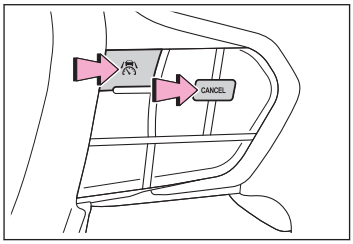
制御を解除する・復帰させる

1　**制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す**

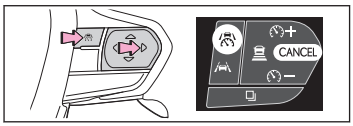
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

▶ **ヘッドアップディスプレイ非装着車**



▶ **ヘッドアップディスプレイ装着車**



2　**制御を復帰させるには、[RES]スイッチを押す**

車間距離を変更する

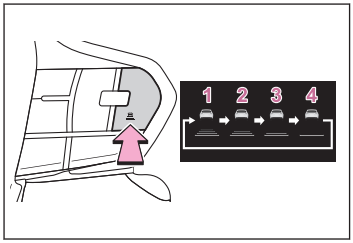
● **スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。**

車がいる場合、先行車マークも表示されます。

イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/h の場合）
1	最長	約 70m
2	長	約 60m
3	中	約 45m
4	短	約 30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

▶ **ヘッドアップディスプレイ非装着車**



▶ **ヘッドアップディスプレイ装着車**

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

カスタマイズメニューからカーブ速度抑制機能の各種設定を変更できます。
(→ P.589)

車線変更時の補助機能

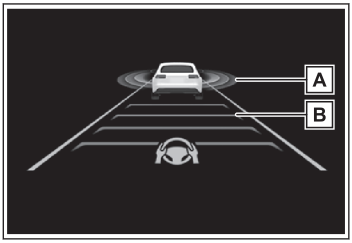
約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク
B 車間距離表示

知識

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■ **通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況**

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ **通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する**

カスタマイズメニューから、通信利用型クルーズコントロールの作動/非作動を変更することができます。(→ P.590)

一定の車速で走行する

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

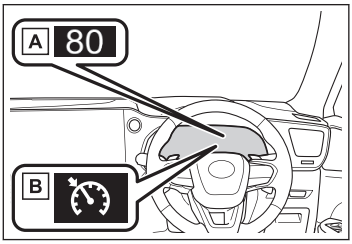
次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- システムを OFF にする必要があるとき： →P.287

システムの構成部品

■ メーター表示

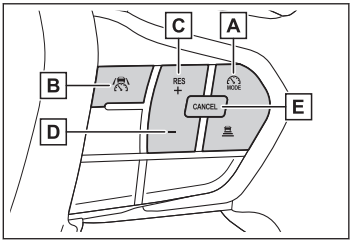


A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

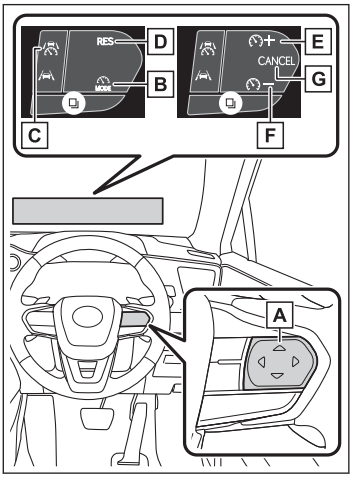
■ 操作スイッチ

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



A 走行支援モード選択スイッチ
B 走行支援スイッチ
C [+]スイッチ、[+RES]スイッチ
D [-]スイッチ
E キャンセルスイッチ

▶ ヘッドアップディスプレイ装着車



A 状況や設定によって、スイッチの機能がかわります。

スイッチに触れると、各スイッチの機能がヘッドアップディスプレイに表示されます。ヘッドアップディスプレイが OFF のときはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

B 走行支援モード選択スイッチ
C 走行支援スイッチ
D [RES]スイッチ
E [+]スイッチ
F [-]スイッチ
G キャンセルスイッチ

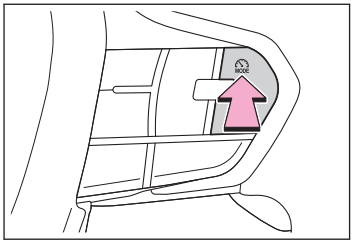
クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

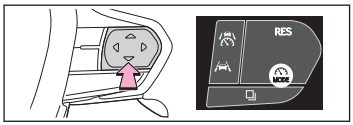
1 **走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールを選択します。**

クルーズコントロール表示灯が点灯します。

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



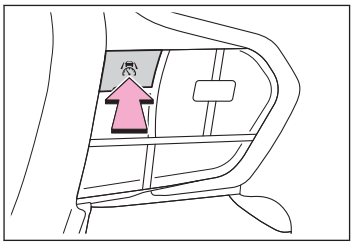
▶ ヘッドアップディスプレイ装着車



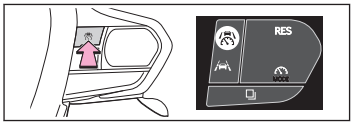
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



▶ ヘッドアップディスプレイ装着車

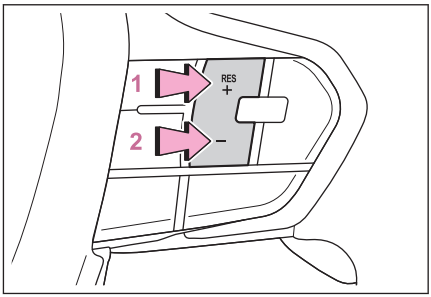


設定速度をかえる

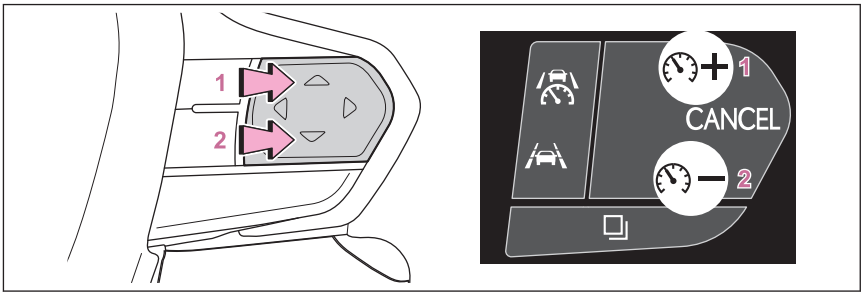
■ スイッチで設定速度をかえる

● 設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで[+]スイッチまたは[-]スイッチを押します。

▶ ヘッドアップディスプレイ非装着車



▶ヘッドアップディスプレイ装着車



1　速度を上げる

2　速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます:

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

■ アクセルペダルで設定速度を上げる

1　設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

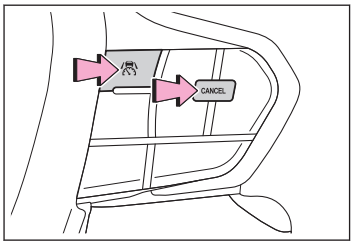
2　[+]スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる

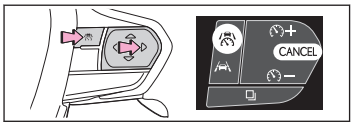
1　制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

▶ヘッドアップディスプレイ非装着車



▶ヘッドアップディスプレイ装着車



2　制御を復帰させるには、[RES]スイッチを押す

クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

● 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき （例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき： →P.293

運転者の異常時に自動的に車線内で自車を停車させる

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。「警告 1 フェーズ」、「警告 2 フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常/異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- システムが自動車専用道路と認識しているとき
  システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。
- LTA を ON にしているとき
- 自車速が約 50km/h 以上

■ **作動解除条件**

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
- レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき
- ドライバ操作が検出されたとき（ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作）
- 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
- 停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき
- エンジンスイッチを ON から OFF にしたとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.293

■ **作動解除時の LTA 制御**

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー（断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

警告 2 フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を約 50km/h まで減速させます。

一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

異常状態から復帰するまでオーディオのミュート(消音）が継続します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅と

ホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

⚠ 警告

ヘルプネット自動接続は、G-Link 通信エリア内、かつ G-Link 契約がされている場合にのみ行われます。G-Link 通信エリア外や G-Link 未契約、G-Link 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の G-Link 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

プラスサポートを使用する（販売店装着オプション）

プラスサポートはお客様の運転を補助し、より安心なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ 機能の追加

急アクセル時加速抑制、交差点対向車注意喚起

■ 音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

PCS(プリクラッシュセーフティシステム)、RSA(ロードサインアシスト)、急アクセル時加速抑制、PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■ 通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

PCS(プリクラッシュセーフティシステム)、LDA(レーンディパーチャーアラート)、RSA(ロードサインアシスト)、BSM(ブラインドスポットモニター)、PDA(プロアクティブドライビングアシスト)、RCTA（リアクロストラフィックアラート）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）、安心降車アシスト、クリアランスソナー

知識

■ カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

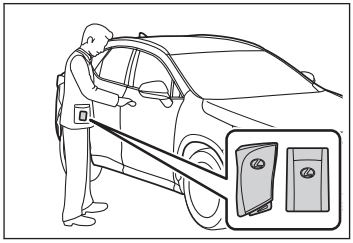
サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを起動する

1 **サポキーを携帯していることを確認して、ドアをロック解除します。**

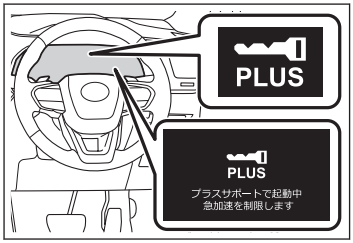
エンジンスイッチが OFF 以外の状態でドアがロック解除されているときは、サポキーでドアをロック解除しても、プラスサポートは作動可能になりません。



- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが起動しない場合があります。

2 **通常の手順でエンジンを始動します。**

3 **[プラスサポートで起動中 急加速を制限します] というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認します。**



エンジンスイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

4 **ヘッドアップディスプレイ非装着車：メーター操作スイッチの を押してメッセージを非表示にします。ヘッドアップディスプレイ装着車:ステアリングスイッチの を押してメッセージを非表示にします。**

または、 を押すまで、[**プラスサポートで起動中 急加速を制限します**] のメッセージは表示されたままになります。

プラスサポートが不要なとき

標準装備の電子キーを携帯してドアをロック解除し、エンジンを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

急なアクセル操作による加速の抑制（販売店装着オプション）

プラスサポートを使用することで、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

急アクセル時加速抑制

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

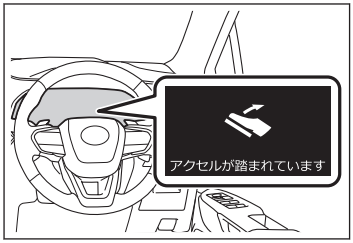
■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P／N 以外のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

  次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h までゆるやかに加速します。*1
- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間
- 急な上り坂に自車がいるとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両姿勢の変化
  - 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ／ノーズダウンなど）
  - ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
  - 坂道／凸凹道／砂利道などの非舗装路を走行しているとき
  - 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
  - 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき

*1：状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

- スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■ **加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況**

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

● 車両姿勢の変化
- 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ／ノーズダウンなど）
- ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響
- 坂道／凸凹道／砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

● 運転操作の影響
- 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ETC ゲート通過後に急加速したとき
- ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点で右折時に対向車を検知して音と画面で知らせる（販売店装着オプション）

プラスサポートを使用することで、交差点対向車注意喚起によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

交差点対向車注意喚起

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

知識

■ 交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約１５～３０ｋｍ／ｈ	約１０ｋｍ／ｈ以上
対向自動二輪車	約１５～３０ｋｍ／ｈ	約２５ｋｍ／ｈ以上

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する

ブレーキオーバーライドシステムの役割

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ブレーキオーバーライドシステムが作動し、エンジン出力を抑制する場合があります。ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

警告

踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進するおそれがあります。

注意

運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。

急発進および後退速度を抑制する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき*1
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき*1

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにエンジン出力を抑制*2 します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに**「速度抑制中」**が表示されます。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止すると、急発進の抑制制御も停止*3 します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。

  また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

  - トレイルモードを ON にしているとき
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。
  - エンジンスイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
  - 後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

関連リンク

運転を補助する装置の一覧 (P.295)
ドライブスタートコントロール (P.595)
車両カスタマイズ設定一覧 (P.580)

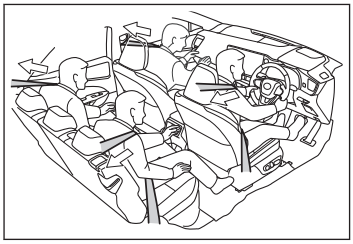
*1：状況によっては操作できない場合があります。
*2：状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。
*3：後退速度の抑制制御は作動します。

事故の衝撃から乗員を守る

シートベルトプリテンショナーの役割

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠ 警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

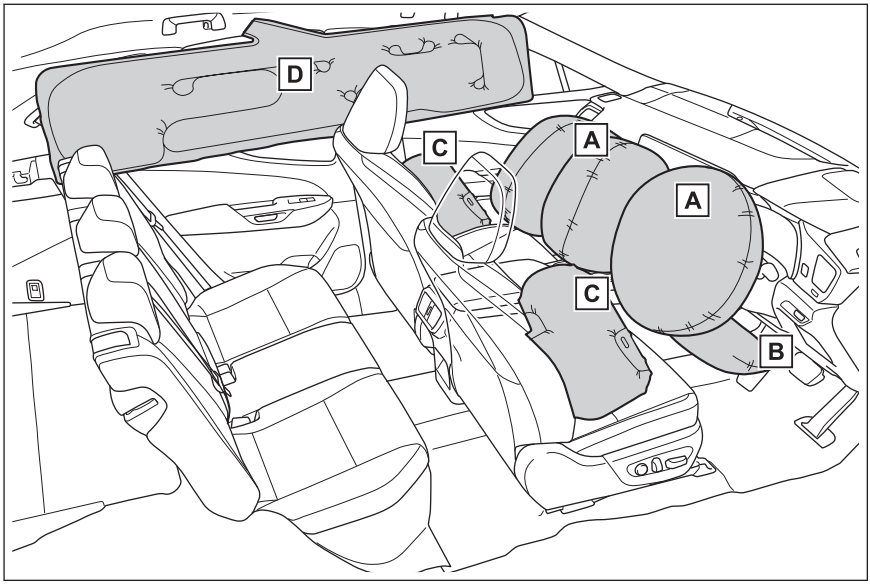
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。

その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグの役割

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者乗員の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ

● フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

● SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

● 作動音と共に白いガスが発生します。

● エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

● フロントウインドウガラスが破損することがあります。

● すべてのドアが解錠されます。

● 自動的にブレーキと制動灯を制御します。

● 室内灯が自動で点灯します。

- 非常点滅灯が自動で点滅します。
- 燃料供給を停止します。
- G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。
  - SRS エアバッグが作動した
  - シートベルトプリテンショナーが作動した
  - 後方から強い衝撃を受けた

■ **正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき**

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  - フロント SRS エアバッグ
  - SRS ニーエアバッグ
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
  - 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合

    もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
  - シートベルトプリテンショナー
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

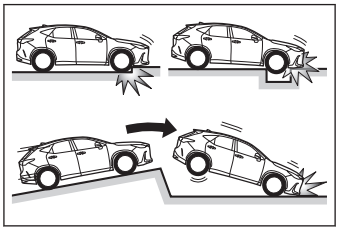
■ **側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき**

- 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  - SRS サイドエアバッグ
  - SRS カーテンシールドエアバッグ
- 車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

● 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

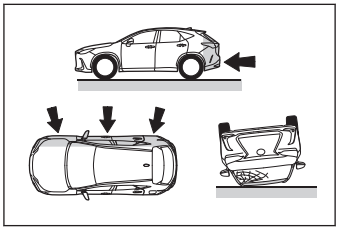
- フロント SRS エアバッグ
- SRS ニーエアバッグ
- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ



■ SRS エアバッグが作動しないとき

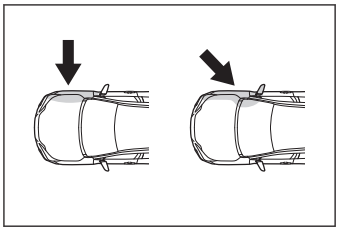
● 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- フロント SRS エアバッグ
- SRS ニーエアバッグ



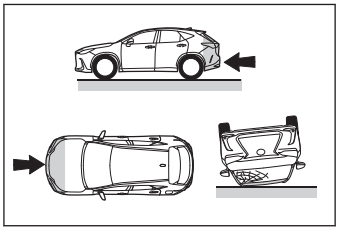
● 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ



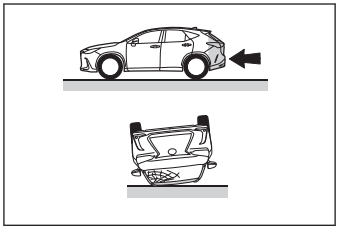
● 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- SRS サイドエアバッグ



● 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

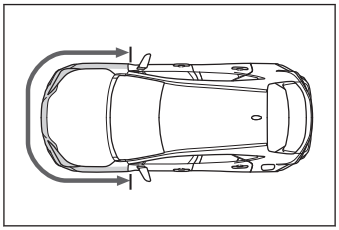
- SRS カーテンシールドエアバッグ



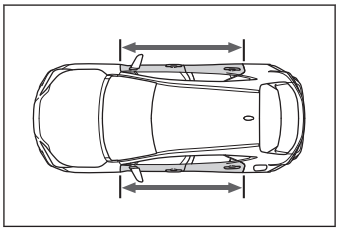
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
  - フロント SRS エアバッグ
  - SRS ニーエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき
  - SRS サイドエアバッグ
  - SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

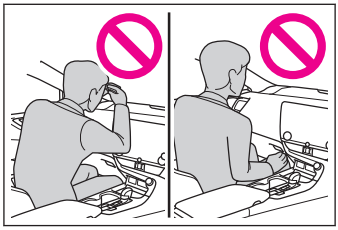
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定して

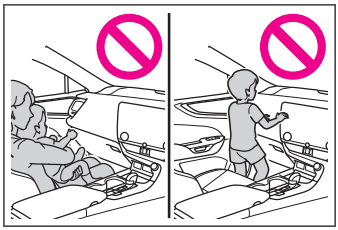
警告

ください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

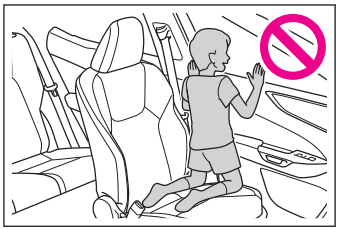


- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



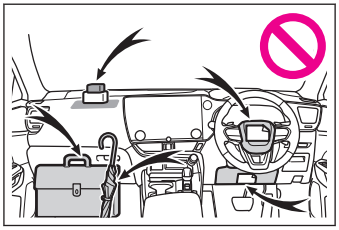
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

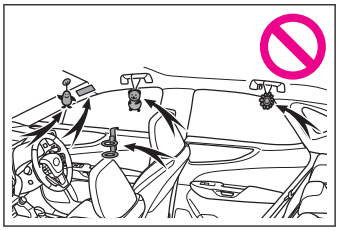


⚠ 警告

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

⚠ 警告

- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
  - ハンドル
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - シート
  - シート表皮
  - フロントピラー
  - センターピラー
  - リヤピラー
  - ルーフサイドレール
  - フロントドアパネル
  - フロントドアトリム
  - フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
  - フロントフェンダー
  - フロントバンパー
  - 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
  - グリルガード
  - 除雪装置
  - ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

関連リンク

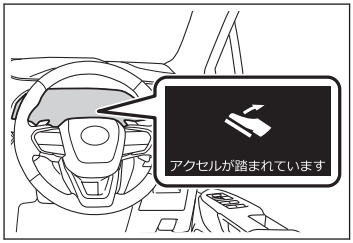
フューエルポンプシャットオフシステムの働き (P.477)
スマートエントリー＆スタートシステムでドアをロック／ロック解除する (P.56)
運転を補助する装置の一覧 (P.295)
室内灯の位置 (P.216)
ハザードランプで他の運転手に知らせる (P.473)
子どもを車に乗せる (P.25)
タイヤパンク応急修理キットでの補修方法（タイヤパンク応急修理キット装着車）(P.515)

衝突時の急加速抑制

■ 衝突時の急加速抑制

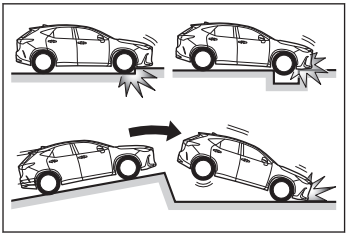
SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるエンジン出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
  - 車速が約 60km/h 以下のとき
  - SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
  - 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
  - アクセルペダルを速く強く踏み込んだ*1 あとに衝突した、または衝突後に アクセルペダルを速く強く踏み込んだ*1 とき
- 次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
  - 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
  - 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
  - ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

⚠ 警告

■ 衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

*1：アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

7 通信で安心、快適、便利を支援するしくみ

7-1. ITS Connect

ITS Connect の概要 418
ITS Connect アイコンの見方 421
ITS Connect 割り込み表示による通知／案内／注意喚起 .. 422

ITS Connect の概要★

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
  - 交差点に DSSS[*1] 用路側装置が設置されていないとき
  - 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき
- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知／案内／注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。

そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知／案内／注意喚起」をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）／出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠ 注意

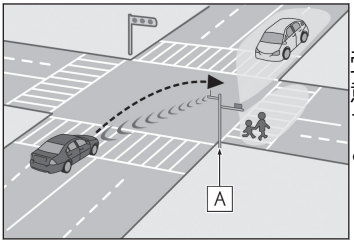
■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。
- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

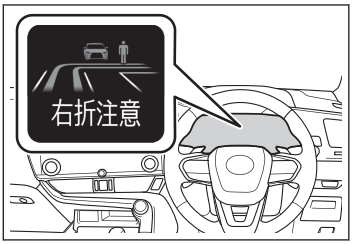
■ 安全運転を支援する通知／案内／注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知／案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。

知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- フリー／オープンソースソフトウェア情報について

  本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
  https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。

  機種名:DTU-1030

  型式認定番号:10008

*1：DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知／判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ **ITS Connect に関するお問い合わせについて**

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子／機能／使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

ITS Connect 割り込み表示による通知／案内／注意喚起

状況に応じて、次の通知／案内／注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ*1 に割り込み表示します。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）かつパノラミックビューモニター装着車：出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

● 対向車および歩行者を感知する交差点

● 対向車のみを感知する交差点

● 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。

● 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）*2

*1：ヘッドアップディスプレイ装着車

*2：14 インチセンターディスプレイ装着車

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

*2

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）
装着車は低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。

- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向／距離／進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

知識

■ 交差点ごとの作動する通知／案内／注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知／案内／注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
  - トンネルや高架下を通過しているとき
  - エンジンを始動してから、しばらく走行するまでの間
- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
  - 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
  - 通信を妨害する電波が発せられているとき
  - DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
  - DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
  - 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
  - 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき

- 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
- 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
- DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
- DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

● 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
- 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

● 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
- 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
- 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

● 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 遅い速度で走行しているとき
- 停車しているとき
- 交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
- DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

● 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
- 青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
- 停車していないとき
- 交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
- DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

● 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
- 緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
- 緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
- 立体交差付近を走行しているとき
- 緊急車両から受信した情報が誤っているとき

■ **出会い頭注意喚起の支援タイミングについて**

FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車の出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

■ **カスタマイズ機能設定のしかた**

センターディスプレイのカスタマイズ設定から、ITS Connect の設定を変更することができます。

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング(早め／遅め)を切り替えることができます。*3 (初期設定：早め)

- 赤信号注意喚起
- 出会い頭注意喚起*6

● 信号情報

次の機能の ON/OFF を切り替えることができます。*4(初期設定：ON)

- 赤信号注意喚起
- 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON/OFF を切り替えることができます。*4(初期設定：ON)

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起*5*7

● 緊急車両通知

緊急車両存在接近通知の ON/OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

● クルーズ(ITS)

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を切り替えることができます。(初期設定：ON)

*3：各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

*4：[**信号情報**]または[**道路環境情報**]に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

*5：14 インチセンターディスプレイ装着車

*6：FCTA（フロントクロストラフィックアラート）非装着車

*7：FCTA（フロントクロストラフィックアラート）装着車は、FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

8 車のお手入れ

8-1. 外装のお手入れ

洗車 428

8-2. 内装のお手入れ

室内を清掃する 434

サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れをする 436

本革部分のお手入れをする 437

合成皮革部分のお手入れをする 438

8-3. 消耗品の点検

ボンネットを開ける 439

ウォッシャー液を補充する 441

エアコンフィルターのお手入れ 442

8-4. タイヤのメンテナンス

タイヤのメンテナンス 444

タイヤの点検項目 445

ランフラットタイヤの特徴 447

タイヤ空気圧警報システムのはたらき 448

タイヤ空気圧の点検 458

ガレージジャッキを使ったジャッキアップ 460

タイヤをローテーションする . 461

タイヤの交換 462

洗車

警告

- 洗車するときは、エンジンルーム内に水をかけないでください。
  電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。
  洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■ 塗装の劣化や車体／部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - 海岸地帯を走行したあと
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - コールタール／花粉／樹液が付着したとき
  - 鳥のふん／虫の死がいが付着したとき
  - ばい煙／油煙／粉じん／鉄粉／化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ほこり／泥などで激しくよごれたとき
  - 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

- 水を十分かけながら、車体／足まわり／下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る

なお、ボデーコート／ホイールコート／ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ **セルフリストアリングコート**

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から 5～8 年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。

  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■ **洗車などで車に水をかけたとき**

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、ロック／ロック解除動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する

  電子キーの盗難に注意してください。
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する

■ **ブレーキパッドやディスクローターについて**

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

自動洗車機の使用

注意

自動洗車機を使用するときは、ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

- お車を洗う前に次のことを実施してください。
  - ドアミラーを格納します。
  - パワーバックドアを停止します。

  走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- N ポジションに保持したままエンジンスイッチを ACC にする必要があるときは、P.129 を参照してください。

高圧洗浄機を使った洗車

注意

- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - 駆動系部品
  - ステアリング部品
  - サスペンション部品
  - ブレーキ部品
- 洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあります。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

高圧洗車機を使うときは、室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

ホイール／ホイールキャップを清掃する

次のことを行ってください。

- **中性洗剤を使用し、早めに汚れを落とします。**
- **洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流します。**
- **塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。**
  - 酸性／アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
  - 硬いブラシを使用しない
  - 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

知識

■ ブレーキキャリパーの塗装について（F SPORT）

- 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

バンパーの清掃

⚠ 警告

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM
- 後方車両への接近通報
- 安心降車アシスト（ドアオープン制御付）
- RCTA
- PKSB★

研磨剤入りの洗剤でこすらないでください。

メッキ部品をお手入れする

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをします。

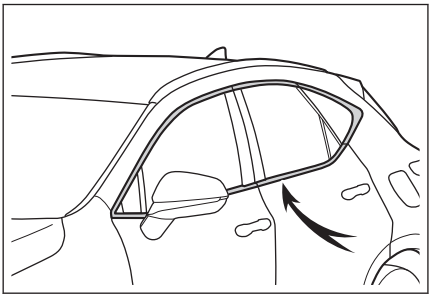
- **中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませ、ふき取ります。**
- **乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取ります。**
- **油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取ります。**

知識

■ 黒色ステンレスモール★

図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。

塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面をこすらないでください。塗装がムラになることがあります。



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランプの清掃

注意

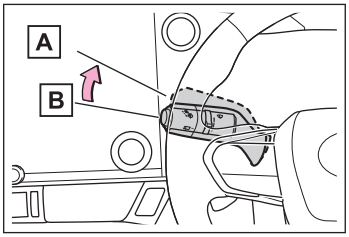
- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

フロントウインドウガラスの清掃

警告

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF
B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

知識

■ フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
- よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

ワックスをかける

水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをします。

ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかけてください。（およそ体温以下を目安としてください）

室内を清掃する

⚠ 警告

■ **車両への水の浸入**

● 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

● SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。

電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ **清掃するとき使用する溶剤**

● 変色／しみ／塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- シート以外の部分：ベンジン／ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤／染色剤／漂白剤
- シート部分：シンナー／ベンジン／アルコール／その他のアルカリ性や酸性の溶剤

● 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ／溶解／変形の原因になるおそれがあります。

■ **床に水がかかると**

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ **フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは**

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

■ **フロントウインドウガラス／リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

● 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

● 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ **スーパー UV カットガラスを清掃するときは**

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー／洗剤／ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

- **掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る**
- **汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る**

水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤／水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取扱い

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ／ほつれ／傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラス

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れをする

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取ります。
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取ります。

知識

■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れ

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分のお手入れをする

⚠ 注意

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製／プラスチック製／ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、 革張りの上に置かない

- **掃除機などでほこりや砂を取り除きます。**
- **うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取ります。**
  ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- **水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取ります。**
- **乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。**

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

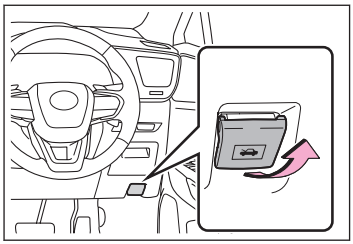
合成皮革部分のお手入れをする

- 掃除機などでほこりを取り除きます。
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取ります。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤／水分をふき取ります。

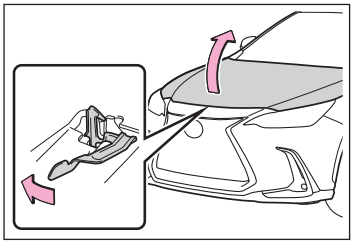
ボンネットを開ける

1 **ボンネット解除レバーを引きます。**

ボンネットが少し浮き上がります。



2 **レバーを引いてボンネットを開けます。**



知識

■ ボンネットの閉め方

ボンネットを閉めるときは、少し高い位置（約 20cm）から必ず落として閉めてください。

手で押して閉めると、ボンネットが片側のみロックされるおそれがあります。

警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。

ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開くおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

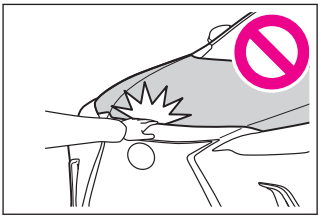
エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。



⚠ 注意

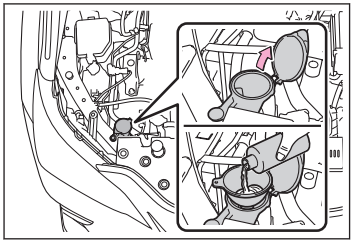
■ ボンネットへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
  ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ビニール片／ステッカー／粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ロッド部を軍手などでふれない
  - ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

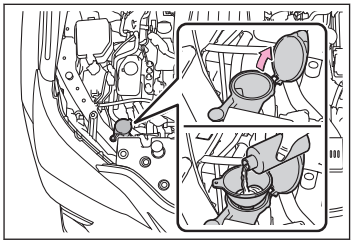
ウォッシャー液を補充する

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに**「ウォッシャー液を補充してください」**が表示されたら、ウォッシャー液を補充してください。

▶ NX250



▶ NX350



⚠ 警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ウォッシャー液**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターのお手入れ

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

エアコンフィルターの交換目安

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15,000km [7,500km*1] ごと、ただし 12 ヶ月をこえないこと*2

エアコンの風量が減少したときはフィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

エアコンフィルターを交換する

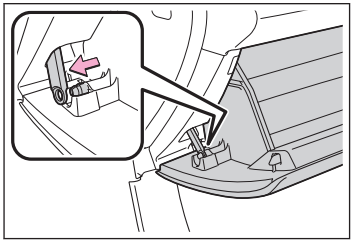
⚠ 注意

エアコンを使用するときは、次のことをお守りください。

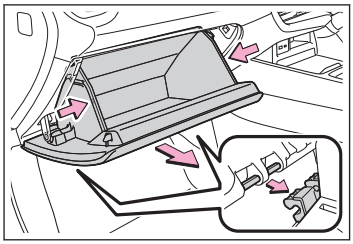
- 必ずフィルターを装着してください。フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください

1 **エンジンスイッチを OFF にします。**

2 **グローブボックスを開き、ダンパーステーをピンからはずします。**



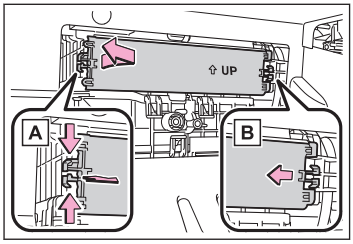
3 **グローブボックス両側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずします。そして、グローブボックスを手前に引き、下部のツメをはずしてグローブボックスを取りはずします。**



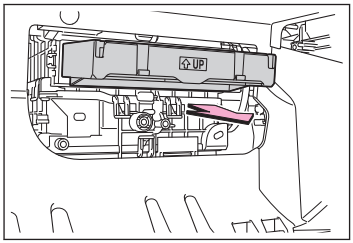
*1：大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

*2：芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

4 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずします。

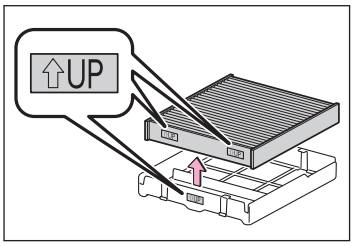


5 フィルターケースを取りはずします。



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換します。

[⇧ UP]マークの矢印が上を向くように取り付けます。



タイヤのメンテナンス

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

⚠ 注意

段差や凹凸のある悪路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ／ホイール／車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの点検項目

⚠ 警告

■ 点検／交換時

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦になるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー／同一銘柄／同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ／バイアスベルテッドタイヤ／バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ／オールシーズンタイヤ（マット＆スノータイヤ）／冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない

  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費／車両の安定性／制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

走行中に空気もれが起こったら走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

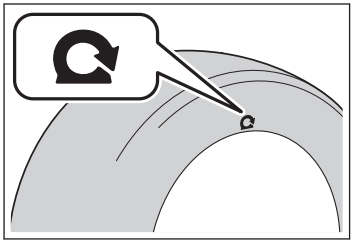
タイヤ／ディスクホイール／ホイール取り付けボルトを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

ランフラットタイヤの特徴★

ランフラットタイヤを装着している場合は、タイヤがパンクしても、80km/hをこえない速度で、約 80km まで走行することが可能です。（ただし、気候や走行状況などによっては 80km/h までスピードを出せないこともあります）

80km 近くまで走行してしまう前に、必ずタイヤを交換してください。また、修理されたタイヤを使用しないでください。

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に マークが付いています。



知識

■ **ランフラットタイヤの留意事項**

- ランフラットタイヤはこの車専用のため、他の車には使用しないでください。
- ランフラットタイヤと標準タイヤを混ぜて使用しないでください。
- レクサス指定の純正以外のホイールを使用した場合、ランフラットタイヤの高い機能性が発揮されないおそれがあります。

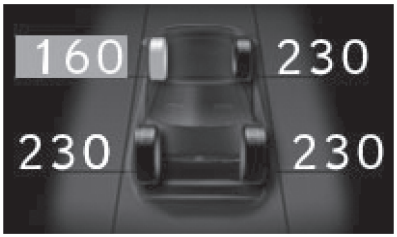
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤ空気圧警報システムのはたらき

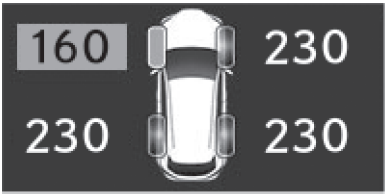
ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

タイヤ空気圧警報システムは状況に応じて 2 種類の警報とタイヤ空気圧警告灯、ブザーでお知らせをします。

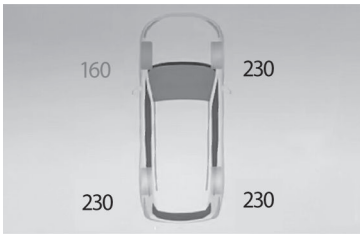
▶ **マルチインフォメーションディスプレイ（ヘッドアップディスプレイ非装着車）**



▶ **マルチインフォメーションディスプレイ（ヘッドアップディスプレイ装着車）**



▶ **センターディスプレイ**



● **「空気圧を調整してください」**が表示されたとき

通常の使用によって、タイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

● **「すみやかに安全な場所でタイヤ点検」**が表示されたとき

急激にタイヤの空気圧が低下した場合に表示されます。

ただし、このシステムはパンク等を検出できない場合があります。

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をセンターディスプレイに表示できます。

知識

■ 定期的なタイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧表示

● エンジンスイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2,3 分かかります。

また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2,3 分かかります。

● タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

● 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。

- 純正ホイール以外を使用したとき
- 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- タイヤチェーンなどを装着しているとき
- 電波を遮断するフィルムがウィンドウに貼り付けられているとき
- 車両（特にホイール／ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

● 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。

- 近くにテレビ塔や発電所／ガソリンスタンド／放送局／大型ディスプレイ／空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話／コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

● 停車時は警報開始／警報解除までの時間が長くなる場合があります。

- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

関連リンク

タイヤ空気圧 (P.274)
タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー） (P.484)

空気圧バルブ／送信機の装着

注意

■ タイヤ、ホイール、空気圧バルブ／送信機、バルブキャップの修理／交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。

  レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ タイヤパンク応急修理キットを使用したときは

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。

知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。

その場合、約 10 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

タイヤローテーションのあとにタイヤの位置を登録する

タイヤローテーションを行ったときは、タイヤの位置を登録する必要があります。

お客様自身でタイヤ位置を登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることでタイヤ位置は登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

1 **車を安全な場所に駐車し、15 分以上エンジンを停止します。**

2 **エンジンを始動します。**

車両が動いているときは、タイヤ位置の登録操作はできません。

3 **センターディスプレイで ⚙ を選択します。**

4 **[車両カスタマイズ]を選択します。**

5 **[タイヤ空気圧]を選択します。**

6 **[タイヤローテーション]を選択します。**

7 **[OK]を選択します。**

マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ位置登録中のメッセージが表示されます。タイヤ空気圧表示が「---」になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 **約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10～30 分走行します。**

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧の表示と登録完了のメッセージが表示され、タイヤ位置の登録が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも長時間運転すると登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録ができない場合は、エンジンスイッチは ON のまま、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直して下さい。

知識

■ **タイヤ位置を登録するときは**

- 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。
- 車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ **タイヤ位置登録の操作**

- タイヤ位置登録中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的にタイヤ位置判定処理が再開されるため、あらためて登録し直す必要はありません。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ **タイヤ空気圧警報システムのタイヤ位置登録がうまくいかないとき**

- 次の場合は、タイヤ位置の登録に時間がかかる場合や、登録ができない場合があります。
  - 約 40km/h 以上で走行していない
  - 未舗装の場所を走行した
  - 1 時間以上走行しても登録が完了できない場合は、安全な場所に約 15 分以上停車したあと、再度走行し直してください。

- タイヤ位置登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

タイヤの空気圧を設定する

次のような場合は、タイヤの空気圧をタイヤ空気圧警報システムに設定する必要があります。

- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき

タイヤ空気圧を指定空気圧に調整している場合は、指定空気圧の値を選択して設定します。

指定サイズ以外のタイヤの使用などにより、タイヤ空気圧が指定空気圧以外の場合は、現在の空気圧で設定します。必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

関連リンク

指定空気圧で設定する (P.452)
現在の空気圧で設定する (P.453)

指定空気圧で設定する

1 **エンジンを始動します。**

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

2 **センターディスプレイで ⚙ を選択します。**

3 **[車両カスタマイズ]を選択します。**

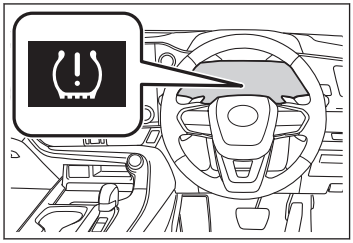
4 **[タイヤ空気圧]を選択します。**

5 **[指定空気圧設定]を選択し、フロントタイヤとリヤタイヤの空気圧を選択します。**

6 **[OK]を選択します。**

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅します。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

■ **タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき**

- 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

現在の空気圧で設定する

警告

必ず空気圧を適切な値に調整してから設定操作をしてください。お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

知識

■ **タイヤ空気圧警報システムの警報精度**

- 現在の空気圧で設定する場合、タイヤ空気圧警報システムの警報精度は、空気圧設定を実施したときの状況によって異なります。このため、空気圧がわずかに低下している場合や、空気圧設定したときより高い空気圧の場合でも警報することがあります。
- 必ず空気圧を調整した上で、現在の空気圧で設定を実施してください。なお、空気圧の調整および設定操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

1 **タイヤの空気圧を適切な値に調整します。**

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。

2 **エンジンを始動します。**

車両が動いているときは、空気圧は設定できません。

3 **センターディスプレイで ⚙ を選択します。**

4 **[車両カスタマイズ]を選択します。**

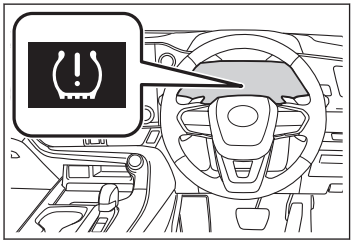
5 **[タイヤ空気圧]を選択します。**

6 **[現在の空気圧を設定]を選択します。**

7 **[継続]を選択します。**

タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに設定中のメッセージが表示されます。

空気圧の設定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに設定完了のメッセージが表示されます。



知識

■ **空気圧設定の操作**

- 空気圧設定中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に設定処理が再開されるため、あらためて設定し直す必要はありません。
- 空気圧設定の必要がない状態で誤って現在の空気圧で設定の操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度指定空気圧で設定もしくは、現在の空気圧で設定で空気圧設定操作を行ってください。

■ **タイヤ空気圧の設定がうまくいかないとき**

- 通常 2、3 分で終了します。
- 空気圧設定操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合、設定が開始されていないおそれがありますので、設定手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも空気圧を設定できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ID コードを登録する

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、新しいバルブ／送信機を装着したときは、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

知識

- ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- すでに ID コードの登録がされているタイヤセットを使用する場合は、ID 切りかえを行うと短い時間で切りかえることができます。

登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

1 **車を安全な場所に駐車し、15 分以上エンジンを停止します。**

2 **エンジンを始動します。**

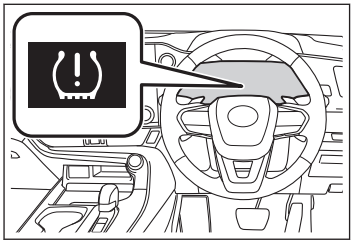
車両が動いているときは、ID コードの登録操作ができません。

3 **センターディスプレイで ⚙ を選択します。**

4 **[車両カスタマイズ]を選択します。**

5 **[タイヤ空気圧]を選択します。**

6 **セット選択に表示されているセット（[セット 1]または[セット 2]）を確認します。**



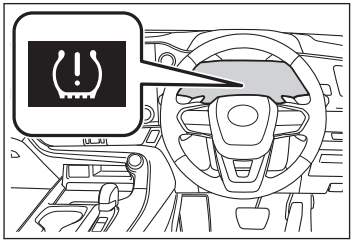
表示されているセットに ID コードを登録します。

登録するセットを変更したい場合は、表示されているセットをタッチし、登録したいセットを選択します。

すでに ID コードが登録されているときは、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに切りかえ中のメッセージが表示されます。

7 **[新規タイヤ登録]を選択します。**

8 **[OK]を選択します。**



タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに登録中のメッセージが表示されます。ID コードの切りかえが中止され、登録を開始します。

ID コードの登録が開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、登録中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「---」になります。

知識

登録操作時に警告灯が点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

9 **約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10～30 分走行します。**

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイに登録完了のメッセージが表示されます。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

知識

■ **ID コードの登録をするときは**

● 通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。

● ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

■ **ID コードの登録がうまくいかないとき**

● 次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。

- 走行前に約 15 分以上駐車していない
- 約 40km/h 以上で走行していない
- 未舗装の場所を走行した

- 他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
- タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

● 登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

● 1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

● 上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご依頼ください。

10 **異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧を設定する必要があります。**

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定するは必要ありません。

関連リンク

タイヤの空気圧を設定する (P.452)

ID コードの登録を中止する

ID コードの登録を中止するには、センターディスプレイで[**新規タイヤ登録**]を再度選択します。

ID コードの登録を中止すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

タイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていません。正しく中止するためには、再度、[**新規タイヤ登録**]を選択し、警告灯が消灯することを確認してください。

ID コードを切りかえる

この車両は 2 セット分の ID コードを登録することができるタイヤ空気圧警報システムが備わっています。通常使用するタイヤと冬用タイヤの 2 セットを登録しておくと便利です。

● この機能は 2 セット目（セット 2）のタイヤを登録してある場合のみ、切りかえをすることができます。セット 2 のタイヤが登録されていない場合、「**セット 2（未登録）**」と表示され、選択しても切りかえはできません。

ID コードの登録はお客様自身で登録することができます。

● ID コードを登録したときのセットでタイヤの交換をしたときのみ切りかえをすることができます。他のセットの ID コードを混在させた場合は作動しません。

● ID コード登録中は、正常に ID コードの切りかえができないおそれがあります。ID コードの登録を中止してから切りかえを行ってください。

1 **切りかえをしたいタイヤセットに交換します。**

2 **センターディスプレイで ⚙ を選択します。**

3 **[車両カスタマイズ]を選択します。**

4 [タイヤ空気圧]を選択します。

5 セット選択に表示されているセット（[セット 1]または[セット 2]）をタッチします。

6 登録したいセットを選択し、[OK]をタッチします。

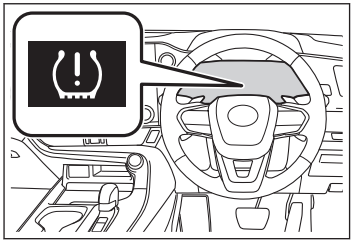
タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し、切りかえ中のメッセージが表示され、ID コードの切りかえを開始します。

ID コードの切りかえが開始すると、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあと点灯します。また、切りかえ中はマルチインフォメーションディスプレイのタイヤ空気圧表示が「---」になります。

約 2 分後に ID コードの切りかえが完了し、タイヤ空気圧警告灯が消灯して、マルチインフォメーションに登録完了のメッセージが表示されます。

約 4 分経過しても切りかえが完了しない場合は、切りかえが完了しないメッセージが表示されます。

装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。



7 異なる空気圧に調整されているタイヤを取り付けた場合は、タイヤ空気圧警報システムにタイヤ空気圧の設定が必要です。

同じ空気圧に調整されている場合は、空気圧を設定するは必要ありません。

8 タイヤの位置を登録します。

関連リンク

タイヤローテーションのあとにタイヤの位置を登録する (P.450)

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

⚠ 警告

タイヤの性能を発揮するために適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

タイヤ空気圧の点検／調整をしたあとは、タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する

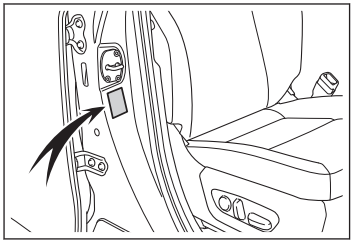
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

タイヤの指定空気圧の確認

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）*1

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）*1

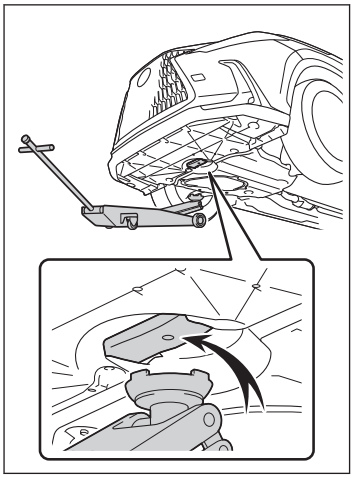


*1：タイヤが冷えているときの空気圧

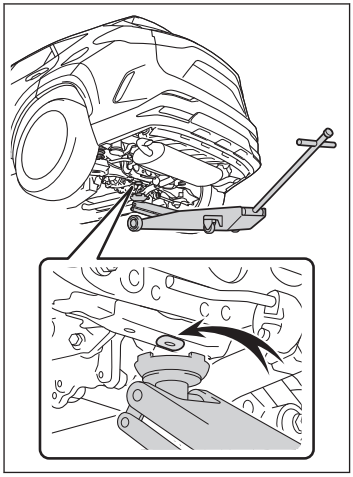
ガレージジャッキを使ったジャッキアップ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

フロント側のジャッキポイントの位置



リヤ側のジャッキポイントの位置

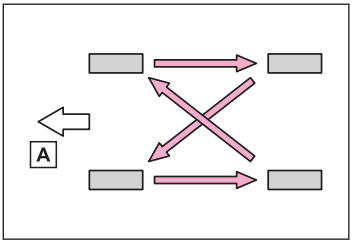


タイヤをローテーションする

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

図で示す順にタイヤのローテーションを行います。

タイヤローテーション後は、確実にタイヤ空気圧警報システムへタイヤ位置の登録の操作を行ってください。



A 前側

関連リンク

タイヤローテーションのあとにタイヤの位置を登録する (P.450)

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをするおそれがあります。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前の準備

知識

■ 工具とジャッキ

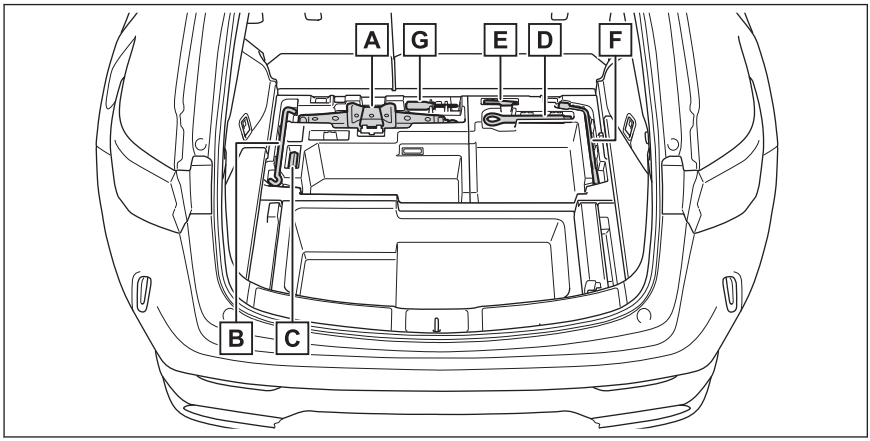
お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットまたはランフラットタイヤが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ジャッキ
- ジャッキハンドル
- ホイールボルトソケット
- ガイドピン
- ホイールボルトレンチ

ジャッキで車体を持ち上げる前に、次のことを行ってください。

- **地面が固く平らで安全な場所に移動する**
- **パーキングブレーキをかける**
- **シフトポジションを P にする**
- **エンジンを停止する**

工具／ジャッキの搭載位置



A ジャッキ★

⚠ 警告

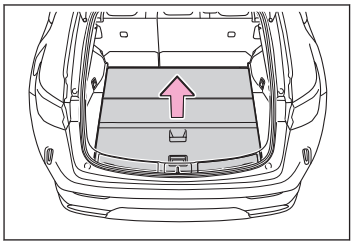
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下するおそれがあります。次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換／タイヤチェーン取り付け／取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

B ジャッキハンドル★
C ホイールボルトソケット★
D けん引フック
E ガイドピン★
F ホイールボルトレンチ★
G ドライバー

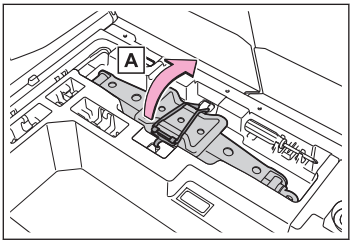
ジャッキを取り出す

1 **デッキボードを取りはずします。**



★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 ジャッキを取りはずします。



A ゴムバンドをはずします。

タイヤを取りはずす

⚠ 警告

■ **タイヤ交換時の注意**

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

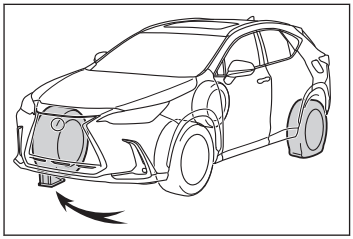
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

■ **タイヤ交換時のパワーバックドアの設定**

タイヤ交換をする際は、パワーバックドアの作動を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

1 **輪止め*1 をします。**

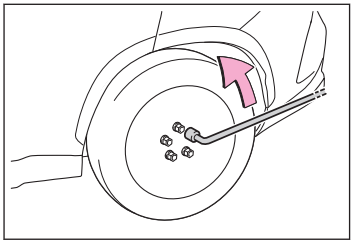
輪止めの位置：



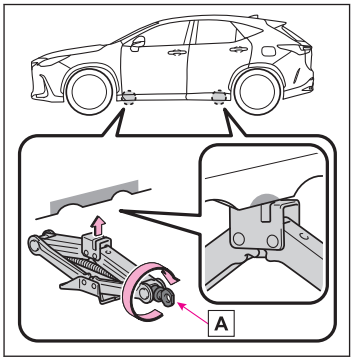
- パンクしたタイヤ：左側前輪
  右側後輪うしろにおいてください。
- パンクしたタイヤ：右側前輪
  左側後輪うしろにおいてください。
- パンクしたタイヤ：左側後輪
  右側前輪前においてください。
- パンクしたタイヤ：右側後輪
  左側前輪前においてください。

*1：輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

2 ホイールボルトレンチを使用し、すべてのホイールボルトを少し（約 1 回転）ゆるめます。



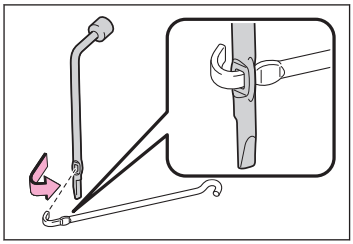
3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかけます。



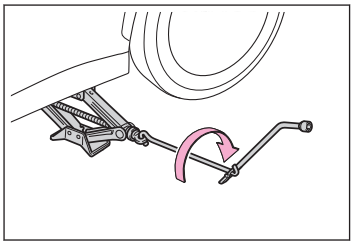
⚠ 警告

ジャッキはジャッキセット位置に正しくかけてください。

4 ジャッキハンドルにホイールボルトレンチを取り付けます。



5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げます。



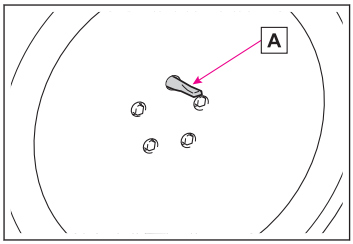
⚠ 警告

ジャッキを使用するときは、次のことをお守りください。

- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

6 **最上部にあるホイールボルト 1 本を取りはずし、ガイドピン A を手で締め付けます。**

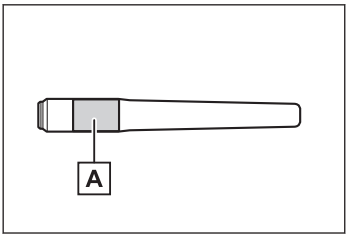
時計回りに回らなくなるまで締め付けます。



⚠ 警告

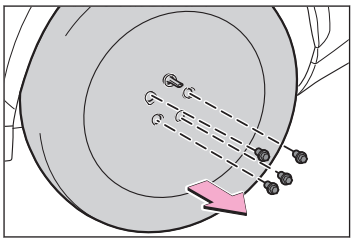
タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



7 **残りのホイールボルトをすべて取りはずし、タイヤを取りはずします。**

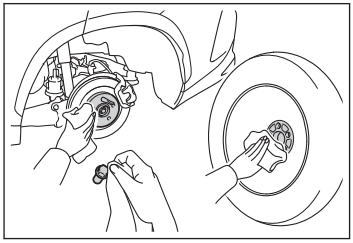
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



タイヤを取り付ける

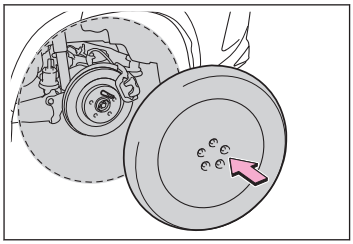
1 **ホイール接触面とホイールボルトの汚れをふき取ります。**

汚れていると、走行中にホイールボルトがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



2 **ホイールの穴にガイドピンを通し、タイヤを取り付けます。**

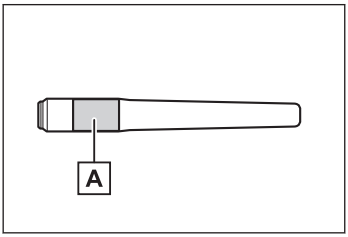
ホイールセンタ穴とハブセンタが嵌合し、ホイールが接触面にあたるまで、しっかり取り付けてください。



⚠ 警告

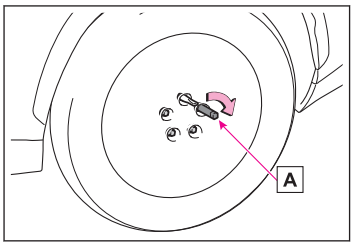
タイヤを交換するときは、ガイドピンを使用してください。

また、ガイドピンは樹脂製のため A 部以外にホイールを載せたり、大きな負荷をかけると破損するおそれがあります。



3 **手または、ホイールボルトソケット A を使用し、ホイールボルトを軽く締め付けます。**

ホイールボルトソケットは手による仮締め以外に使用しないでください。



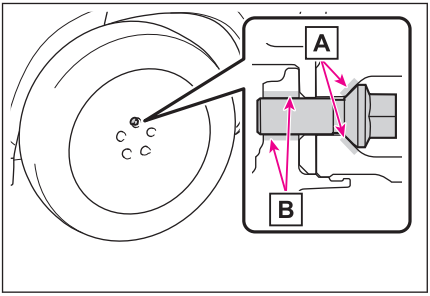
⚠ 警告

次のことをお守りいただかないとホイールボルトがゆるみ、ホイールがはずれ落ちるおそれがあります。

- ホイールボルトとホイールの球面座部 A にオイルやグリースを塗らないでください。

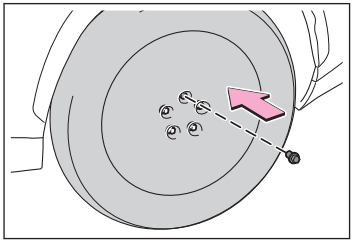
  ホイールボルトを締めるときに必要以上に締め付けられ、ホイールボルトやホイールハブのめねじ B が破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。

  またホイールボルトがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースが付いている場合はふき取ってください。

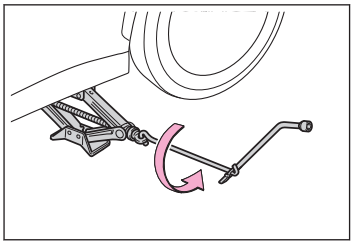


- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のホイールボルトを使用し、レクサス純正品以外のホイールボルトなどは使用しないでください。
- ホイールボルトのねじ部やホイールハブのめねじ、ホイールのボルト穴につぶれ、亀裂や錆びなどの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

4 **ガイドピンを取り外し、ホイールボルトを手順 3 同様に軽く締め付けます。**



5 **車体を下げます。**

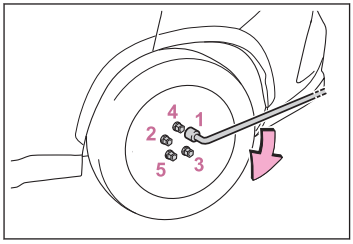


⚠ 警告

車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げてください。

6 **図の番号順でホイールボルトを 2、3 度しっかり締め付けます。**

締め付けトルク：140N・m（1428kgf・cm）



⚠ 警告

ホイールボルトを締め付けるときは、ホイールボルトは過度に締め付けすぎないでください。ホイールボルトやホイールハブのめねじが破損したり、ディスクホイールが損傷する恐れがあります。

7 **すべての工具／ジャッキを収納します。**

⚠ 警告

- ジャッキや工具を使用したあとは走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。

  また、約 1000km 走行したあとに、再度ホイールボルトを締め付けてゆるみがないことを確認してください。

⚠ 注意

タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

関連リンク

タイヤ空気圧の点検 (P.458)
タイヤの空気圧を設定する (P.452)
タイヤローテーションのあとにタイヤの位置を登録する (P.450)

9 困ったときの対処方法

9-1. 走行中のトラブルに対応する

走行中にトラブルが発生したときの対応 473

9-2. メーターに警告灯が点灯／点滅または警告メッセージが表示された

警告灯が点灯／点滅した 479

ディスプレイに警告メッセージが表示された 489

9-3. エンジンがかからない

スターターはまわるのにエンジンがかからない..... 502

スターターがゆっくりまわりエンジンがかからない..... 503

スターターがまわらずエンジンがかからない 504

室内灯やヘッドランプが暗くエンジンがかからない..... 506

室内灯やヘッドランプが点灯せずエンジンがかからない .. 512

ホーンの音が小さくエンジンがかからない 513

ホーンの音が鳴らずエンジンがかからない 514

9-4. タイヤがパンクした

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法（タイヤパンク応急修理キット装着車） 515

ランフラットタイヤがパンクしたときの注意事項（ランフラットタイヤ装着車） 526

9-5. ドアが開かない、ロックできない

キーをなくした 527

電子キーを使ってドア／窓／ムーンルーフを操作できない528

ドア開スイッチでドアを開けることができない..... 536

リヤドアが内側から開けられない 539

バックドアが開かない..... 540

9-6. ルーフやサンシェードが正常に動かない

ムーンルーフが正常に動かない 541

パノラマムーンルーフ／電動サンシェードが正常に動かない 542

9-7. リヤシートが正常に動かない

リヤシートを初期化する（パワーシート装着車） 543

9-8. 給油できない

給油扉が開けられない..... 544

9-9. 室内装備の表示灯が点灯または点滅した

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の充電トレイ上の作動表示灯が点滅した 545

9-10. 車を移動できないとき

エンジンはかかるが車が動かない 546

トランスミッションから異常な音がする 547

レッカー車を使用したけん引 . 548

車両運搬車を使用する..... 551

他車を使用したけん引..... 552

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す 556

9-11. 販売店に連絡する前にチェックしてほしいこと

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった .. 557

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない 558

エンジンスイッチが自動的に
OFF になった..... 559
オーバーヒートした..... 560
電装品が使えない、スイッチを
押しても動かない..... 564
点灯しないライトがある..... 565

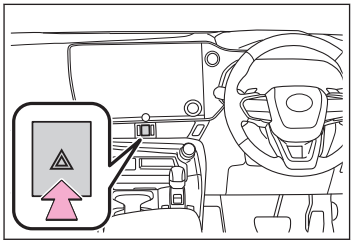
走行中にトラブルが発生したときの対応

ハザードランプで他の運転手に知らせる

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるためにハザードランプを点滅させてください。

スイッチを押します。

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

■ **非常点滅灯**

- エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

  非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒で他の運転手に知らせる

高速道路や踏切などでの故障／事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

知識

■ **発炎筒の交換**

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ **発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

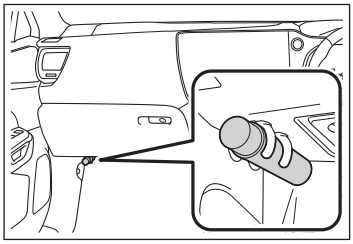
⚠ 警告

■ 発炎筒の取り扱い

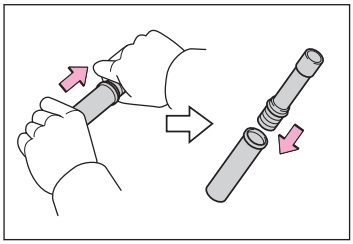
次のことを必ずお守りください。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

1 **助手席足元の発炎筒を取り出します。**



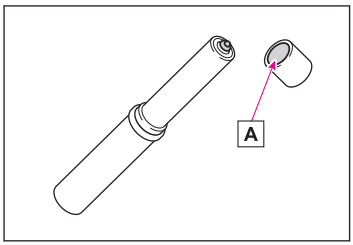
2 **本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込みます。**



3 **先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させます。**

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



車を緊急停止する

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

⚠ 警告

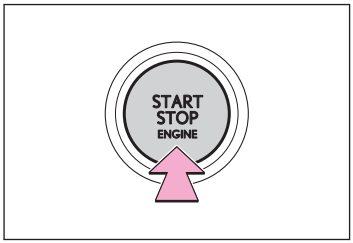
■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

1 **ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。**

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 **シフトポジションを N にします。**



- シフトポジションが N になった場合：

  減速後、車を安全な道路脇に停めます。

  エンジンを停止します。

- シフトポジションが N にならない場合：

  ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

  エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止させます。

3 **車を安全な道路脇に停めます。**

⚠ 警告

走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、エンジンスイッチを押してください。

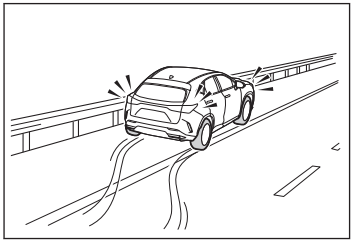
車から避難する

故障したときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

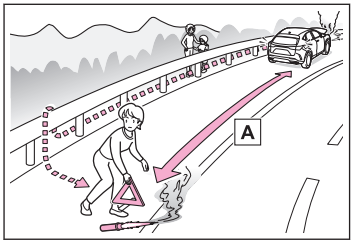
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路上で故障したときは、すみやかに次の指示に従ってください。



1 **同乗者を避難させます。**

2 **車両の 50m 以上後方 A に発炎筒と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用します。**



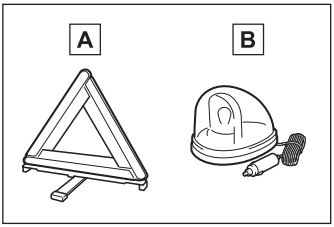
- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

知識

■ 停止表示板／停止表示灯

高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

停止表示板／停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板
B 停止表示灯

3 **その後、ガードレールの外側などに避難します。**

水没／冠水したときの対処

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車両に留まると危険です。

落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができます。

知識

■ **水位がフロアを超えると**

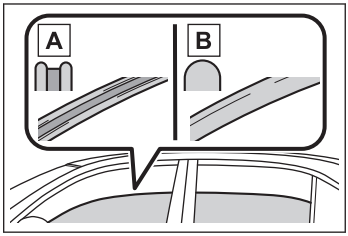
水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ **緊急脱出用ハンマー*1 の使用**

この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー*1 で割ることができません。

■ **合わせガラスの見分け方**

ガラスの断面を上から見たとき、２枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。



A 合わせガラス
B 強化ガラス

警告

■ **走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステムの働き

事故により衝撃を受けエンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動する

注意

エンジンを始動する前に車両下をよく確認してください。地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

フューエルポンプシャットオフシステムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1 : 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

1　エンジンスイッチを ACC または OFF にします。
2　エンジンを再始動します。

警告灯が点灯／点滅した

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて対処してください。なお、点灯／点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ 警告ブザー

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（赤色）	● ブレーキ液の不足 ● ブレーキ系統の異常 ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ブレーキ警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（黄色）	電動パーキングブレーキシステムの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

高水温警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。	エンジン冷却水の高温異常 ただちに安全な場所に停車し、オーバーヒートしたときの対処方法を行ってください。

関連リンク

オーバーヒートした (P.560)

充電警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。	充電系統の異常 ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

油圧警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。	エンジンオイル圧力の異常 ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

エンジン警告灯

症状	原因 / 対処法
	● エンジン電子制御システムの異常 ● 電子制御スロットルの異常 ● トランスミッション電子制御システムの異常 ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容 / 対処方法
	● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**

ABS＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
	● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ペダル誤操作警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。	ブザーが鳴った場合： ● ブレーキオーバーライドシステムの異常 ● ドライブスタートコントロールの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	ブザーが鳴った場合： アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 **ただちにアクセルペダルを離してください。**

症状	原因 / 対処法
マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。	ブザーが鳴った場合： PKSB （パーキングサポートブレーキ）★作動時 マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	ブザーが鳴らなかった場合： アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（赤色／黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザー

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

パワーステアリング警告灯が黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

燃料残量警告灯

症状	原因 / 対処法
	燃料の残量が約 8.5L 以下になった 燃料を補給する

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席／助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
	運転席／助手席シートベルトの非着用 シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

知識

■ 運転席／助手席シートベルト非着用警告ブザー

運転席／助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
 （ヘッドアップディスプレイ非装着車） （ヘッドアップディスプレイ装着車）	リヤ席シートベルトの非着用 シートベルトを着用する

知識

■ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

タイヤ空気圧警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯し、ブザーが鳴らなかった場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 レクサス販売店で点検を受けてください。
	警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： 自然要因 タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。
	警告灯が点灯し、ブザーが鳴った場合： タイヤのパンク ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。

知識

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

- パンクしているときは：→P.515
- パンクしていないときは：エンジンスイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。
  - タイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合

    タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
  - タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

    タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

    数分たっても警告灯が消灯しない場合は、タイヤ空気圧が適切な値であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの空気圧設定を行ってください。

    空気圧設定を行ってから数分たっても警告灯が消灯しない場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ランフラットタイヤ装着車：

  周囲の交通状況にあわせ、できるだけ速やかに減速し、80km/h をこえない速度で走行してください。
- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。
- 急ハンドル／急ブレーキを避けてください。タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧警報システムについての注意

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。
- 構造／メーカー／銘柄／トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、空気圧設定では解除できません。

Stop & Start キャンセル表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
A OFF（点滅）	Stop & Start システムに異常があるおそれがあります。 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

Stop & Start 表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
A（点滅）	Stop & Start システムによるエンジン停止中、シフトポジションが D レンジでアイドリングストップ中に運転席ドアが開いたときは警告ブザーが鳴ると同時に Stop & Start 表示灯が点滅します。 ブザーを止めるには運転席ドアを閉めて下さい。

クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
P OFF	クリアランスソナーの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
	センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

PCS 警告灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
OFF	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

LTA 表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

LDA 表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（橙色）	LDA（レーンデパーチャーアラート）の異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（橙色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（橙色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

PDA 表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
（橙色）	PDA(プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

運転支援情報表示灯

症状	原因 / 対処法
	次のシステムに異常が考えられます。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● 後方車両への接近警報 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ● PKSB（パーキングサポートブレーキ）★ ● RCD（リヤカメラディテクション）★ ● BSM（ブラインドスポットモニタ） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 安心降車アシスト ● **ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スリップ表示灯

症状	原因 / 対処法
（点灯）	● VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ● TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ● Trail Mode の異常★ ● ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ表示灯

症状	原因 / 対処法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
	パーキングブレーキシステムの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

症状	原因 / 対処法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ディスプレイに警告メッセージが表示された

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯／点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯／点滅したときの対処方法に従ってください

知識

■ **警告メッセージ**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ **警告ブザー**

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」

原因	対処法
エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。 また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

「エンジン停止のため ハンドルが 重くなります」

原因	対処法
走行中にエンジンが停止したときにメッセージが表示されます。	ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

「バッテリー保護のため 自動で電源を OFF しました」

原因	対処法
自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。	次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

関連リンク

エンジンスイッチのモードを切りかえる (P.111)

「補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

「切替未完了 登録し直してください 取扱説明書を確認」

原因	対処法
タイヤ空気圧警報システムの ID 切りかえができません。	装着しているタイヤセットを確認して、切りかえ手順を最初からやり直してください。

関連リンク

ID コードを切りかえる (P.456)

「ヘッドランプシステム 故障 販売店で 点検してください」

原因	対処法
システムに異常があるおそれがあります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

「AWD システム高温 高負荷走行を 控えてください」★

原因	対処法
AWD システムが過熱しています。	● **エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。** *1 しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*1 : 停車時は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。

「AWD システム高温 2WD 走行に 切替わりました」★

原因	対処法
過熱のため AWD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。	● **エンジンをかけたまま安全な場所に停車してください。*2** しばらくして表示が消えれば、AWD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

「AWD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検」★

原因	対処法
AWD システムに異常が発生しています。	● **すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。**

「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 取扱書を確認してください」

対処法
オーバーヒートしたときの対処方法を行ってください。

関連リンク

オーバーヒートした (P.560)

「スマートエントリー＆ スタートシステム故障 取扱書を確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

*2: 停車時は表示が消えるまでエンジンを停止しないでください。

「ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」

原因	対処法
ひんぱんに表示されるときは、充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

販売店での点検を促すメッセージ

原因	対処法
警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。	すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

「新しいキーが 登録されました 詳しくは販売店に 問い合わせください」

原因	対処法
追加で新しく電子キーが登録された場合、車外からロック解除して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほどつづきます。	電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

「EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください」

原因	対処法
短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。	操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

「EPB 動作が途中で停止しました」

原因	対処法
パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

「EPB 現在使用できません」

原因	対処法
パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

「BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検してください」

原因	対処法
システムに異常があるおそれがあります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「トランスミッション オイル 高温 安全な場所に停止し 取扱書を確認」

原因	対処法
● 高負荷走行によりオイルが高温となっています ● 故障している可能性があります	レクサス販売店で点検を受けてください。

「シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車」

原因	対処法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「シフトシステム故障 走行を継続できません」

原因	対処法
シフト制御システムが故障しています。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

原因	対処法
誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。	画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

「シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「シフトシステム故障 取扱書確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「バッテリ充電不足 シフト切りかえ できません 取扱書確認」

原因	対処法
故障している可能性があります。	ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

「キーの電池残量が 少なくなっています 電池を 交換してください」

原因	対処法
電子キーの電池残量が少なくなっています。	新しい電池と交換してください。

「機能故障 販売店で点検」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 先行車発進告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）★ ● BSM（ブラインドスポットモニタ） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両への接近警報 ● 安心降車アシスト ● クリアランスソナー★ ● PKSB（パーキングサポートブレーキ）★ ● RCD（リヤカメラディテクション）★	● **すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「機能停止 取扱書を確認」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 先行車発進告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト） ● BSM（ブラインドスポットモニタ） ● RCTA（リヤクロストラフィックアラート） ● 後方車両への接近警報 ● 安心降車アシスト ● クリアランスソナー★ ● PKSB（パーキングサポートブレーキ）★ ● RCD（リヤカメラディテクション）★	● Lexus Safety System+で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。→P.288
センサーが正しく作動していないおそれがあります。→P.291	● センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 先行車発進告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	● **次の対処法に従ってください。** ● ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。 ● エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。 ● ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● RSA（ロードサインアシスト） ● 先行車発進告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	● **次の対処法に従ってください。** ● 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる ● 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります ● 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● 先行車発進告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	● **次の対処法に従ってください。** ● レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。→P.288 ● 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。 車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

「機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● 先行車発進告知 ● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	● **レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。**

「機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● PCS（プリクラッシュセーフティ） ● LDA（レーンディパーチャーアラート） ● LTA（レーントレーシングアシスト） ● LCA（レーンチェンジアシスト）★ ● AHB（オートマチックハイビーム） ● AHS（アダプティブハイビームシステム） ● レーダークルーズコントロール ● 先行車発進告知	● **次の対処法に従ってください。** ● レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。→P.288 ● レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

原因	対処法
● PDA（プロアクティブドライビングアシスト）	● **次の対処法に従ってください。** ● レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。→P.288 ● レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

「機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● RCD（リヤカメラディテクション）★ ● PKSB（パーキングサポートブレーキ）★	● **前・後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。**

「条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認」★

原因	対処法
LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。 →P.317	● **すべての作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。**

「クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください」

原因	対処法
次のいずれかのシステムが停止しています。 ● レーダークルーズコントロール ● クルーズコントロール 走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。	● **走行支援スイッチを短く確実に押してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スターターはまわるのにエンジンがかからない

原因	対処法
燃料が入っていない可能性があります。	給油してください。
燃料を吸い込みすぎている可能性があります。	再度、正しい手順に従って、エンジンをかけてください。
エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。	● キーが金属製のものに接したり覆われたりしているときは、キーを金属製のものから遠ざけてください。 ● キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているときは、キーを遠ざけてください。

関連リンク

給油 (P.142)
エンジンの始動 (P.110)
ディスプレイに警告メッセージが表示された (P.489)

シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。

安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

1. マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき
2. シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

スターターがゆっくりまわりエンジンがかからない

原因	対処法
バッテリーあがりの可能性があります。	ブースターケーブルを使って、エンジンを再始動します。
バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。	バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。

関連リンク

バッテリーあがり (P.506)
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する (P.532)

スターターがまわらずエンジンがかからない

原因	対処法
電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。	異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。
バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。	バッテリーのターミナルがはずれていないか確認します。
バッテリーあがりの可能性があります。	ブースターケーブルを使って、エンジンを再始動します。
ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。	レクサス販売店にご連絡ください。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

関連リンク

エンジンを緊急始動する (P.504)
電子キーが正常に働かない状態でエンジンを始動する (P.505)
バッテリーあがり (P.506)
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する (P.532)

エンジンを緊急始動する

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 **パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押します。**

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 **シフトポジションが P にあることを確認します。**

3 **エンジンスイッチを ACC*1 にします。*2**

4 **ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続けます。**

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。

ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

*1：カスタマイズメニューから有無を切りかえることができます。

*2：ACC がない場合は、エンジンスイッチを ON にしたあとにエンジンスイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

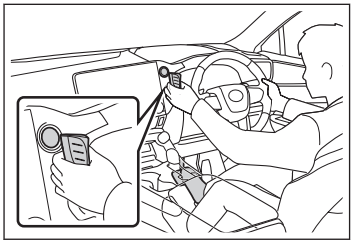
電子キーが正常に働かない状態でエンジンを始動する

1 **シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏みます。**

2 **電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれます。**

電子キーを認識するとブザーが鳴り、エンジンスイッチのモードが ON へ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、エンジンスイッチのモードが ACC へ切りかわります。



3 **ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認します。**

4 **エンジンスイッチを押します。**

上記の処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ **エンジンの停止のしかた**

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、エンジンスイッチを押します。

■ **電子キーの電池交換**

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。

■ **エンジンスイッチモードの切りかえ**

手順 4 でブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。

関連リンク

電子キーの電池を交換する (P.528)

室内灯やヘッドランプが暗くエンジンがかからない

原因	対処法
バッテリーあがりの可能性があります。	ブースターケーブルを使ってエンジンを再始動します。
バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。	バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。

関連リンク

バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する (P.532)
バッテリーあがり (P.506)
キーの種類 (P.41)
ドアの開閉 (P.53)
メカニカルキーを使って操作する (P.530)
ドア開スイッチでドアを開けることができない (P.536)
バッテリー端子をはずすときは (P.509)
初期設定が必要な項目 (P.596)

バッテリーあがり

警告

■ バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。

その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

知識

■ バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアのロック解除ができない場合があります。

  ロック解除できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーでロック／ロック解除を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作でエンジンが始動ができなかった場合は、電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれ、エンジン始動をしてください。

● 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。

バッテリーあがり時やバッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。

バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。

バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

● 初期設定が必要な機能があります。

● 最大 1 時間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

● エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

● 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ **バッテリーがあがったときは**

● スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除することや、ドア開スイッチでの操作ができません。メカニカルキーを使って手動リリースハンドルの作動を有効／無効にしてください。手動リリースハンドルの作動を有効にすることでドアを開くことができます。

● コンピューターに記憶されている情報が消去されます。

バッテリーがあがったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

● 初期設定が必要な機能があります。

■ **バッテリーの充電**

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。

そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■ **バッテリーを交換するときは**

● 一括排気タイプのバッテリー（欧州規格）を使用してください。

● 装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。LN3 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらに、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

● 交換前と同一のケースサイズ（LN3）、20 時間率容量（20HR）が同等（65Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（603A）以上のバッテリーを使用してください。

- 大きさが異なると、バッテリーが正しく固定されません。
- 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

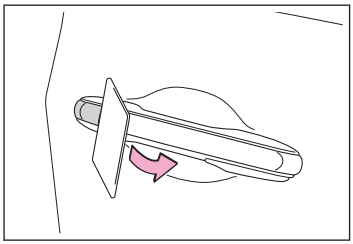
バッテリーあがり発生後、車外よりドアをロックできないときは

スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンでドアをロックすることができなくなります。

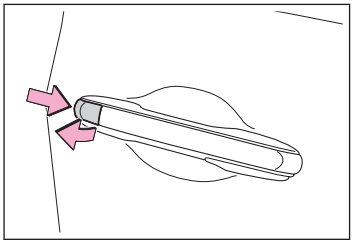
運転席ドアの作動を無効にするには

1 **ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせます。**

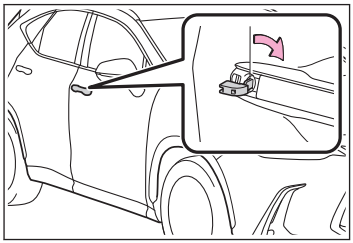
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 **カバー後方を押しながら取りはずします。**



3 **メカニカルキーを使ってロック側にまわし、ドアを無効にします。**

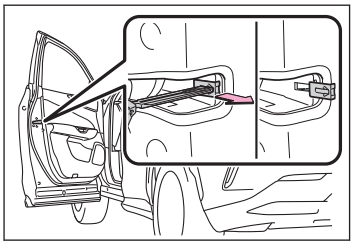


4 **ドアが開かないことを確認してください。**

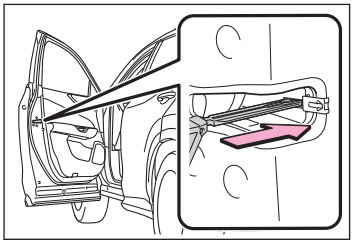
運転席以外のドアの作動を無効にするには

1 ドアを開き、メカニカルキーを使ってカバーを矢印方向にスライドしてください。

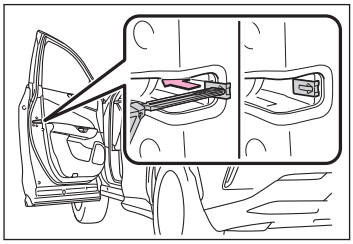
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 溝にメカニカルキーを挿し込みます。



3 メカニカルキーを抜いてからカバーを元の位置にもどしてください。



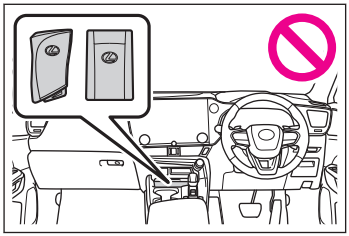
4 全てのドアが開かないことを確認してください。

バッテリー端子をはずすときは

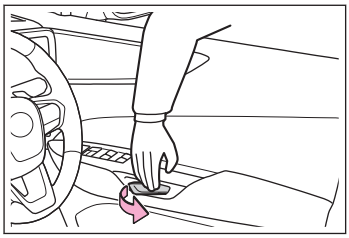
バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

バッテリー端子をはずすとドア開スイッチでドアが開かなくなり、電子キーを車内に閉じ込める可能性があります。

電子キー（メカニカルキー）が車内に閉じ込められることを防止するため、バッテリー端子をはずす前に必ず電子キー（メカニカルキー）を携帯してください。



電子キー（メカニカルキー）を携帯しないときは、窓を開けて車内の手動リリースハンドルを操作できるように注意してください。



⚠ 警告

■ バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける

  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

知識

■ バッテリー端子をはずすときは

- スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアをロック／ロック解除することや、ドア開スイッチでの操作ができません。

  バッテリー端子をはずす前に必ず電子キー（メカニカルキー）を携帯してください。

  電子キー（メカニカルキー）を携帯しないときは、窓を開けて車内の手動リリースハンドルを操作できるようにしてください。
- バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアのロック解除ができない場合があります。

  ロック解除できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーでロック／ロック解除を実施してください。
- バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。
- 初期設定が必要な機能があります。

室内灯やヘッドランプが点灯せずエンジンがかからない

原因	対処法
バッテリーあがりの可能性があります。	ブースターケーブルを使ってエンジンを再始動します。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。	バッテリーのターミナルがはずれていないか確認します。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。	レクサス販売店にご連絡ください。

関連リンク

バッテリーあがり (P.506)
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する (P.532)
キーの種類 (P.41)
ドアのロック／ロック解除 (P.56)
ドアの開閉 (P.53)
メカニカルキーを使って操作する (P.530)
ドア開スイッチでドアを開けることができない (P.536)
バッテリー端子をはずすときは (P.509)
初期設定が必要な項目 (P.596)

ホーンの音が小さくエンジンがかからない

原因	対処法
バッテリーあがりの可能性があります。	ブースターケーブルを使ってエンジンを再始動します。
バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。	バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。

関連リンク

バッテリーあがり (P.506)
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する (P.532)

ホーンの音が鳴らずエンジンがかからない

原因	対処法
バッテリーあがりの可能性があります。	ブースターケーブルを使ってエンジンを再始動します。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。	バッテリーのターミナルがゆるんでいないか確認します。 対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。
ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。	レクサス販売店にご連絡ください。

関連リンク

バッテリーあがり (P.506)
バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する (P.532)

タイヤパンク応急修理キットでの補修方法（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理／交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

タイヤがパンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。

レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限がきれているとき

応急修理する前の準備

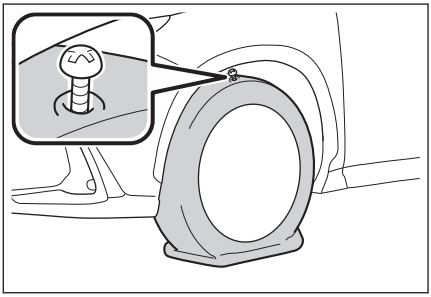
応急修理する前に、次のことを行ってください。

- **地面が固く平らで安全な場所に移動する**
- **パーキングブレーキをかける**
- **シフトポジションを P にする**
- **エンジンを停止する**
- **非常点滅灯を点滅させる**

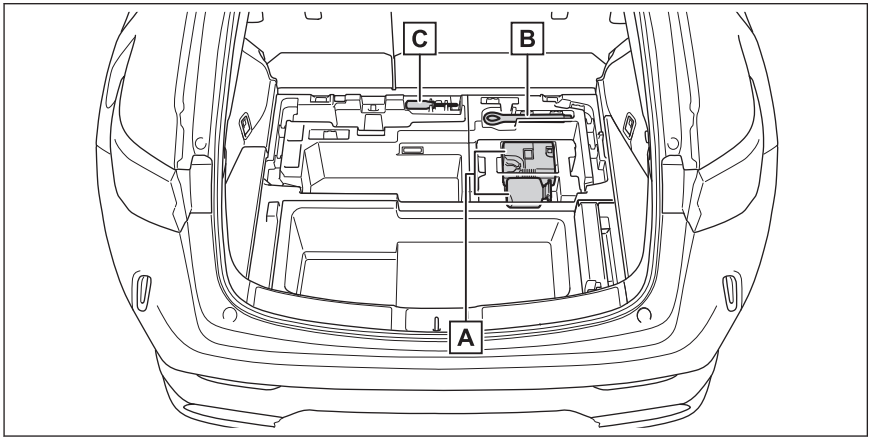
● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



タイヤパンク応急修理キット／工具の搭載位置



A タイヤパンク修理キット

⚠ 警告

応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

B けん引フック

C ドライバー

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

⚠ 警告

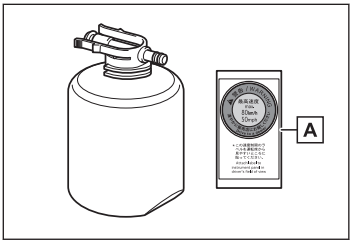
■ 応急修理キットの取り扱いの注意

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
  パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液の取り扱い

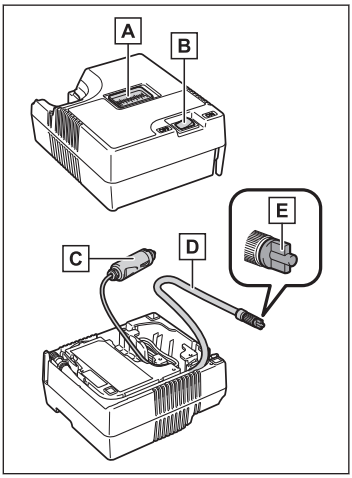
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

▶ボトル



A 速度制限ラベル

▶コンプレッサー



A 空気圧計
B 電源スイッチ
C 電源プラグ
D ホース
E 空気逃がしキャップ

知識

■ 応急修理キット／パンク補修液の取り扱い

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。
  使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。
- パンク補修液は外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

■ パンク補修液の点検

パンク補修液には有効期限があります。パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

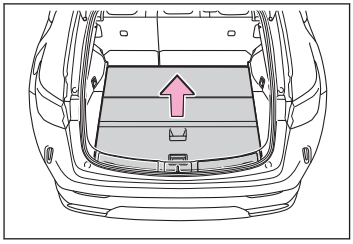
有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 補修液を廃棄するとき

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

応急修理キットを取り出す

1 デッキボードを取りはずします。



2 応急修理キットを取り出します。

パンクしたタイヤを応急修理する

⚠ 警告

応急修理するときは、次のことをお守りください。

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。

  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。

  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするときの注意

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

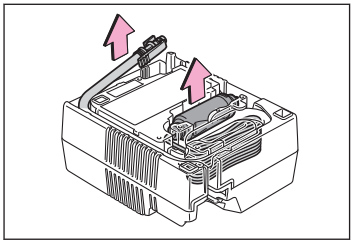
■ 応急修理キット

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- ガソリンがかからないようにしてください。応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解／改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

1 **応急修理キットをから取り出します。**

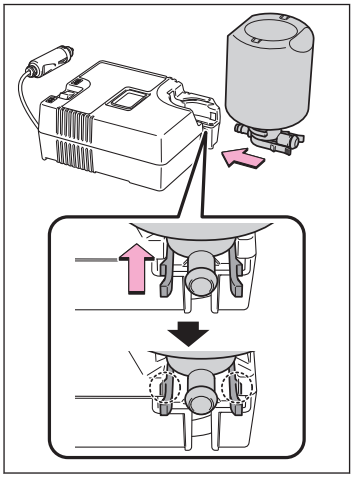
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 10 へ）

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出します。



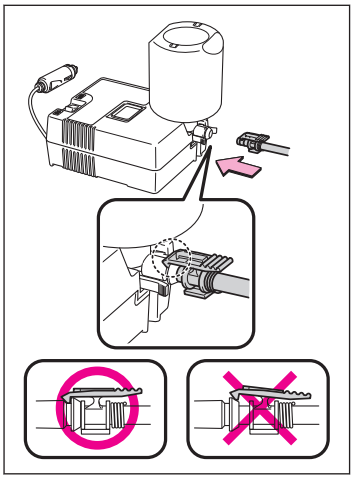
3 ボトルをコンプレッサーに接続します。

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入／接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

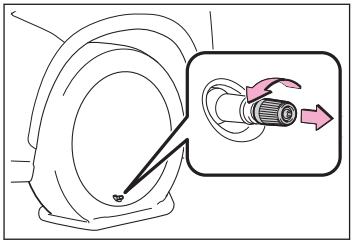


4 ホースをボトルに取り付けます。

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

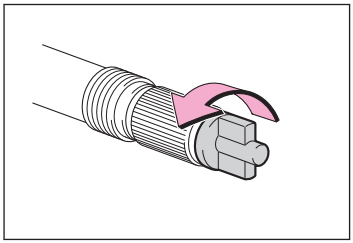


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずします。



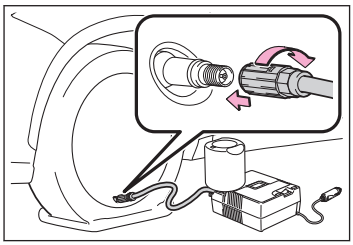
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずします。

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。



7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続します。

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

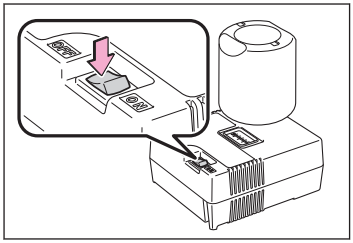


⚠ 警告

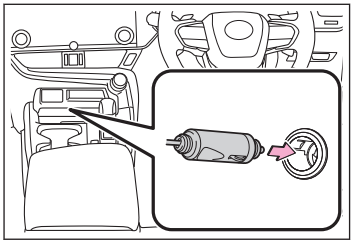
次のことを確認ください。

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

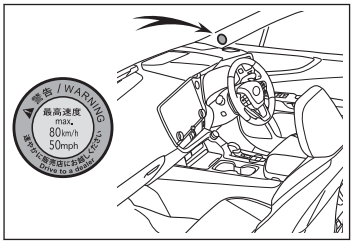
8 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認します。



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込みます。



10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付けます。

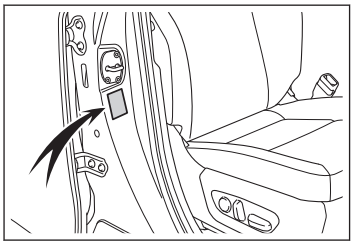


⚠ 警告

速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

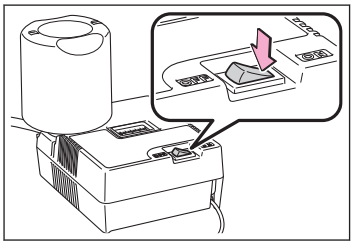
11 タイヤの指定空気圧を確認します。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。



12 エンジンを始動します。

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填します。



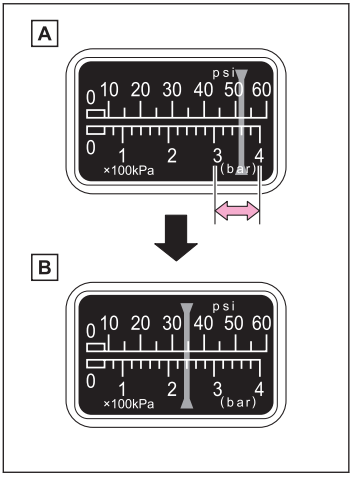
⚠ 警告

次のことをお守りください。

⚠ 警告

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 40 分以上連続で作動させないでください。応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。

14 空気圧が指定空気圧になるまで充填します。



A 一時的に空気圧計が 300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1～5 分程度で実際の空気圧になります。

- コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填／確認をくり返してください。
- 充填までに必要な時間は、約 5～20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。
  空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずします。

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

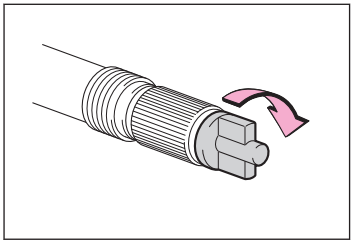
⚠ 警告

充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付けます。

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付けます。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納します。

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行します。

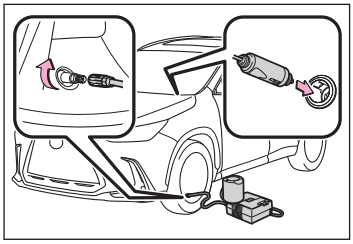
⚠ 警告

補修液を均等に広げるための運転中は、次のことに注意してください。

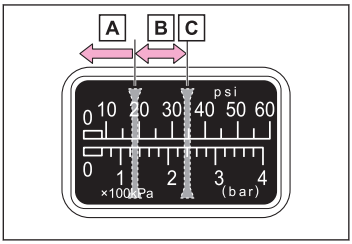
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

20 走行後、平坦な場所に停車し、再度応急修理キットを接続します。

応急修理キットを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずします。



21 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認します。



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

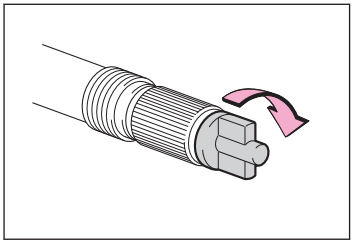
B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 22 へ

C 空気圧が指定空気圧の場合：手順 23 へ
タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施します。

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付けます。

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納します。

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転します。

レクサス販売店でタイヤを修理／交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

応急修理したあとは、できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。空気圧が正確に計測できなくなることがあります。

関連リンク

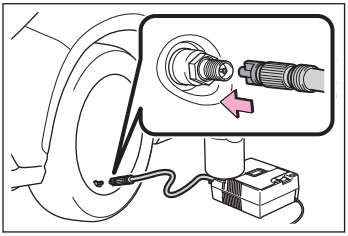
アクセサリーソケットの機能と働き (P.227)

タイヤの指定空気圧の確認 (P.459)

入れすぎてしまった空気を減らす

1 タイヤからホースを取りはずします。

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜きます。



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続します。

4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認します。

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

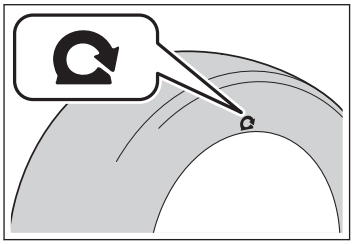
ランフラットタイヤがパンクしたときの注意事項（ランフラットタイヤ装着車）

お客様の車には、スペアタイヤが搭載されていません。ランフラットタイヤは、パンクした場合でもしばらくは走行可能です。パンクしたときは、なるべく速度を落とし、慎重に運転してください。

ランフラットタイヤがパンクしたときは、最寄りのレクサス販売店でタイヤを交換してください。

パンクした状態で走行するときは、80km/h 以下で急ハンドル／急ブレーキを避けてください。また、80km 以上走行しないでください。

ランフラットタイヤには、タイヤの側壁に マークが付いています。



知識

■ 高温時などは

80km まで走行できない場合があります。

注意

■ タイヤを交換するときは

最寄りのレクサス販売店で交換してください。タイヤ交換の際、交換手順を誤るとタイヤ空気圧警報用のバルブと送信機が損傷するおそれがあります。

■ 段差を乗りこえるときは

タイヤがパンクしているときは、通常にくらべ車高が低くなっているので、注意してください。

■ 液体のパンク補修剤の使用禁止

お使いになると、空気圧バルブ／送信機が損傷するおそれがあります。

■ パンクしたタイヤの再利用禁止

パンクしたタイヤを補修して使用しないでください。

■ 自動洗車機の使用禁止

タイヤがパンクした状態では、車が洗車機に引っかかり、損傷するおそれがあるため自動洗車機を使用しないでください。

キーをなくした

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちの上、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

電子キーを使ってドア／窓／ムーンルーフを操作できない

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。

車両カスタマイズ機能のスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている可能性があります。

車両カスタマイズ機能で、スマートエントリー＆スタートシステムを作動可能に設定変更してください。

注意

スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは、付属しているすべての電子キー（カードキー含む）をお持ちください。

電子キーが節電モードに設定されている可能性があります。

節電モードに設定されている場合は、解除してください。

電子キーの電池が切れている可能性があります。

- **電池を交換します。**
- **メカニカルキーを使って操作します。**

バッテリーあがりの可能性があります。

ブースターケーブルを使ってエンジンを再始動します。

電子キーの電池を交換する

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

カードキーの電池は、レクサス販売店で交換してください。

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

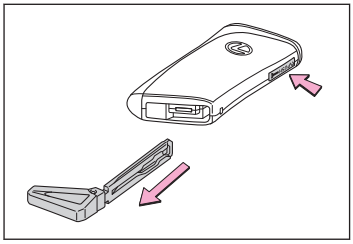
電池はレクサス販売店／時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

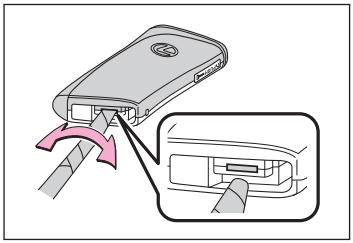
- スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

1　メカニカルキーを抜きます。



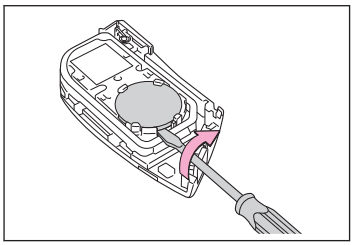
2　カバーをはずします。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3　消耗した電池を取り出します。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

■ **電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■ **電池を交換するときは**

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ **交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

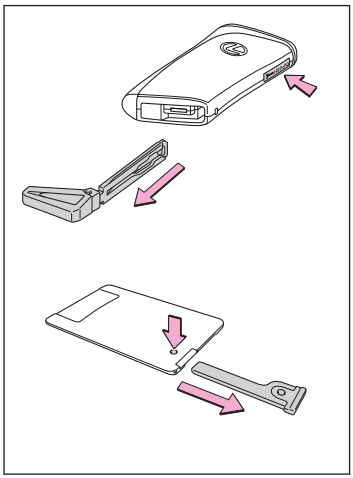
- ぬれた手で電池を交換しない

  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

メカニカルキーを使って操作する

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときやバッテリーがあがったとき、メカニカルキーが必要になります。



⚠ 注意

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

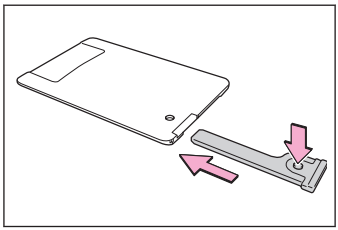
知識

■ **不正キーの使用について**

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりしてロック解除できません。

■ **カードキー**

- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



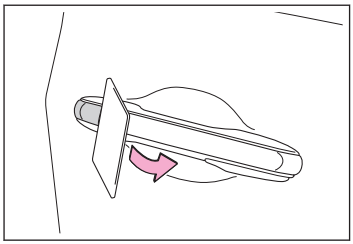
■ **オートアラーム**

メカニカルキーでロックした場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーでロック解除すると、警報が鳴りますのでご注意ください。

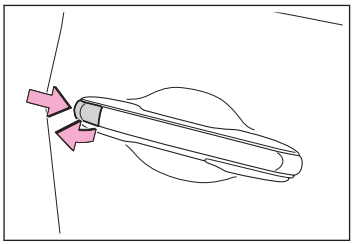
ドアをロック／ロック解除する

1 **ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせます。**

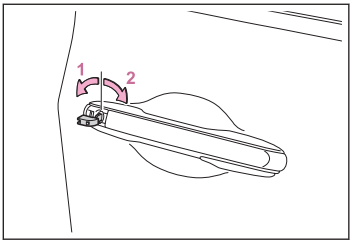
破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



2 **カバー後方を押しながら取りはずします。**



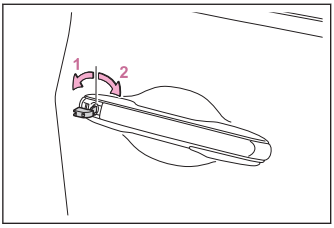
3 **次のようにキーを回します。**



1 全ドアロック解除
2 全ドアロック

知識

■ **キー連動機能**



1 ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が開く（まわし続ける）*1
2 ドアガラスとムーンルーフ★またはパノラマムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）*1

警告

メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフを操作するときは、ドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフまたはパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

バッテリーがあがったときにエンジンを再始動する

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、エンジンを始動させることができます。

知識

この車両は、押しがけによる始動はできません。

警告

■ **バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
*1：レクサス販売店での設定が必要です。

⚠ 警告

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

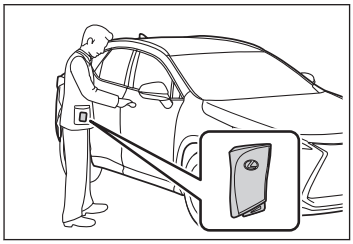
■ バッテリーの取り扱い

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚／衣服／車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱／ターミナル／その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

1 **電子キーを携帯していることを確認します。**

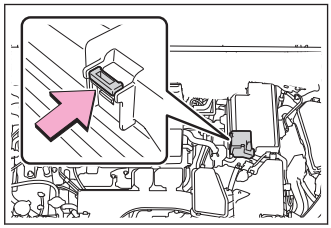
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアがロックされます。



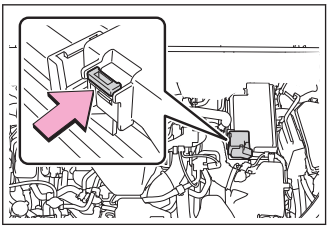
2 **ボンネットを開けます。**

3 **バッテリーの＋端子のカバーを開けます。**

▶ NX250

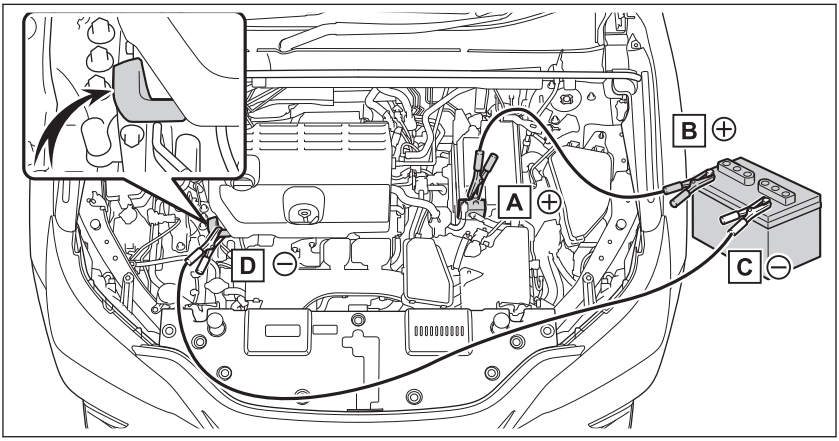


▶ NX350



4 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子B につなぎます。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子C につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部D につなぎます。

▶ NX250



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

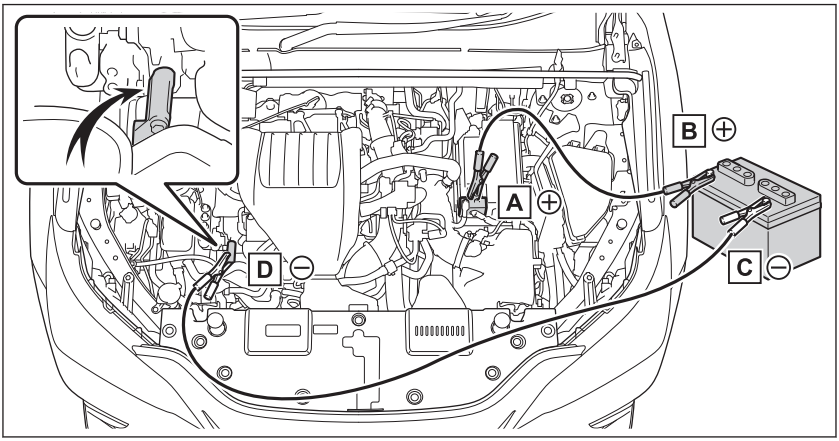
D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱い

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

▶ NX350



A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱い

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

5 **救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電します。**

6 **エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉します。**

7 **救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん ON にしてからエンジンを始動します。**

8 **エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずします。**

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

ドア開スイッチでドアを開けることができない

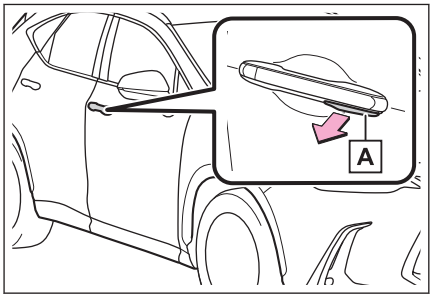
ドア開スイッチでドアを開けることができない場合は、手動リリースハンドルを使用してドアを開けることができます。

手動リリースハンドルを操作するには

⚠ 注意

通常、手動リリースハンドルを用いてドアを開けることはできません。手動リリースハンドルの作動を有効にするためには以下の操作を行ってください。以下の操作を行わずに手動リリースハンドルを強い力で操作すると、破損／変形する恐れがあります。

▶ **車外**

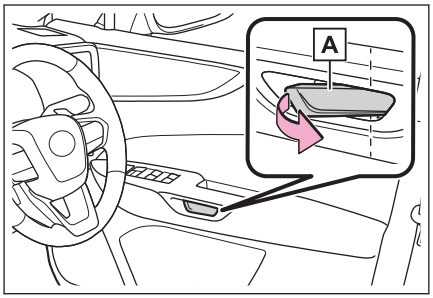


手動リリースハンドル A を手前に引いてドアを開きます。

通常、手動リリースハンドルではドアを開けることができません。

ドアを開けるには作動を有効にする必要があります。→ P.537

▶ **車内**



手動リリースハンドル A を手前に 2 回引いてドアを開きます。

1 回ハンドルを引くと作動が有効になり、再度ハンドルを引くとドアが開きます。

知識

■ **手動リリースハンドルの作動が有効になる条件**

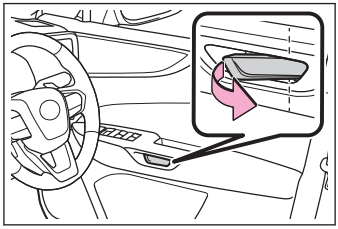
● 衝突時など強い衝撃を受けたとき

衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

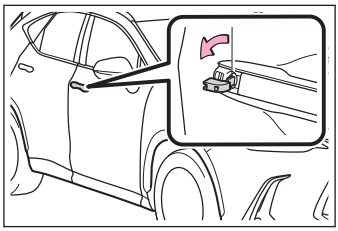
● ドアがロック解除状態でバッテリー電圧が徐々に低下したとき

低下のしかたによっては、作動しない場合があります。

● 車内から手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき



● 車外からメカニカルキーで手動リリースハンドルの作動を有効にしたとき



■ **手動リリースハンドルの作動が無効になる条件**

● 車外の手動リリースハンドルは、通常、作動が無効のためドアを開くことができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、ロックすることで自動的に作動が無効になります。

● 車内の手動リリースハンドルは、エンジンスイッチが ON のとき作動が無効のためドアを開くことができません。

メカニカルキーや手動リリースハンドルで作動を有効にしても、ドア開スイッチでドアを開いたり、ロックすることで自動的に作動が無効になります。

● 車内の手動リリースハンドルは、意図せずドアを開けることを防ぐため、エンジンスイッチが ON のとき 1 回目の操作後、約 1 秒で自動的に作動が無効になります。

関連リンク

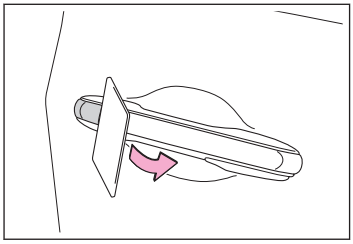
メカニカルキーを使って操作する (P.530)

メカニカルキーで車外手動リリースハンドルの作動を有効にするには

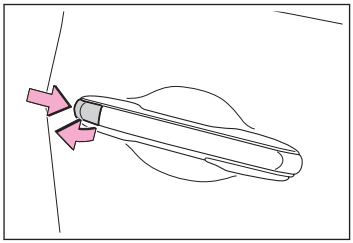
メカニカルキーを使ってドアをロック解除することで手動リリースハンドルの作動を有効にすることができます。

1 **ドアハンドルのスリット部にプラスチック製のカードなどを挿し込みカバーを浮かせます。**

破損を防ぐためにカバーに過度の負荷をかけないでください。



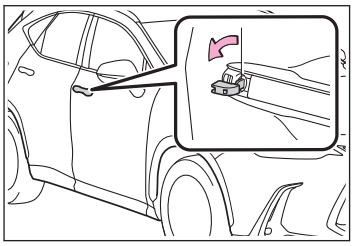
2 **カバー後方を押しながら取りはずします。**



3 **メカニカルキーを使ってロック解除側にまわし、手動リリースハンドルの作動を有効にします。**

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある方溝キーです。

キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。



リヤドアが内側から開けられない

チャイルドプロテクターがかかっている可能性があります。
車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除します。

関連リンク

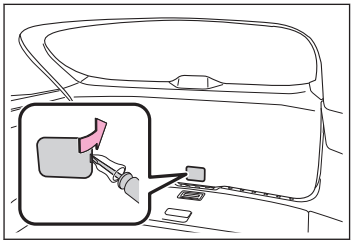
車内からリアドアを開けられないようにする（チャイルドプロテクター）（P.27）

バックドアが開かない

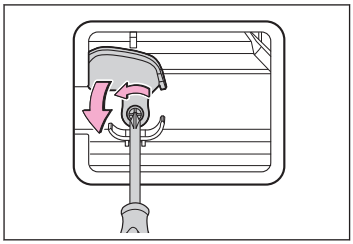
バックドアを内側から開けることができます。

1 **カバーをはずします。**

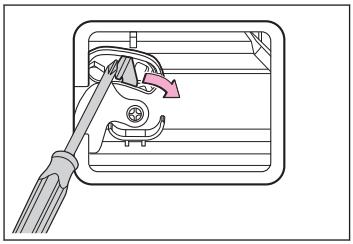
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 **ねじをゆるめて、カバーをまわします。**



3 **ドライバーを使って、レバーを押します。**



ムーンルーフが正常に動かない

ムーンルーフが閉まるときに反転し、閉じ切らない

1 **車を停止します。**

2 **を押し続けます。*1**

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。*2

その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 **ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなします。**

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ムーンルーフがチルトダウン時に反転し、閉じ切らない

1 **車を停止します。**

2 **を押し続け、ムーンルーフをチルトアップ位置にします。*3**

3 **スイッチから一度手を離し、再度 を押し続けます。*3**

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。*4

4 **ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す**

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

*1：途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

*2：10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの 、または、 を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

*3：途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

*4：10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの 、または、 を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

パノラマムーンルーフ／電動サンシェードが正常に動かない

パノラマムーンルーフ／電動サンシェードの動作を初期化する

1 車を停止します。

2 エンジンスイッチを ON にします。

3 と を同時に押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じきり作動を開始します。*1

4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

*1：途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

リヤシートを初期化する（パワーシート装着車）

1 シートの座面に何も置いていないことを確認します。

2 初期化するシートを前に倒します。

3 初期化する側の（ラゲージルーム内スイッチ）を押し続けます。

4 10 秒以内に（セカンドシート側スイッチ）を 5 回押します。

5 10 秒後、ブザーが 3 回鳴ったら（ラゲージルーム内スイッチ）から手を離します。

6 （ラゲージルーム内スイッチ）または、（ラゲージルーム内スイッチおよびセカンドシート側スイッチ）を押して、背もたれを戻します。

背もたれもどし作動中は、オートで作動し、その間ブザーが吹鳴します。

ブザーが 2 連続で鳴ったら完了です。

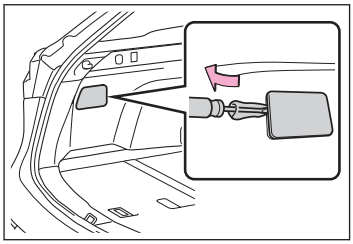
上記の手順を行ってもブザーが鳴り止まない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

給油扉が開けられない

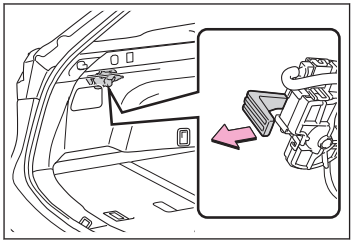
給油扉オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

1 **ラゲージルーム内の図に示すカバーをマイナスドライバーを使って取りはずします。**

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 **レバーを引きます。**



おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の充電トレイ上の作動表示灯が点滅した★

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の作動表示灯が 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色／緑色）

原因	対処法
ワイヤレス充電器の通信不良が考えられます。	エンジンがかかっているときは、一度エンジンを停止し、再始動してください。 エンジンスイッチが ACC のときは、一度エンジンを始動してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の作動表示灯が 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

原因	対処法
以下の原因が考えられます。 ● 異物検知：充電エリア内に金属製の異物があり、充電用コイルの異常加熱防止機能が働いた ● 携帯機器のずれ：携帯機器の充電用コイルが充電エリアから外れたことで、充電用コイルの異常加熱防止機能が働いた	● 充電エリア内にある異物を取り除いてください。 ● 携帯機器を充電トレイから取り出し、作動表示灯が緑に戻ったことを確認して、充電トレイの中央付近に置き直してください。 また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）の作動表示灯が 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

原因	対処法
ワイヤレス充電器内の温度上昇が考えられます。	いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンはかかるが車が動かない

駆動系の故障が考えられます。

レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

トランスミッションから異常な音がする

駆動系の故障が考えられます。

レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

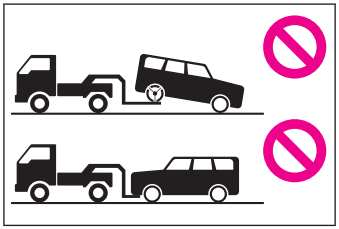
レッカー車を使用したけん引

FF（前輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

警告

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



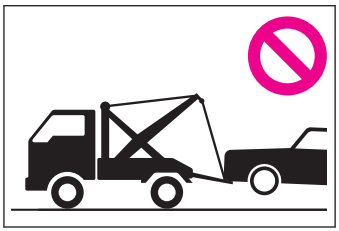
注意

■ 長い下り坂でけん引するとき

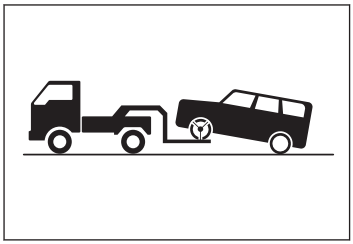
レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



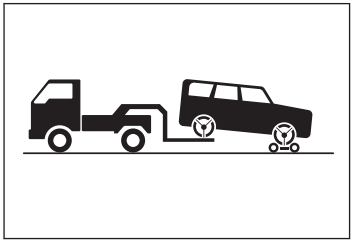
▶ 前向きにけん引するとき



パーキングブレーキを解除します。

パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。

▶ **うしろ向きにけん引するとき**



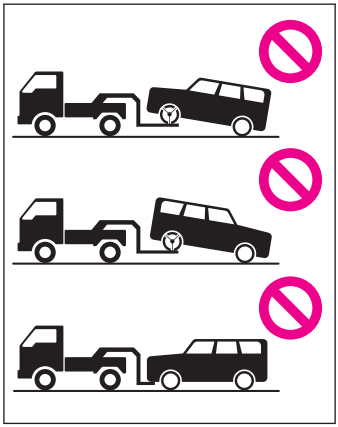
台車を使用して前輪を持ち上げます。

AWD（4 輪駆動）をレッカー車でけん引してもらう

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 警告

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



⚠ 注意

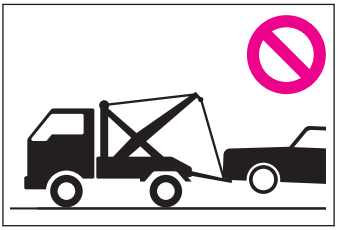
■ **長い下り坂でけん引するとき**

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

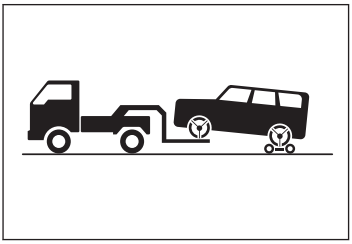
⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

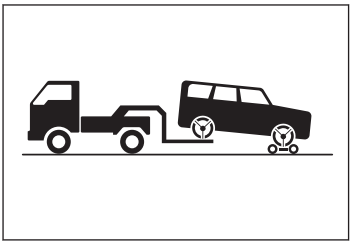


▶ 前向きにけん引するとき



台車を使用して後輪を持ち上げます。

▶ うしろ向きにけん引するとき



台車を使用して前輪を持ち上げます。

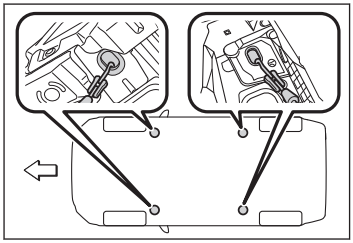
車両運搬車を使用する

⚠ 注意

車両運搬車に車を固縛するときは、ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

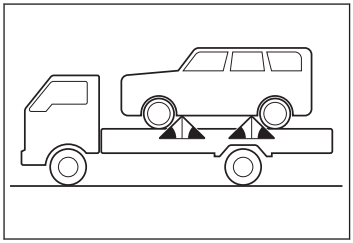
■ 車両運搬車で輸送するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛します。



■ 鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛するとき

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛するときは、図に黒く示す角度が 45°になるように固縛します。



他車を使用したけん引

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者に依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■ Stop & Strat システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチを ON にしてください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。

レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき
- エンジンイモビライザーシステムに異常があるとき
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき(→ P.505)
- バッテリーがあがったとき

関連リンク

エンジンスイッチのモードを切りかえる (P.111)
ディスプレイに警告メッセージが表示された (P.489)
エンジンイモビライザーシステムを作動させる (P.62)
バッテリーあがり (P.506)

他車にけん引してもらう

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

⚠ 警告

パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください

- 運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける
- エンジンスイッチを OFF にする

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、次のことを必ずお守りください。

- 他車にけん引してもらうときは、必ず前進方向でけん引してもらってください。

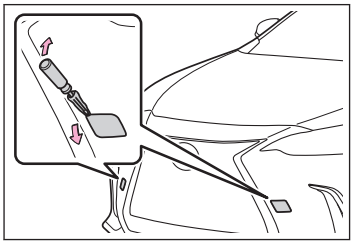
注意

- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

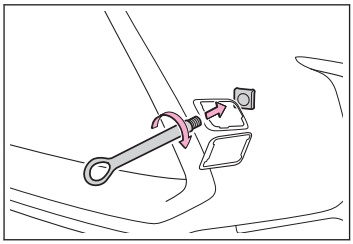
1 **ラゲージルーム内のマイナスドライバー、けん引フックを取り出します。**

2 **マイナスドライバーを使ってフタをはずします。**

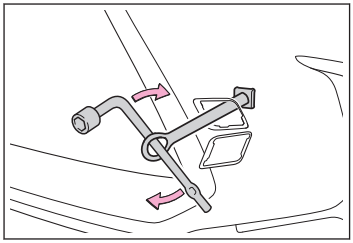
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 **けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締めます。**



4 **ホイールボルトレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付けます。**



知識

■ **けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ **ホイールボルトレンチ**

レクサス販売店で購入することができます。

警告

けん引フックを車両に取り付けるときは、指定の位置にしっかりと取り付けてください。

⚠ 警告

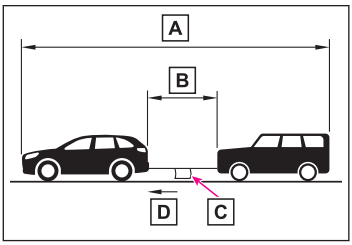
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

5 **車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかけます。**

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 **ロープの中央に白い布を付けます。**

布の大きさ：0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内
B 5m 以内
C 白い布
D けん引方向

⚠ 注意

車両の損傷を防ぐために、他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- サスペンション部などにロープをかけない

7 **運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動します。**

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを ON にしてください。

知識

■ **他車にけん引してもらうとき**

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

⚠ 警告

他車にけん引してもらうときは、エンジンスイッチを OFF にしないでください。パーキングロックにより、前輪が固定され思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

8 **けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する**

パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

警告

けん引してもらうときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

注意

他車にけん引してもらうときは、速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。車両が損傷するおそれがあります。

ぬかるみや砂地、雪道から抜け出す

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、エンジンを停止します。

2 前輪周辺の土や雪を取り除きます。

3 前輪の下に木や石などをあてがいます。

4 エンジンを再始動します。

5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏みます。

警告

- シフトレバーを操作するときは、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないでください。

  車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

  スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

注意

タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

トランスミッションやその他の部品が損傷するおそれがあります。

6 脱出しにくいときは、 を押して TRC を OFF にしてください。

以上の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

注意

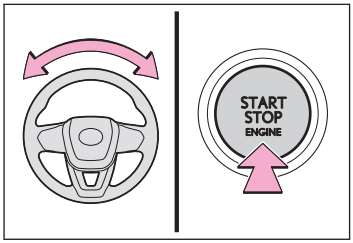
■ **輸送用フックについて**

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

盗難防止のため、自動的にロックされます。

- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに**「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」**が表示されます。シフトポジションがＰの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



- 短時間にエンジンの始動／停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

関連リンク

エンジンスイッチのモードを切りかえる (P.111)

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

ウインドウロックスイッチが ON になってるか確認してください。

ウインドウロックスイッチが ON になっていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。

ウインドウロックスイッチを OFF にしてください。

- **挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。**
  - 車を停止し、エンジンスイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
  - 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を実施してください。

関連リンク

安全な窓の開閉を補助するための機能 (P.85)
パワーウィンドウスイッチを使った操作 (P.86)
誤って窓を開けられないようにする (P.88)

挟み込み防止機能／巻き込み防止機能を初期化する

1. **エンジンスイッチを ON にします。**
2. **パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にします。**
3. **いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続けます。**
4. **パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続けます。**
5. **いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続けます。**
6. **再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続けます。**

   ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

   以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

関連リンク

安全な窓の開閉を補助するための機能 (P.85)
パワーウィンドウスイッチを使った操作 (P.86)

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

次の状況のとき、自動電源 OFF 機能が作動します。

- シフトポジションが P にあるとき、約 20 分以上エンジンスイッチを ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のままにした
- シフトポジションが P およびエンジンスイッチが ACC または ON（エンジンが始動していない状態）のときにバッテリーの残量が少なくなった

次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにして約 5 分間その回転数を保持し、バッテリーを充電してください。

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

オーバーヒートした

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計の表示がレッドゾーンに入る
- スピードが出ないなどエンジンの出力が低下する
- マルチインフォメーションディスプレイに**「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」**が表示される
- エンジンルームから蒸気が出ている

水温計がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示された

1 **安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止します。**

⚠ 警告

冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。

ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ／スカーフ／マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。

また、エンジンスイッチを OFF にしても数分間作動することがあります。

2 **蒸気が出ていない場合は、注意してボンネットを開けます。**

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開けます。

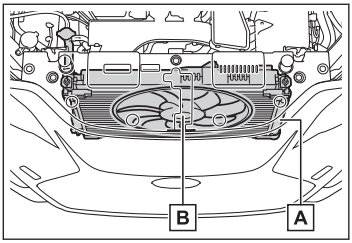
⚠ 警告

ボンネットを開ける際は、次のことをお守りください。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップや冷却水リザーバータンク、インタークーラーリザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

3 **エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検します。**

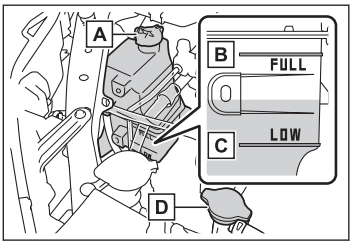
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。



A ラジエーター
B ファン

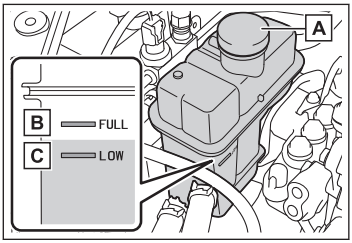
4 冷却水の量がリザーバータンクの[FULL]（上限）と[LOW]（下限）のあいだにあるかを点検します。

▶ エンジン



A リザーバータンク
B [FULL]（上限）
C [LOW]（下限）
D ラジエーターキャップ

▶ インタークーラー（NX350）

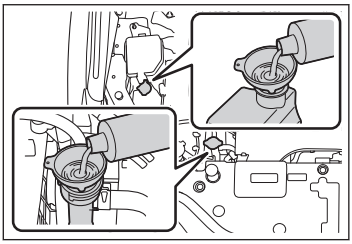


A リザーバータンク
B [FULL]（上限）
C [LOW]（下限）

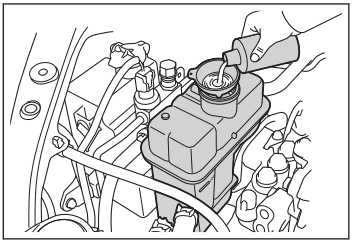
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給します。

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ エンジン



▶ インタークーラー（NX350）



⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

6 **エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認します。**

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。

ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 **ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡します。**

ファンが作動している場合：最寄りのレクサス販売店で点検を受けます。

8 **マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認します。**

表示が消えていない場合：すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡します。

表示が消えている場合：最寄りのレクサス販売店で点検を受けます。

電装品が使えない、スイッチを押しても動かない

電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。
ヒューズの点検を行ってください。

関連リンク

ヒューズの点検／交換をする (P.565)

点灯しないライトがある

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。
- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

対処の方法がわからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

ヒューズの点検／交換をする

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

⚠ 注意

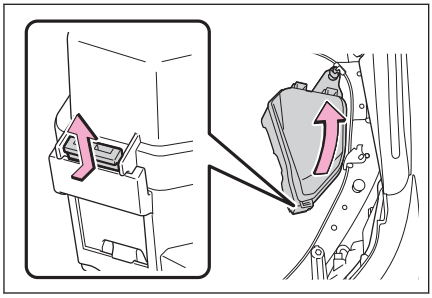
ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

1 **エンジンスイッチを OFF にします。**

2 **ヒューズボックスを開けます。**

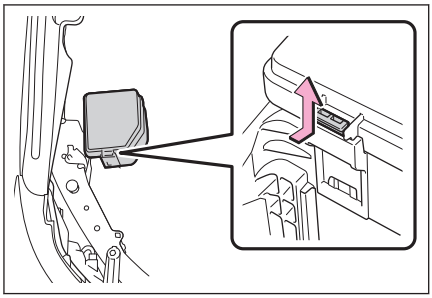
▶ **エンジンルーム（ヒューズボックス A）**

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げます。



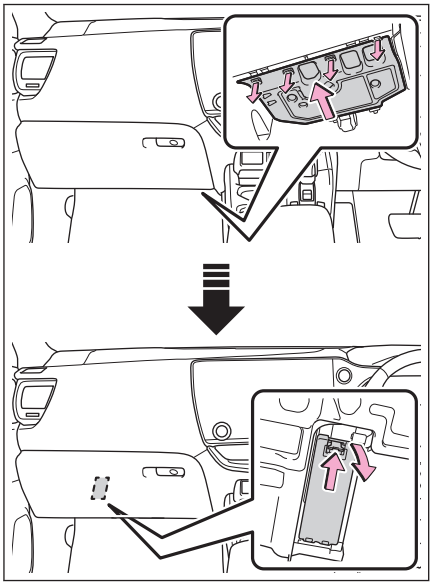
▶ **エンジンルーム（ヒューズボックス B）**

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げます。



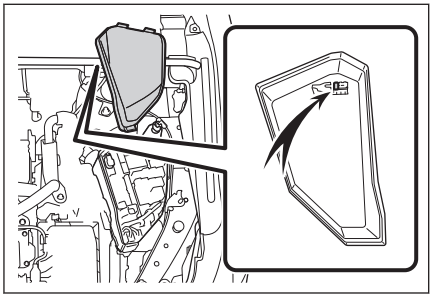
▶ **助手席足元**

足元のカバーを取りはずし、ヒューズボックスカバーを取りはずします。



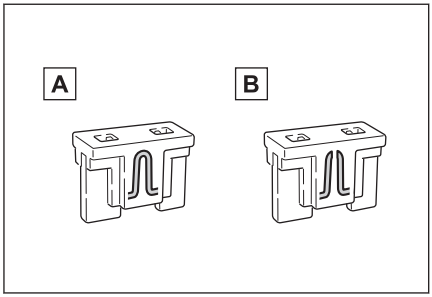
3 **ヒューズを引き抜きます。**

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 **ヒューズが切れていないか点検します。**

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ **ヒューズを交換したあと**

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ **バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると**

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ **電球（バルブ）を交換するときは**

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。

一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

電球（バルブ）の交換

電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをお勧めします。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／LED デイタイムランニングランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- コーナリングランプ★
- リヤフォグランプ★
- 尾灯／制動灯
- 後退灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■ LED ランプについて

フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED が一つでも点灯できないときは、レクサス販売店で交換してください。

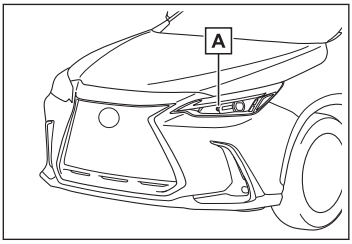
⚠ 警告

バルブを交換するときは、次のことに注意してください。

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バルブ位置

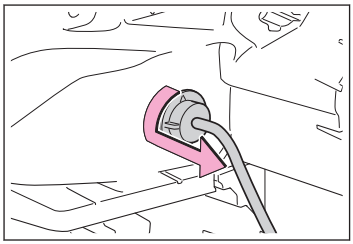


A フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

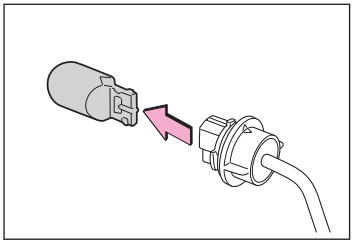
フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）の交換のしかた

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。

1 ソケットを左にまわして取りはずす

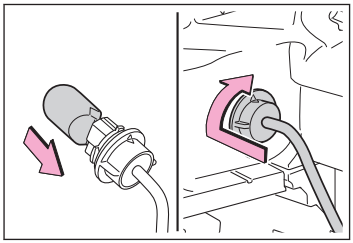


2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に差し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんフロント方向指示灯／非常点滅灯を点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



10 車の仕様、諸元、装備

10-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 572

10-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能概要 578

設定変更方法 579

車両カスタマイズ設定一覧 580

10-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 596

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、車の寿命は著しく左右されます。車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量（参考値）
NX350： ● 無鉛プレミアムガソリン(1) ● バイオ混合ガソリン（プレミアム）(2) NX250： ● 無鉛レギュラーガソリン ● バイオ混合ガソリン（レギュラー）(2)	55.0 L

(1) 無鉛レギュラーガソリンを使用することもできます。その場合、エンジン性能を十分に発揮できません。

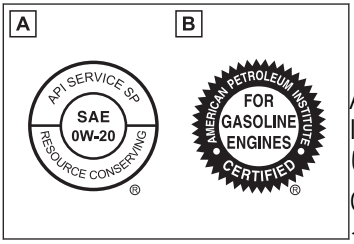
(2) エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル(NX350)

指定銘柄	容量（参考値(1)）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 「弊社純正モーターオイル」SP 0W-20（API SP/RC、ILSAC GF-6A、SAE 0W-20） 適合： 「弊社純正モーターオイル」SP 5W-30（API SP/RC、ILSAC GF-6A、SAE 5W-30）	5.0 L	5.3 L

(1) エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

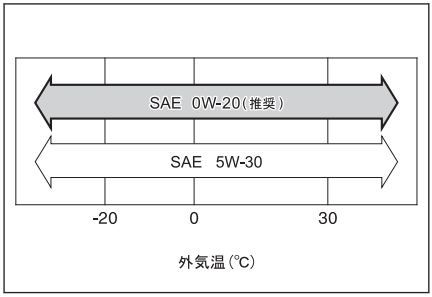
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

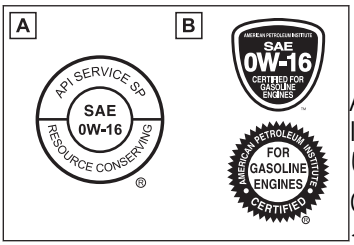
- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。
  W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

エンジンオイル(NX250)

指定銘柄	容量（参考値(1)）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： 「弊社純正モーターオイル」SP 0W-16（API SP/RC、ILSAC GF-6B、SAE 0W-16） 適合： 「弊社純正モーターオイル」SP 0W-20（API SP/RC、ILSAC GF-6A、SAE 0W-20） 「弊社純正モーターオイル」SP 5W-30（API SP/RC、ILSAC GF-6A、SAE 5W-30）	4.2 L	4.5 L

(1) エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル



A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

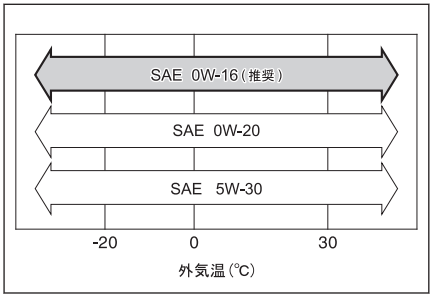
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。
  W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

▶ NX350

指定銘柄	容量（参考値）	
	エンジン	インタークーラー
「弊社純正スーパーロングライフクーラント」 凍結保証温度 濃度 30% −12° C 濃度 50% −35° C	8.7L	2.7L

▶ NX250

指定銘柄	容量（参考値）
「弊社純正スーパーロングライフクーラント」 凍結保証温度 濃度 30% −12° C 濃度 50% −35° C	7.0L

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量（参考値）	
「弊社純正オートフルード　WS」(1)	NX350	7.1L

指定銘柄	容量（参考値）	
「弊社純正オートフルード　WS」(1)	NX250	7.3L

(1) 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

注意

■ **トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動／異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

トランスファー（AWD 車）

指定銘柄	容量（参考値(1)）
「弊社純正ディファレンシャルギヤオイル」 LT(API GL-5 SAE 75W-85)	0.45L

(1) 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（AWD 車）

オイルタイプ／指定銘柄	容量（参考値）
「弊社純正ディファレンシャルギヤオイル」(1) 「LT(API GL-5 SAE 75W-85)」	0.50L

(1) 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
「弊社純正ブレーキフルード 2500H-A」

■ ブレーキペダル

項目	基準値
遊び	1～6mm
踏み込んだときの床板とのすき間(1)	96mm

(1) エンジン回転時に 300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量（参考値）
4.8 L

タイヤ／ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/60R18 103H	18 × 7 1/2 J	230 (2.3)	230 (2.3)
235/50R20 100V	20 × 7 1/2 J	230 (2.3)	230 (2.3)

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数
車外	フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブ）	21

表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
NX350	TAZA25	T24A-FTS （2.4L ガソリン）	AWD
NX250	AAZA20	A25A-FKS （2.5L ガソリン）	FF
	AAZA25		AWD

ユーザーカスタマイズ機能概要

車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

警告

カスタマイズを行うときは、エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

カスタマイズを行うときは、バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

設定変更方法

センターディスプレイで設定する

にタッチして設定する

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。

1 センターディスプレイの にタッチします。

2 [車両カスタマイズ]または[運転支援]にタッチします。

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択します。

各項目の設定変更が可能です。詳しくは、変更可能な設定項目一覧を確認してください。

作動／非作動を変更できる機能では、（作動）／（非作動）を選択します。

にタッチして設定する

1 センターディスプレイの にタッチします。

2 [運転支援]にタッチします。

3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択します。

作動／非作動の設定は、タッチするたびに切りかわります。

作動状態を選択すると、項目が強調表示されます。

車両カスタマイズ設定一覧

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能
B レクサス販売店で設定変更可能

記号の意味: O =変更可能、 — =変更不可能

メーター、マルチインフォメーションディスプレイ

言語や単位などの一部の項目は、センターディスプレイの設定に連動してメーター、マルチインフォメーションディスプレイの表示も変更されます。設定の変更については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メーター表示タイプ(1)	タイプ 1	タイプ 2	O	—
		タイプ 3		
エコドライブインジケーターランプ(1)	あり（自動点灯）	なし	O	—
REV インジケーター(2)	5000r/min	2000～6800r/min(3) 2000～6200r/min(4)	O	—
		なし		
REV ピーク(2)	あり	なし	O	—
制動灯表示灯	あり	なし	—	O
提案サービス(1)	あり	あり（停車中のみ）	O	O
		なし		
リヤシートリマインダー(1)	あり	なし	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。
(2) F SPORT
(3) NX200/NX250
(4) NX350

ヘッドアップディスプレイ★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
表示(1)	ON	OFF	O	—
表示モード(1)	標準	最大	O	—
		最小		

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ステアリングスイッチ（ヘッドアップディスプレイ装着車）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
右側ステアリングスイッチお気に入り機能(1)	画面切りかえ／調整	カスタム	O	—
左側ステアリングスイッチお気に入り機能(1)	オーディオ	空調	O	—
		カスタム		
スイッチセンサー高感度モード(防寒手袋モード)(1)	なし	あり	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドアロック

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ドアロックスイッチインジケーターの点灯時間	30 秒	60 秒	—	O
		600 秒		
		1200 秒		
車内ドア開スイッチ作動の調整（ドアを開ける機能の調整）	短	中	—	O
		長		

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
車内ドア開スイッチ操作時のマルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー吹鳴する機能の設定	あり	なし	—	O
車内外ドア開スイッチの操作方式設定	スイッチ押下時	0.6 秒	—	O
		車内からの操作：0.6 秒 車外からの操作：スイッチ押下時		
		車内からの操作：スイッチ押下時 車外からの操作：0.6 秒		
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	O
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）(1)	なし	あり	O	O
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）(1)	あり	なし	O	O
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）(1)(2)	なし	あり	O	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

(2) エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に、運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

パワーバックドア

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
バックドア自動開停止位置	開度 5	お好みの位置（高さ）で停止 (1)	○	—
		開度 1 ～ 5		
パワーバックドア機能	あり	なし	○	—
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	○	—
		レベル 2		
キックセンサ作動 ★	あり	なし	○	—
キックセンサ作動確認ブザー ★	あり	なし	—	○
ワイヤレスリモコンのバックドア解除ボタン操作（施錠時ボタン 1 回操作アンロック）	なし	あり	—	○
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能設定	あり	なし	—	○
ハンズフリークローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能 ★	なし	あり	—	○

(1) バックドア下部の スイッチ操作で設定します。

スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
作動の合図（ブザー音量調整） (1)	レベル 5	OFF	○	○

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
	レベル 5	レベル 1～7	O	O
作動の合図（非常点滅灯）(1)	あり	なし	O	O
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間(1)	30 秒	60 秒	O	O
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

スマートエントリー＆スタートシステム

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	O	O
解錠されるドアの選択(1)	全席解錠	運転席のみ解錠	O	O
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	O
全席解錠までのドアハンドル保持時間	2.0 秒	非作動	—	O
		1.5 秒		
		2.5 秒		
降車オートロック機能	なし	あり	—	O
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	なし	あり	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ワイヤレスドアロック

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
解錠時の操作(1)	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	O	O
パワーバックドア解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	O
		2 回押し		
		1 回押し続ける（長）		
		非作動		

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

セキュリティ

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
侵入／傾斜センサー	ON	OFF	O	—

ドライビングポジションメモリー★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
降車時の運転席シート移動量調節(1)	標準	OFF	O	O
		少なめ		
ハンドルの作動(1)	チルトのみ	テレスコピックのみ	O	—
		チルト＆テレスコピック		
		なし		

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドアミラー

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
オート電動格納作動	ドアの施錠／解錠と連動	OFF	—	O

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
オート電動格納作動	ドアの施錠／解錠と連動	エンジンスイッチと連動	—	O

パワーウインドウ、ムーンルーフ★、パノラマムーンルーフ★共通

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	O
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	O

ムーンルーフ★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキー連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	O
ワイヤレスリモコン連動開機能の作動	スライドのみ	チルトのみ	—	O

ランプ自動点灯／消灯システム

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ライトセンサーの感度調整(1)	-2	-2～＋2	O	O
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	あり	なし	—	O
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチを OFF にする	エンジンスイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	—	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ランプ

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
LED デイタイムランニングランプ	あり	なし	—	O
おもてなし照明の制御	あり	なし	—	O

アダプティブハイビームシステム

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アダプティブハイビームシステム	あり / なし	—	O
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	15 km/h / 30 km/h / 80 km/h	—	O
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり / なし	—	O
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり / なし	—	O
雨天時用のハイビーム配光制御	あり / なし	—	O
市街地用の配光制御	あり / なし	—	O

プリクラッシュセーフティ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	ON / OFF	O	—
警報タイミング(1)	遅い / 標準 / 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

フロントクロストラフィックアラート★

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントクロストラフィックアラート	ON / OFF	O	—
注意喚起タイミング(1)	遅い / 標準 / 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

レーンディパーチャーアラート

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート(1)	ON / OFF	O	—
警報タイミング(1)	標準 / 早い	O	—
警報手段(1)	振動 / ブザー	O	—
低車速支援(1)	ON / OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

レーンチェンジアシスト★

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンチェンジアシスト(1)	ON / OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

休憩提案

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
休憩提案	ON / OFF	O	—

カーブ速度抑制

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カーブ速度抑制(1)	OFF / 強 / 中 / 弱	O	—

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

レーダークルーズコントロール

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
加速度設定(1)	強 / 中 / 弱	O	—
速度設定（短押し）(1)	1 km/h / 5 km/h / 10 km/h	O	—
速度設定（長押し）(1)	1 km/h / 5 km/h / 10 km/h	O	—
ガイド文言表示(1)	ON / OFF	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

プロアクティブドライビングアシスト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プロアクティブドライビングアシスト(1)	ON / OFF	O	—
支援タイミング(1)	遅い / 標準 / 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ロードサインアシスト

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロードサインアシスト(1)	ON / OFF	O	—
速度標識超過告知方法(1)	無 / 表示 / 表示とブザー	O	—
その他告知方法(1)	無 / 表示 / 表示とブザー	O	—
速度超過告知車速(1)	10 km/h / 5 km/h / 2 km/h	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

発進遅れ告知

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車(1)	ON / OFF	O	—
信号(1)	ON / OFF	O	—
告知タイミング(1)	遅い / 標準 / 早い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ITS Connect★

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
支援タイミング	遅い / 早い	O	—
信号情報	ON / OFF	O	—
道路環境情報	ON / OFF	O	—
緊急車両通知	ON / OFF	O	—
クルーズ（ITS）	ON / OFF	O	—

クリアランスソナー★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
クリアランスソナー機能(1)	On	Off	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

駐車支援音量★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
駐車支援音量(1)	中	小	O	—
		大		

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニター

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ブラインドスポットモニター機能	On	Off	O	—
接近車両を知らせるタイミング(感度)(1)	普通	早い	O	—
		遅い		
ドアミラーインジケーターの明るさ(1)	明るい	暗い	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

安心降車アシスト

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
安心降車アシスト機能	On	Off	O	—
ドアミラーインジケーター表示(1)	あり	なし	O	—
接近車両検知の感度(1)	普通	高い	O	—
		低い		

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

リヤクロストラフィックアラート

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能(1)	On	Off	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

リヤカメラディテクション★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
リヤカメラディテクション機能(1)	On	Off	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

パーキングサポートブレーキ★

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
パーキングサポートブレーキ機能(1)	On	Off	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

Stop & Start システム

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間	標準	長め	O	—

ドライブモードセレクトスイッチ

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
カスタムモード時★のパワートレーン制御	Normal	Power Eco	O	—
カスタムモード時★のサスペンション制御	Normal	Sport	O	—
カスタムモード時★のステアリング制御	Normal	Sport	O	—

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
カスタムモード時★のエアコン作動	Normal	Eco	O	—

エアコン

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる（内外気切替 AUTO スイッチ連動）(1)	する	しない	O	O
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる（エアコン AUTO スイッチ連動）(1)	する	しない	O	O
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整(1)	標準	−2（涼しめ）から＋2（暖かめ）	O	O
運転席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整(1)	標準	−2（涼しめ）から＋2（暖かめ）	O	O
助手席自動シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整(1)	標準	−2（涼しめ）から＋2（暖かめ）	O	O

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

イルミネーション

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
室内灯の消灯までの時間(1)	15 秒	OFF	O	O
		7.5 秒		
		30 秒		
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	O
接近時の照明の点灯	あり	なし	—	O
解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	O
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	O
ドアトリム照明★、インサイドハンドル照明、センターコンソール照明★の点灯	あり	なし	—	O
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間(1)	15 秒	OFF	O	O
		7.5 秒		
		30 秒		
接近時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	O
解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	O
ドアを開けた時のアウトサイドドアハンドルの点灯	あり	なし	—	O
アウトサイドドアハンドルの消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	O

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
施錠後の室内外照明の点灯	あり	なし	—	O
色の選択(1)	シルキーホワイト	各照明色	O	—
		カスタム		
輝度の調整(1)	最大輝度	任意の照度	O	—

(1) マイセッティングと連動して設定が変更されます。

ドライブスタートコントロール

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
後退速度の抑制制御	あり	なし(1)	O	—

(1)「なし」に変更しても、エンジンスイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

エンジンスイッチ

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC モード	あり／なし	O	O

初期設定が必要な項目

バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア	● バッテリーの充電／交換後の再接続時	→ P.67
バックガイドモニター＆サイドモニター	● バッテリーの充電／交換後の再接続時	別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照
パノラミックビューモニター★	● バッテリーの充電／交換後の再接続時	別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照
タイヤ空気圧警報システム	● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ● タイヤのサイズを変更するなどして、タイヤの設定空気圧を変更したとき	→ P.448

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

補足

不正改造防止や車両データの記録などの補足情報

不正改造の防止

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するといった車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。

  ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店へご相談ください。
  - タイヤ／ディスクホイール／ホイール取り付けボルトの交換

    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - 電装品／無線機の取り付け／取りはずし

    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

    RF 送信機の取り付けについては、→ P.600 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席／助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。

  視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

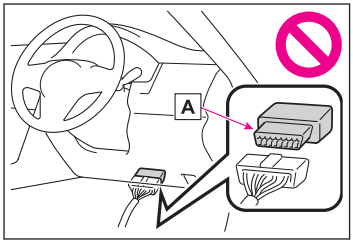
運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

故障診断コネクターなどへの電装品の取り付け禁止

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするといった思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されています。

■ コンピューターに記録されるデータ

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数/電気モーター回転数、アクセルペダル・ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される、車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）*1
- 位置情報

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢等）は車両に記録されません。

■ Lexus Safety System +によるデータの記録・個人情報の取扱いについて

トヨタ自動車は、Lexus Safety System+により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前・後方カメラの画像）・位置情報を、次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- エンジン始動後の一定のタイミング

Lexus Safety System+によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取扱いについての詳細は、G-Link ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上等）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラ等走行環境の分析・交通状況の配信等があります。以下、これらを「個別サービス」といいます。）

*1：車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。
グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Lexus Safety System+によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お客様の別途の同意（リース車は借主の同意）がある場合。レクサス以外の第三者が提供する、車両記録データを利用する個別サービスに申込された場合等であって、第三者がレクサスに代わり、レクサスから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術、商品開発、品質向上等）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- レクサスと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像情報は、レクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Lexus Safety System +によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合には、My LEXUS より停止いただけます。詳細は、My LEXUS のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。

EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

■ EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けに関する注意

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System +
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域／電力レベル／アンテナ位置／取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

A

AHB

オートマチックハイビーム を参照

AHS

アダプティブハイビームシステム を参照

AWD

（オールホイールドライブ）..... 577

F

FCTA

フロントクロストラフィックアラート を参照

FF

（フロントエンジンフロントドライブ）.....577

I

ILSAC CERTIFICATION

（イルサックサーティフィケーション）.....572,574

L

LCA

レーンチェンジアシスト を参照

LDA)

レーンディパーチャーアラート を参照

Lexus Safety System +..... 287

LTA

レーントレーシングアシスト を参照

M

Max cool..... 201

Max heat..... 200

P

PCS

プリクラッシュセーフティ を参照

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....365,367

R

RCD（リアカメラディテクション）.....360,363

RCTA（リアクロストラフィックアラート）.....353

RSA

ロードサインアシスト を参照

S

S-FLOW..... 199

あ

アイドリングストップ

Stop & Start キャンセル表示灯.....485

Stop & Start システム..... 114

Stop & Start 表示灯..... 485

アウターミラー

ドアミラー を参照

アウターミラー（ドアミラー）

ポジションメモリー..... 191

ミラーヒーター..... 171

アウトサイドドアハンドル照明.....216

アクセサリーモード..... 111

足元照明.....216

アダプティブハイビームシステム.....152

アラーム

オートアラーム..... 61

警告ブザー..... 479

安心降車アシスト..... 340

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABS＆ブレーキアシスト警告灯.....481

アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 45

い

イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）
エンジンのかけ方..... 110
自動電源 OFF 機能..... 111
モードの切りかえ..... 111
位置..... 26
位置交換
ローテーション を参照
イモビライザーシステム..... 61
インサイドドアハンドル照明..... 216
インジケーター
表示灯 を参照
インテリアランプ..... 217
インナーミラー..... 97

う

ウインドウ
ウォッシャー..... 165,167
リヤウィンドウデフォッガー..... 170
ウインドウロックスイッチ..... 88
ウォッシャー..... 165,167
液の補給..... 441
スイッチ..... 165,167
タンク容量..... 577
ウォーニングランプ
警告灯..... 246,479
雨滴感知式ワイパー..... 163
運転席／助手席シートベルト非着用警告灯..... 483

え

エアコン..... 196
曇り取り..... 168
フィルターの清掃..... 442
エアコン操作スイッチ..... 196
エコ空調モード..... 200
エレクトリックパワーステアリング
パワーステアリング警告灯..... 482
エンジン
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 110
エンジンイモビライザーシステム.... 61
エンジンがかからない（エンジンが始動できない） 502-504,506,512-514
エンジン警告灯..... 480
エンジンスイッチ..... 110
エンジンの始動方法..... 110
オーバーヒート..... 560
ボンネット..... 439
エンジンイモビライザーシステム..... 61
エンジンオイル..... 572,574
メンテナンスデータ..... 572,574
油圧警告灯..... 480
容量..... 572,574
エンジン警告灯..... 480
エンジンスイッチ
エンジンのかけ方..... 110
自動電源 OFF 機能..... 111
モードの切りかえ..... 111
エンジンスイッチ（イグニッションスイッチ）
車を緊急停止する..... 474
エンジンフード（ボンネット）..... 439
開け方..... 439
エンジンルーム..... 439
エンジンルームから蒸気が出ている..... 560

お

オイル（エンジンオイル）..... 572,574
オドメーター
機能..... 253,258
切りかえ／リセット..... 256
オートアラーム..... 61

オートマチックハイビーム..... 155
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動.....151
オーバーヒート.....560
オープナー
給油扉.....142
ボンネット.....439

か

外気温度表示.....253,258
外装の電球（バルブ）
ワット数.....577
カスタマイズ機能.....578
型式..... 577
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....170
カーテシランプ
位置.....216
カードキー.....41
カーペット
洗浄.....434
フロアマットの取り付け方.....22

き

給油口
給油口が開けられない.....544
給油
給油のしかた..... 142
メンテナンスデータ..... 572
緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 502-504,506,512-514
オーバーヒートした..... 560
キーの電池が切れた..... 505,528
車から避難する..... 475
車を緊急停止する..... 474
警告灯が点灯／点滅した.....479
車両運搬車を使用する.....551
水没／冠水したときの対処.....476
タイヤがパンクした..... 515,526
他車を使用したけん引.....552
ディスプレイに警告メッセージが表示された..... 489
電子キーが正常に働かない....505,528
発炎筒.....473
バッテリーがあがった.....506,528
レッカー車を使用したけん引.....548
キー..... 41
エンジンが始動できない..... 502-504,506,512-514
カードキー.....41
キーナンバープレート.....41
キーの構成.....41
キーレスエントリー..... 45
キーをなくした..... 527
正常に働かない..... 505,528
節電機能.....41
電子キー.....41
電池が切れた..... 528
メカニカルキー..... 41
ロック／ロック解除ができない.....528
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム.....45

く

空気圧（タイヤ）.....577
メンテナンスデータ..... 577
区間距離計
トリップメーター を参照
曇り取り
フロントガラス..... 168
ミラーヒーター..... 171
リヤウィンドウデフォッガー.....170
クラクション（ホーン）..... 178
クリアランスソナー.....346

クリアランスソナー OFF 表示灯... 486
操作.....350
クリアランスランプ（車幅灯）.....148
ランプスイッチ..... 148
車を緊急停止する.....474
クルーズコントロール..... 392

け

警音器（ホーン）..... 178
計器類（メーター）
警告灯.....246
計器類（メーター）..... 253,258
照度調整..... 279
表示灯.....249
表示内容..... 268
ヘッドアップディスプレイ.....266
マルチインフォメーションディスプレイ..... 262,264
警告灯..... 246,479
運転支援情報表示灯..... 487
運転席／助手席シートベルト非着用警告灯..... 483
LTA 表示灯.....486
LDA 表示灯..... 486
エンジン警告灯..... 480
ABS＆ブレーキアシスト警告灯.....481
クリアランスソナー OFF 表示灯... 486
高水温警告灯..... 480
充電警告灯..... 480
Stop & Start 表示灯..... 485
Stop & Start キャンセル表示灯.....485
スリップ表示灯..... 488
タイヤ空気圧警告灯..... 484
燃料残量警告灯..... 482
パワーステアリング警告灯.....482
パーキングブレーキ表示灯.....488
PCS 警告灯..... 486
ブレーキ警告灯..... 479
プロアクティブドライビングアシスト表示灯..... 487
油圧警告灯..... 480
リヤ席シートベルト非着用警告灯.. 483
レーダークルーズコントロール表示灯.. 486
警告ブザー.....479
半ドア.....53
窓開.....85
警告メッセージ.....489
傾斜センサー（オートアラーム）.....63
けん引
車両運搬車を使用する.....551
他車を使用したけん引.....552
レッカー車を使用したけん引.....548

こ

交換
タイヤ.....462
電球（バルブ）..... 567
ヒューズ.....565
工具..... 463
降車オートロック機能..... 56
高水温警告灯.....480
航続可能距離.....253,258,270
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）..... 407
後退灯
電球（バルブ）の交換.....567
後方車両.....371
後方歩行者.....373
子供用シート.....25
子どもを車に乗せる..... 25,34
チャイルドプロテクター.....27
発炎筒の取り扱いに関する警告.....473
子供を乗せる.....26
チャイルドシート..... 26

乗せる位置.....26
子どもを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ.....88
シートベルトの着用.....94
バッテリーに関する警告.....532
コンライト（自動点灯／消灯装置）..148
コーナリングランプ.....151
電球（バルブ）の交換.....567
ランプ.....151

さ

サイド方向指示灯／非常点滅灯
電球（バルブ）の交換.....567
サイドミラー
ドアミラー を参照
サイドミラー（ドアミラー）
ポジションメモリー.....191
ミラーヒーター.....171
サンバイザー.....159

し

始動のしかた.....110
シフトポジション
ギヤ段の切りかえ.....134
シフトポジションの使用目的.....124
シフトポジションの切りかえ.....126
シフトレンジの切りかえ.....133
シフトレバー.....124
ジャッキ
ガレージジャッキ.....460
車載ジャッキ.....463
ジャッキハンドル.....463
車幅灯（スモールランプ）.....148
ランプスイッチ.....148
車両型式.....577
車両仕様（スペック）.....572
車両データの記録.....598
ジュニアシート.....25
衝撃感知ドアロック解除システム.....56
仕様（車両仕様）.....572
初期化.....596
初期設定.....596
侵入センサー（オートアラーム）.....63
シート.....89,93
チャイルドシート.....25
調整.....89
手入れ.....434
パワーイージーアクセスシステム..191
ヘッドレスト.....90
ポジションメモリー.....191
メモリーコール機能.....192
シートヒーター.....205
シートベルト
緊急時シートベルト固定機構.....95
子どもの着用.....94
シートベルト非着用警告灯.....483
高さ調節.....96
正しく着用する.....94
着ける／はずす.....95
手入れ.....434
妊娠中の方の着用.....94
シートベルト非着用警告灯.....483
シートベンチレーター.....207
シートポジションメモリー.....191

す

水温計.....253,258
スイッチ
メーター操作.....268
イグニッション.....110
ウインドウロック.....88
ウォッシャー.....165,167
エンジンスイッチ.....110
シートポジションメモリー.....191
Stop & Start キャンセル.....118

調整.....89
ドアミラー.....105
ドアロック.....59
ハザードランプ.....473
パドルシフトスイッチ.....133,134
パワーウインドウ.....86
ハンドル位置調整.....97
フォグランプ.....176
フロントフォグランプ.....176
ポジションメモリー.....191
ホーン（警音器）.....178
ランプ.....148
リヤフォグランプ.....176
ワイパー.....163,166
ステアリングヒーター.....204
ステアリングホイール
ハンドル を参照
ステアリングホイール（ハンドル）
パワーイージーアクセスシステム..191
ポジションメモリー.....191
Stop & Start システム.....114
Stop & Start システム
アイドリングストップ を参照
スピードメーター.....253,258
スペック（車両仕様）.....572
スマートエントリー＆スタートシステム.....45
アンテナの位置.....45
エンジンの始動方法.....110
カスタマイズ設定.....578
緊急始動機能.....504
作動範囲.....45
正常に働かない.....528
正常に働かないとき.....505
節電機能.....41
電波がおよぼす影響について.....45
ドアのロック／ロック解除.....56
バックドアの解錠.....71
スモールランプ（車幅灯）.....148
ランプスイッチ.....148

せ

清掃.....428,434
外装.....428
シートベルト.....434
内装.....434
ホイール／ホイールキャップ.....430
積算距離計
オドメーター を参照
セキュリティインジケーター.....61
前後方静止物.....369
センサー
インナーミラー.....160
雨滴感知センサー.....164
侵入／傾斜センサー.....63
ライトセンサー.....148
洗車.....428
前照灯（ヘッドランプ）.....148
ライトセンサー.....148
ランプ消し忘れ防止機能.....149
ランプスイッチ.....148
センターコンソール照明.....216

そ

走行時間.....270,278
操作.....363,367
送信機.....450
速度計
スピードメーター を参照

た

タイヤ.....444
空気圧.....458,577
交換.....462
タイヤがパンクした.....515,526

タイヤパンク応急修理キット.....515
ホイールサイズ..... 577
ランフラットタイヤ..... 447,526
ローテーション..... 461
タイヤ空気圧警報システム..... 448
ID コードを切りかえる.....456
ID コードを登録する.....454
空気圧バルブ／送信機.....450
警告メッセージ..... 490
タイヤ空気圧警告灯..... 484
タイヤの位置を登録する.....450
タイヤの空気圧を設定する.....452
タコメーター（エンジン回転計）253,258

ち

チャイルドシート.....25,26
チャイルドシートの取り付け..... 34
チャイルドプロテクター..... 25,27

つ

ツール
工具 を参照

て

ディファレンシャル
リヤディファレンシャル.....576
手入れ..... 428,434
外装.....428
シートベルト..... 434
内装.....434
ホイール／ホイールキャップ.....430
デジタルインナーミラー..... 98
デジタルキー.....50
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....170
電球（バルブ）
交換.....567
電球
ワット数.....577
点検..... 445
点検基準値（メンテナンスデータ）..572
電子キー.....41
作動範囲.....45
正常に働かない..... 528
正常に働かないとき..... 505
節電機能.....41
電池が切れた..... 505,528
電池交換.....528
電池交換（キー）.....528
テールランプ（尾灯）..... 148
ランプスイッチ..... 148

と

ドア
クローズ＆ロック（ウォークアウェイ）機能..... 59
衝撃感知ドアロック解除システム.... 56
スマートエントリー＆スタートシステム.....45
チャイルドプロテクター.....27
ドアロックスイッチ..... 59
開かない.....536
ドアガラス
開閉しない.....558
ドアカーテシランプ
位置.....216
ドアトリム照明.....216
ドアミラー.....105
RCTA（リアクロストラフィックアラート）.....353
安心降車アシスト..... 340
格納のしかた..... 107

操作.....105
BSM（ブラインドスポットモニター）.. 335
ポジションメモリー..... 191
ミラーヒーター..... 171
リバース連動機能..... 105
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム.... 61
オートアラーム..... 61
時計..... 253,258
ドライバー異常時対応システム.....397
ドライビングポジションメモリー.....191
ポジションメモリー..... 192
メモリーコール機能..... 192
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御..... 407
後退速度の抑制制御..... 407
トランスミッション
シフトダウン制限警告ブザー. 133,134
操作.....124
メンテナンスデータ..... 575
トリップメーター
機能.....253,258
切りかえ／リセット..... 256

な

内気循環／外気導入..... 199
内装
手入れ.....434
ナノイー X.....202

に

荷物
積むときの注意..... 66

ね

燃費..... 270,272,278
燃料..... 572
給油.....142
種類.....572
燃料残量警告灯..... 482
容量.....572
燃料計..... 253,258

は

ハイビーム（ヘッドランプ）..... 148
ランプスイッチ..... 148
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換.....567
挟み込み防止機能.....85
パワーバックドア..... 67
ハザードランプ
スイッチ.....473
発炎筒..... 473
バックドア.....67
開かない.....540
発進遅れ告知機能.....376
バッテリーがあがった..... 506,528
パドルシフトスイッチ..... 133,134
パノラマムーンルーフ／電動サンシェード
反転し、閉じ切らない.....542
バルブ（電球）
電球（バルブ） を参照
ワット数.....577
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ.....88
操作.....86
ドアロック連動ドアガラス開閉機能. 87
挟み込み防止機能..... 85
巻き込み防止機能..... 85
パワーステアリング
パワーステアリング警告灯.....482
パワーバックドア.....67
挟み込み防止機能..... 67
バックドア自動開停止位置調整..... 78

バックドア予約ロック機能.....78
ハンズフリーパワーバックドア.....77
パンクした
タイヤパンク応急修理キット.....515
ランフラットタイヤ..... 526
番号灯
電球（バルブ）の交換.....567
番号灯（ライセンスプレートランプ）148
ランプスイッチ..... 148
ハンズフリーパワーバックドア.....77
ハンドル.....97
位置調整.....97
ハンドル（ステアリングホイール）
パワーイージーアクセスシステム.. 191
ポジションメモリー..... 191
パーキングブレーキ..... 138
パーキングブレーキ表示灯.....488
未解除走行時警告ブザー.....138
パーソナルランプ.....218

ひ

非常点滅灯
ハザードランプ を参照
尾灯（テールランプ）..... 148
ランプスイッチ..... 148
尾灯／制動灯
電球（バルブ）の交換.....567
ヒューズ
交換.....565
表示灯..... 249
日よけ（サンバイザー）..... 159
ヒーター
ミラーヒーター..... 171

ふ

フォグランプ.....176
スイッチ..... 176
ブザー
窓開警告.....85
フック
フロアマット固定フック.....22
フューエルポンプシャットオフシステム.. 477
フューエルリッド（給油口）..... 142
給油口が開かない..... 544
給油のしかた..... 142
BSM（ブラインドスポットモニター）335
プリクラッシュセーフティ..... 302
PCS 警告灯..... 486
ブレーキ
ブレーキ警告灯..... 479
メンテナンスデータ..... 576
ブレーキアシスト
ABS＆ブレーキアシスト警告灯.....481
ブレーキフルード.....576
ブレーキホールド
警告メッセージ..... 493
ブレーキホールド作動表示灯.....488
プロアクティブドライビングアシスト..... 327
フロアマット.....22
フロントオートエアコン..... 196
フロントクロストラフィックアラート..... 332
フロントシート.....89
調整.....89
手入れ.....434
パワーイージーアクセスシステム.. 191
ヘッドレスト..... 90
ポジションメモリー..... 191
メモリーコール機能..... 192
フロントフォグランプ..... 176
スイッチ..... 176

電球（バルブ）の交換.....567
フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブ）
電球（バルブ）の交換.....567
ワット数.....577
ブースターケーブルのつなぎ方.....532

へ

ヘッドアップディスプレイ..... 266
ヘッドランプ.....148
クリーナー..... 165
電球（バルブ）の交換.....567
ライトセンサー..... 148
ランプ消し忘れ防止機能.....149
ランプスイッチ..... 148
ヘッドランプオートレベリングシステム.. 151
ヘッドレスト.....90

ほ

ホイール
交換.....462
メンテナンスデータ..... 577
ホイールボルトレンチ..... 463
ポジションメモリー..... 191
保証..... 601
ボンネット.....439
開け方.....439
ホーン（警音器）..... 178

ま

マイセッティング..... 190
巻き込み防止機能.....85
マルチインフォメーションディスプレイ.. 262,264
警告メッセージ..... 489
操作.....268

み

ミラー
インナーミラー..... 97
デジタルインナーミラー.....98
ドアミラー..... 105
ミラーヒーター..... 171

む

ムーンルーフ
閉まるときに反転し、閉じ切らない541
チルトダウン時に反転し、閉じ切らない 541

め

メモリーコール機能..... 192
メンテナンスデータ..... 572
メーター（計器類）..... 253,258
警告灯.....246
照度調整.....279
表示灯.....249
表示内容.....268
ヘッドアップディスプレイ.....266
マルチインフォメーションディスプレイ..... 262,264

ゆ

油脂類..... 572
ユーザーカスタマイズ機能..... 578

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）148
ランプスイッチ..... 148
ラジエーター
オーバーヒート..... 560
メンテナンスデータ..... 575
ランプ
ハザードランプ..... 473
フォグランプ..... 176
フロントフォグランプ.....176

ヘッドランプ（前照灯）.....148
ライトセンサー..... 148
ランプ消し忘れ防止機能.....149
リヤフォグランプ..... 176
ランプ消し忘れ防止機能..... 149
ランフラットタイヤ.....447

り

リバース連動機能..... 105
リヤウィンドウデフォッガー
フロントガラス..... 170
リヤシート.....93
ヘッドレスト..... 90
リヤ席シートベルト非着用警告灯.....483
リヤドア
内側から開けられない.....539
リヤフォグランプ..... 176
スイッチ..... 176
電球（バルブ）の交換.....567
リヤ方向指示灯／非常点滅灯
電球（バルブ）の交換.....567

る

ルームミラー
インナーミラー を参照
ルームミラー
デジタルインナーミラー を参照

れ

冷却水..... 575
メンテナンスデータ..... 575
冷却装置（ラジエーター）..... 575
メンテナンスデータ..... 575
**レクサスクライメイトコンシェルジュ.....
.....195**
レバー
ボンネット解除..... 439
レーダークルーズコントロール.....382
レーンチェンジアシスト..... 317
レーンディパーチャーアラート.....321
レーントレーシングアシスト..... 312

ろ

ロック
ウインドウロック..... 88
スマートエントリー＆スタートシステム..... 45
ロードサインアシスト..... 378

わ

ワイパー＆ウォッシャー.. 163,165-167
ウォッシャー液の補充.....441
ワイヤレスリモコン
作動の合図..... 56
節電機能.....41
電池交換.....528
ドアのロック／ロック解除.....58
半ドア警告ブザー..... 53
ワックス.....428
ワット数.....577

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

M78441V
CC-2021 年 10 月 1 日
2021 年 10 月 7 日 初版
2022 年 3 月 30 日 3 版
NX350 / NX250